

# 千葉市昭和の森遺跡群 I

— 荻生道遺跡 —

2004

千葉市教育委員会  
財団法人 千葉市教育振興財団





遺跡遠景（航空撮影 南西から）



遺跡現況（航空撮影 南東から・2003年10月写）





1. 調査区全景 (航空撮影 南から)



2. 調査区全景 (航空撮影 北東から)

# 例 言

1. 本書は、千葉市緑区小食土町地先『昭和の森』内に所在する荻生道遺跡の発掘調査報告書である。

2. 荻生道遺跡の調査歴

調査内容・期間・面積・調査機関・担当者は下記のとおり。

## 1次調査

確認調査 昭和51年09月01日～昭和51年09月10日 約10,000m<sup>2</sup> 千葉市教育委員会文化課 市川勇

本調査 昭和51年11月01日～昭和52年01月31日 約10,000m<sup>2</sup> 千葉市教育委員会文化課 市川勇

## 2次調査

確認調査 昭和58年06月07日～昭和58年06月30日 1,400m<sup>2</sup> 千葉市教育委員会文化課 湖口淳一

本調査 昭和58年08月08日～昭和58年09月03日 1,400m<sup>2</sup> 千葉市教育委員会文化課 横田正美

## 3次調査

本調査 昭和62年05月20日～昭和62年06月24日 500m<sup>2</sup> 千葉市埋蔵文化財調査協会 村田六郎太

3. 1次調査で検出された2棟の掘立柱建物跡とそれを方形に囲む溝状遺構は、昭和54年3月2日に千葉県の史跡に指定されている。

4. 本遺跡の整理作業（1次・2次・3次調査分）は千葉市の委託を受け、千葉市教育委員会文化課の指導のもと財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが実施したものである。

整理期間は平成15年04月01日～平成16年03月31日。

整理および本書の製作・編集は佐藤真利子・内野弘子・青柳すみ江・鈴木智里・加藤木純子の協力を得て、塚原勇人と飛田正美が担当した。文責は全て担当者が負うものである。

5. 本書に収録した出土遺物・調査記録は全て千葉市埋蔵文化財調査センターに収蔵・保管している。

6. 灰釉陶器の産地分析は静岡大学教授柴垣勇夫氏・愛知県陶磁器資料館主任学芸員井上喜久男氏によるものである。

7. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏の御指導・御協力を賜った。ここに記して謝意を表したい。（順不同・敬称略）

旧千葉市昭和の森事務所・緑公園緑地事務所・昭和の森協力会・文化庁・千葉県教育庁文化財課・千葉市教育委員会文化課。朝比奈竹男・鶴岡英一・山本勇（旧姓市川）・村田六郎太・横田正美・築瀬裕一・青沼道文・寺門義範・倉田義広。

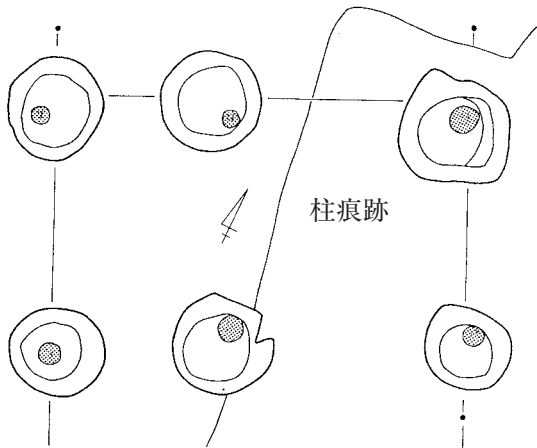
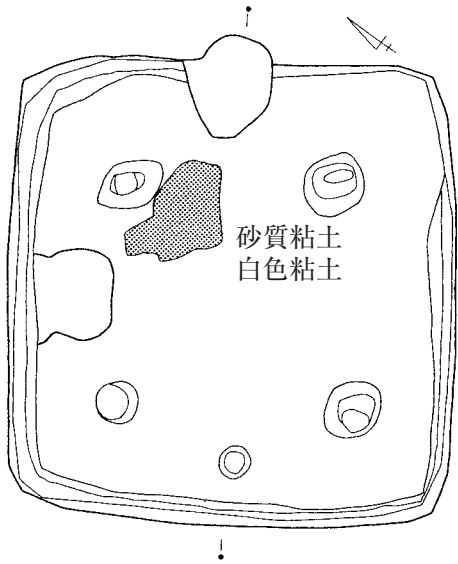
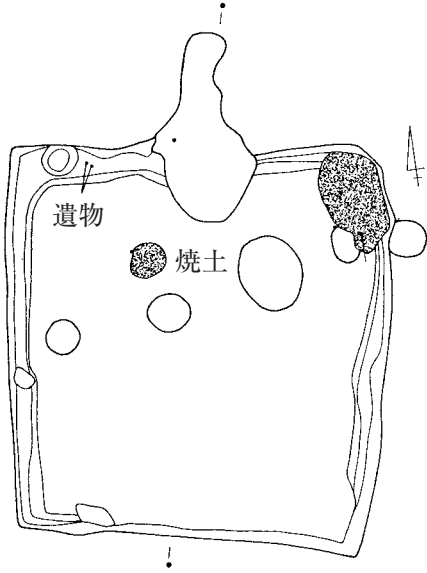


# 凡 例

1. 本書に掲載した遺構図の方位は、磁北から座標北に改めたものである。
2. 1次調査について、緊急調査という事情により、時間・調査体制に制約を受けており、本書の利用に際しては下記の点に留意していただきたい。
  - ① 遺構が重複している場合は、遺構の種類にかかわらず全てを同一の図面に記載されている。遺物は一つの遺構名で取り上げられていることがある。土層断面図には重複の新旧を示す記載がみられないものもある。土層断面図の調査位置が不明なものは位置を推定復元している。
  - ② 竪穴住居跡について、カマドが複数存在している場合、その新旧を示す記載がない。そのため、カマドが複数ある住居跡の主軸方向は任意で示している。また、68号住居跡以外はカマド土層断面図の調査位置が平面図に記載されていない。
  - ③ 掘立柱建物跡について、出土遺物の位置については記載がない。遺構名称東屋・西屋を17号・18号掘立柱建物跡に変更している。17号・18号掘立柱建物跡は保存を考慮して完掘されていない。そのため遺構の平面は略図として記載されている。略図には柱穴の土層断面を調査した位置が記載されていないため、調査位置は推定によるものである。
  - ④ 方形溝状遺構について、調査時には空堀という名称が付されている。今回報告するにあたり、遺構の規模や形状からして、砦や城郭の遺構とは大きく異なるものであり、空堀の名称を用いる事に対し少なからず違和感を覚えたので、整理担当者が話し合い、方形溝状遺構としたものである。
  - ⑤ 鍛冶跡について、調査位置が平面図中に記載されていないため、調査区のどこに所在していたか不明である。基準として用いた杭から14号・71号住居跡の南側付近と推定される。
  - ⑥ 土壙について、数多くの土壙が検出されているが、時間的制約のため一部の調査に止まっている。本文中の3号土壙は調査時の7号住居跡である。
3. 2次調査について、遺構番号は変更していない。
4. 3次調査について、遺構番号は1次・2次の続き番号に変更した。
5. 遺構の縮尺  
竪穴住居跡 1/60, カマド 1/40, 掘立柱建物跡 1/60・1/80, 溝状遺構 1/500, 土壙 1/60  
方形溝状遺構 1/250・(エレベーション1/50), 鍛冶跡 1/20, 古墳 1/100 (土層断面図1/60)
6. 遺物の縮尺  
土器 1/4・1/3, 土器破片 1/3, 支脚 1/4, 石器類 (磔1/3・剥片1/2・石鏃1/1), 鉄製品 1/2  
羽口 1/2, 鉄滓 1/2, 瓦 1/4, 装身具 1/1, 置きカマド1/3・1/8
7. 計測値を ( ) で示した数値は推定値である。
8. 遺物観察表および写真図版では、遺構の名称を以下の略称で表記している。  
住居跡=住, 掘立柱建物跡=掘, 方形溝状遺構=方形溝, 土壙=土, 古墳=古 溝状遺構=溝

# 図版凡例

## 遺構



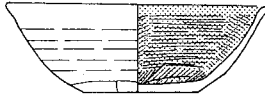
## 遺物



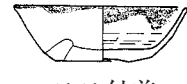
断面黒ベタ  
須恵器・陶磁器



火ダスキ



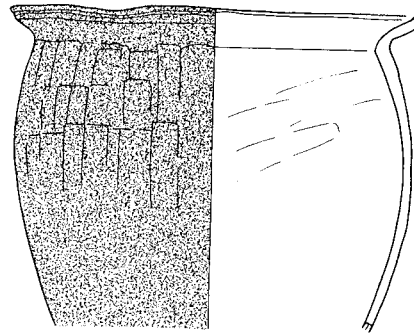
黒色処理



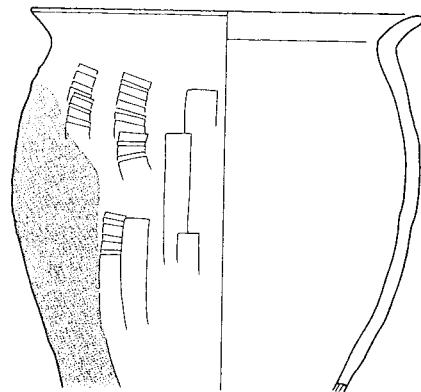
スス附着



赤彩



焼土附着



砂附着



# 目次

例言・凡例・図版凡例

第1章	昭和の森遺跡群の概要	1
1節	調査に至る経緯	1
2節	遺跡群の位置と歴史地理的環境	5
3節	調査の方法	7
第2章	1次調査	7
1節	概要	7
2節	遺構と遺物	8
1.	竪穴住居跡	8
2.	掘立柱建物跡	107
3.	方形溝状遺構	124
4.	鍛冶跡	129
5.	土 壙	130
6.	古 墳	130
7.	表採遺物	138
第3章	2次調査	142
1節	概要	142
2節	遺構と遺物	142
1.	溝状遺構	142
2.	表採遺物	145
第4章	3次調査	145
1節	概要	145
2節	遺構と遺物	145
1.	竪穴住居跡	145
2.	古 墳	147
3.	土 壙	147
4.	表採遺物	147
第5章	まとめ	150
1節	荻生道遺跡と荻生徂徠	150
2節	荻生道遺跡の古墳と土気東地区の古墳群	150
3節	荻生道遺跡の集落	151
1.	17・18号掘立柱建物跡と溝状遺構について	151
2.	出土文字資料	153
3.	製鉄関連遺物	157

## 附図目次

第1図 昭和の森遺跡群及び周辺遺跡位置図

第2図 萩生道遺跡1次・2次・3次調査位置図

## 挿図目次

第1図 萩生道遺跡位置図

第2図 遺構分布図原図

第3図 遺構分布図

第4図 01号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物

第5図 1号住居跡実測図・カマド実測図

第6図 1号住居跡出土遺物

第7図 2号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物

第8図 3号・4号住居跡実測図・カマド実測図

第9図 3号住居跡出土遺物（1）

第10図 3号住居跡出土遺物（2）・4号住居跡出土遺物

第11図 5号住居跡実測図

第12図 5号住居跡カマド実測図・出土遺物

第13図 8号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物

第14図 9号住居跡実測図・出土遺物

第15図 10号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物（1）

第16図 10号住居跡出土遺物（2）

第17図 11号・82号住居跡実測図・カマド実測図

第18図 11号・82号住居跡出土遺物

第19図 12号・67号・69号・81号住居跡実測図

第20図 12号・69号・81号住居跡カマド実測図・12号住居跡出土遺物

第21図 13号・72号・73号住居跡実測図・カマド実測図

第22図 13号・72号・73号住居跡出土遺物

第23図 14号・71号住居跡実測図

第24図 14号・71号住居跡カマド実測図・14号住居跡出土遺物

第25図 15号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物

第26図 16号・17号・74号住居跡実測図

第27図 16号・17号・74号住居跡カマド実測図・16号・17号住居跡出土遺物（1）

第28図 17号住居跡出土遺物（2）

第29図 18号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物（1）

第30図 18号住居跡出土遺物（2）

第31図 19号・70号住居跡実測図・カマド実測図

第32図 19号・70号住居跡出土遺物



- 第33図 20号・76号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物（1）
- 第34図 20号・76号住居跡出土遺物（2）
- 第35図 21号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第36図 22号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第37図 23号・28号・78号住居跡実測図
- 第38図 23号・28号住居跡カマド実測図・23号・78号住居跡出土遺物（1）
- 第39図 23号・78号住居跡出土遺物（2）・28号住居跡出土遺物
- 第40図 24号・25号住居跡実測図・24号住居跡出土遺物
- 第41図 26号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第42図 27号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第43図 29号・30号・77号住居跡実測図・29号住居跡出土遺物（1）
- 第44図 29号住居跡出土遺物（2）・30号住居跡出土遺物（1）
- 第45図 30号住居跡出土遺物（2）
- 第46図 31号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第47図 32号住居跡実測図・カマド実測図
- 第48図 32号住居跡出土遺物
- 第49図 33号住居跡実測図・カマド実測図
- 第50図 33号住居跡出土遺物
- 第51図 34号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物（1）
- 第52図 34号住居跡出土遺物（2）
- 第53図 35号住居跡実測図・カマド実測図
- 第54図 36号・75号住居跡実測図・カマド実測図
- 第55図 36号住居跡出土遺物
- 第56図 37号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第57図 38号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第58図 39号住居跡実測図・カマド実測図
- 第59図 40号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第60図 41号・42号住居跡実測図・カマド実測図
- 第61図 41号・42号住居跡出土遺物
- 第62図 43号・79号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第63図 44号住居跡実測図・出土遺物
- 第64図 45号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第65図 46号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第66図 47号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第67図 48号・62号住居跡実測図
- 第68図 48号・62号住居跡カマド実測図・出土遺物

- 第69図 50号住居跡実測図・出土遺物
- 第70図 51号住居跡実測図・出土遺物
- 第71図 52号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第72図 53号・63-A号住居跡実測図・カマド実測図
- 第73図 53号・63-A号住居跡出土遺物
- 第74図 54号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第75図 55号住居跡実測図・出土遺物（1）
- 第76図 55号住居跡出土遺物（2）
- 第77図 56号住居跡実測図
- 第78図 56号住居跡カマド実測図・出土遺物（1）
- 第79図 56号住居跡出土遺物（2）
- 第80図 57号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第81図 58号住居跡実測図・出土遺物（1）
- 第82図 58号住居跡出土遺物（2）
- 第83図 59号住居跡実測図
- 第84図 59号住居跡カマド実測図・出土遺物
- 第85図 60号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第86図 61号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第87図 63-B号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第88図 64号・80号住居跡実測図・カマド実測図
- 第89図 64号・80号住居跡出土遺物
- 第90図 65号住居跡実測図
- 第91図 66号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第92図 68号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第93図 1号掘立柱建物跡実測図・出土遺物
- 第94図 2号・7号掘立柱建物跡実測図
- 第95図 3号掘立柱建物跡実測図
- 第96図 4号掘立柱建物跡実測図・出土遺物
- 第97図 5号掘立柱建物跡実測図・出土遺物
- 第98図 6号掘立柱建物跡実測図
- 第99図 8号・9号掘立柱建物跡実測図
- 第100図 10号掘立柱建物跡実測図
- 第101図 11号掘立柱建物跡実測図・出土遺物
- 第102図 12号掘立柱建物跡実測図
- 第103図 13-A号・13-B号掘立柱建物跡実測図・出土遺物
- 第104図 15号掘立柱建物跡実測図・出土遺物



- 第105図 16号掘立柱建物跡実測図・出土遺物
- 第106図 17号掘立柱建物跡推定復元図・出土遺物
- 第107図 18号掘立柱建物跡推定復元図
- 第108図 方形溝状遺構実測図
- 第109図 方形溝状遺構出土遺物（1）
- 第110図 方形溝状遺構出土遺物（2）
- 第111図 方形溝状遺構出土遺物（3）
- 第112図 1号鍛冶炉跡実測図
- 第113図 1号・2号土壙実測図・1号土壙出土遺物
- 第114図 2号土壙出土遺物（1）
- 第115図 2号土壙出土遺物（2）
- 第116図 3号土壙実測図・出土遺物
- 第117図 1号古墳実測図・出土遺物
- 第118図 2号古墳実測図
- 第119図 3号古墳実測図・出土遺物
- 第120図 表採遺物（1）
- 第121図 表採遺物（2）
- 第122図 表採遺物（3）
- 第123図 1号溝状遺構実測図
- 第124図 1号溝状遺構出土遺物
- 第125図 表採遺物（2次）
- 第126図 83号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物
- 第127図 84号住居跡実測図
- 第128図 4号古墳実測図・出土遺物・4号土壙実測図
- 第129図 表採遺物（3次）
- 第130図 竪穴住居跡・掘立柱建物跡主軸方向統計図
- 第131図 墨書・刻書出土分布図
- 第132図 鉄製品・製鉄遺物出土分布図

#### 表目次

- 第1表 千葉市昭和の森公園整備事業に伴う埋蔵文化財調査一覧表
- 第2表 遺物観察表（羽口）
- 第3表 遺物観察表（鉄滓）
- 第4表 遺物観察表（土器・土製品）
- 第5表 遺物観察表（土器・土製品）
- 第6表 遺物観察表（土器・土製品）
- 第7表 遺物観察表（土器・土製品）

- 第8表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第9表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第10表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第11表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第12表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第13表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第14表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第15表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第16表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第17表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第18表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第19表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第20表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第21表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第22表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第23表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第24表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第25表 遺物觀察表 (土器・土製品)  
第26表 遺物觀察表 (石器)  
第27表 遺物觀察表 (鉄製品)  
第28表 遺物觀察表 (瓦)  
第29表 遺物觀察表 (瓦)

#### 写真図版

- 図版1 遺跡遠景・遺跡現況  
図版2 調査区全景  
図版3 0 1号住～5号住・8号住・10号住・11号住・82号住  
図版4 12号住・13号住・72号住・73号住・14号住・71号住・15号住～17号住・74号住・18号住・19号住・70号住・20号住・76号住・21号住  
図版5 22号住・23号住・78号住・24号住～30号住・77号住・31号住  
図版6 32号住～36号住・75号住・37号住～39号住  
図版7 40号住～42号住・44号住～48号住・62号住・50号住  
図版8 51号住～53号住・63-A号住・54号住～58号住  
図版9 59号住～61号住・63-B号住・64号住・66号住・68号住・80号住  
図版10 1号掘～8号掘  
図版11 9号掘～13-B号掘・15号掘～17号掘  
図版12 18号掘・方形溝状遺構・1号土・3号土・6号土・7号土・1号鍛冶炉・1号古～3号古

図版13 調査開始・83号住・84号住・4号古・4号土・調査風景  
図版14 1号住～3号住遺物  
図版15 3号住～5号住・8号住・9号住遺物  
図版16 10号住・11号住・82号住・12号住・13号住・72号住・73号住遺物  
図版17 14号住～17号住遺物  
図版18 18号住遺物  
図版19 19号住・20号住遺物  
図版20 20号住～23号住・78号住遺物  
図版21 23号住・78号住・28号住・24号住～30号住遺物  
図版22 30号住～33号住遺物  
図版23 34号住遺物  
図版24 36号住～38号住・40号住遺物  
図版25 41号住・43号住・79号住・44号住遺物  
図版26 45号住～48号住・50号住・52号住～54号住・63-A号住遺物  
図版27 55号住・56号住遺物  
図版28 56号住～58号住遺物  
図版29 59号住・60号住・63-B号住・64号住・80号住遺物  
図版30 66号住・68号住・1号掘・11号掘・15号掘・方形溝遺物  
図版31 1号土・2号土遺物  
図版32 3号土・1号古・3号古・表採遺物（1次）  
図版33 表採遺物（1次）  
図版34 表採（1次）・1号溝・表採（2次）・83号住・4号古・表採（3次）遺物  
図版35 墨書  
図版36 刻書  
図版37 鉄滓  
図版38 鉄滓  
図版39 鉄滓  
図版40 鉄滓  
図版41 鉄滓  
図版42 鉄滓  
図版43 鉄滓  
図版44 鉄滓  
図版45 鉄滓  
図版46 鉄滓  
図版47 鉄滓  
図版48 鉄滓



# 第1章 昭和の森遺跡群の概要

## 1節 調査に至る経緯

『昭和の森』は、千葉市の東端部、土気町・小食土町・小山町内にまたがる、面積100,9haの市営公園である。昭和45年12月4日（千葉県告示第884号の2）に都市計画決定し、翌年から事業に着手して以来、用地買収・施設整備が進められ、昭和50年4月6日に部分開園しその後も整備を続けて現在に至る。主な施設は、太陽の広場・もみじの広場・展望広場・お花見広場・湿性植物園・池・竹林・球技場・サイクリングコース・多目的広場・芝生広場・駐車場などが有り、市民の憩いの場として利用されている。

荻生道遺跡の調査発掘調査は、『昭和の森』の施設整備に伴い昭和51年度・昭和58年度・昭和62年度の3次にわたり実施された。何れも調査に先立ち、事業予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて、千葉県教育庁文化課と千葉市昭和の森事務所および千葉市教育委員会文化課による協議を行い、記録保存をすることとなった。

**1次調査** 第2駐車場造成に伴い千葉市教育委員会文化課が昭和51年9月1日から同年9月10日まで約10,000m<sup>2</sup>を対象に遺構の確認調査を実施し、多くの遺構と遺物を検出したことから、昭和51年11月1日から昭和52年1月31日まで本調査を行ったものである。

なお、本調査中に方形溝状遺構に囲まれた掘立柱建物跡が2棟検出されたため、文化庁に対して専門技官の派遣を要請し指導を仰ぎ、貴重な遺構であるとして調査後に埋め戻しを行い、千葉市昭和の森事務所と文化課が協議して、2,500m<sup>2</sup>を芝生地として保存を講じた。保存された遺構は、昭和54年3月2日付千葉県教育委員会告示第5号で千葉県の史跡に指定されている。

**2次調査** 第2駐車場の北側に隣接して第3駐車場の造成に伴い、千葉市教育委員会文化課が昭和58年6月7日から昭和58年6月30日まで1,400m<sup>2</sup>を対象に確認調査を実施し、遺構が検出されたので、昭和58年8月8日から昭和58年9月3日まで本調査を行った。

**3次調査** 第2駐車場の東脇に、駐輪場・身障者トイレ・園路建設に伴う造成のため、財団法人千葉市埋蔵文化財調査協会が千葉市の委託を受け千葉市教育委員会文化課の指導のもと、昭和62年5月20日から昭和62年6月24日まで500m<sup>2</sup>を対象に、本調査を行ったものである。

『昭和の森』地内に所在する遺跡は附図第1図のとおりである。

『昭和の森』整備に伴う調査歴は第1表を参照されたい。

第1表 千葉市昭和の森公園整備事業に伴う埋蔵文化財一覧表

遺 跡 名	調査年度	調査形態	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査機関	報告書
荻生道遺跡	昭和51年度	本調査	10000	千葉市教育委員会	
	昭和58年度	本調査	500	千葉市教育委員会	
	昭和62年度	確認調査	210/1400	千葉市教育委員会	
	昭和57年度	本調査	500	(財) 千葉市文化財調査協会	
枯木台遺跡	昭和59年度	確認調査	216/1700	千葉市教育委員会	
	平成元年度	本調査	160	千葉市教育委員会	
	平成2年度	確認調査	20/100	(財) 千葉市文化財調査協会	
	平成2年度	確認調査	54/500	(財) 千葉市文化財調査協会	
	平成2年度	本調査	187	(財) 千葉市文化財調査協会	刊行
住吉遺跡	昭和58年度	確認調査	1600/17000	千葉市教育委員会	
	昭和59年度	確認調査	1340/23000	千葉市教育委員会	
	昭和59年度	本調査	363	千葉市教育委員会	
	昭和61年度	本調査	800	(財) 千葉市文化財調査協会	刊行
辰ヶ台遺跡	昭和57年度	確認調査	100/1000	千葉市教育委員会	
	昭和58年度	確認調査	164/1200	千葉市教育委員会	
	昭和59年度	本調査	160	千葉市教育委員会	
	昭和58年度	確認調査	60/500	千葉市教育委員会	
	昭和60年度	本調査	695	(財) 千葉市文化財調査協会	刊行
	昭和61年度	本調査	136	(財) 千葉市文化財調査協会	刊行
東住吉遺跡	昭和53年度	本調査	1750	千葉市教育委員会	
	昭和54年度	本調査	800	千葉市教育委員会	
	昭和57年度	確認調査	8000/16000	千葉市教育委員会	
	昭和57年度	本調査	1400	千葉市教育委員会	
東住吉南遺跡	昭和61年度	本調査	120	(財) 千葉市文化財調査協会	刊行
東城楽台遺跡	昭和56年度	本調査	5000	千葉市教育委員会	
	昭和57年度	本調査	4900	千葉市教育委員会	
	昭和58年度	本調査	362	千葉市教育委員会	
屋敷内遺跡	昭和56年度	本調査	900	千葉市教育委員会	
大滝遺跡	昭和59年度	確認調査	40/100	千葉市教育委員会	

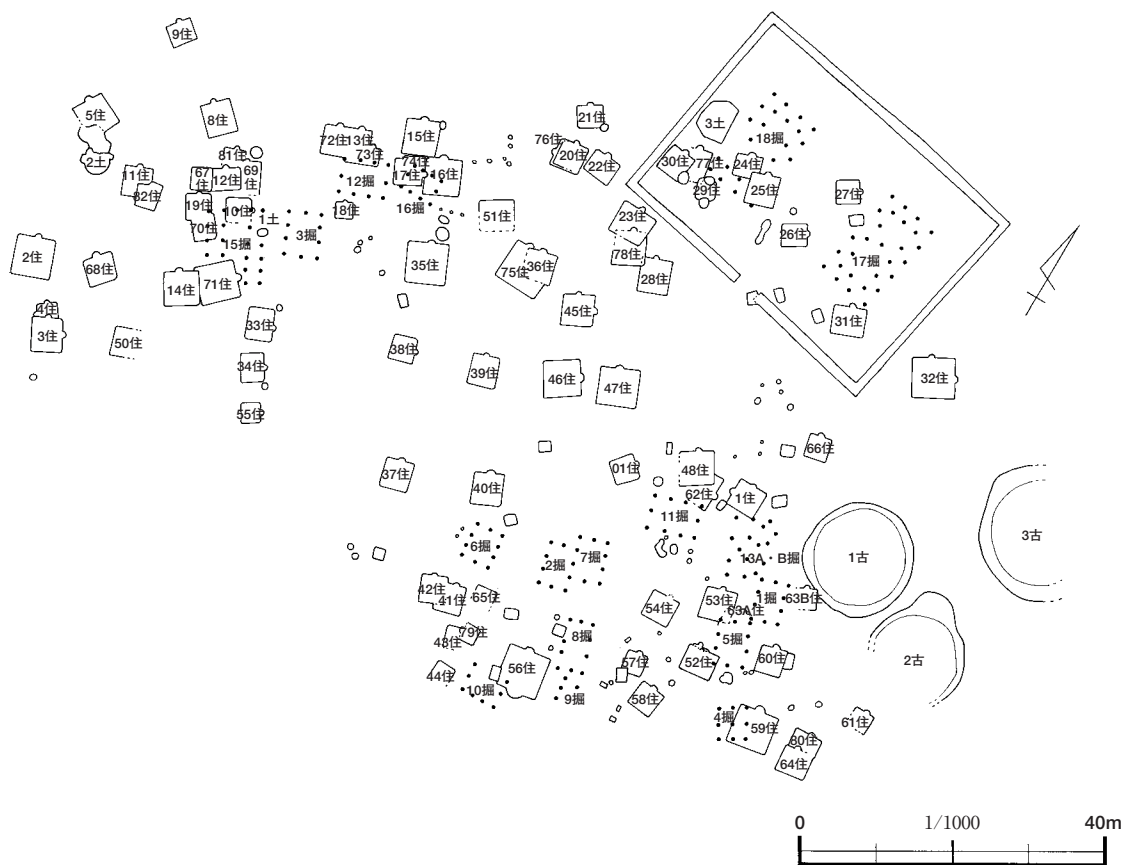


第1図 荻生道遺跡位置図





第2図 遺構分布図原図



第3図 遺構分布図

## 2 節 遺跡群の位置と歴史地理的環境

千葉市域に広がる下総台地は、昭和の森が所在する辺りで最も高い標高を測る地域となり、土気と大網との境で本納一東金崖線と呼ばれる急崖を形成し、関東造盆地の外縁部にあたる。台地下には外房低地が広がっており、晴れた日には九十九里浜の先に、太平洋を遠望することが出来る。荻生道遺跡の所在する昭和の森は、房総半島のほぼ中央に位置し、東に南白亀川水系（太平洋）、南に村田川水系（東京湾）、北に鹿島川水系（印旛沼）と3水系の分水界となっており、地理的にも内房と外房とを隔てている。

荻生道遺跡は下総台地の最東端、標高90mから98mを測り、南に突き出した台地の舌状部に位置している。太平洋を望む東側は急峻な崖を形成し、崖下には灌漑用の小中池が水を湛えている。この池から発する水は、南白亀川に合流し太平洋に至っている。遺跡の南側直下の谷は村田川の最上流域に属し、小山町から板倉地区を通り市原市域を経て東京湾に注いでいる。さらに、本遺跡の北に隣接する長塚遺跡を隔てて湧水のある谷は、黒ハギ遺跡と五十谷・奥房台遺跡の間を抜け大和田地区を通り鹿島川として印旛沼へと流れている。

この地域は歴史的にも上総国と下総国の境界にたあたり、上総国山辺郡に含まれていた。昭和の森遺跡群の所在する土気町の地名は、地形的特徴から峠の転訛説がある。中世には度解と土解の文字があらわれていたことが茂原市元山の日蓮宗藻原寺の貞和2年（西暦1346年）「仏堂伽藍記」（註1）に見えている。天正19年（西暦1591年）の本寿寺宛「徳川家康朱印状」千葉県文書館所蔵（註2）の文中には、現在と同じ土気つぎの文字が用いられている。小食土町は、江戸時代の地方文書中に矢指渡・矢指戸・小喰土・小食土の文字が当てられている（註3）。小山町の町名については、とくに変遷は見られない。

**昭和の森遺跡群** 昭和の森内に所在が知られている遺跡は11遺跡である。最も北に位置する東城楽台遺跡では、二重周溝の円墳1基、奈良から平安時代の竪穴住居・掘立柱建物跡などが検出されている。その東隣の屋敷ノ内遺跡では、平安時代の竪穴住居跡、南には縄文時代と奈良から平安時代の住居跡が検出された辰ヶ台遺跡（辰ヶ台貝塚を含む）が位置している。昭和40年8月の川戸彰氏による辰ヶ台貝塚の調査（註4）では、小貝塚の一部を発掘し縄文時代前期関山式土器片と石器が出土している。東城楽台遺跡と荻生道遺跡のほぼ中間には、上総国分寺系瓦を伴う8世紀後半創建の小食土廃寺が所在し千葉県教育委員会の調査（註5）によって、木造基壇外装と思われる基壇が検出されている。台地の東縁辺部の細尾根先端には、空堀が残る中世の金堀砦かなほりとりでが所在している。

下夕田池の在る深い谷を隔てた小山町側の台地上に、奈良から平安時代の集落遺構が検出された住吉遺跡・東住吉遺跡・東住吉南遺跡の3遺跡が所在している。

また、当該地域は千葉県内でも稀に見る遺跡の調査が広域に実施された地域でもある。

**土気南遺跡群** JR外房線土気駅の南側は現在あすみが丘の街が広がっているが、かつてここは起伏に富んだ地形をしており、32ヶ所もの遺跡が存在し、昭和54年8月15日から平成元年12月11日までの約11年におよぶ発掘調査が実施された地域である。その成果は『土気南遺跡群』（註6）として報告されている。

**中央ゴルフ場遺跡群** 昭和の森の東に所在するゴルフ場敷地内（千葉市・大網白里町・茂原市の3

市町に所属)では、千葉市5遺跡・大網白里町4遺跡・茂原市6遺跡の合わせて15遺跡が調査され、中央ゴルフ場遺跡群として3市町より報告(註7)されている。

**土気東遺跡群** 昭和の森の西側に隣接して土気東区画整理事業地内にも多くの遺跡が存在し、平成6年度から平成16年3月現在も発掘調査中である。(註8)

上記の他にも「土気緑の森工業団地内遺跡群」(註9)など調査事例が多いため割愛するが、調査された遺跡の時代は後期旧石器時代・縄文時代・古墳時代・奈良平安時代・中世・近世にわたり、その成果は多くの研究者に利用されている。

註1 千葉縣史編纂審議會編『千葉縣史料 中世篇 諸家文書』1990 所載 佛堂伽藍記1卷

一 追鐘次第事

入錢雖八十貫定ト九十貫也

貞和二年<sup>丙戌</sup>十月六日土形取初祝在之 以下略

一 ワニ口事 同卅日奉之鑄師兩大工也<sup>刑部郷内  
度解郡内</sup> 以下略

ム 鐘ニ彫付候刑部郡内針谷郷住人廣 廣綱

土解郡内堀内郷住人 法名沙彌

上記文中のワニ口之事では度解の字が、2行下では土解と記されている。

註2 千葉市史編纂委員会編『千葉市史 資料編6 近世』1988 所載 本寿寺宛徳川家康朱印状  
(奉書折紙)

寄進本寿寺上総山辺郡土気本郷内參拾石事

右令寄附訖殊寺中可為不入者也仍如件

天正十九年<sup>辛卯</sup>

十一月日 印 (家康)

註3 千葉市史編纂委員会編『千葉市史 資料編6 近世』1988 所載 小食土村関係古文書

以下は吉原広毅家文書

①高反別取調改帳 (冊・表紙)

天保三辰年

一中略一 上総国山辺郡

小食土村

②御尋之ヶ条御答書 (冊・表紙)

一中略一 上総国山辺郡

小喰土村

③申之御年貢皆濟目録 (冊・表紙)

天明九年 矢指土村 以下略

千葉市史編纂委員会『千葉市図誌 上巻・下巻』1993 所載 小食土村関係古地図

小高敬義家所蔵 延宝4年3月6日の古地図に矢指渡村と記載されている。



- 註4 日本考古学協会 『日本考古学年報18』 1965
- 註5 千葉県教育委員会 『千葉市小食土廃寺確認調査報告書』 1986
- 註6 (財) 千葉市文化財調査協会 『土気南遺跡群Ⅰ～Ⅷ』 1992～1996
- 註7 (財) 千葉市文化財調査協会 『千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書』 1992  
 (財) 山武郡南部地区文化財センター 『千葉県大網白里町宮台遺跡』 1989  
 (財) 山武郡市文化財センター 『千葉県大網白里町中林遺跡』 1991  
 (財) 山武郡市文化財センター 『千葉県大網白里町南麦台遺跡』 1994  
 (財) 山武郡市文化財センター 『千葉県大網白里町砂田中台遺跡』 1994  
 (財) 長生郡市文化財センター 『千葉県茂原市桂遺跡群発掘調査報告書』 1990
- 註8 (財) 千葉市文化財調査協会 『土気東遺跡群Ⅰ』 2002
- 註9 (財) 千葉県文化財センター 『土気緑の森工業団地内発掘調査報告書』 1994

#### 昭和の森遺跡群関係文献

- 千葉市教育委員会 『千葉市文化財調査報告書 第6集』 一東住吉遺跡一 1983
- (財) 千葉市文化財調査協会 『千葉市辰ヶ台・住吉・東住吉遺跡』 1989
- (財) 千葉市文化財調査協会 『千葉市枯木台遺跡』 1992
- (財) 千葉市文化財調査協会 『千葉市文化財調査協会年報 1』 1989
- (財) 千葉市文化財調査協会 『千葉市文化財調査協会年報 2』 1990
- (財) 千葉市文化財調査協会 『千葉市文化財調査協会年報 3』 1991
- (財) 千葉市文化財調査協会 『千葉市文化財調査協会年報 4』 1992

### 3節 調査の方法

#### 1次調査

確認調査 台地の地形にそい任意に、10mの方眼のグリッドを設定して実施した。

本調査 グリッドを設けず、調査区域中央で東西方向に設定された造成用の杭を基準杭として  
 平板実測を行った。

#### 2次調査

確認調査 任意に10mの方眼のグリッドを設定して実施した。

本調査 確認時のグリッドを用いた。

3次調査 磁北にあわせて任意に10m方眼のグリッドを設定して実施した。

## 第2章 1次調査

### 1節 概要

昭和の森第2駐車場予定地の造成に伴う、緊急発掘調査である。この本調査では、十分な調査組織を組むことが出来ず、昭和の森事務所職員・昭和の森協力会作業員の皆様方の多大なる御協力を得て、発掘調査が実施された。

調査について

① 調査区には、グリッドを設定していない。工事用の杭を基準として、検出された遺構は平板により実測されている。

② 遺構における土層断面図の設定位置については、一部を除き記録されていない。

③ 竪穴住居跡のカマドは、本体部を精査せずに十文字にセクションラインを設定し、土層断面図を作成している。そのためカマド平面図は輪郭図である。

④ 重複している遺構から出土した遺物は、1つの遺構名で一括して取り上げられている場合がある。

⑤ 方形溝状遺構とその内側に位置する掘立柱建物跡2棟（17・18号掘立柱建物跡）は、概略図のみ遺在している。この2棟については一部の土層断面図以外記録が存在しないため、想定復元に基づく模式図である。方形溝状遺構と17・18号掘立柱建物跡は、調査時から保存することを考慮していたために完掘されていない。

調査された遺構

古墳3基（周溝のみ）、奈良から平安時代の集落跡から竪穴住居跡81軒・掘立柱建物跡18棟・方形溝状遺構1ヶ所・鍛冶跡1基・土壙3基が調査された。

## 2 節 遺構と遺物

### 1. 竪穴住居跡

調査区のほぼ全域に展開して検出された。重複遺構も多く、住居跡が重複している場合は、遺構番号の順位にかかわらず続けて記載しているため、一部順不同になっている。

01号住居跡（第4図）

調査区の中央やや南寄りに位置する。床面のみ遺存し、壁はほとんど残っていない。北東隅の床より焼土堆積が検出された。

形態は方形を呈している。規模3.88×3.64m。主軸方向N-40°0′-E。柱穴5本。カマド北東壁中央。

出土遺物 1・2は土師器の甕。

1号住居跡（第5・第6図）

調査区の東やや中央寄りに位置する。13号掘立柱建物跡と重複している。

形態は方形を呈している。規模4.50×4.24m。主軸方向ほぼ磁北に沿っている。柱穴6本。カマドは2基検出。西壁と、北壁にカマドを構築している。

出土遺物 1は須恵器の蓋で宝珠を欠く。2～7は須恵器の坏で6・7は高台付坏。8・9は土師器の坏。10は土師器の台付甕脚部。11・12は土師器の小型甕。13は須恵器の甕。14は土師器の甕。15は湖西産須恵器の長頸瓶、頸部の内面と外面肩部に釉薬が残る。

2号住居跡（第7図）

調査区の最も西寄りに位置する。床面のみ遺存し、壁はほとんど残っていない。

形態は方形を呈している。規模6.10×5.95m。主軸方向N-13°0′-W。柱穴5本。カマドは北壁の中央。

出土遺物 1は須恵器の坏。2は土師器の坏。

3号住居跡 (第8・第9・第10図)

調査区の最も西寄り, 2号住の南に位置する。4号住と北側で重複している。

形態は方形を呈している。規模5.30×4.58m。主軸方向N-30° 0′ -W。柱穴5本。カマドは2基検出。東壁と, 北壁にカマドを構築している。

出土遺物 1は土師器の灯明皿, 口縁部にススが付着している。2~13は土師器の坏, 13の底部外面にヘラ書きがある。「里」か。14は土師器の高台付大皿。15・16は土師器の小型甕。15は胴部に焼土が付着。17~22は土師器の甕。23は土師器の甑。24は鉄製刀子, 切先と茎を欠損。25は布目瓦。

4号住居跡 (第8・第10図)

3号住により南側半分が失われている。

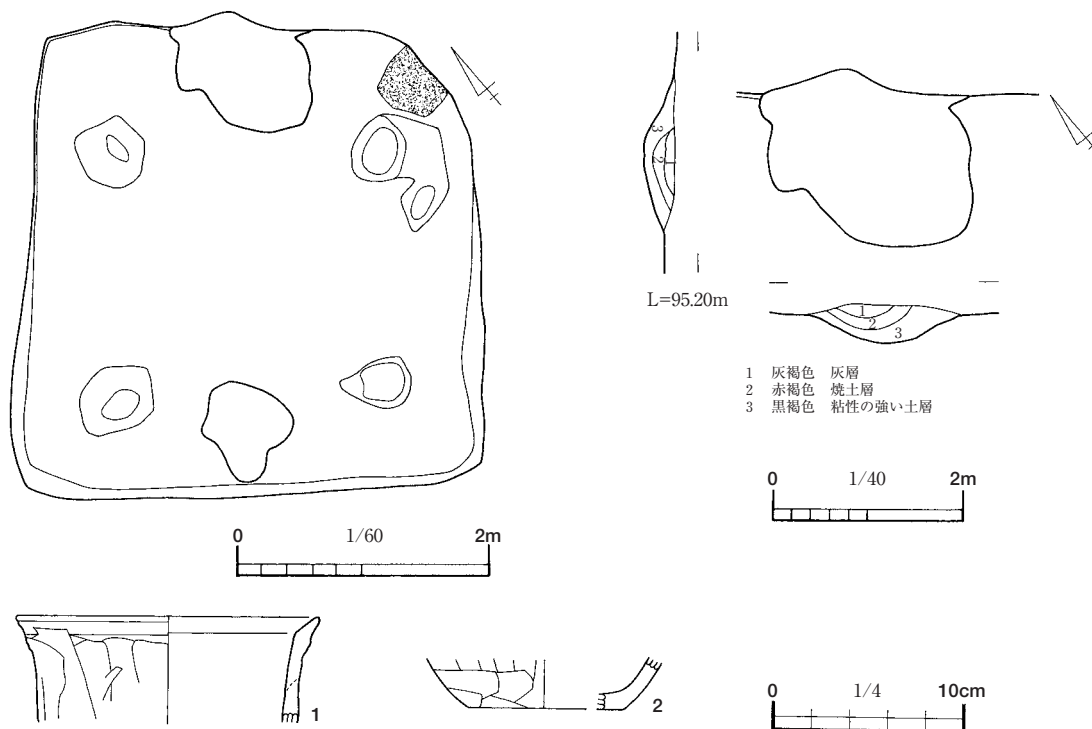
形態は方形と思われる。規模3.46×(2.37)m。主軸方向N-30° 0′ -W。柱穴2本。カマドは2基検出。西壁と, 北壁にカマドを構築している。

出土遺物 1は須恵器の坏。2は土師器の坏。3は土師器の高台付坏, 坏部を欠く。4・5は土師器の小型甕。6・7は須恵器の甕, 7は胴部に焼土が付着。8は布目瓦。

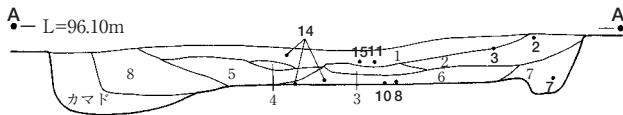
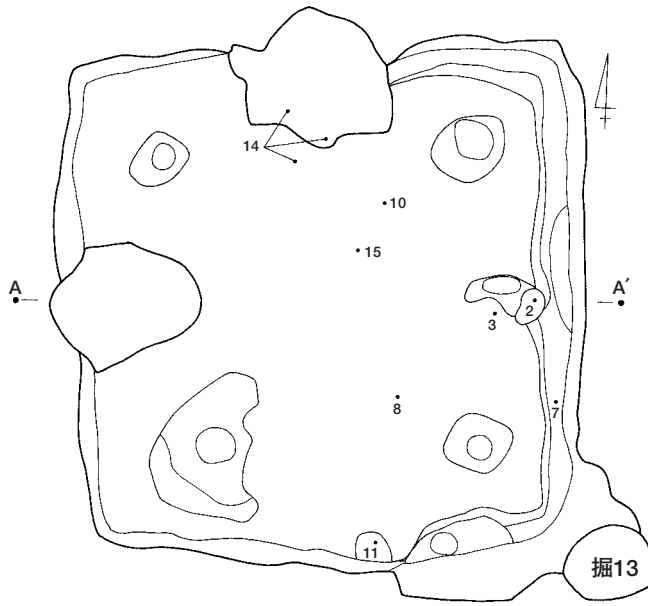
5号住居跡 (第11・第12図)

調査区の西北に位置する。住居の南隅で攪乱土壌・2号土壌が重複している。東壁際中央に焼土堆積がみられた。

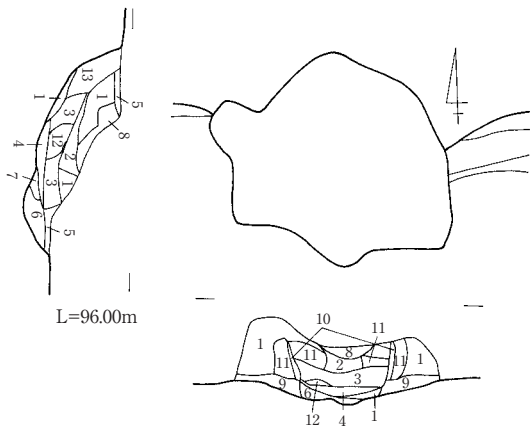
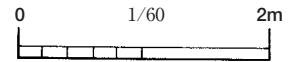
形態は方形を呈している。規模6.04×5.06m。主軸方向N-64° 0′ -W。柱穴3本。カマドは西壁中央。



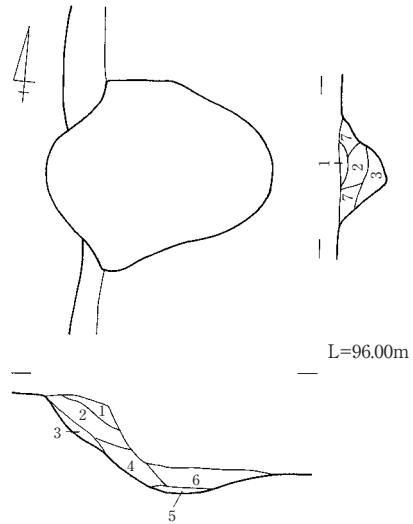
第4図 01号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



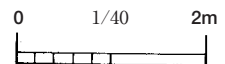
- 1 黒褐色 焼土粒・炭化物を多く含む
- 2 暗褐色 ローム粒を少し含む
- 3 暗褐色 砂質土を多く含む
- 4 淡白色 砂層
- 5 暗褐色 焼土粒・砂・炭化物を含む
- 6 暗褐色 砂質土を少し含む
- 7 暗褐色 ローム粒を多く含む、炭化物・焼土粒も含む
- 8 黒褐色 焼けた砂質土を多く含む



- 1 黄白色 粘土層
- 2 暗褐色 砂質粘土層
- 3 暗褐色 ロームブロック・灰を含む
- 4 赤褐色
- 5 暗褐色
- 6 黒褐色 ロームブロックを含む
- 7 赤褐色 焼けたロームブロック
- 8 暗褐色 粘土を含む
- 9 暗褐色 非常にかたい土層
- 10 黄褐色 焼けた粘土層、カマド内壁
- 11 黄褐色 焼けた白色粘土層
- 12 灰褐色 灰層
- 13 褐色 砂質土層

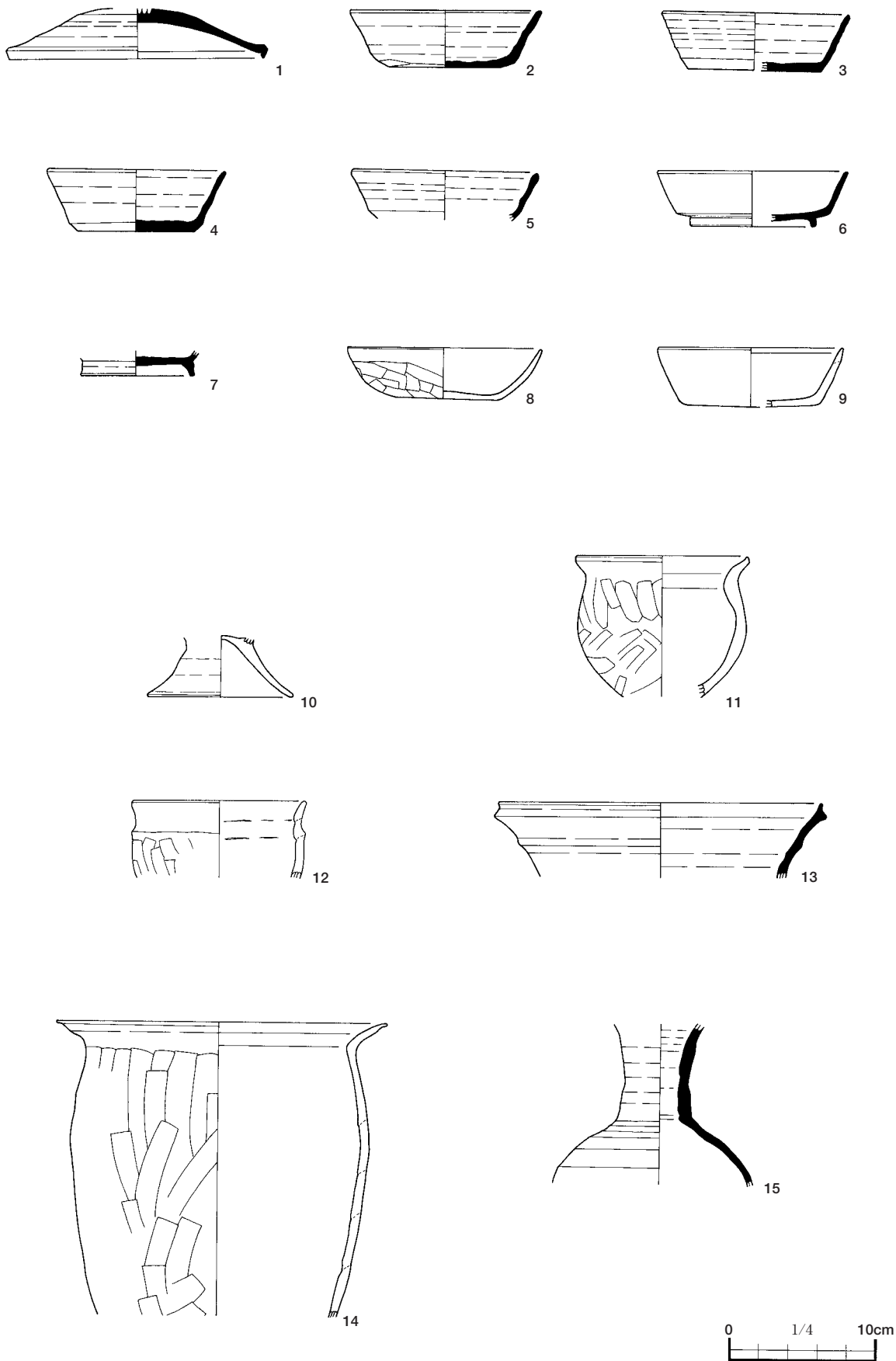


- 1 黄白色 粘土層
- 2 褐色 焼けた粘土を含む砂質粘土層
- 3 褐色 ロームブロックを含む砂質粘土層
- 4 暗褐色 ロームブロックを含む砂質土層
- 5 褐色 ロームブロックを含む
- 6 褐色 粘土・焼けた粘土・灰を含む砂質土層
- 7 赤褐色 粘土層

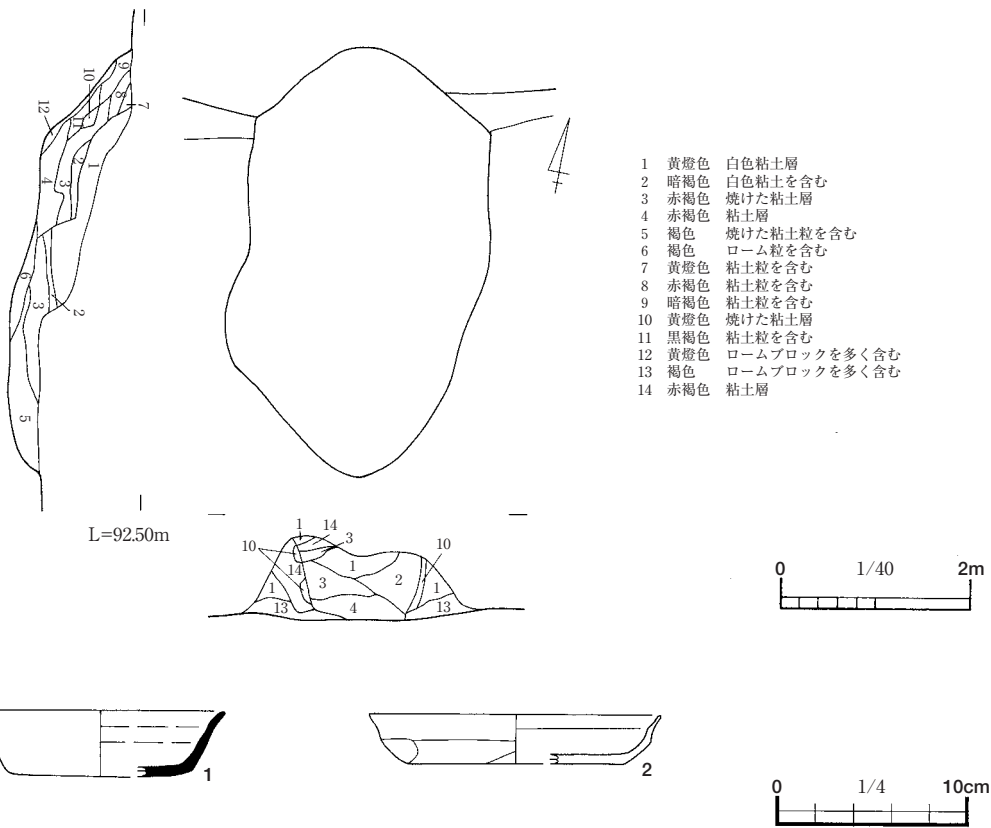
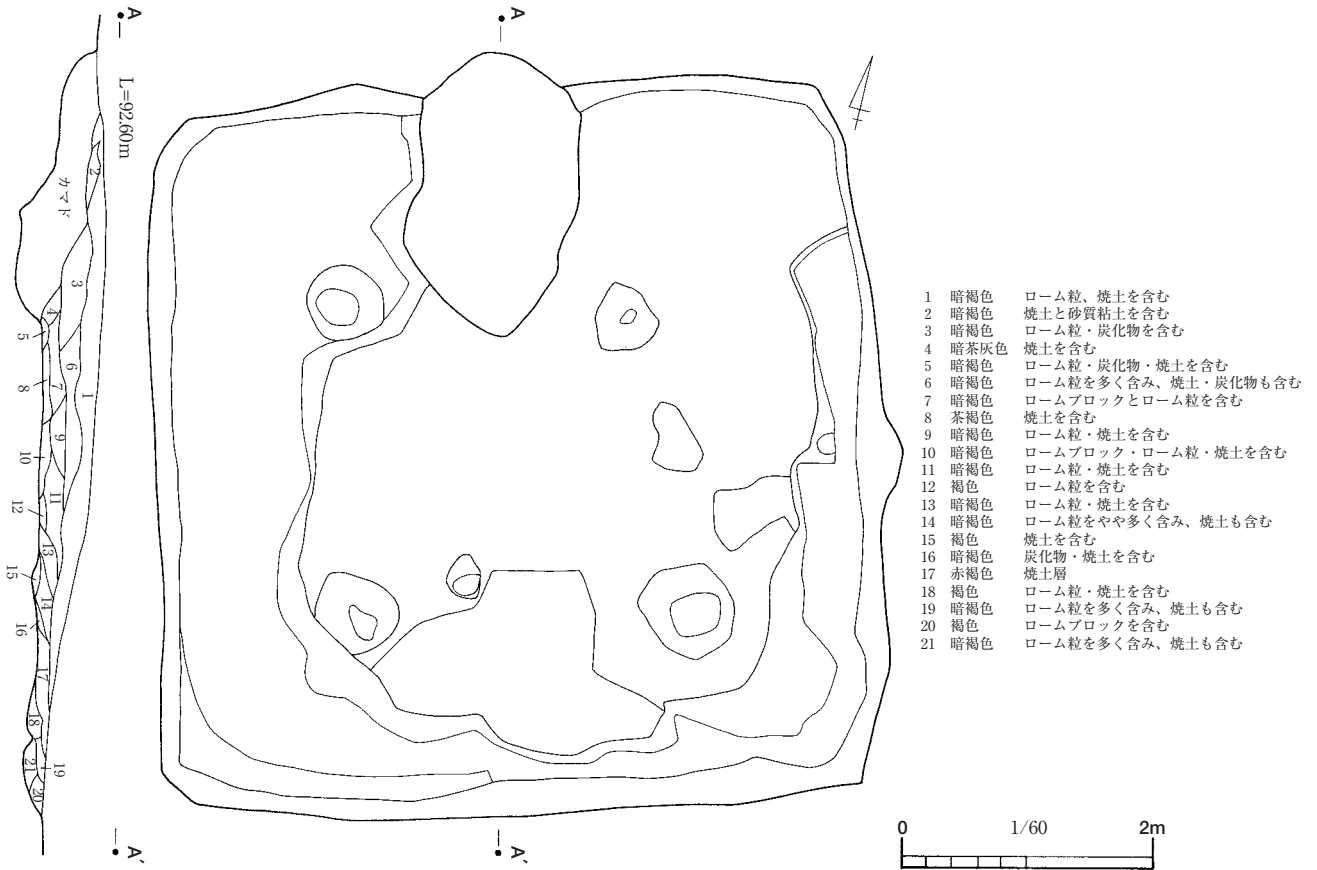


第5図 1号住居跡実測図・カマド実測図

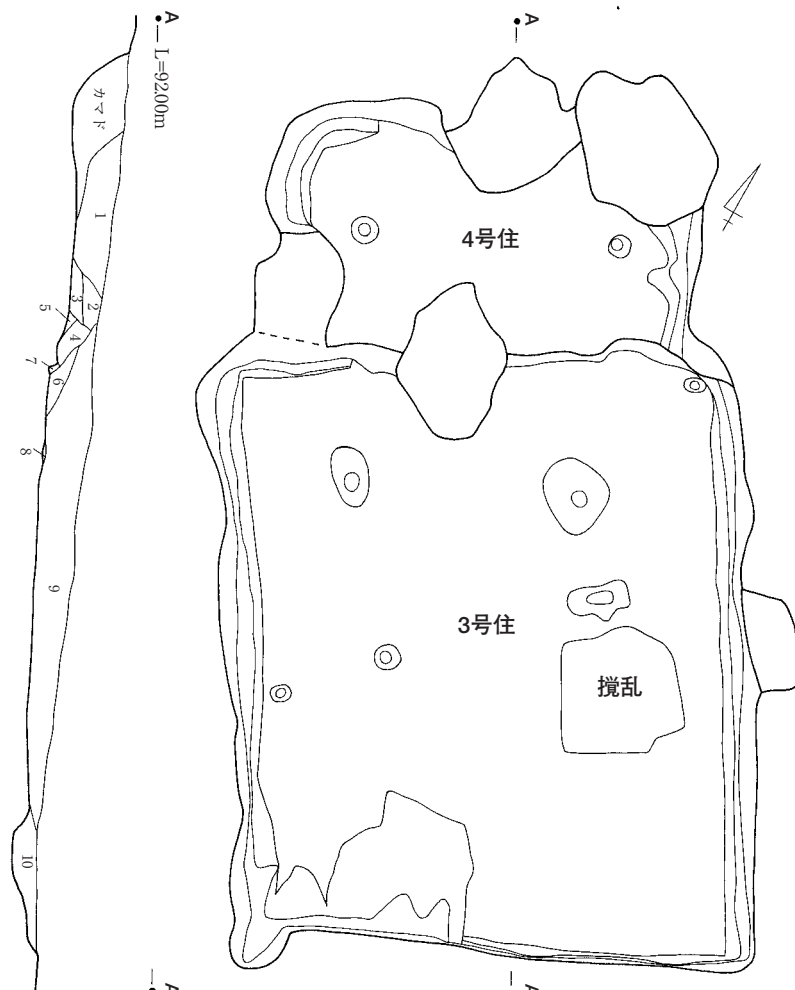




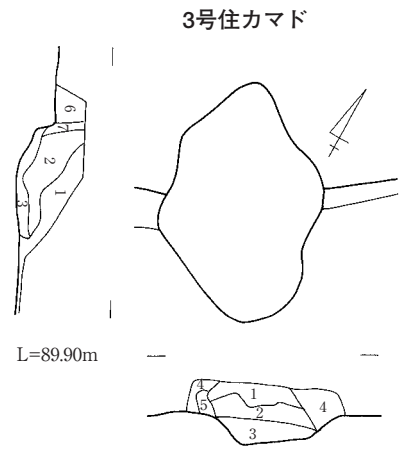
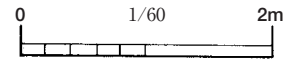
第6图 1号住居跡出土遺物



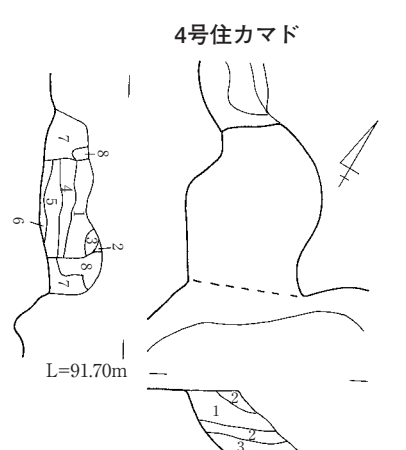
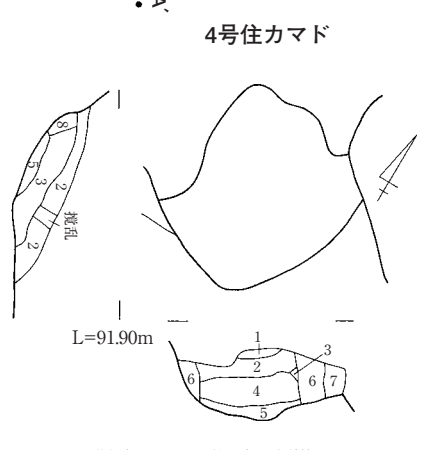
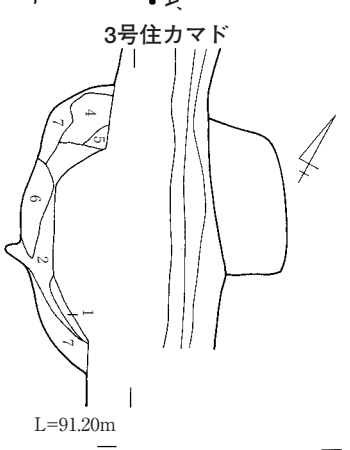
第7図 2号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



- 1 暗褐色 焼土粒・ローム粒を含む
- 2 暗褐色 砂・ローム粒を含む
- 3 暗褐色 ローム粒を含む
- 4 暗赤褐色 暗褐色土を含む焼土層
- 5 暗黒赤色 暗褐色土を含む砂質粘土層
- 6 暗褐色 焼土粒・ローム粒を含む
- 7 暗褐色 砂を含む
- 8 暗黒褐色 焼土・炭化物を多く含む
- 9 暗褐色 焼土・炭化物・ローム粒を含む
- 10 黒褐色 ロームブロックを多く含む



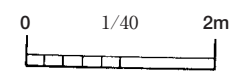
- 1 黄褐色 砂質粘土とローム粒が混ざりあう、焼土ブロックを含む
- 2 暗赤褐色 焼土ブロックを含む、焼けた砂質粘土層
- 3 暗褐色 砂質粘土と焼土粒が混ざりあう、灰層
- 4 黄褐色 砂質粘土とローム粒が混ざりあう
- 5 赤褐色 焼けた砂質粘土層
- 6 黒褐色 黒色土・ローム粒・ロームブロックが混ざりあう
- 7 黒褐色 砂質粘土・ローム粒・焼土粒を含む



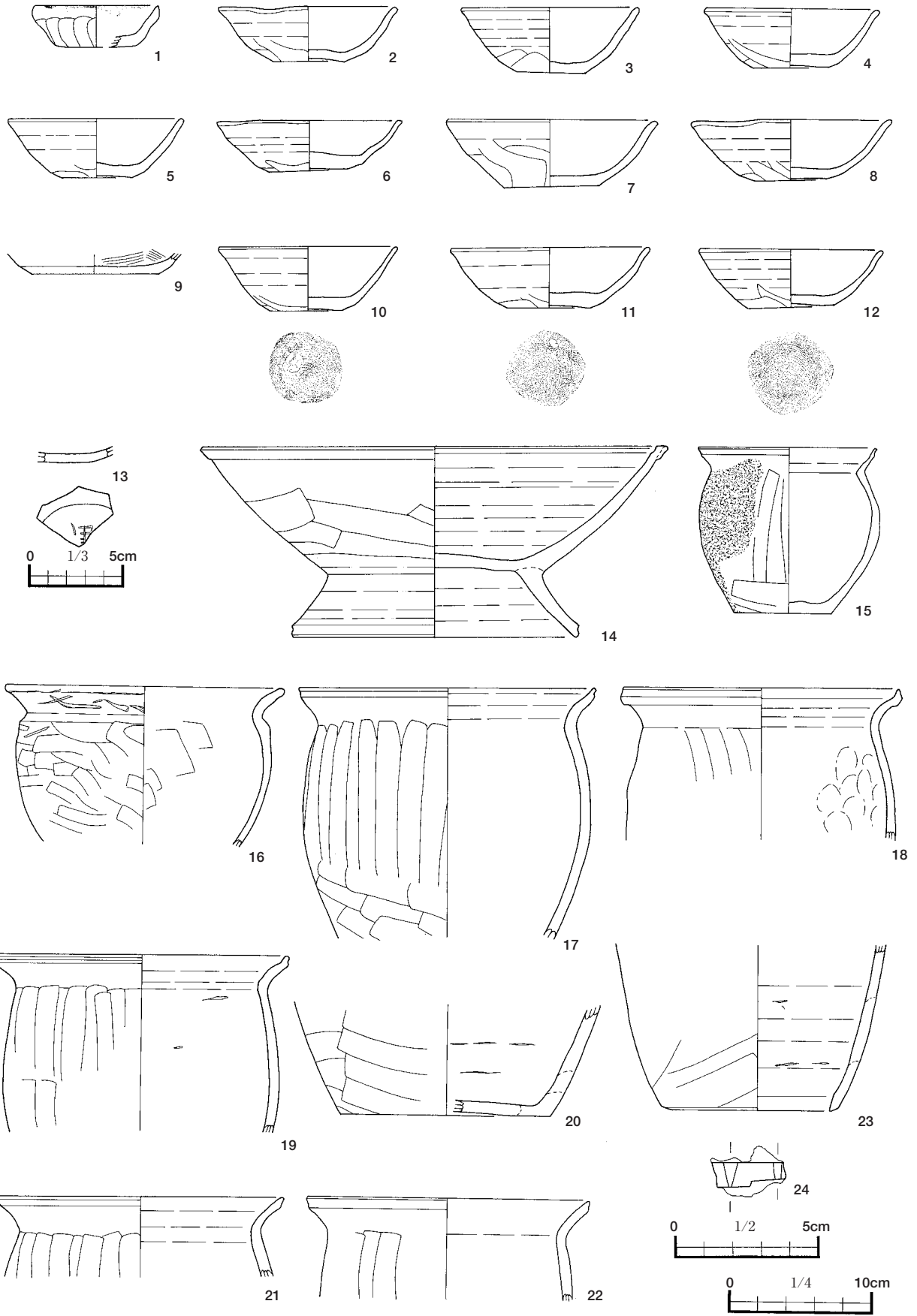
- 1 褐色 粘土・焼土粒・炭化物を含む
- 2 褐色 砂質粘土・焼土・炭化物を含む
- 3 褐色 砂質粘土・ローム粒・焼土粒を含む
- 4 赤褐色 砂質粘土・ローム粒・焼土を含む
- 5 赤褐色 焼けた砂質粘土層
- 6 暗赤褐色 ローム粒を含む焼けた砂質粘土層
- 7 黄褐色 ローム粒・粘土・焼土粒を含む

- 1 黄褐色 ローム粒を含む砂質粘土層
- 2 黄褐色 焼土を含む
- 3 黄褐色 焼土を多く含む
- 4 暗赤褐色 焼土粒・炭化物を含む焼けた砂質粘土層
- 5 暗褐色 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層
- 6 暗褐色 焼土粒を含む
- 7 黄褐色 ローム層
- 8 黄褐色 焼土・粘土を含む

- 1 暗褐色 焼土ブロックと砂質粘土が混ざりあう
- 2 暗褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 3 暗褐色 焼土粒と砂質粘土が混ざりあう
- 4 赤褐色 炭化物を含む焼けた砂質粘土層
- 5 赤褐色 焼土ブロック層
- 6 黄褐色 ローム層
- 7 黄褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 8 暗赤褐色 焼けた砂質粘土層



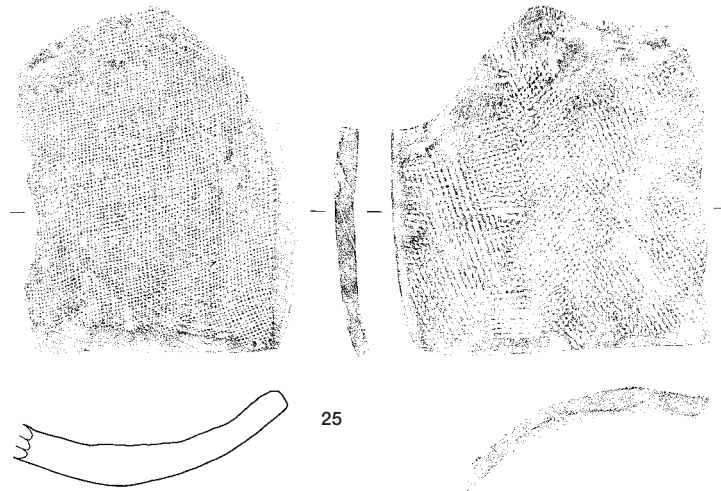
第8図 3号・4号住居跡実測図・カマド実測図



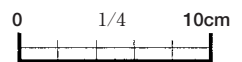
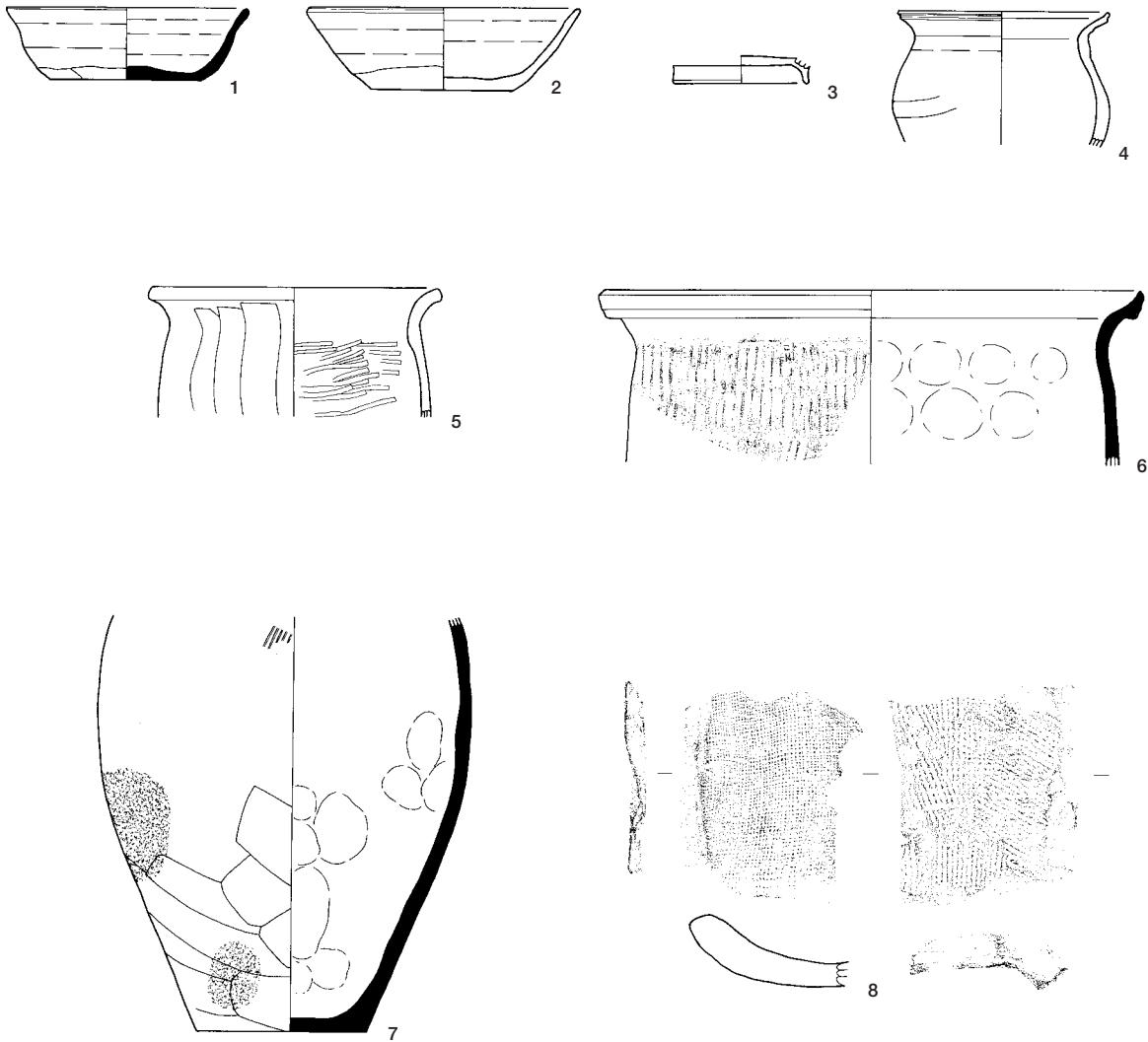
第9图 3号住居跡実測図出土遺物(1)



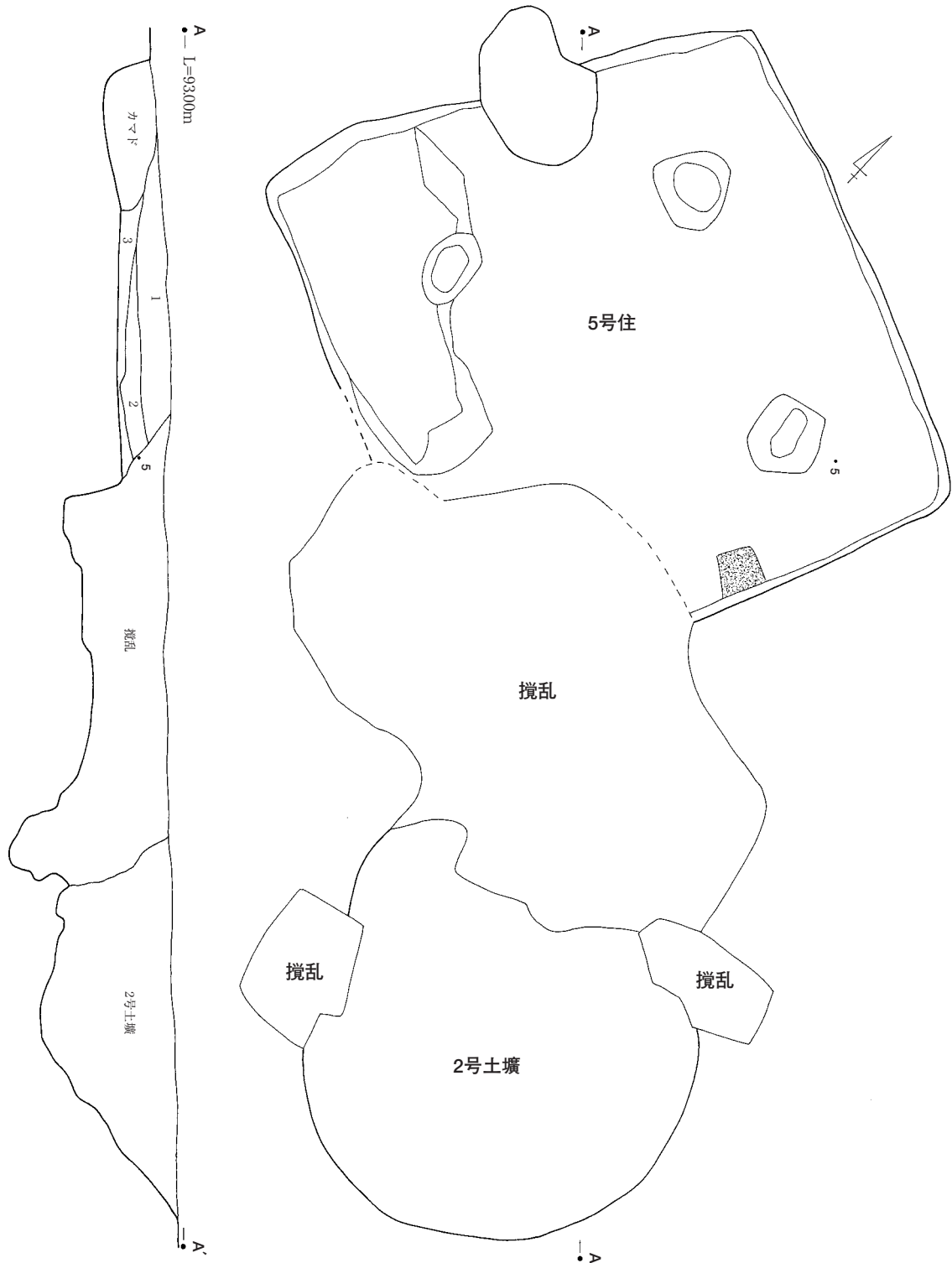
3号住



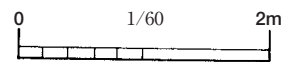
4号住



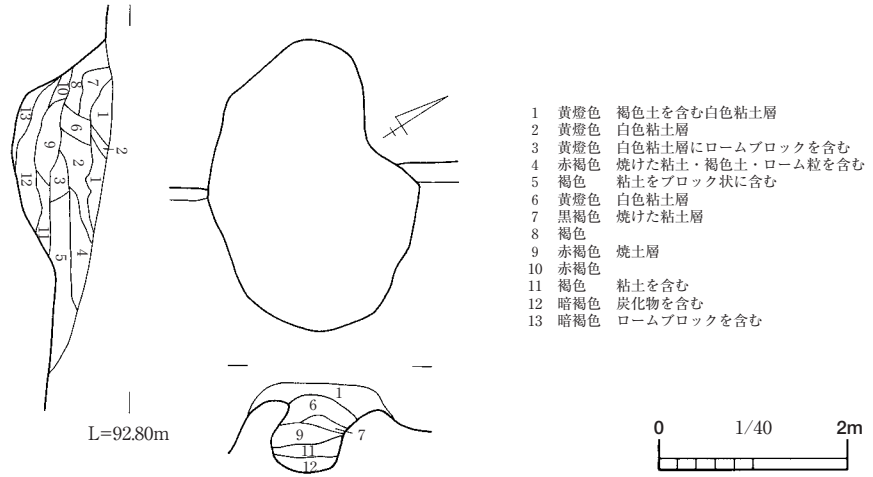
第10图 3号住居跡出土遺物(2)・4号住居跡出土遺物



- 1 暗褐色 ローム粒を含む
- 2 暗褐色 ローム粒を含む
- 3 暗褐色 焼けた砂質土とハードローム粒を含む



第11図 5号住居跡実測図



第12図 5号住居跡カマド実測図・出土遺物

出土遺物 1は土師器の坏。2～4は土師器の甕。4は胴部に砂が付着。5は土製支脚。

6号住居跡・7号住居跡は欠番

8号住居跡 (第13図)

調査区の北西に位置している。

形態は方形を呈している。規模5.31×4.97m。主軸方向N-45° 0′ -W。柱穴5本。カマドは北西壁の中央。

出土遺物 1は須恵器の坏。2・3は土師器の甕。4は白色凝灰岩製砥石。端部に小孔がある。

9号住居跡 (第14図)

調査区の最北西に位置している。北西側は斜面のため壁とカマドは流出しており、残っていない。

形態は横長の方形を呈している。規模3.86×3.61m。主軸方向N-55° 0′ -W。柱穴6本。カマドは北西壁中央に、火床の焼土が僅かに遺存。

出土遺物 1・2は須恵器の坏。1は底部外面に6条の平行線が線刻されている。呪符などに見られるドーマンか。3は土師器の坏。4は土師器の甕。

10号住居跡 (第15・第16図)

調査区の西、住居跡や掘立柱建物跡などの遺構が集中している中に位置している。本住居跡は15号掘立柱建物跡および攪乱土壌と重複している。

形態は方形を呈している。規模4.71×3.52m。主軸方向N-58° 30′ -E。柱穴なし。カマドは東壁中央で15号掘立柱建物跡により南側半分を失っている。

出土遺物 1は土師器の皿。2は土師器の台付皿。底部外面に墨書が見られるが、解読出来ない。3～5は土師器の坏。4は底部外面に線刻で「#」が描かれている。これもドーマンか。5の底部外面に墨書の一部が見られるが解読出来ない。6は須恵器の片口。柄を差し込む方形の穴が1ヶ所見られる。7は土師器の小型甕。8は土師器の甕。9は須恵器の甌。10は土師器の甌。11は鉄製刀子、切先と茎を欠損。12は布目瓦。

11号住居跡・82号住居跡 (第17・第18図)

調査区の北西に位置している。11号住居跡は82号住居跡および3基の攪乱土壌と重複している。

11号住居跡

形態は方形を呈している。規模5.47×5.20m。主軸方向N-37° 0′ -W。柱穴2本。カマドは北壁中央に位置し、攪乱土壌により壊されている。

82号住居跡

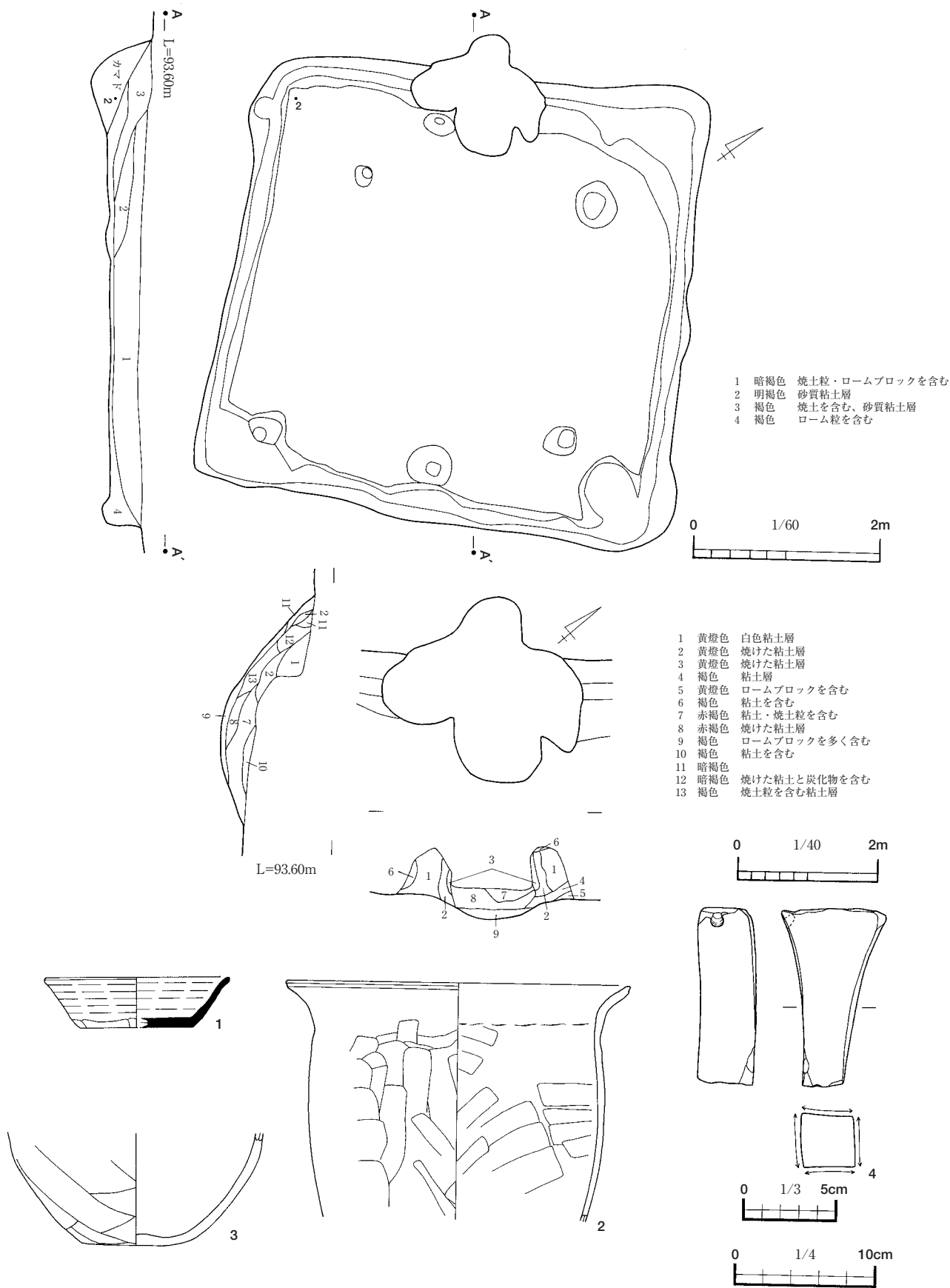
形態は台形を呈している。規模4.12×3.55m。主軸方向N-21° 0′ -W。柱穴なし。カマドなし。

出土遺物 全て11号住居跡の遺物として、一括して取り上げられているため、どちらの住居跡に伴う遺物かは不明である。1は須恵器の脚、貫通孔あり。2は須恵器の坏。3は土師器の坏。4～7は土師器の小型甕。8は土師器の甕。9は布目瓦。

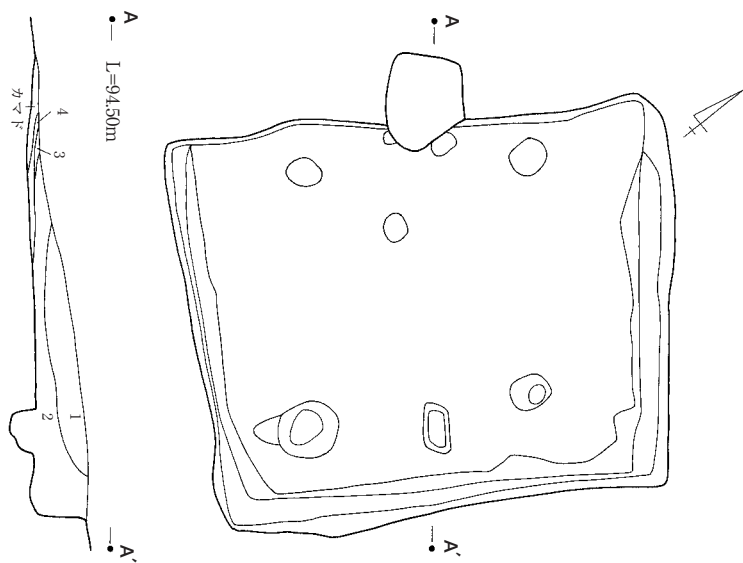
12号住居跡・67号住居跡・69号住居跡・81号住居跡 (第19・第20図)

調査区の西、住居跡と掘立柱建物跡および攪乱土壌が集中し、重複している中に位置している。12号住居跡は東に69号住居跡、西で67号住居跡、さらに北は81号住居跡と重複している。

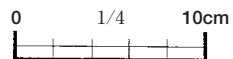
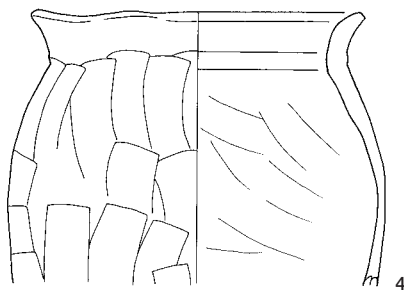
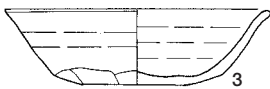
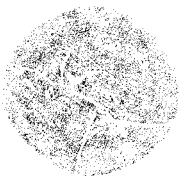
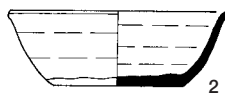
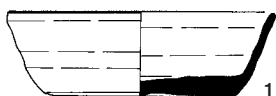
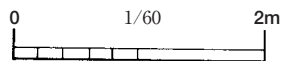




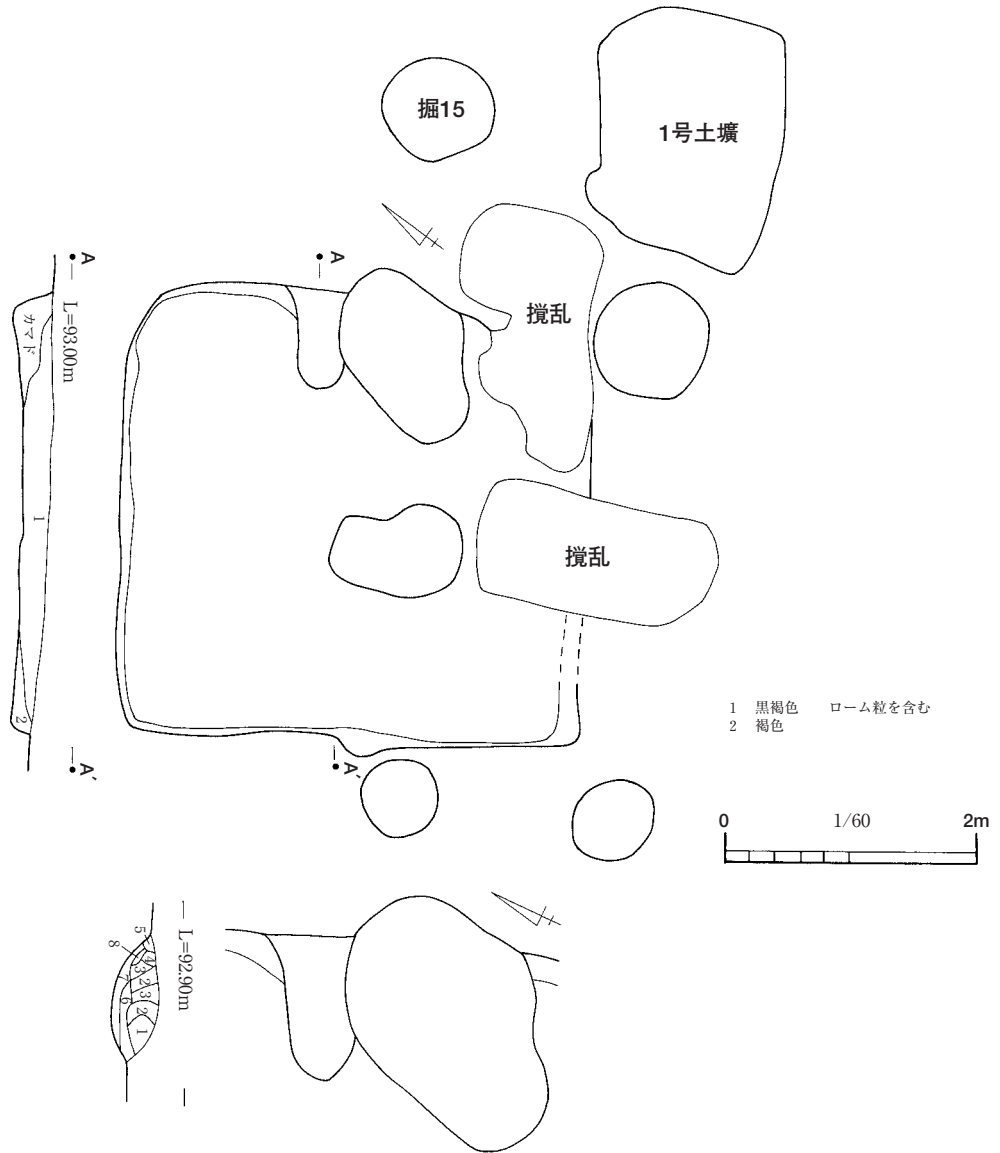
第13図 8号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



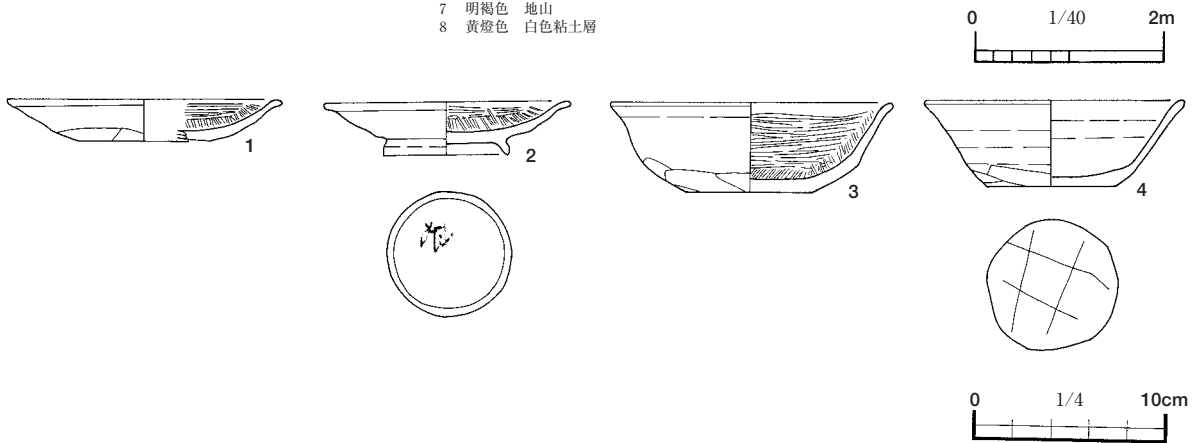
- 1 褐色 ローム粒・ロームブロックを含む
- 2 暗褐色 ローム粒・ロームブロックを含む
- 3 赤褐色 焼土層
- 4 暗褐色 ロームブロックを含む



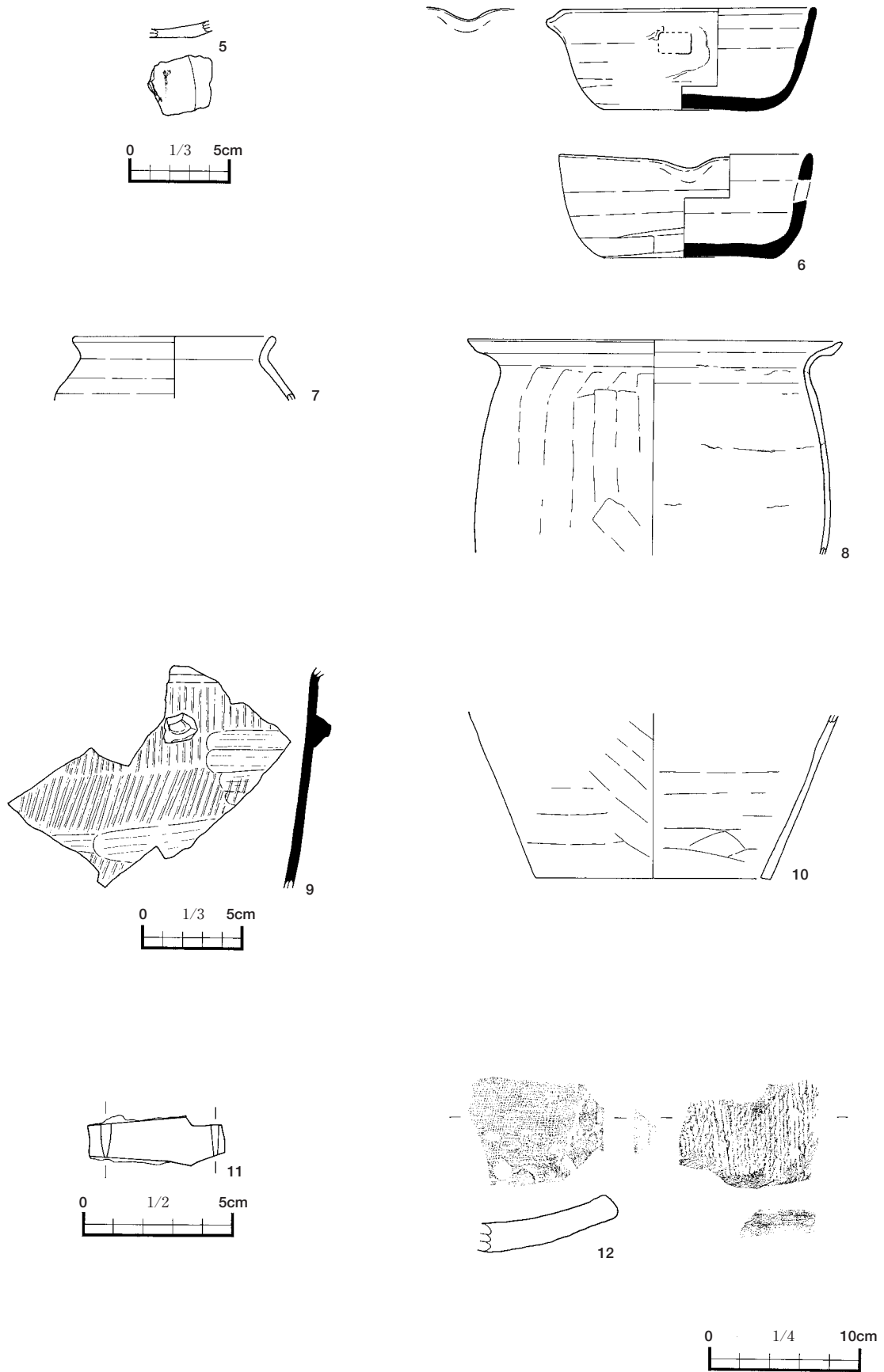
第14図 9号住居跡実測図・出土遺物



- 1 褐色 砂質粘土と焼けた粘土粒を含む
- 2 赤褐色 焼けた白色粘土と褐色土がまざりあう
- 3 黄褐色 焼けた白色粘土層
- 4 黄褐色 焼けた粘土層
- 5 褐色 粘性の強い土層
- 6 褐色 粘性の強い土層
- 7 明褐色 地山
- 8 黄褐色 白色粘土層

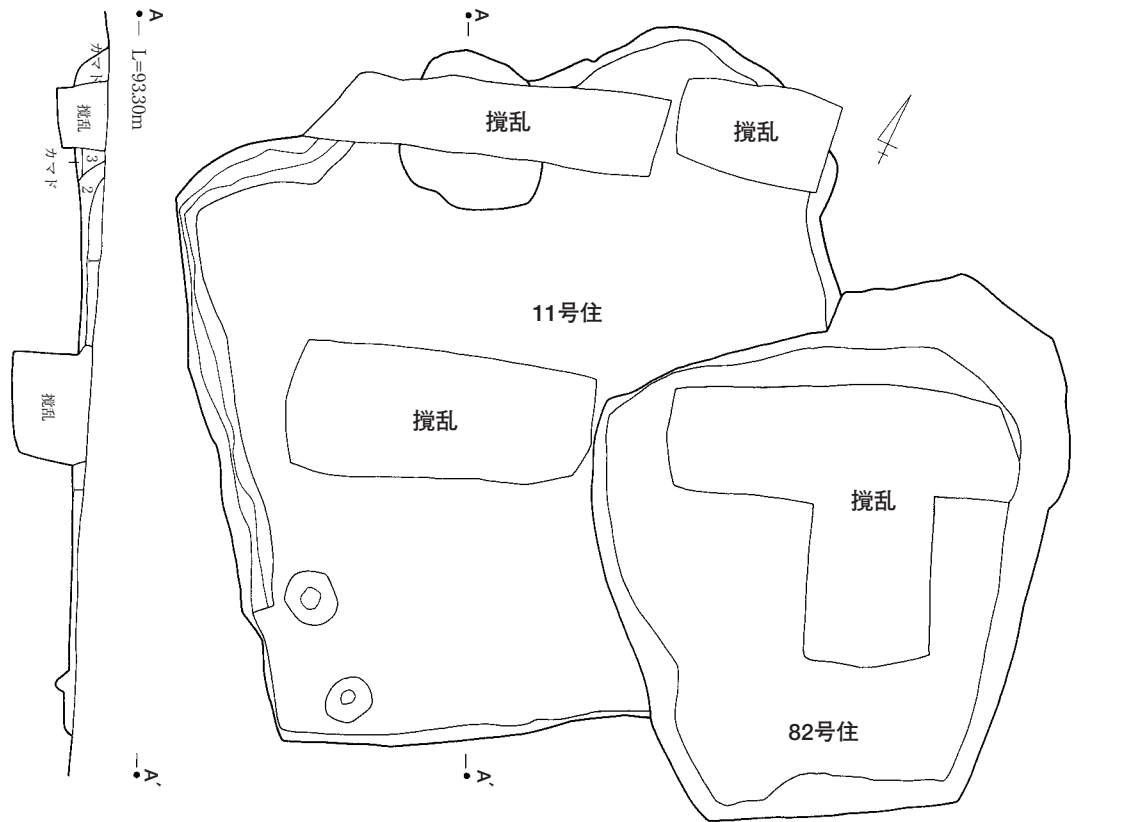


第15図 10号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物(1)

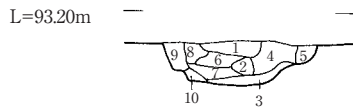
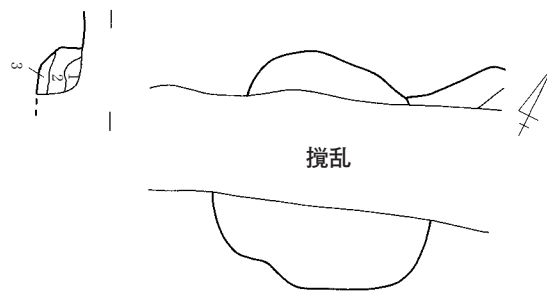
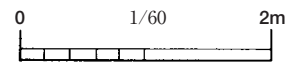


第16图 10号住居跡出土遺物(2)

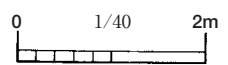




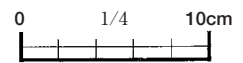
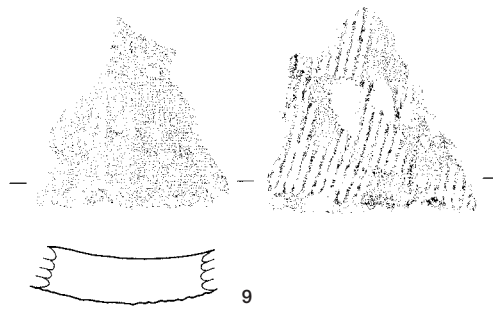
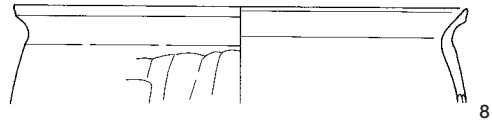
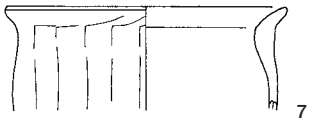
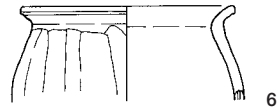
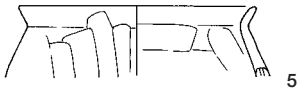
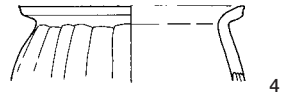
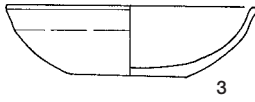
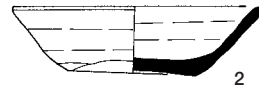
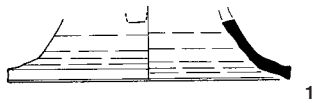
- 1 暗褐色 焼土・ローム粒を含む
- 2 黒褐色 焼土・ローム粒・炭化物を含む
- 3 褐灰色 焼土を含む砂質粘土層



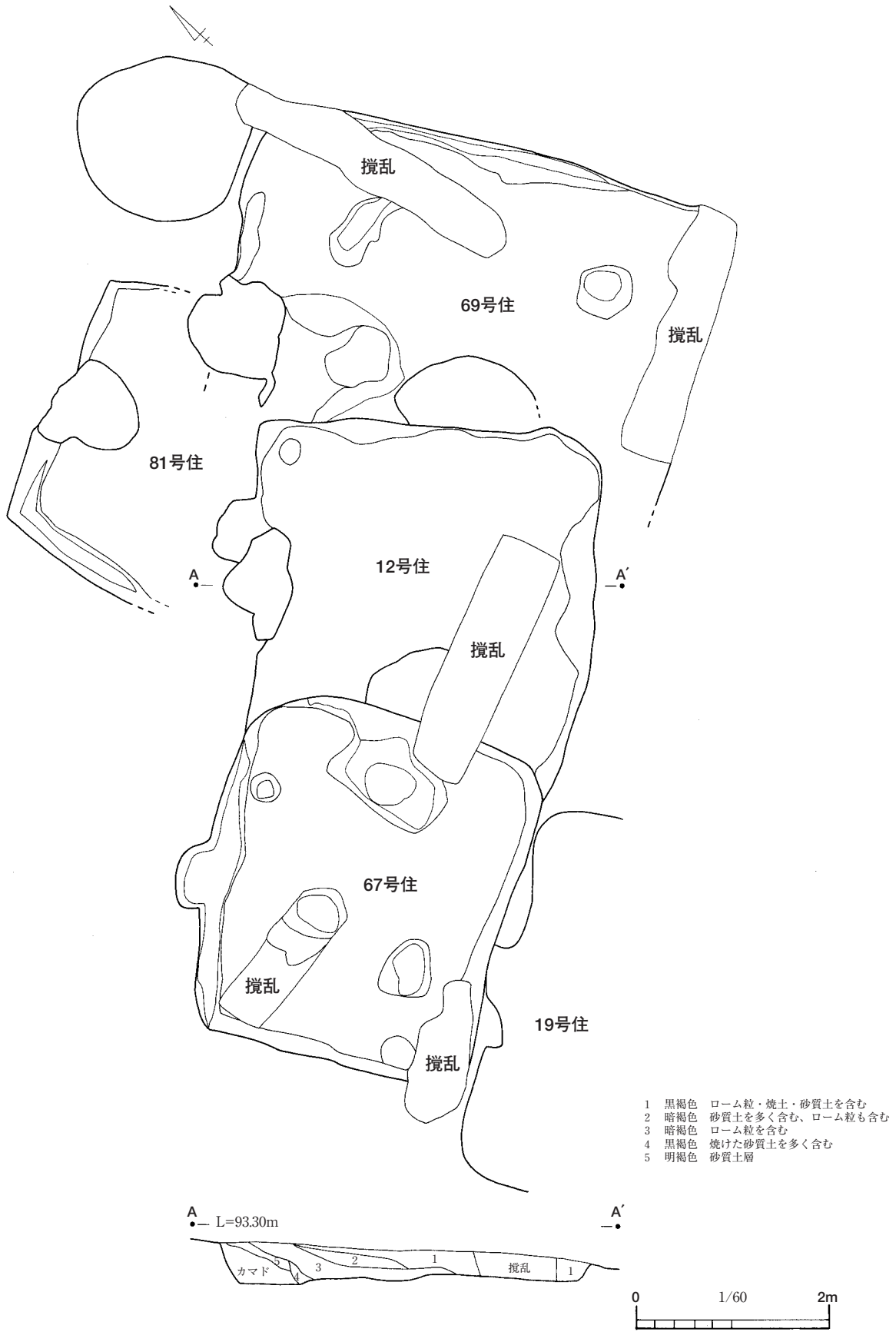
- 1 黒褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 2 赤褐色 焼土ブロックを含む
- 3 暗褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 4 暗赤褐色 砂質粘土を含む焼土層
- 5 暗褐色 砂質土を含む
- 6 黄褐色 焼土粒を多く含む
- 7 暗褐色 焼土粒を多く含む
- 8 赤褐色 焼けたロームを含む
- 9 褐色 焼土粒を含む
- 10 黒褐色 ロームブロックを含む



第17図 11号・82号住居跡実測図・カマド実測図

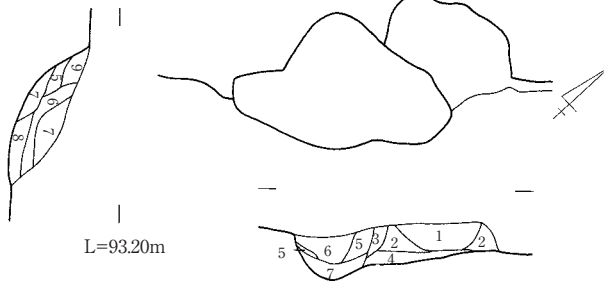


第18图 11号・82号住居跡出土遺物



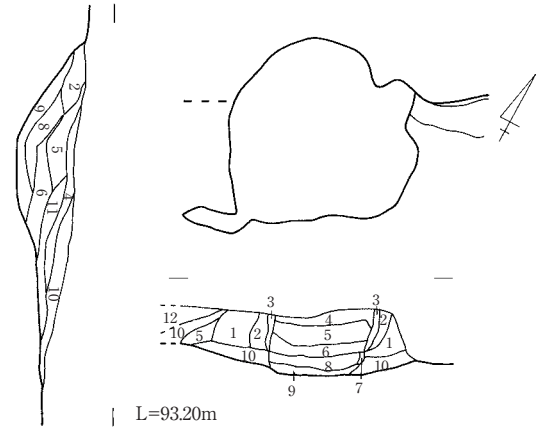
第19図 12号・67号・69号・81号住居跡実測図

12号住カマド



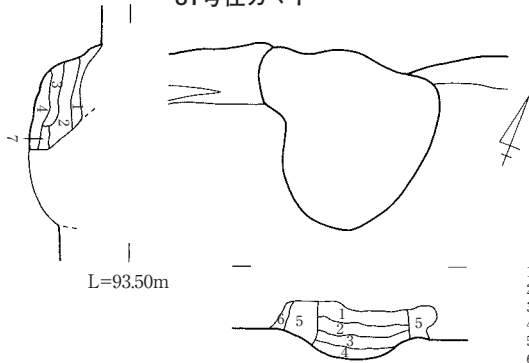
- 1 黄褐色 焼けた粘土を含む砂質粘土層
- 2 褐色 砂質土層
- 3 黄褐色 白色粘土層
- 4 褐色 ローム粒を多く含む
- 5 褐色 焼土を含む
- 6 黄褐色 焼けた粘土層
- 7 黄褐色 白色粘土層
- 8 暗赤褐色 ロームブロックを含む
- 9 暗褐色 焼けた粘土層

69号住カマド

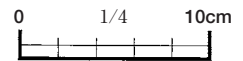
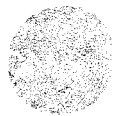
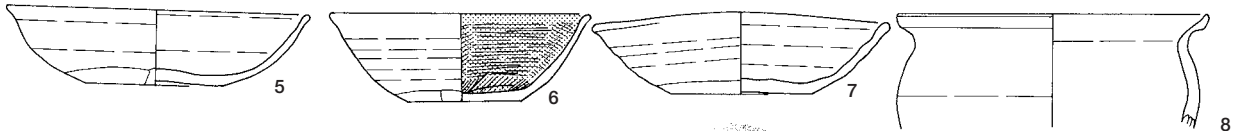
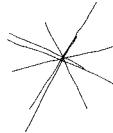
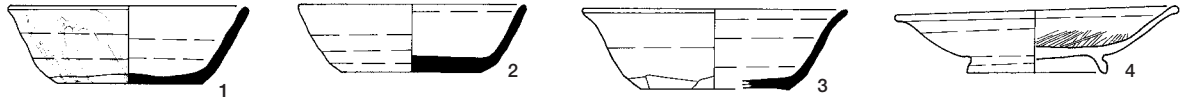
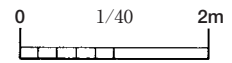


- 1 黄褐色 白色粘土層
- 2 黄褐色 焼けた砂質粘土層
- 3 黄褐色 焼けた粘土層
- 4 黄褐色 砂質粘土層
- 5 褐色 白色粘土層
- 6 暗褐色 焼けた粘土を含む
- 7 暗褐色 焼けた粘土ブロックを多く含む焼土層
- 8 赤褐色 焼けた粘土ブロックを多く含む焼土層
- 9 暗褐色 ロームブロックを多く含む
- 10 褐色 ロームブロックを含む固い土層
- 11 暗褐色 砂質粘土を含む
- 12 褐色 ローム粒を含む

81号住カマド



- 1 暗褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 2 灰褐色 ローム粒を含む砂質粘土層
- 3 暗赤褐色 焼土層
- 4 灰褐色 ロームブロックを含む
- 5 黄褐色 焼けた粘土層
- 6 暗褐色 ロームブロックを含む砂質粘土層
- 7 黒褐色 焼けた粘土層



第20図 12号・69号・81号住居跡カマド実測図・12号住居跡出土遺物

#### 12号住居跡

形態は方形を呈している。規模(4.40)×3.65m。主軸方向N-43° 0′ -W。柱穴なし。カマドは2基検出。北壁中央やや東よりに、古いカマド。北壁中央に新しいカマドを構築している。

#### 67号住居跡

形態は方形を呈している。規模3.65×3.08m。主軸方向N-61° 0′ -E。柱穴4本。カマドなし。

#### 69号住居跡

形態は方形と思われる。規模5.22×(5.08)m。主軸方向N-30° 0′ -W。柱穴2本。

カマドは北壁の81号住居跡の床上。

#### 81号住居跡

形態は方形または台形と思われる。規模3.06×(2.20)m。主軸方向N-9° 0′ -W。柱穴なし。

出土遺物 67号住居跡の覆土中層よりハマグリ(L17個体29.8g・R25個体45.0g, LR不明37.8g, 総重量112.6g)が出土している以外は、全て12号住居跡の遺物として一括して取り上げられているため、どの住居跡に伴う遺物かは不明である。1～3は須恵器の坏, 1は火ダスキが見られる。4は土師器の高台付皿。5～7は土師器の坏, 6は内面黒色処理し放射状の線刻を施す, ドーマンか。8は土師器の小型甕。

#### 13号住居跡・72号住居跡・73号住居跡 (第21・第22図)

調査区の北西やや中央よりに位置している。13号住居跡は西側で72号住居跡と東側で73号住居跡と重複している。72号住居跡と73号住居跡は南側で12号掘立柱建物跡と重複している。

#### 13号住居跡

形態は遺構の重複により不明。規模(3.24)×(2.81)m。主軸方向N-22° 30′ -W。柱穴3本。カマドは北壁。

#### 72号住居跡

形態は方形を呈している。規模5.16×(4.80)m。主軸方向N-17° 0′ -W。柱穴5本。カマドは北壁中央。

#### 73号住居跡

形態は横長台形を呈している。規模5.22×(2.36)m。主軸方向N-34° 0′ -E。柱穴4本。カマドは北壁の東寄り。

出土遺物 1・2・5・6・8は13号住居跡より出土, 4は72号住居跡より出土, 9は73号住居跡から出土している。その他の遺物は, 13号住居跡の一括遺物として取り上げられているため, どの住居跡に伴う遺物かは不明である。1～4は土師器の坏, 2は外面にススが付着している。5は土師器の小型甕。6・7は須恵器の甕。8は須恵器の大型甕。9は土師器の甕。10は土製支脚。11・12は布目瓦。

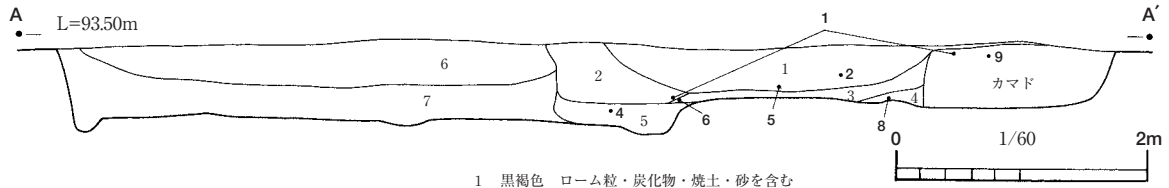
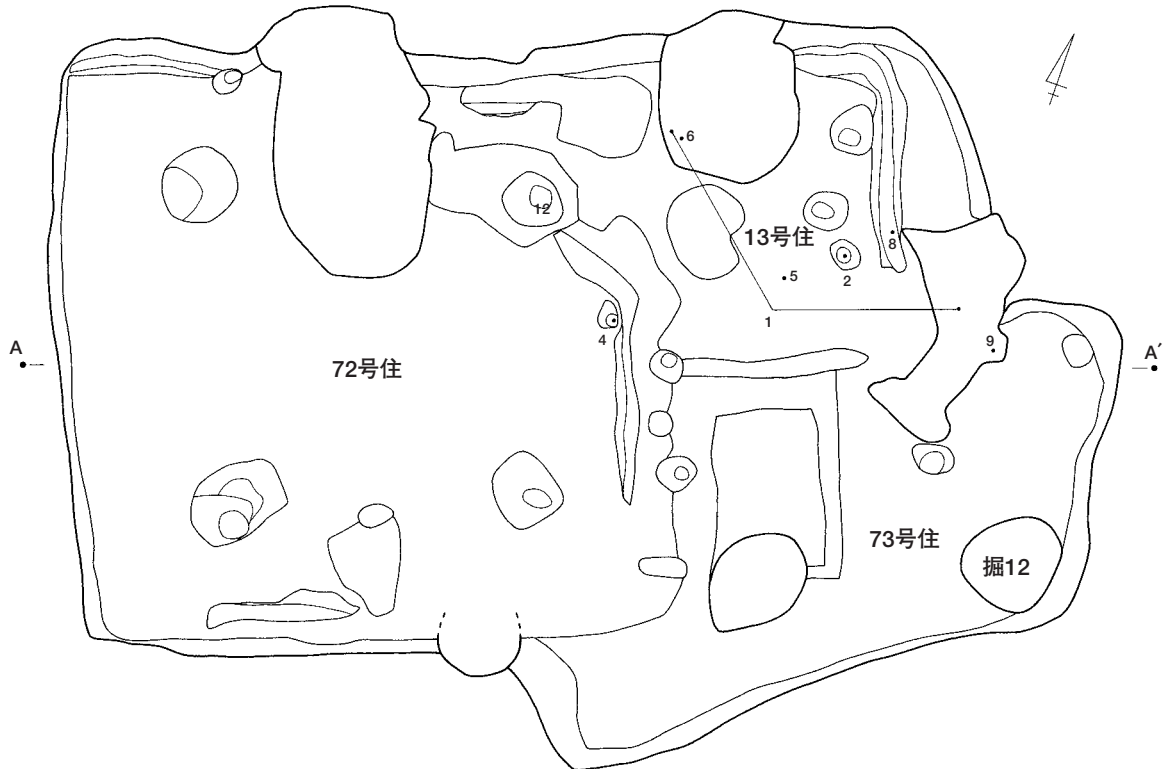
#### 14号住居跡・71号住居跡 (第23・第24図)

調査区の西に位置している。住居跡や掘立柱建物跡および攪乱土壌が集中しており, 14号住居跡は東側で71号住居跡と, 71号住居跡は15号掘立柱建物跡とも重複している。

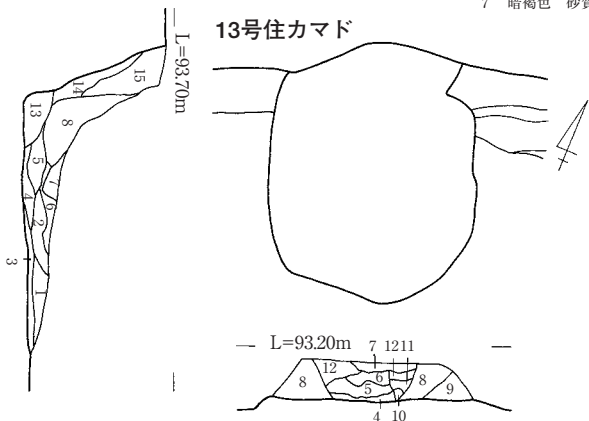
#### 14号住居跡

形態は方形を呈している。規模4.86×4.78m。主軸方向N-35° 0′ -W。柱穴6本。カマドは北

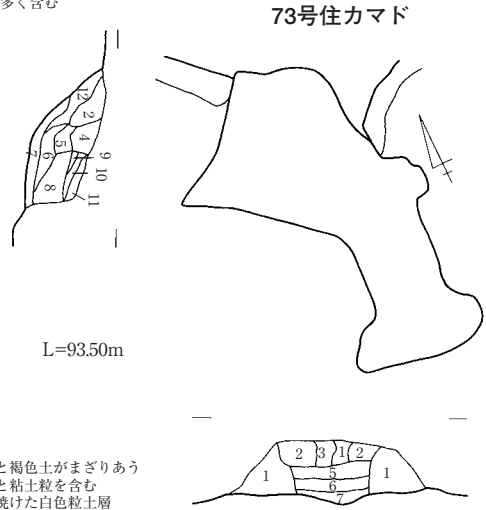




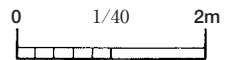
- 1 黒褐色 ローム粒・炭化物・焼土・砂を含む
- 2 暗褐色 炭化物・焼土を含む
- 3 褐色 砂質土を多く含む
- 4 褐色 ローム粒・焼土を含む
- 5 明褐色 ローム粒を多く含む
- 6 黒褐色 砂質土・焼土を含む
- 7 暗褐色 砂質粘土・焼土粒を多く含む



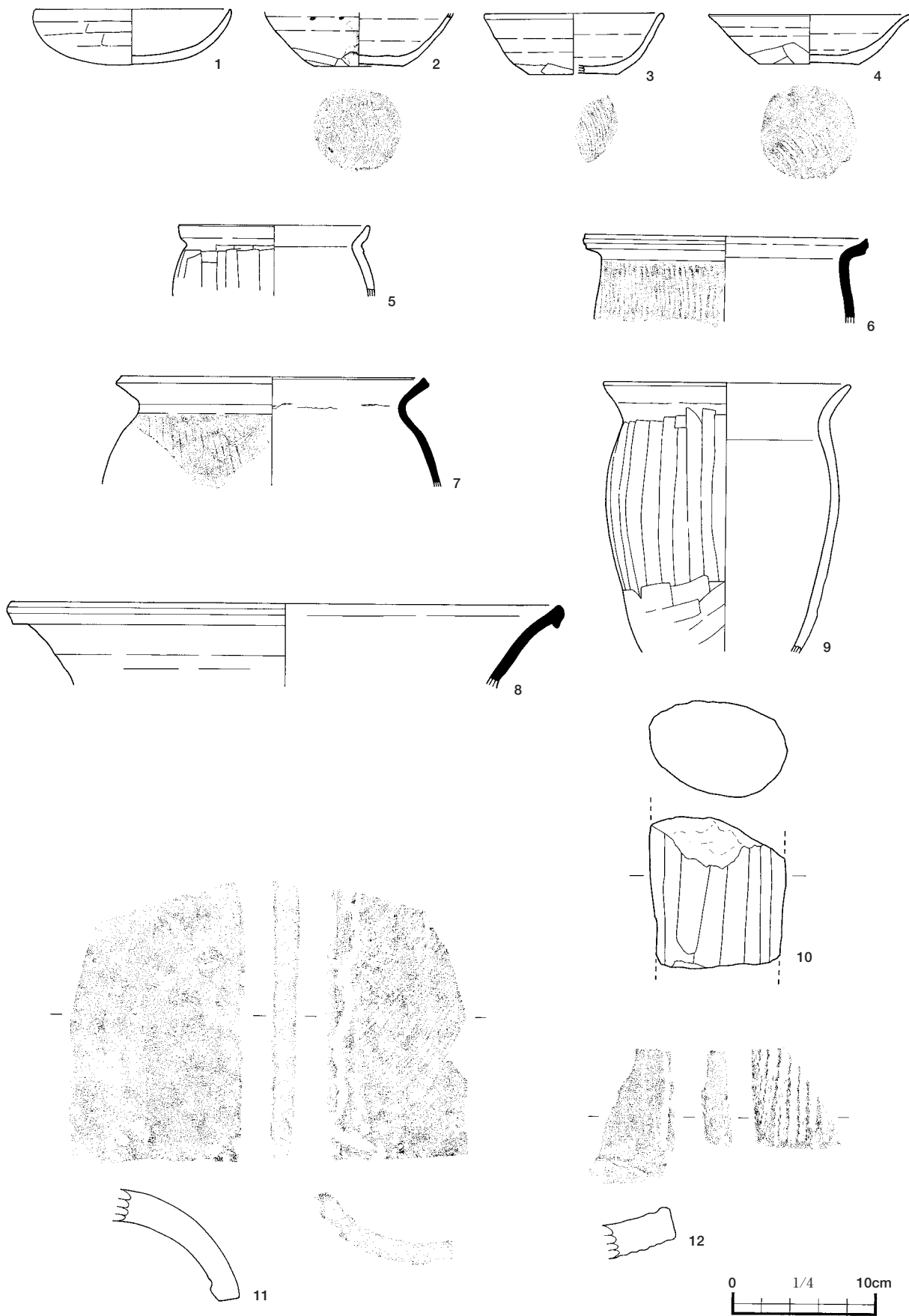
- 1 褐色 砂質粘土と褐色土がまざりあう
- 2 黄褐色 砂質粘土と白色粘土がまざりあう
- 3 褐色 焼けた粘土を含む焼土層
- 4 暗赤褐色 焼土を含む
- 5 赤褐色 焼けた粘土を含む焼土層
- 6 褐色 砂質粘土層
- 7 褐色 ロームブロックを含む
- 8 黄褐色 白色粘土層
- 9 褐色 砂質土層
- 10 黄褐色 焼けた粘土層
- 11 黄褐色 焼けた白色粘土層
- 12 褐色 白色粘土層
- 13 暗褐色 炭化物・焼けた粘土粒を含む
- 14 赤褐色 砂質粘土層
- 15 褐色 砂質粘土と褐色土がまざりあう



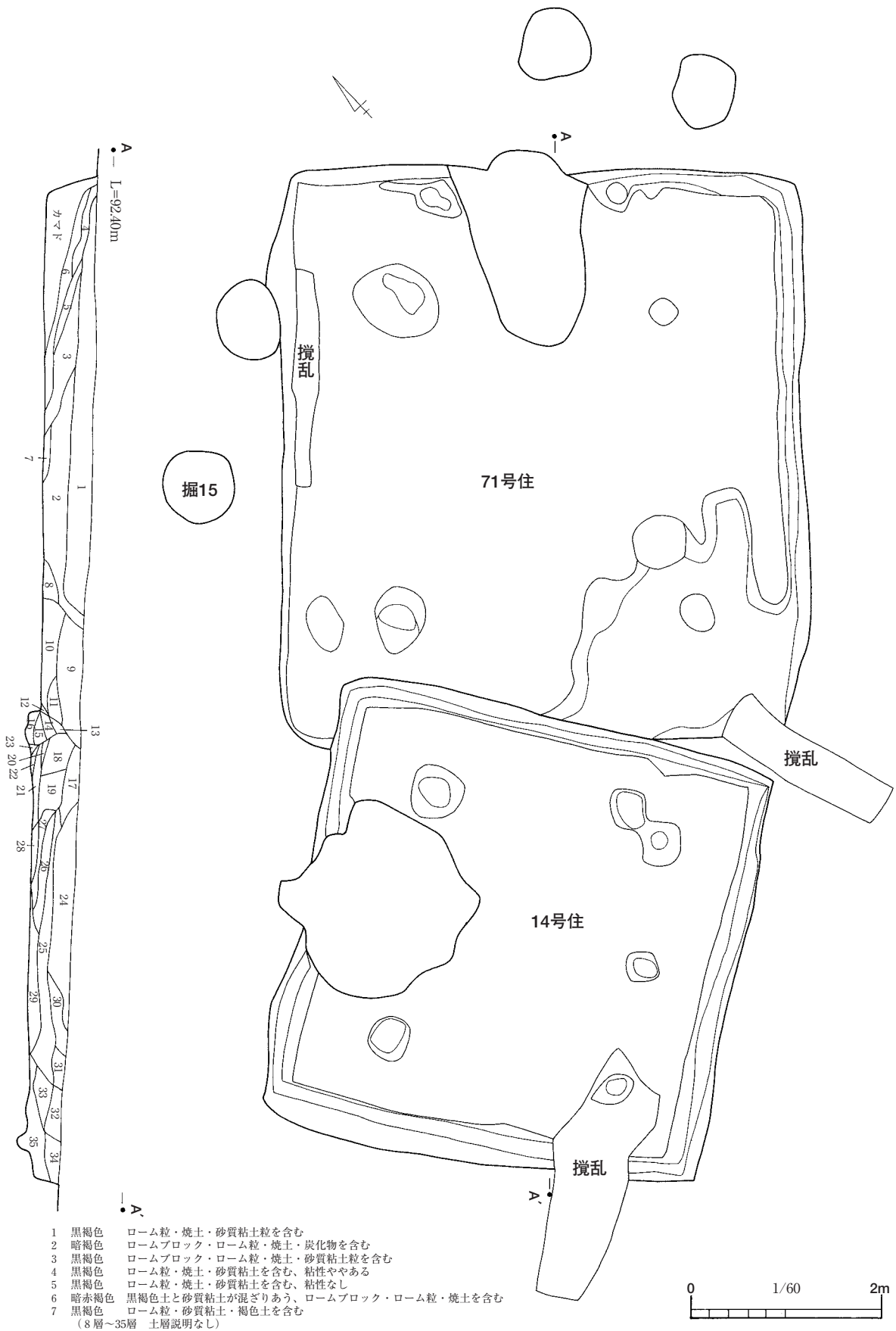
- 1 黄褐色 白色粘土層
- 2 黄褐色 焼けた白色粘土と褐色土がまざりあう
- 3 黄褐色 焼けた白色粘土と粘土粒を含む
- 4 黄褐色 褐色土の多い、焼けた白色粘土層
- 5 褐色 砂質粘土層
- 6 暗褐色 ローム粒を含む
- 7 褐色 焼けた砂質粘土層
- 8 黄褐色 焼けた白色粘土と粘土粒を含む
- 9 暗褐色 焼けた粘土粒と褐色土がまざりあう
- 10 黄褐色 焼けた粘土層
- 11 褐色 焼けた粘土粒と褐色土がまざりあう
- 12 黄褐色 焼けた粘土粒を含む



第21図 13号・72号・73号住居跡実測図・カマド実測図



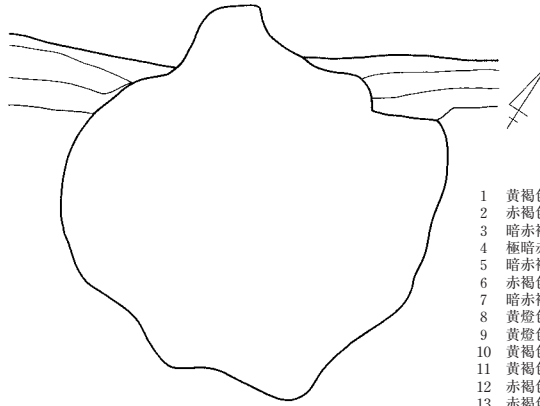
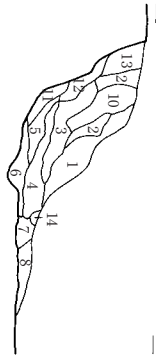
第22图 13号·72号·73号住居跡出土遺物



- |   |      |                                    |
|---|------|------------------------------------|
| 1 | 黒褐色  | ローム粒・焼土・砂質粘土粒を含む                   |
| 2 | 暗褐色  | ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化物を含む             |
| 3 | 黒褐色  | ロームブロック・ローム粒・焼土・砂質粘土粒を含む           |
| 4 | 黒褐色  | ローム粒・焼土・砂質粘土を含む、粘性ややある             |
| 5 | 黒褐色  | ローム粒・焼土・砂質粘土を含む、粘性なし               |
| 6 | 暗赤褐色 | 黒褐色土と砂質粘土が混ざりあう、ロームブロック・ローム粒・焼土を含む |
| 7 | 黒褐色  | ローム粒・砂質粘土・褐色土を含む                   |
- (8層~35層 土層説明なし)

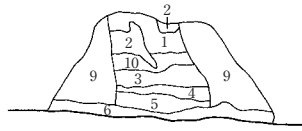
第23図 14号・71号住居跡実測図

14号住カマド

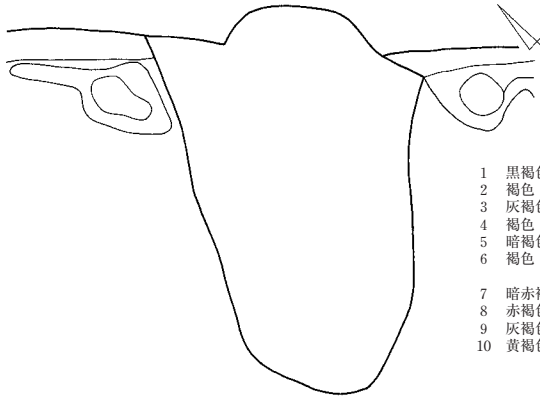
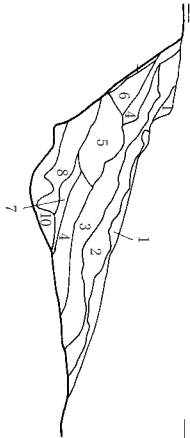


L=92.20m

- |         |                       |
|---------|-----------------------|
| 1 黄褐色   | 砂質粘土層                 |
| 2 赤褐色   | 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層       |
| 3 暗赤褐色  | 焼土粒と炭化物が混ざりあう         |
| 4 極暗赤褐色 | 炭化物を多く含む、焼土ブロックも含む    |
| 5 暗赤褐色  | 炭化物・灰を含む              |
| 6 赤褐色   | 焼けた砂質粘土とロームブロックが混ざりあう |
| 7 暗赤褐色  | 焼土粒・焼けたローム粒・炭化物が混ざりあう |
| 8 黄褐色   | 焼土粒を含む砂質粘土層           |
| 9 黄褐色   | 焼けた砂質粘土層              |
| 10 黄褐色  | 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層       |
| 11 黄褐色  | 砂質粘土層                 |
| 12 赤褐色  | 砂質粘土と焼土が混ざりあう         |
| 13 赤褐色  | 焼土粒・ローム粒・炭化物を含む       |
| 14 赤褐色  | 焼土ブロック                |



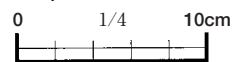
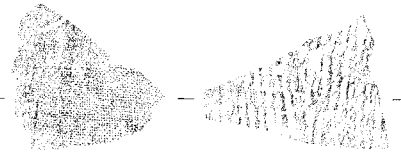
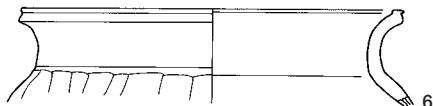
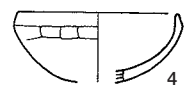
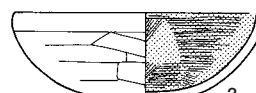
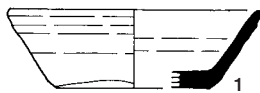
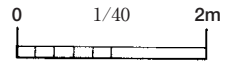
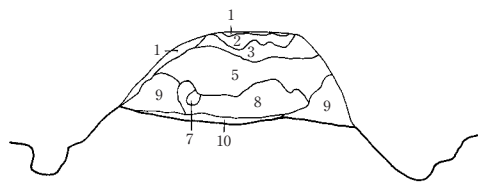
71号住カマド



L=92.30m

- |        |                           |
|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒・砂質粘土を含む              |
| 2 褐色   | 焼土粒・ローム粒を含む砂質粘土層          |
| 3 灰褐色  | 焼土粒・ローム粒を含む砂質粘土層          |
| 4 褐色   | 焼土粒・ローム粒・砂質粘土を含む          |
| 5 暗褐色  | 焼土粒・ローム粒を含む               |
| 6 褐色   | ローム粒と砂質粘土が混ざりあう           |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒・炭化物を含む                |
| 8 赤褐色  | 焼土粒・焼けたロームブロックを含む         |
| 9 灰褐色  | 焼けた砂質粘土・ロームブロックを含む        |
| 10 黄褐色 | ローム粒・焼土粒を含む砂質粘土層          |
|        | ローム粒とロームブロックが混ざりあう、焼土粒を含む |

14号住



第24図 14号・71号住居跡カマド実測図・14号住居跡出土遺物

壁中央。

#### 71号住居跡

形態は方形を呈している。規模6.13×5.43m。主軸方向N-42° 30′ - E。柱穴6本。カマドは東壁中央、袖部の両脇に小柱穴が見られる。

出土遺物 全て14号住居跡の一括遺物として取り上げられているため、どの遺構に伴う遺物かは不明である。1は須恵器の坏。2～4は土師器の坏、3は内面黒色処理。5は須恵器の盤。6は土師器の甕。7は布目瓦。

#### 15号住居跡 (第25図)

調査区の中央北寄りに位置している。南壁側は16号住居跡・17号住居跡・74号住居跡と接している。北東隅は攪乱土壌と重複している。

形態は方形を呈している。規模5.72×5.08m。主軸方向N-17° 30′ - W。柱穴5本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は土師器の坏。2は土師器の小型甕。3は土師器の甕。4は白色凝灰岩製の砥石。

#### 16号住居跡・17号住居跡・74号住居跡 (第26・第27・第28図)

調査区の中央北寄りに位置している。16号住居跡は西壁側で17号住居跡・74号住居跡と接している。西南隅では16号掘立柱建物跡と重複している。

#### 16号住居跡

形態は方形を呈している。規模5.48×5.43m。主軸方向N-31° 30′ - W。柱穴5本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1～4は土師器の坏。1は内面黒色処理。5は土師器の高坏。6は土師器の甕。7は土製支脚。8は布目瓦。

#### 17号住居跡

16号住居跡の西に東壁を接し、74号住居跡および16号掘立柱建物跡と重複している。平面図からは、さらに建て替えか、もう1軒の住居跡が存在したものと考えられる。

形態は方形を呈している。規模4.36×4.15m。主軸方向N-63° 0′ - E。柱穴4本。カマドなし。

出土遺物 4・6は17号住居跡の遺物、その他は全て17号住居跡の遺物として取り上げられているため、4・6以外はどの遺構に伴う遺物か不明である。1～3は土師器の坏、1は側面に墨書があり、「菩薩」か。4は土師器の鉢。5は土師器の坏か、底部外面に墨書がある。○の中に乙、則天文字「日」。6は須恵器の甕。7・8は土師器の甑。9・10は灰釉陶器の瓶。11・12は鉄製刀子。13・14は鉄鏃。15・16は布目瓦。

#### 74号住居跡

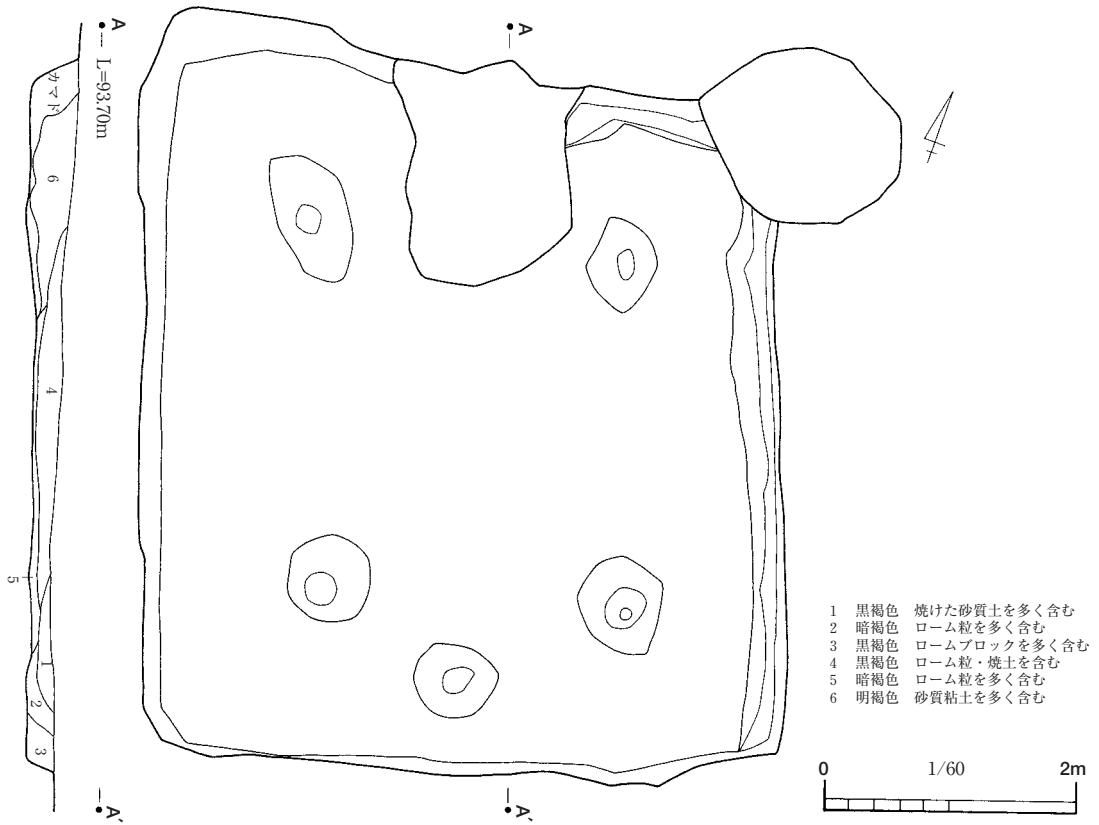
形態は方形を呈している。規模(4.06)×3.18m。主軸方向N-63° 0′ - E。柱穴6本。カマドは東壁中央やや南、なお17号住居跡のカマドの可能性もある。

#### 18号住居跡 (第29・第30図)

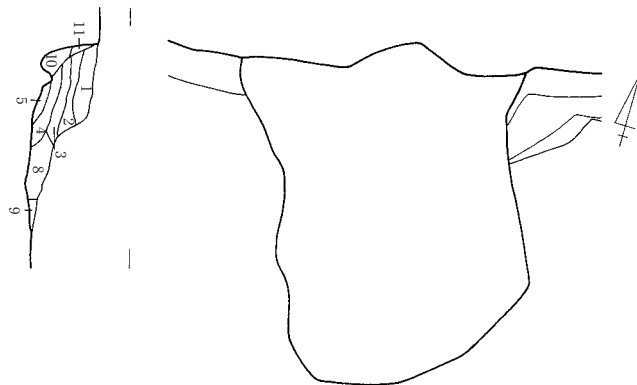
調査区の中央北寄りに位置している。

形態は方形を呈している。規模3.42×3.10m。主軸方向N-30° 30′ - W。柱穴4本。カマドは北

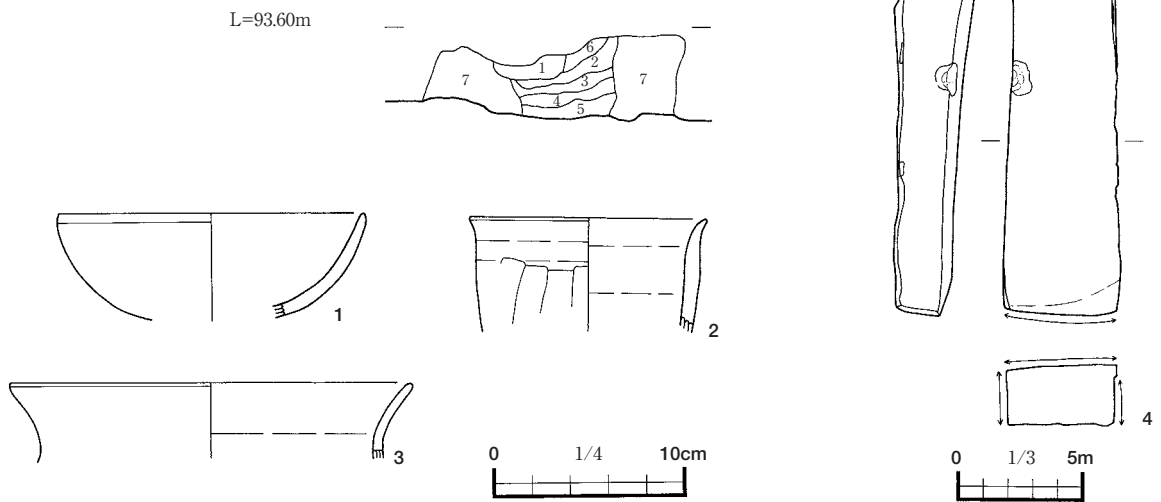




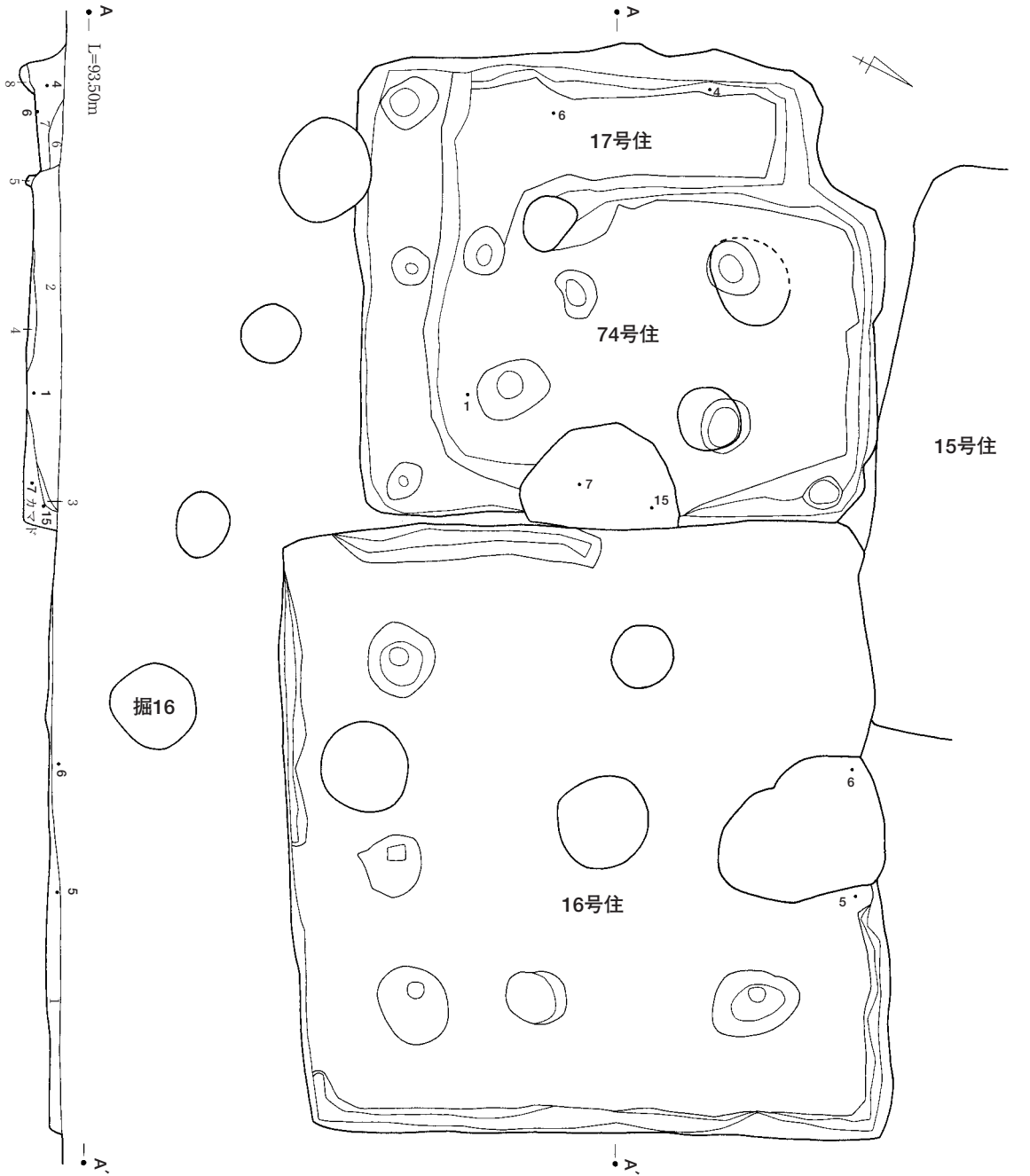
- 1 黒褐色 焼けた砂質土を多く含む
- 2 暗褐色 ローム粒を多く含む
- 3 黒褐色 ロームブロックを多く含む
- 4 黒褐色 ローム粒・焼土を含む
- 5 暗褐色 ローム粒を多く含む
- 6 明褐色 砂質粘土を多く含む



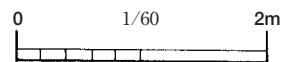
- 1 黒褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 2 黒褐色 焼土粒を多く含む
- 3 暗赤褐色 焼土粒・炭化物を含む
- 4 暗赤褐色 焼けたローム粒を含む
- 5 暗褐色 ロームブロック・ローム粒を含む
- 6 黄褐色 砂質粘土層
- 7 黄褐色 砂質粘土を含む焼土層
- 8 赤褐色 焼けた砂質粘土層
- 9 黒褐色 焼けた砂質粘土層
- 10 黒褐色 砂質粘土とローム粒を含む
- 11 黒褐色 ローム粒を含む



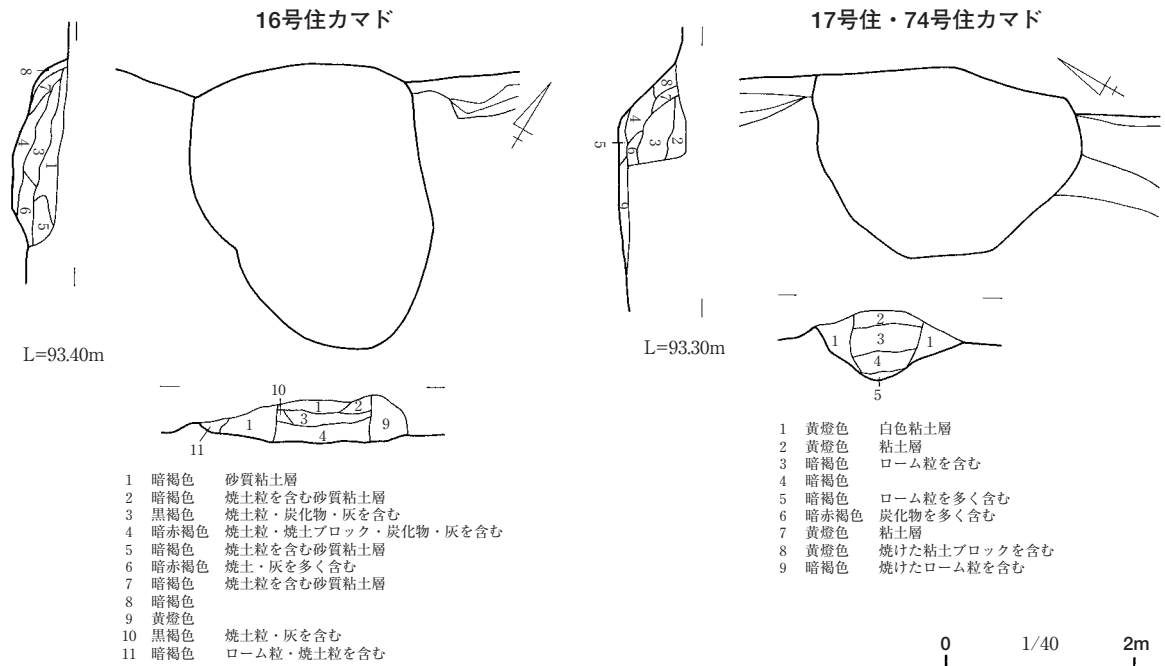
第25図 15号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



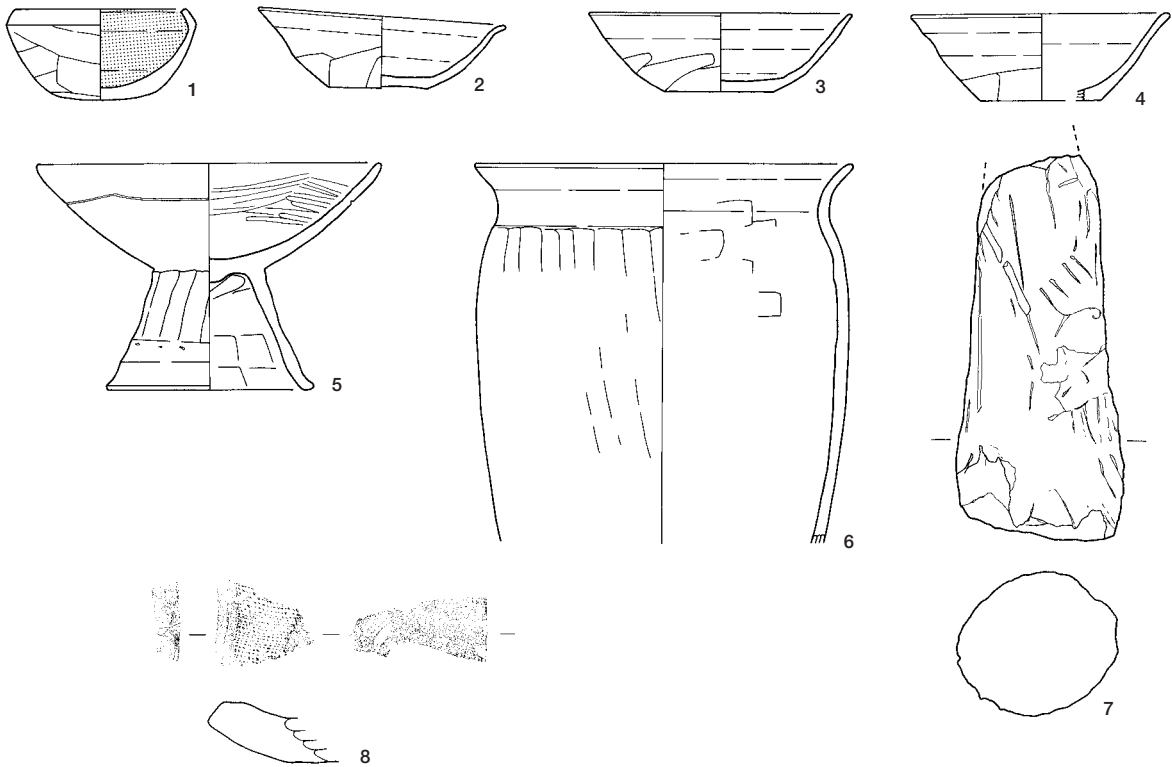
- 1 黒褐色 ローム粒を含む
- 2 黒褐色 ローム粒を多く含み、ロームブロック・焼土粒も含む
- 3 明褐色 砂質粘土層
- 4 黒褐色 ローム粒を多く含む
- 5 暗褐色
- 6 黒褐色 ローム粒と黒色土が混ざりあう
- 7 明褐色 ローム粒を含む
- 8 褐色



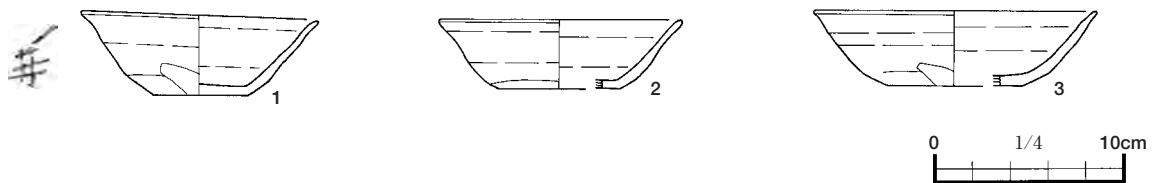
第26図 16号・17号・74号住居跡実測図



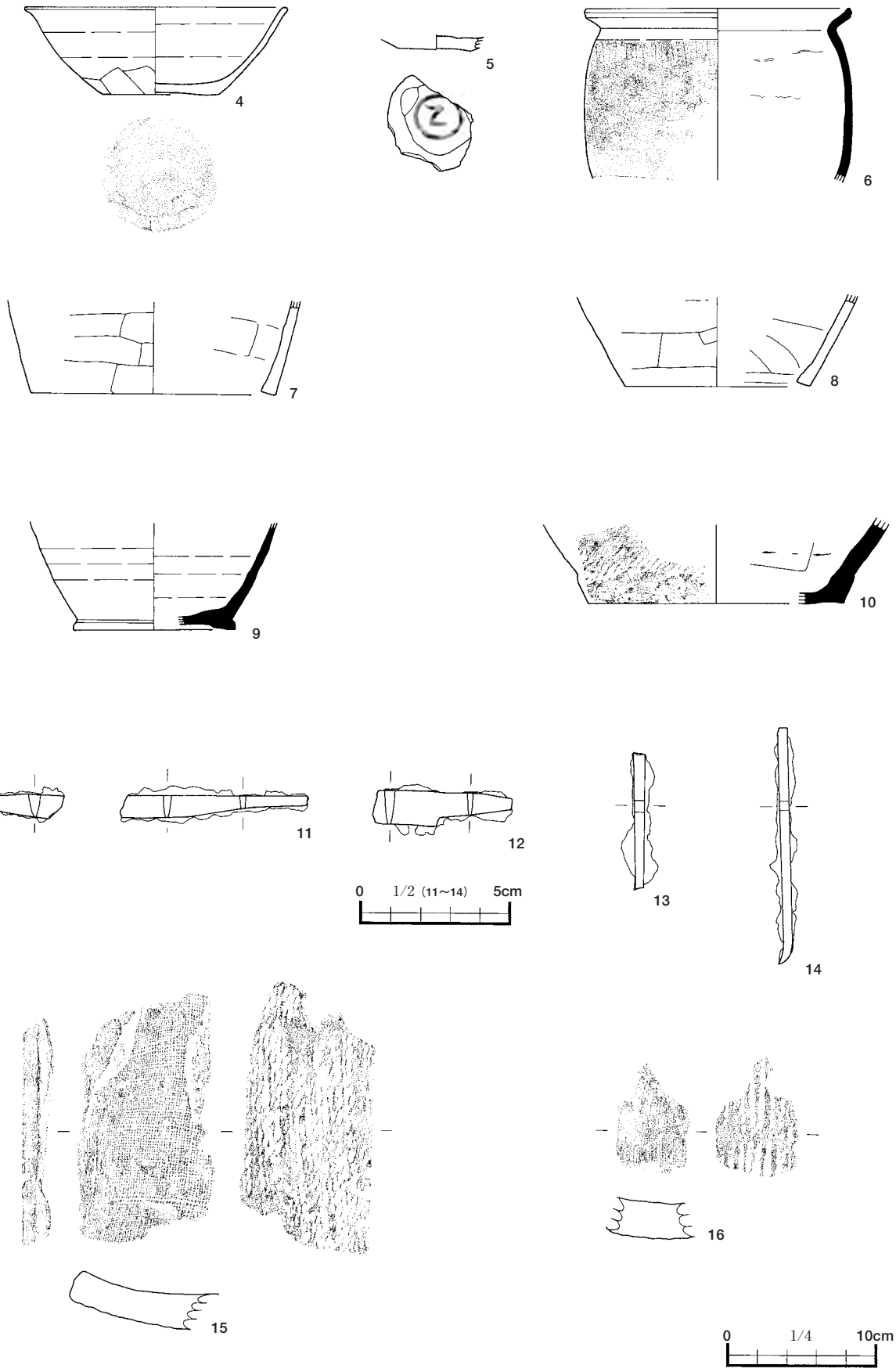
**16号住**



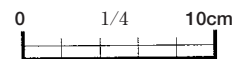
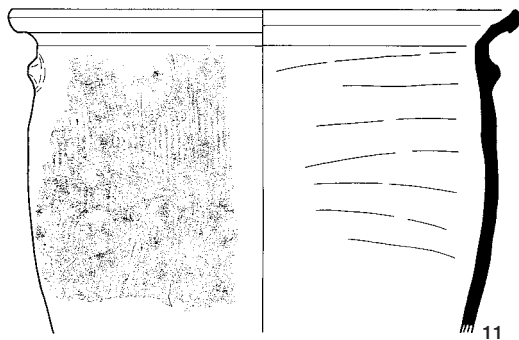
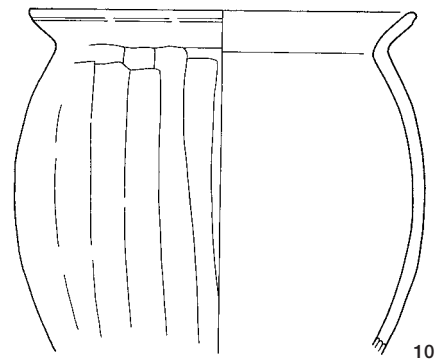
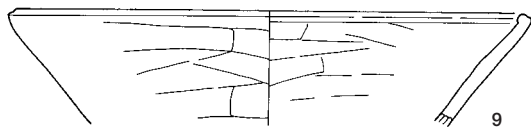
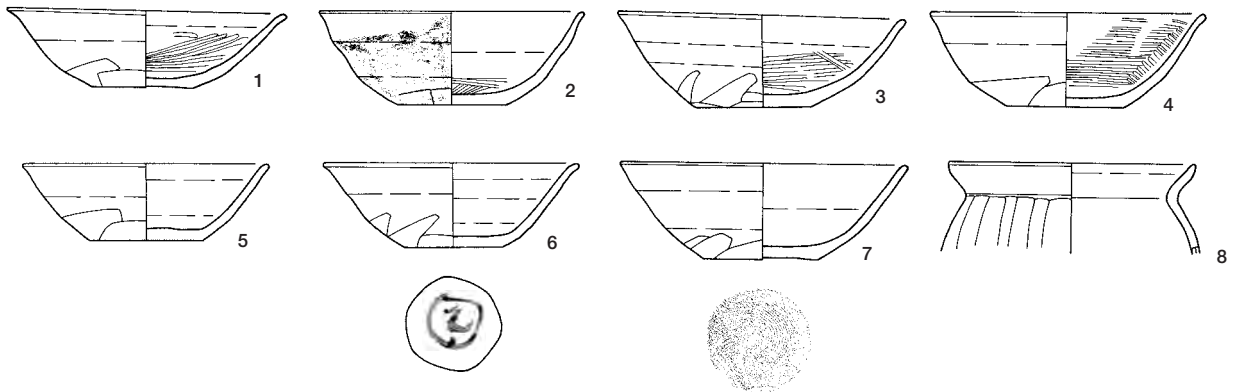
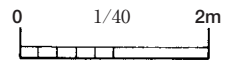
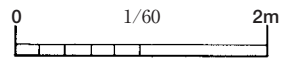
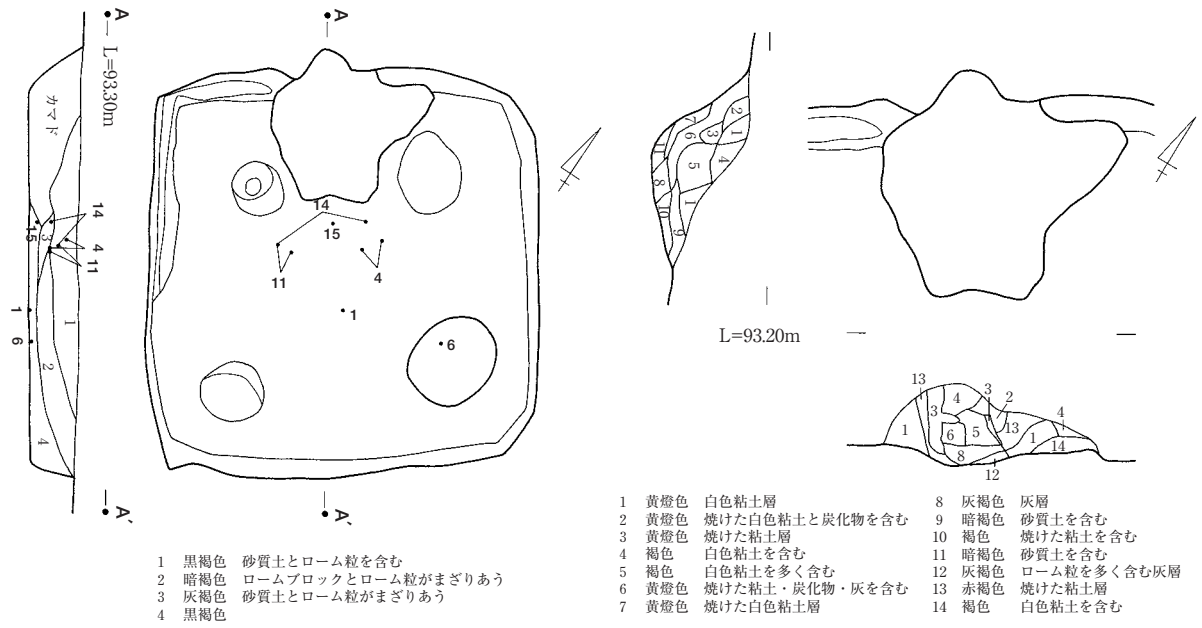
**17号住**



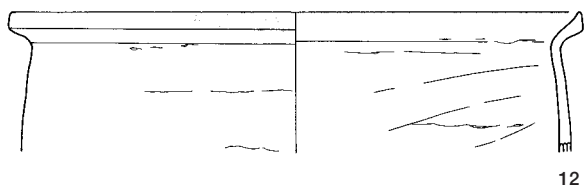
第27図 16号・17号・74号住居跡カマド実測図・16号・17号住居跡出土遺物(1)



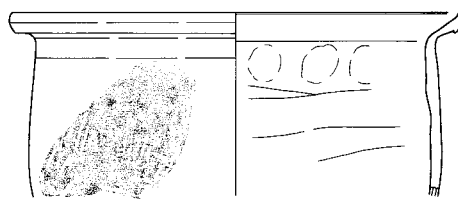
第28图 17号住居跡出土遺物(2)



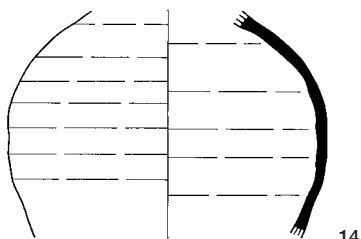
第29図 18号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物(1)



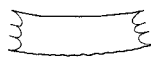
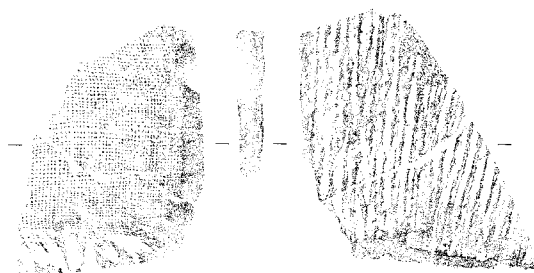
12



13



14



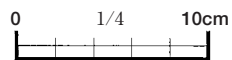
15



16



17



第30图 18号住居跡出土遺物(2)



壁中央。

出土遺物 1～7は土師器の坏，2は外面にスス付着。6は底部外面に墨書がある。○の中に乙，則天文字「日」。8は土師器の鉢。9は土師器の小型甕。10は土師器の甕。11は須恵器の甌。12・13は土師器の甌，12は外面にスス付着。14は湖西産灰釉陶器の長頸瓶。15～17は布目瓦。

19号住居跡・70号住居跡 (第31・第32図)

調査区の西寄りに位置している。北側に12号住居跡・67号住居跡が，南側に14号住居跡・71号住居跡が所在している。19号住居跡は北壁で67号住居跡と接している。南壁では70号住居跡および15号掘立柱建物跡と重複している。19号住居跡と70号住居跡の床面には攪乱土壌が重複している。

19号住居跡

形態は方形を呈している。規模3.92×(2.90)m。主軸方向N-28°30′-W。柱穴なし。カマドは北壁中央。

出土遺物 全て19号住居跡の遺物として取り上げられている。2～7・9・11～14・16・17は19号住居跡より出土。8・15は70号住居跡内の攪乱土壌より出土している。1は須恵器の坏，外面にスス付着。2～8は土師器の坏，2は底部外面に墨書がある。「方井」か。9は土師器の高台付皿。10～12は須恵器の甕。13・14は土師器の甕。15は灰釉陶器の長頸瓶。16・17は布目瓦。

70号住居跡

形態は方形を呈している。規模3.80×(3.62)m。主軸方向N-46°0′-E。柱穴なし。カマドは東壁中央。

20号住居跡・76号住居跡 (第33・第34図)

調査区の中央北寄りに位置している。東隣りに22号住居跡が所在している。76号住居跡と重複している。

20号住居跡

形態は方形を呈している。規模4.48×3.82m。主軸方向N-7°30′-W。柱穴2本。カマドは北壁中央。

出土遺物 全て20号住居跡の遺物として取り上げられているため，76号住居跡に伴う遺物は不明である。1は須恵器の坏。2・3は土師器の坏，2は内外面赤彩。4・5は土師器の鉢，4は内面黒色処理。6は土師器の小型甕。7は土師器の甕。8は鉄製刀子，切先を欠損。9は粘板岩製砥石，砥面に擦痕。10～15は布目瓦，10は軒先平瓦で南河原坂窯跡群の12号か20号ロストル式平窯で生産されたものと同一である。

76号住居跡

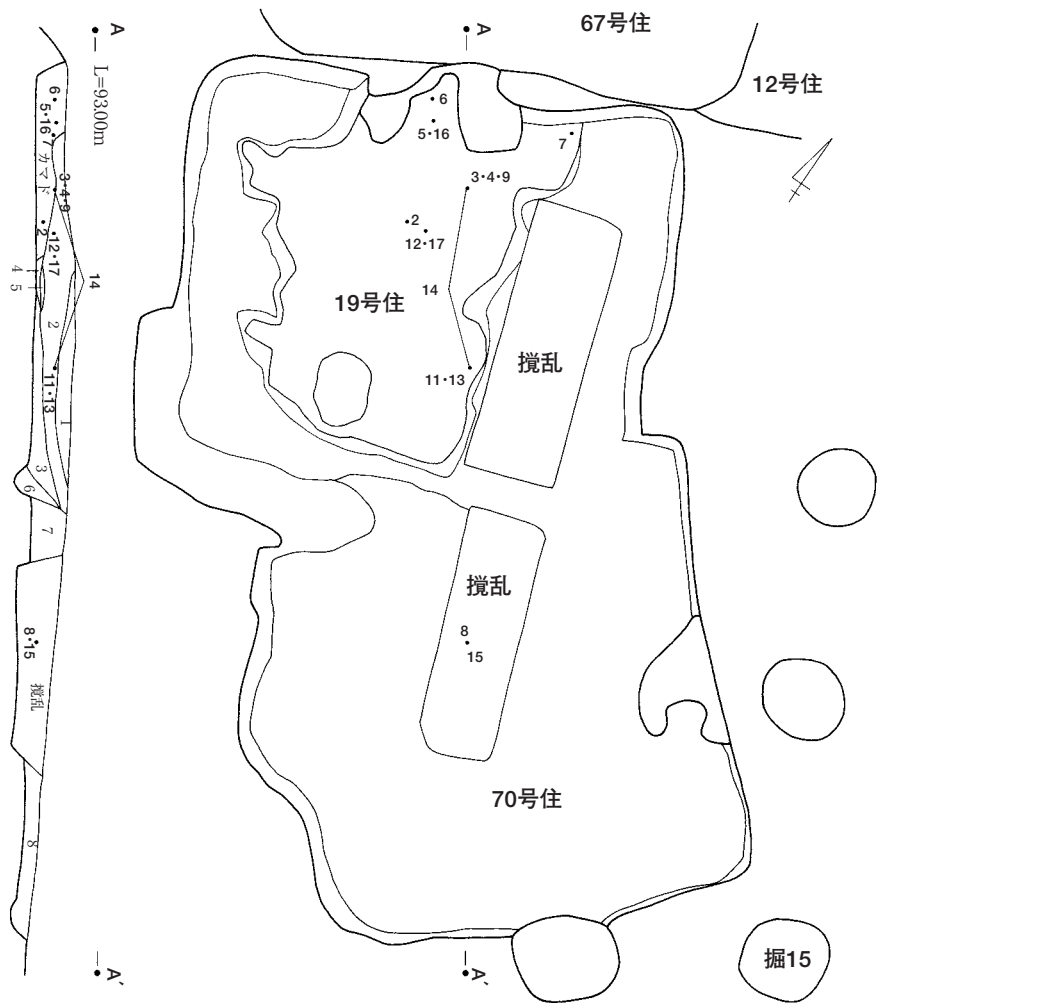
形態は方形を呈している。規模4.56×4.40m。主軸方向N-96°0′-W。柱穴なし。カマドなし。

21号住居跡 (第35図)

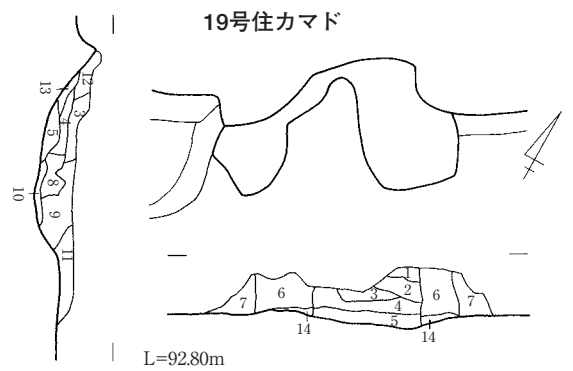
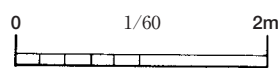
調査区の中央北寄りに位置している。東南隅で攪乱土壌と重複している。

形態は方形を呈している。規模3.90×3.69m。主軸方向N-27°0′-W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1・2は須恵器の坏。3は土師器の坏。4は土師器の鉢。5は土師器の小型甕。6は土

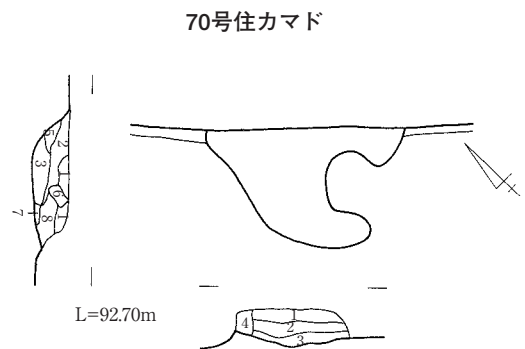


- |   |      |                |
|---|------|----------------|
| 1 | 暗褐色  | ローム粒を多く含む      |
| 2 | 暗褐色  | ローム粒・焼土・炭化物を含む |
| 3 | 褐色   | ロームブロックを多く含む   |
| 4 | 黒褐色  | ローム粒を含む        |
| 5 | 暗灰褐色 | 炭化物            |
| 6 | 褐色   | ローム粒を含む        |
| 7 | 暗褐色  | ローム粒を多く含む      |
| 8 | 黒褐色  | ローム粒を含む        |

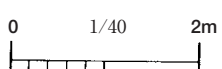


- |   |      |                     |
|---|------|---------------------|
| 1 | 暗褐色  | 焼土を含む砂質粘土層          |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層     |
| 3 | 灰褐色  | 砂質粘土層               |
| 4 | 黄褐色  | 焼土粒・炭化物を含む          |
| 5 | 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒を含む砂質粘土層 |
| 6 | 黄褐色  |                     |
| 7 | 暗褐色  | ローム粒・粘土粒を含む砂質粘土層    |

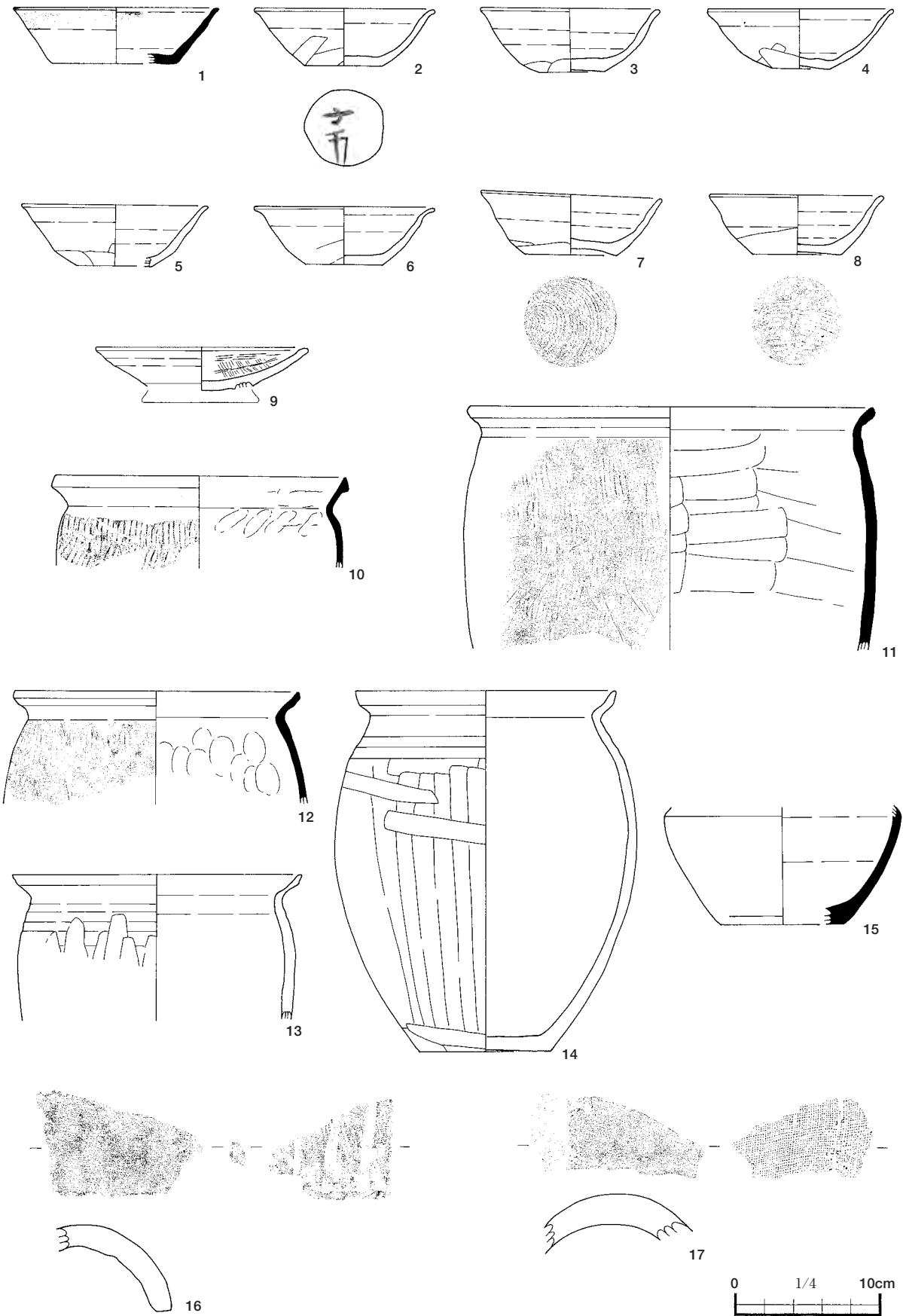
- |    |     |                 |
|----|-----|-----------------|
| 8  | 黄褐色 | 焼土粒を多く含む        |
| 9  | 黒褐色 | 炭化物を多く含む        |
| 10 | 黄褐色 | ロームブロックを含む      |
| 11 | 暗褐色 | 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層 |
| 12 | 灰褐色 | 粘土層             |
| 13 | 灰褐色 | ロームブロックを含む      |
| 14 | 黒褐色 | 粘土を多く含む砂質粘土層    |



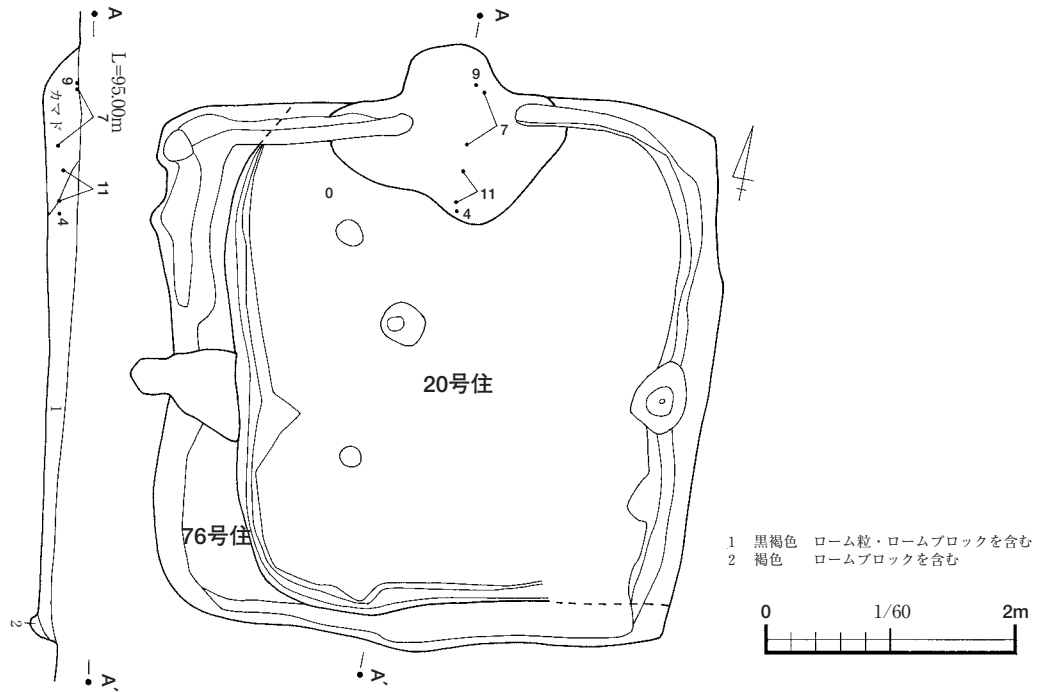
- |   |     |                     |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 黒褐色 | 焼土粒を含む砂質粘土層         |
| 2 | 黒褐色 | 焼土粒・焼土ブロックを含む砂質粘土層  |
| 3 | 黒褐色 | 焼土粒を多く含む砂質粘土層       |
| 4 | 黄褐色 |                     |
| 5 | 灰褐色 | ローム粒を多く含む           |
| 6 | 黒褐色 | 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層     |
| 7 | 黄褐色 | 焼けたローム粒・焼土粒を含む      |
| 8 | 黒褐色 | 焼けたローム粒・焼土粒を含む砂質粘土層 |



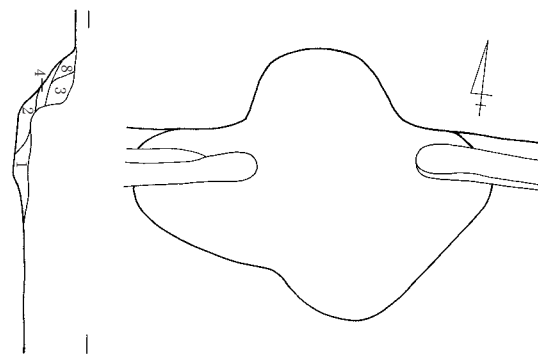
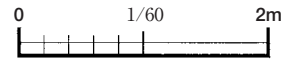
第31図 19号・70号住居跡実測図・カマド実測図



第32図 19号・70号住居跡出土遺物

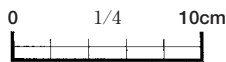
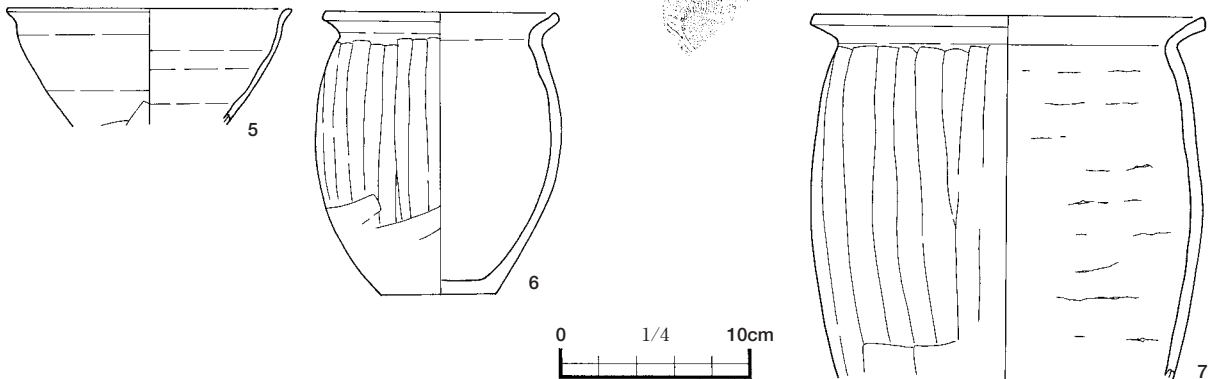
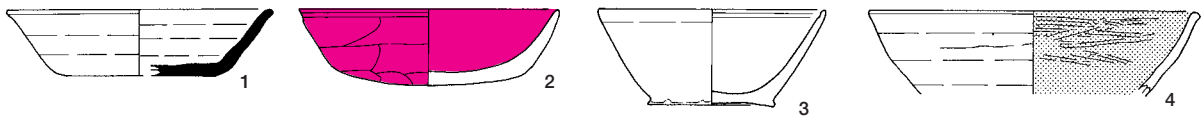
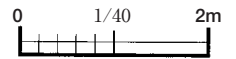


- 1 黒褐色 ローム粒・ロームブロックを含む
- 2 褐色 ロームブロックを含む

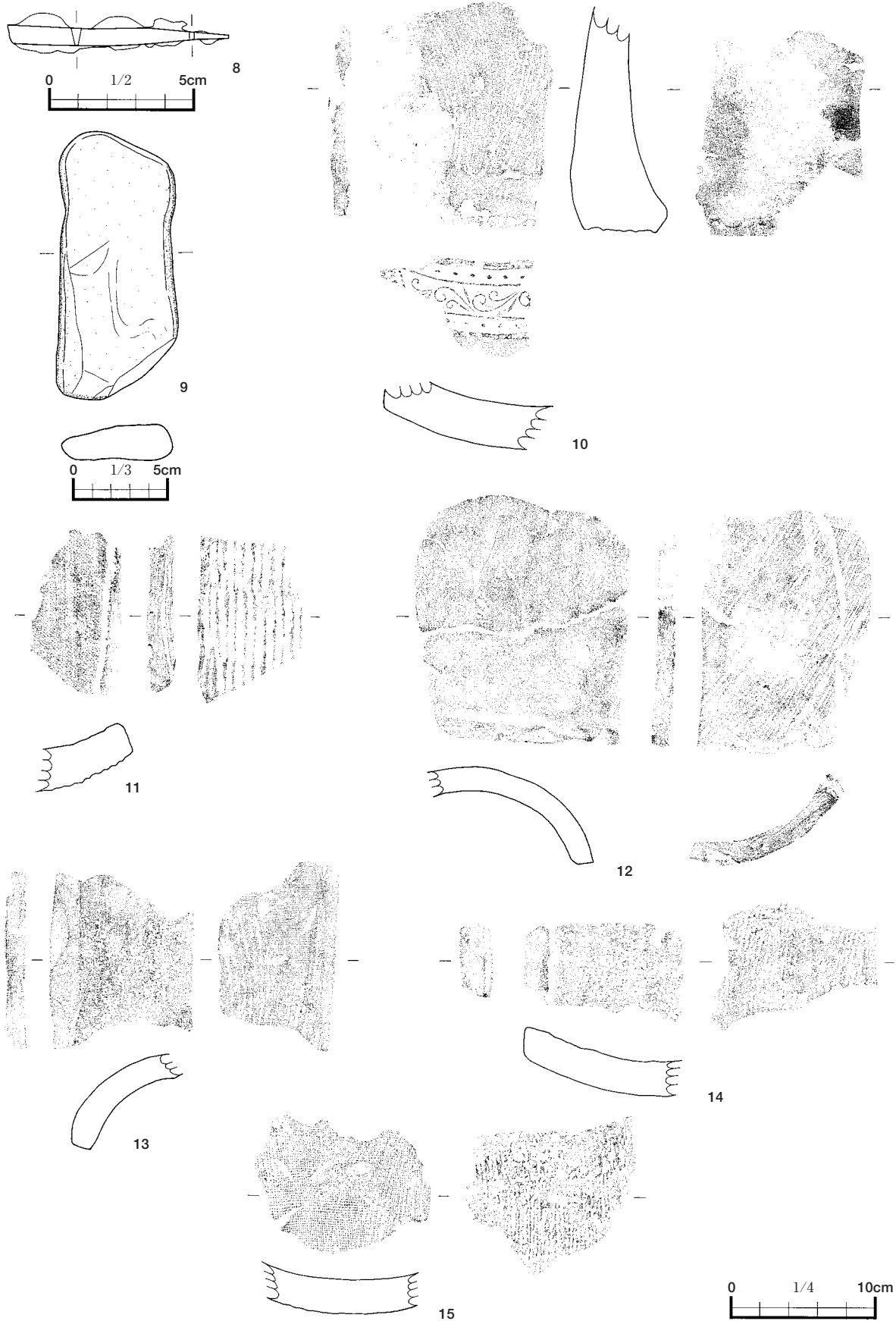


- 1 赤褐色 焼土
- 2 赤褐色 ロームブロックと赤褐色土が混ざりあう
- 3 黄澄色 焼けた粘土層
- 4 黄澄色 褐色土を含む砂質粘土層
- 5 暗褐色 砂質粘土を含む
- 6 黄澄色 砂質粘土層
- 7 黄澄色 焼けた砂質粘土層
- 8 黄澄色 砂質粘土を多く含む

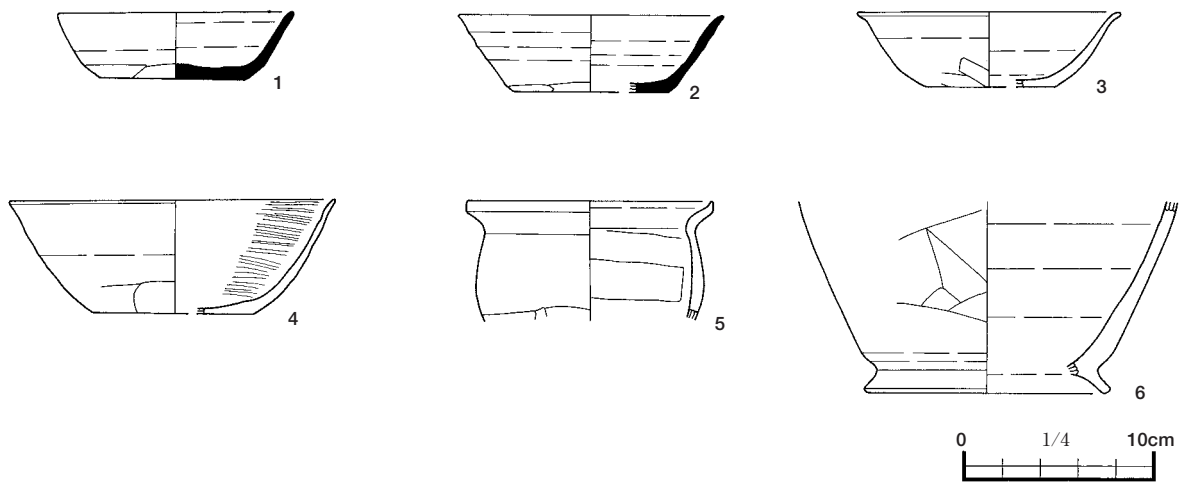
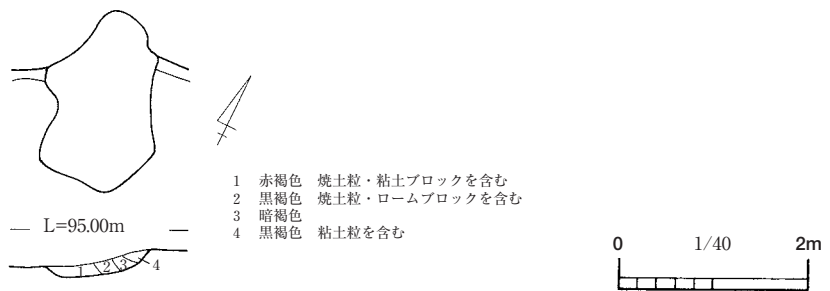
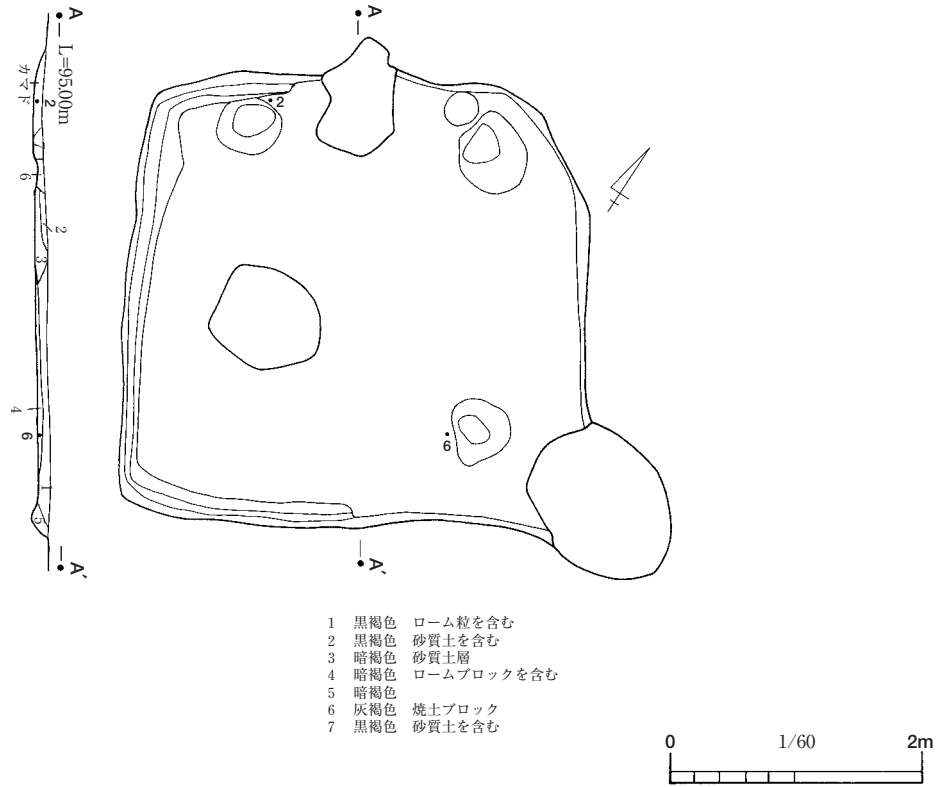
L=95.00m



第33図 20号・76号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物(1)



第34图 20号・76号住居跡出土遺物(2)



第35図 21号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



師器の甕。

#### 22号住居跡 (第36図)

調査区の中央北寄りに位置。西隣りに20号住居跡・76号住居跡が、東隣りに方形溝状遺構が所在している。

形態は方形を呈している。規模4.26×3.88m。主軸方向N-8° 30′ -E。柱穴6本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は須恵器の坏。2は土師器の坏、内面黒色処理。3は須恵器の甕。4は土師器の甕。5は白色凝灰岩製砥石。

#### 23号住居跡・28号住居跡・78号住居跡 (第37・第38・第39図)

調査区の中央東寄りに位置している。北に隣接して、方形溝状遺構が所在している。23号住居跡は南東側で78号住居跡と重複している。78号住居跡は東南隅で28号住居跡と重複している。

#### 23号住居跡

形態は方形を呈している。規模5.18×4.72m。主軸方向N-3° 30′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

出土遺物 2・5・9・13は78号住居跡に伴う遺物である。出土位置が記録されている遺物以外は、全て23号住居跡の遺物として取り上げられている。1～3は須恵器の坏。4は須恵器の高台付坏。5・6は土師器の皿。7～10は土師器の坏。11は須恵器の甕。12～17は土師器の甕。18は布目瓦。そのほか多くの鉄滓が出土している。

#### 28号住居跡

形態は方形を呈している。規模4.76×4.56m。主軸方向N-21° 0′ -W。柱穴6本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は須恵器の高台付坏。2・3は土師器の坏、2は内外面赤彩。4は土師器の甕。

#### 78号住居跡

形態は方形を呈している。規模(4.76)×4.60m。主軸方向N-15° 0′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

#### 24号住居跡・25号住居跡 (第40図)

調査区の中央北東寄り、方形溝状遺構の内側に位置している。24号住居跡は南東隅で25号住居跡と重複し、双方の住居跡は18号掘立柱建物跡とも重複している。

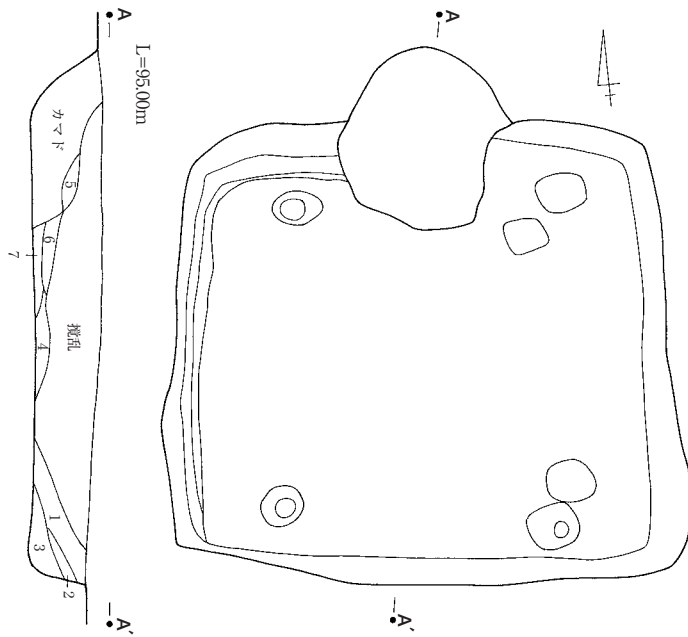
#### 24号住居跡

形態は方形を呈している。規模3.46×3.33m。主軸方向N-23° 0′ -W。柱穴なし。北西隅の壁溝内に落ち込みが見られる。カマドは北壁中央。

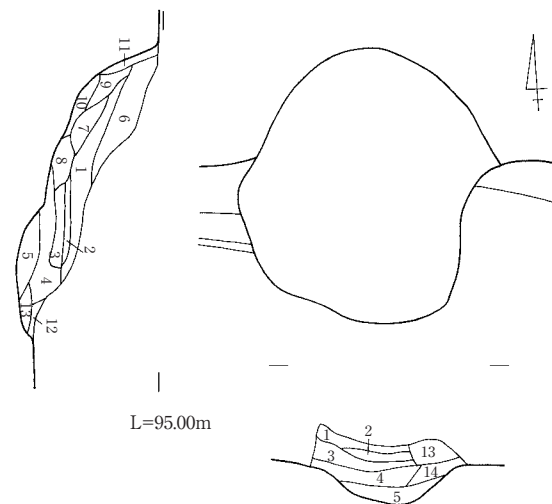
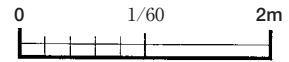
出土遺物 1は須恵器の坏。2は土師器の坏、内外面赤彩、底部外面に線刻がある。3は土師器の坏、内外面赤彩、底部外面に墨書がある。「大賀」か。

#### 25号住居跡

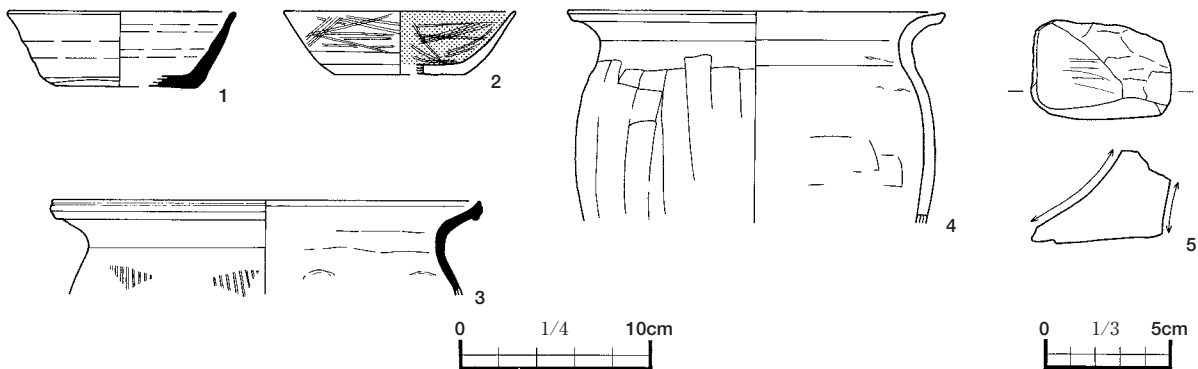
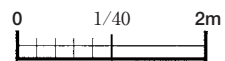
形態は方形を呈している。規模4.66×3.92m。主軸方向N-13° 30′ -W。柱穴5本。カマドなし。出土遺物なし。



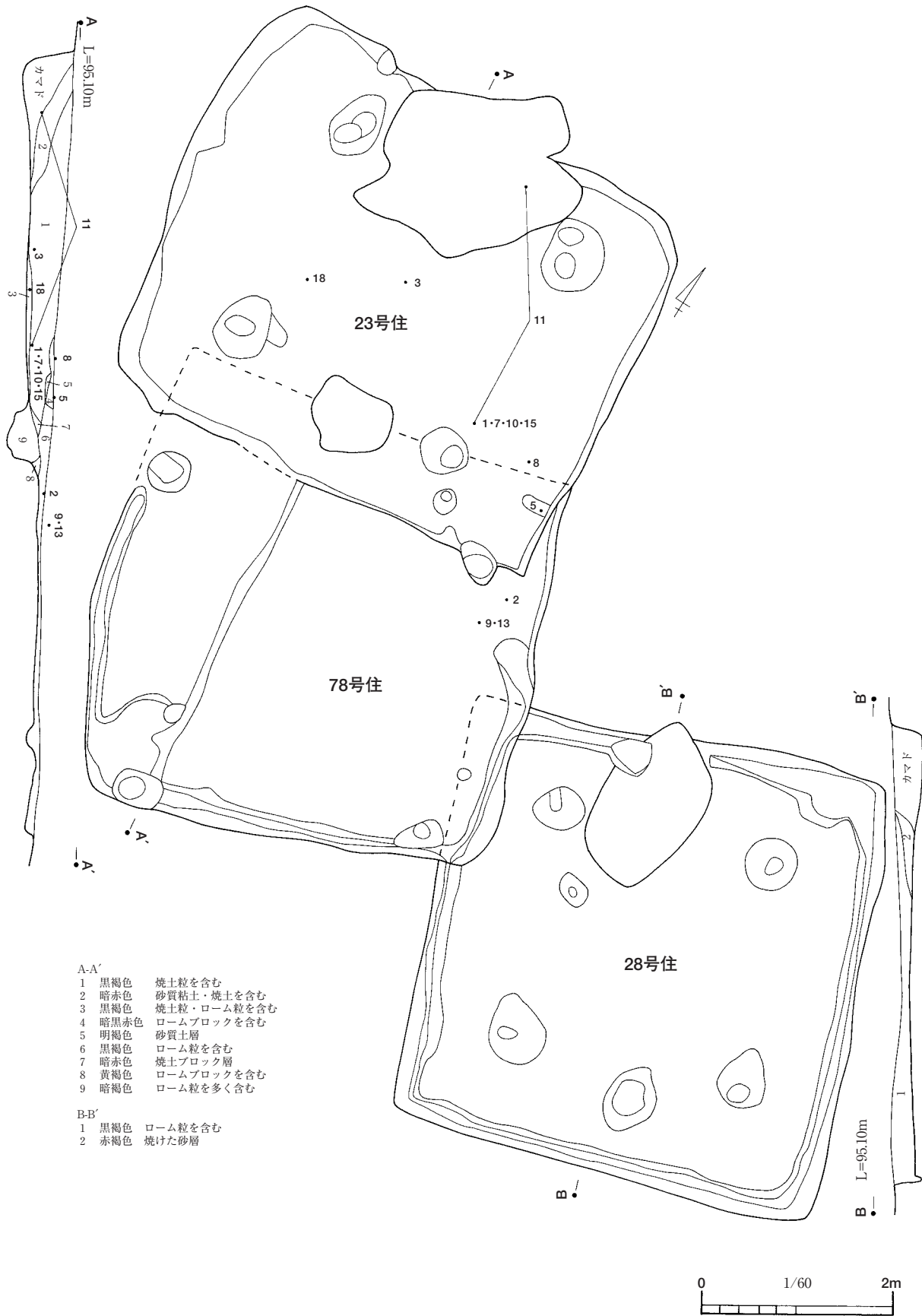
- 1 暗褐色 ローム粒を多く含む
- 2 黒褐色 ローム粒・焼土粒を含む
- 3 暗褐色 ローム粒・炭化物を含む
- 4 暗褐色 ローム粒を含む
- 5 暗褐色 焼土粒を含む砂質土層
- 6 暗褐色 ローム粒・焼土粒・炭化物を含む
- 7 暗褐色 焼土粒・炭化物を含む



- 1 暗赤褐色 焼土粒・焼土ブロックを含む
- 2 暗赤褐色 灰を含む
- 3 暗赤褐色 焼土粒を多く含む
- 4 黒褐色 ローム粒・焼土粒を含む砂質粘土層
- 5 灰褐色 ローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む砂質粘土層
- 6 暗褐色 炭化物を含む
- 7 灰褐色 焼土粒を含む
- 8 黄褐色 砂質粘土を多く含み、焼土粒も含む
- 9 黒褐色 焼土粒を含む
- 10 黒褐色 焼土粒・炭化物を含む
- 11 灰褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 12 黄褐色
- 13 暗赤褐色 焼土粒・焼土ブロック・炭化物を含む
- 14 灰褐色 ローム粒・焼土粒・炭化物を含む



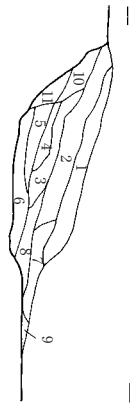
第36図 22号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



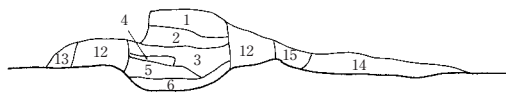
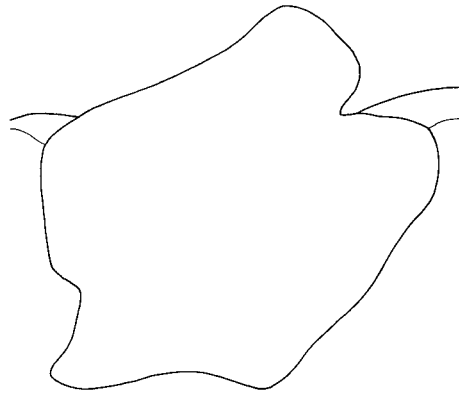
- A-A'
- 1 黒褐色 焼土粒を含む
  - 2 暗赤色 砂質粘土・焼土を含む
  - 3 黒褐色 焼土粒・ローム粒を含む
  - 4 暗黒赤色 ロームブロックを含む
  - 5 明褐色 砂質土層
  - 6 黒褐色 ローム粒を含む
  - 7 暗赤色 焼土ブロック層
  - 8 黄褐色 ロームブロックを含む
  - 9 暗褐色 ローム粒を多く含む
- B-B'
- 1 黒褐色 ローム粒を含む
  - 2 赤褐色 焼けた砂層

第37図 23号・28号・78号住居跡実測図

23号住カマド

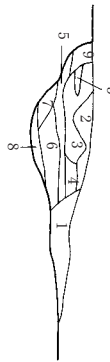


L=95.10m

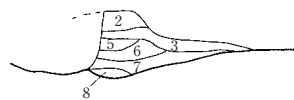
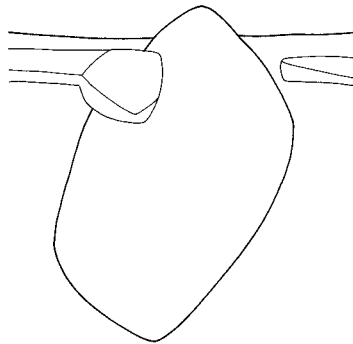


- 1 黄橙色 粘土層
- 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化物を含む砂質粘土層
- 3 暗赤褐色 焼土粒・焼土ブロック・灰・炭化物を含む
- 4 暗赤褐色 焼土層
- 5 赤褐色 焼土・灰を含む
- 6 暗赤褐色 焼土・炭化物を含む
- 7 暗褐色 炭化物を含む砂質粘土層
- 8 暗褐色 焼土粒・焼土ブロック・炭化物を含む
- 9 暗褐色 砂質粘土層
- 10 暗褐色 砂質粘土・焼土粒を含む
- 11 暗褐色 粘土層
- 12 黄橙色
- 13 暗褐色
- 14 暗褐色 焼土粒を含む
- 15 黒褐色 焼土粒を含む

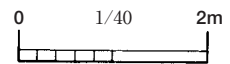
28号住カマド



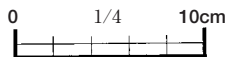
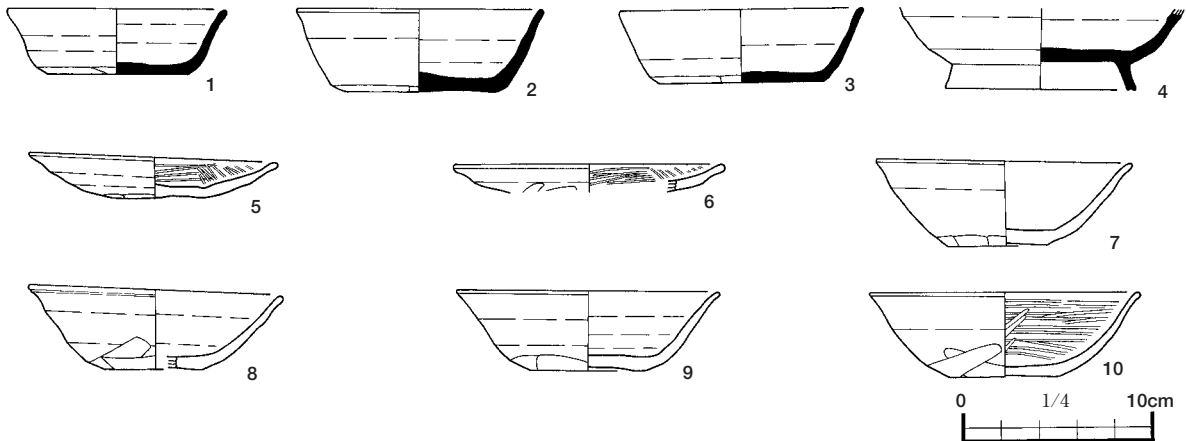
L=95.00m



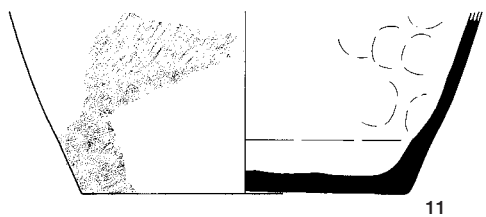
- 1 黄橙色 黄白色の粘土と褐色土がまざりあう
- 2 暗褐色 白色の粘土粒を含む
- 3 黄橙色 白色粘土層
- 4 褐色 砂質粘土層
- 5 黄橙色 砂質粘土層
- 6 赤褐色 焼けた粘土と灰がまざりあう
- 7 黒褐色 ローム粒を含む
- 8 褐色 ローム粒を多く含む
- 9 黄橙色 焼けた粘土粒を含む砂質粘土層



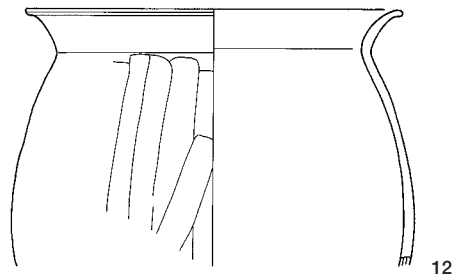
23号住・78号住



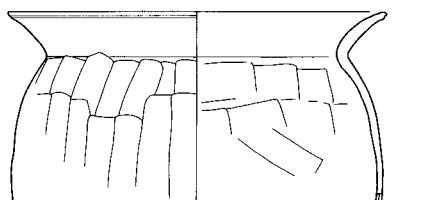
第38図 23号・28号住居跡カマド実測図・23号・78号住居跡出土遺物(1)



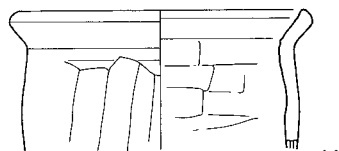
11



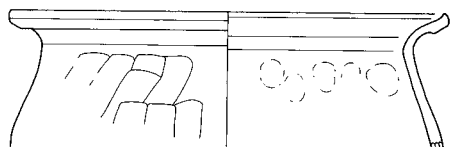
12



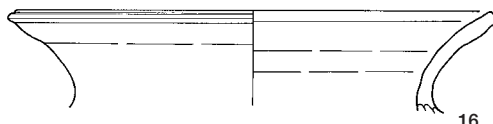
13



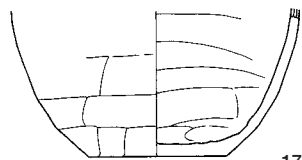
14



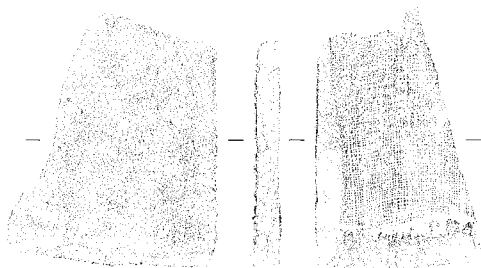
15



16



17



18

28号住



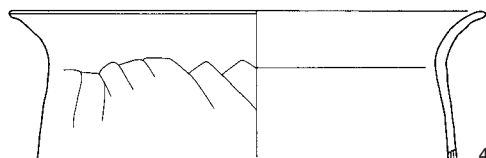
1



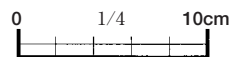
2



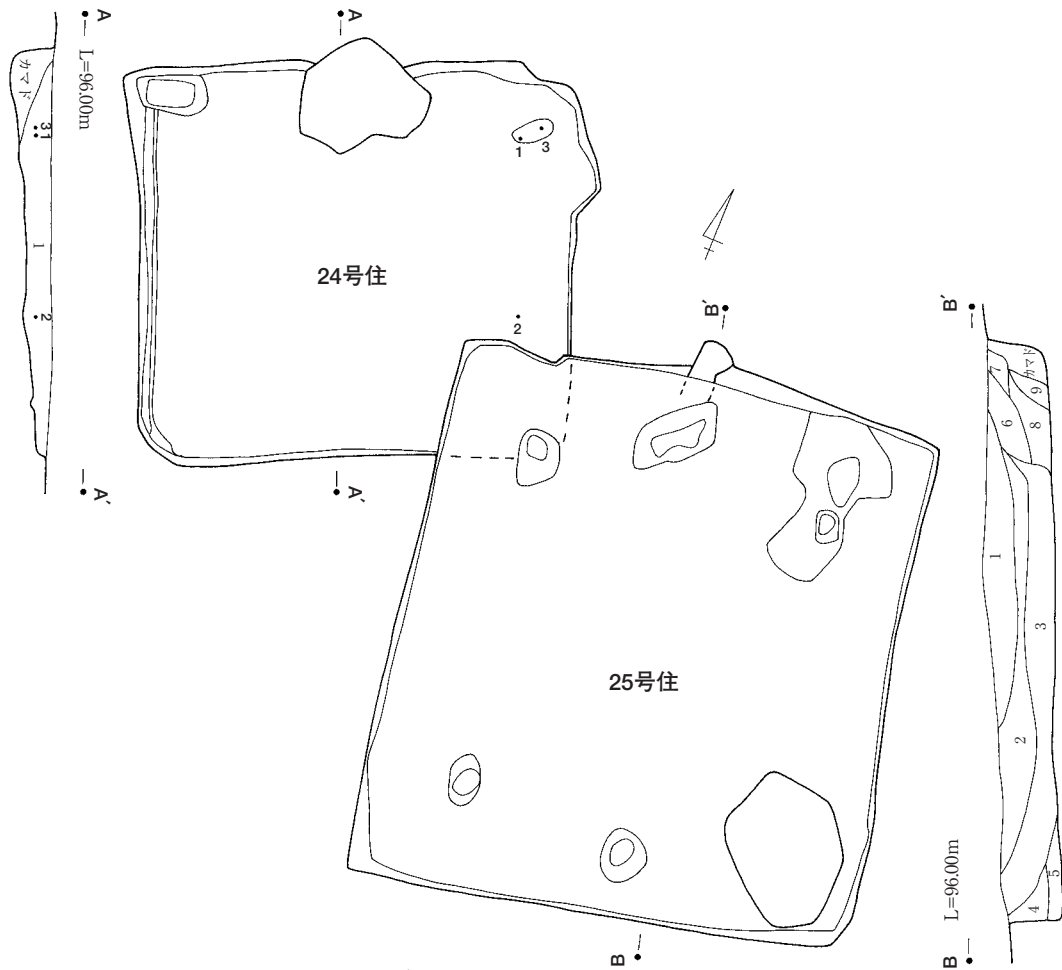
3



4

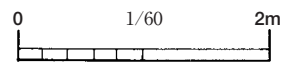


第39图 23号・78号住居跡出土遺物(2)・28号住居跡出土遺物

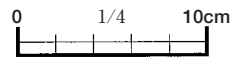
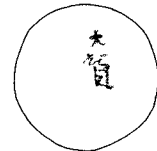
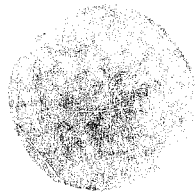
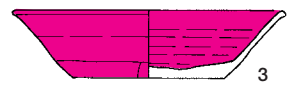
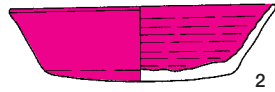


A-A'  
1 黒褐色 焼土粒を含む

B-B'  
1 黒褐色 ローム粒・ロームブロックを含む  
2 黒褐色 ローム粒を多く含み、ロームブロックも含む  
3 黒褐色 ローム粒を多く含む  
4 黒褐色  
5 暗褐色 ローム粒を多く含み、黒色土も含む  
6 黒褐色 砂質土・黒色土・ロームブロックを含む  
7 暗褐色 砂質土・ローム粒が混ざりあう  
8 黒褐色 焼けた砂質土を含む  
9 黒褐色 ローム粒を多く含む

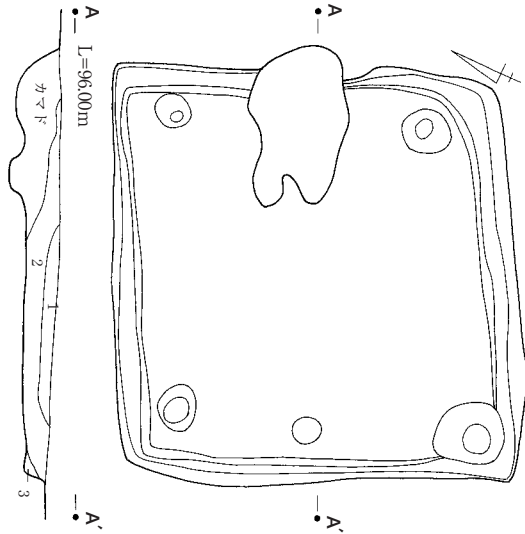


24号住

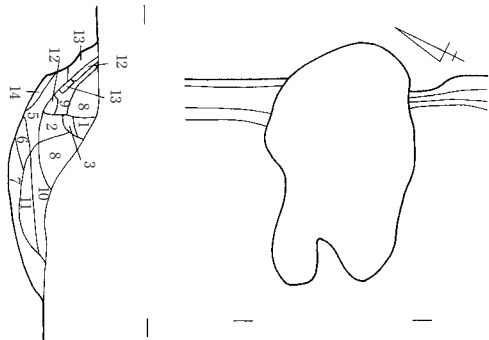
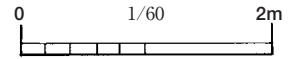


第40図 24号・25号住居跡実測図・24号住居跡出土遺物



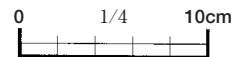
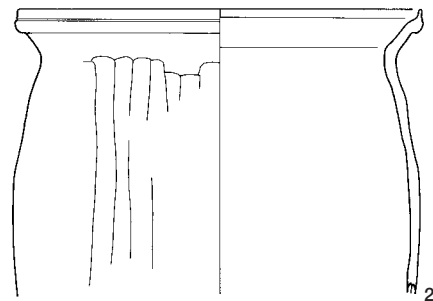
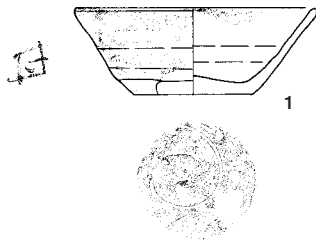
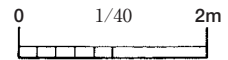


- 1 黒褐色 黒色土とローム粒が混ざりあう
- 2 黒褐色 ローム粒を多く含む
- 3 暗褐色 ロームブロックを含む



- 1 褐色 粘土層
- 2 褐色 焼けた粘土粒を含む
- 3 暗赤褐色 焼けた粘土粒を含む
- 4 黄褐色 焼けた粘土粒を含む砂質粘土層
- 5 灰褐色 灰層
- 6 黄褐色 焼けたローム層
- 7 褐色 ローム層と褐色土が混ざりあう
- 8 黄褐色 白色粘土層
- 9 暗褐色 焼けた粘土粒を含む白色粘土層
- 10 暗褐色 焼けた粘土粒を含む
- 11 暗褐色 ローム粒を含む
- 12 赤色 焼けた粘土ブロック
- 13 暗赤褐色 砂質土・炭化物を含む
- 14 暗褐色 粘性が強い

L=96.20m



第41図 26号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物

#### 26号住居跡 (第41図)

調査区の北東寄り、方形溝状遺構の内側に所在する17号掘立柱建物跡と18号掘立柱建物跡の間に位置している。

形態は方形を呈している。規模3.46×3.20m。主軸方向N-66° 0′ -E。柱穴5本。カマドは東壁中央。

出土遺物 1は土師器の坏，内外面にスス付着，側面に墨書があるが判読出来ない。2は土師器の甕。

#### 27号住居跡 (第42図)

調査区の北東寄り、方形溝状遺構の内側に所在する17号掘立柱建物跡と18号掘立柱建物跡の間に位置している。

形態は方形を呈している。規模3.96×3.34m。主軸方向N-60° 0′ -E。柱穴なし。カマドは東壁中央。西側床面上に焼土堆積が確認された。

出土遺物 1は土師器の皿，内面赤彩。2～8は土師器の坏，2は内面黒色処理。6は側面線刻。7は外面赤彩。9は土師器の甕。10は土製支脚。11は布目瓦。そのほか多くの鉄滓が出土している。

#### 29号住居跡・30号住居跡・77号住居跡 (第43・第44・第45図)

調査区の北東寄り、方形溝状遺構の内側に所在する18号掘立柱建物跡と溝状遺構の間に位置している。29号住居跡は北壁と南壁が土壇と、北西隅で77号住居跡と重複している。30号住居跡は北東側で77号住居跡と南東隅で土壇と重複している。77号住居跡は29号住居跡と30号住居跡のほか土壇とも重複している。

#### 29号住居跡

形態は台形を呈している。規模2.62×2.60m。主軸方向N-20° 30′ -W。柱穴3本。カマドなし。北東隅に焼土堆積が確認された。

出土遺物 2～4・8・12・14は北側の土壇出土遺物である。1は須恵器の坏。2は土師器の皿。3～12は土師器の坏，11は側面に墨書が見られるが判読できない。13は土師器の小型甕。14は須恵器の甕。15は鉄製鎌，刃の中程から切先を欠損。

#### 30号住居跡

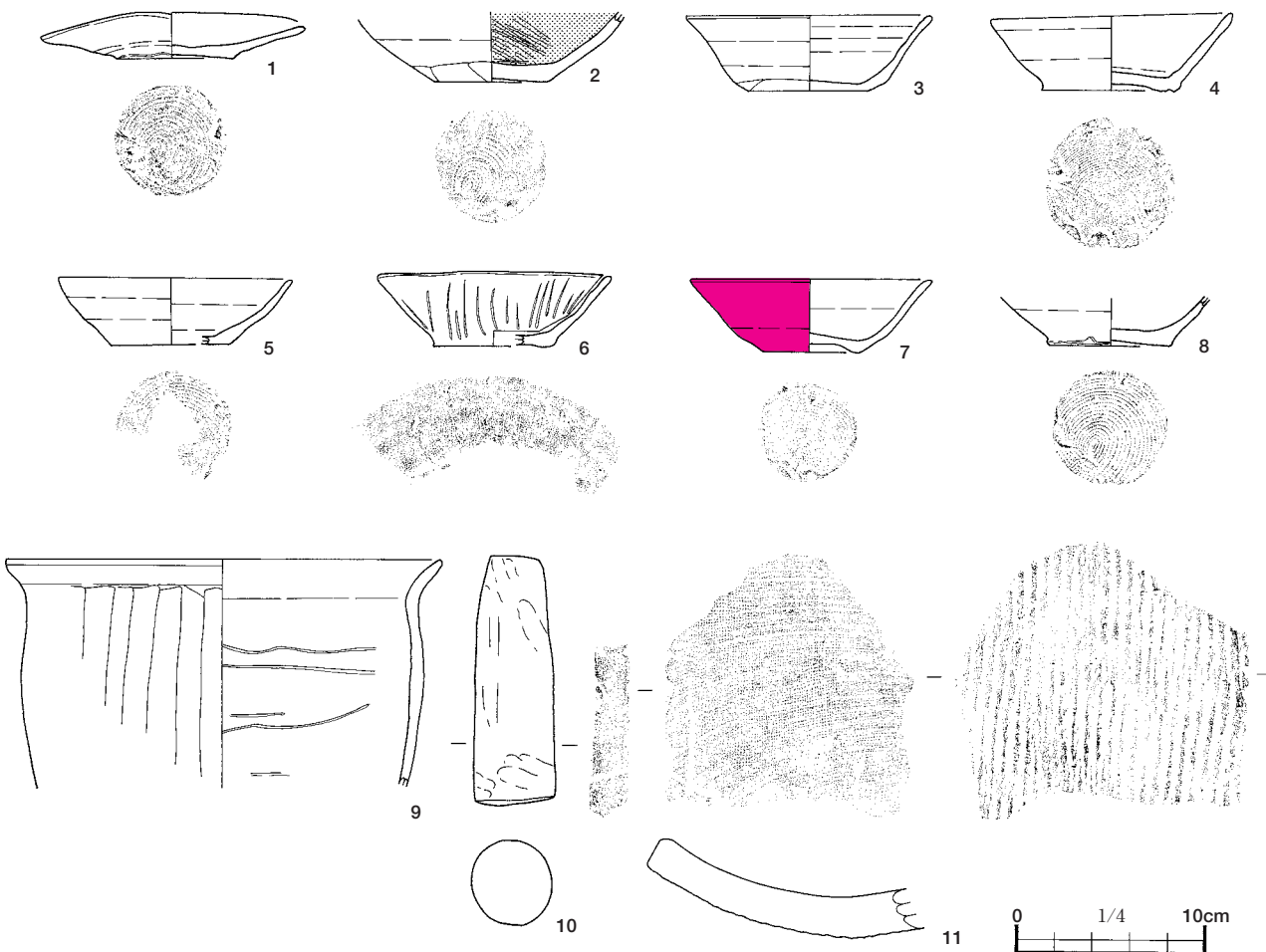
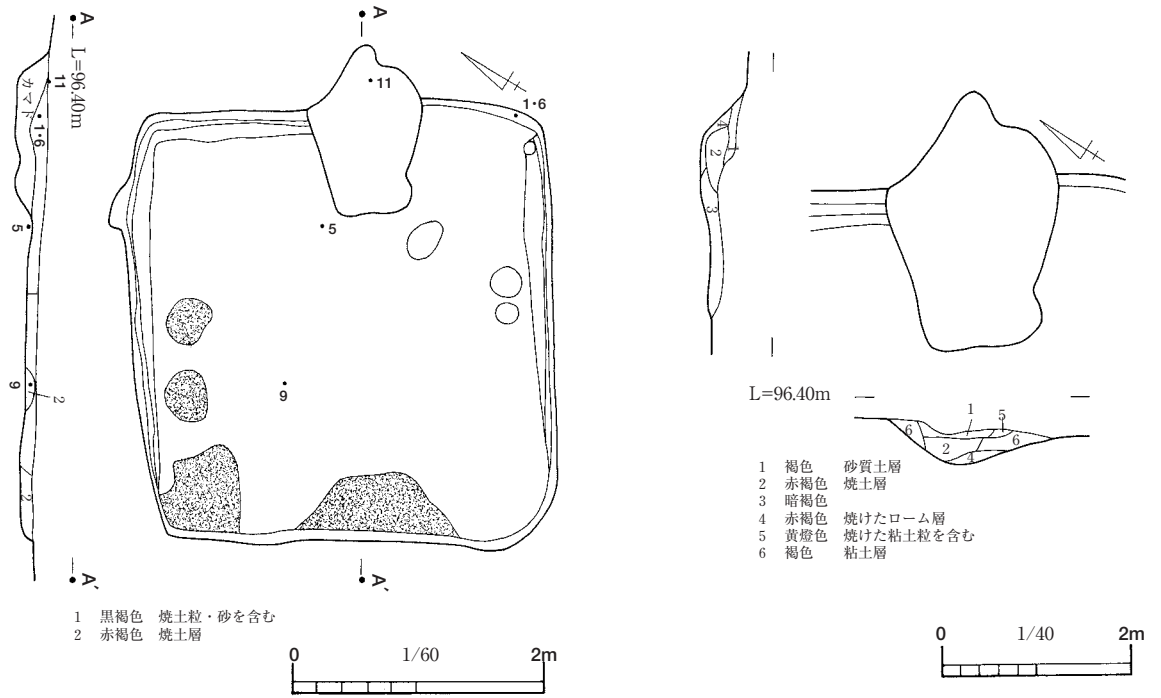
形態は方形を呈している。規模4.00×3.72m。主軸方向N-6° 30′ -E。柱穴3本。カマドは北壁中央

出土遺物 2・4は南東隅の土壇出土遺物である。1～3は須恵器の坏。4～15は土師器の坏，13は側面に墨書が見られるが判読できない。14・15は底部外面に墨書が見られるが判読できない。16・17は土師器の小型甕。18～21は土師器の甕。22は石帯の花崗岩製巡方，裏には帯に装着用の小孔が4ヶ所，開けられている。23は布目瓦。そのほか鉄滓が出土している。

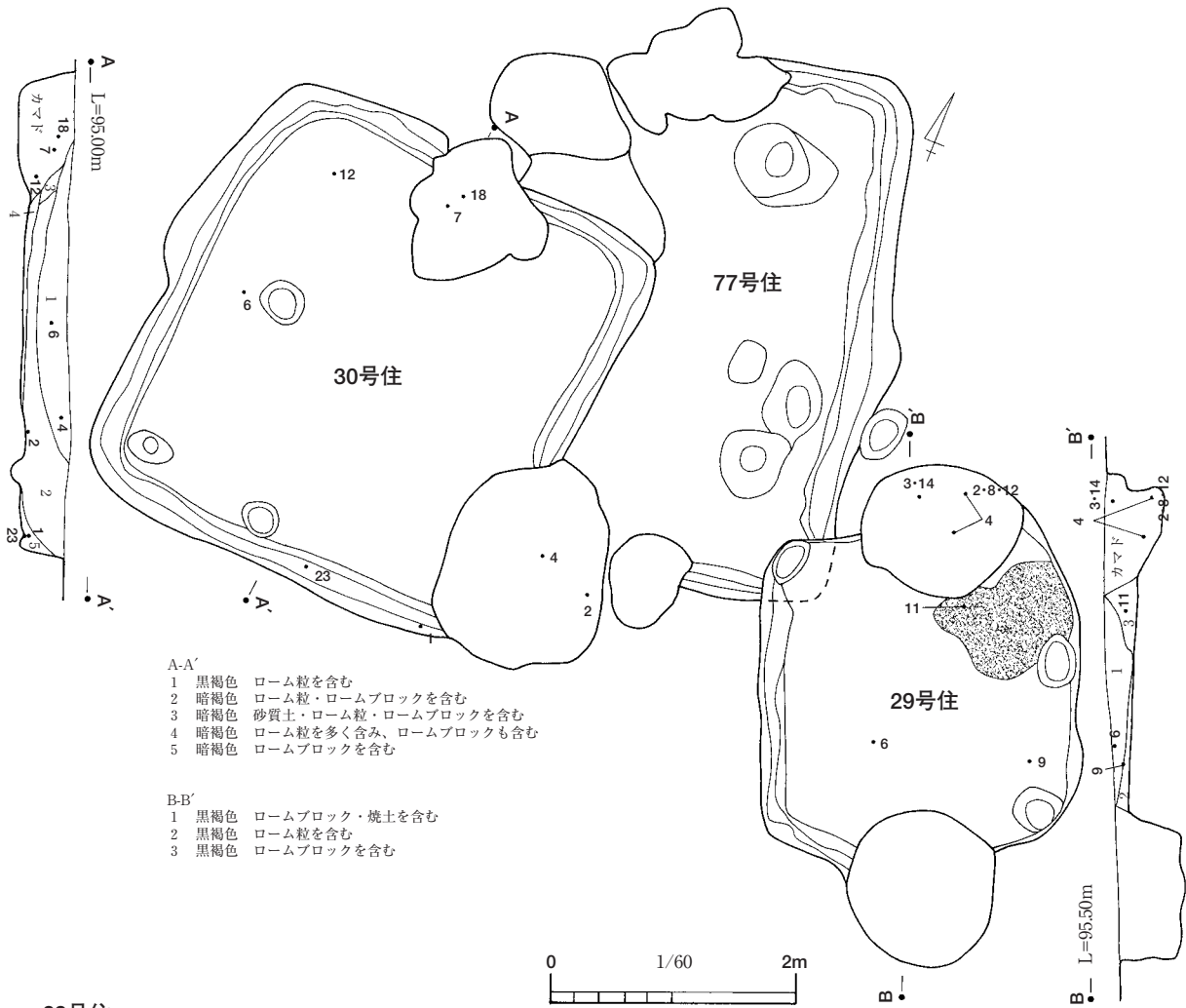
#### 77号住居跡

形態は方形を呈している。規模4.70×(2.30)m。主軸方向N-15° 0′ -W。柱穴3本。カマドは北壁中央。

遺物について、ほとんど30号住居跡の遺物として取り上げられており、77号住居跡に伴う遺物は



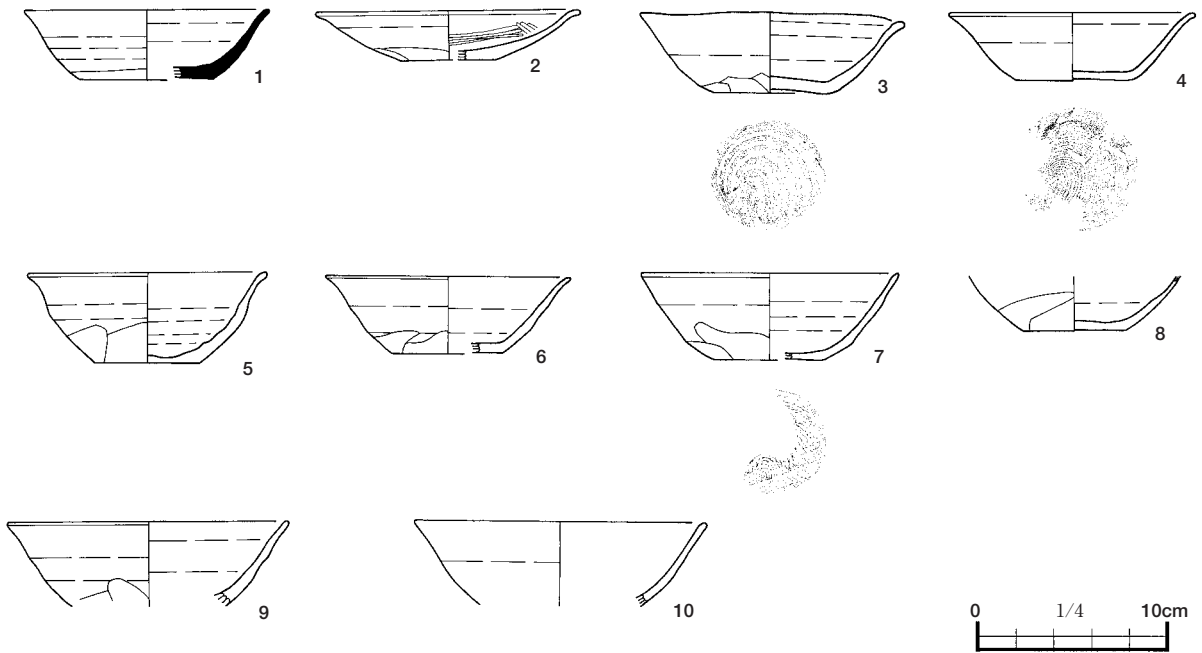
第42図 27号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



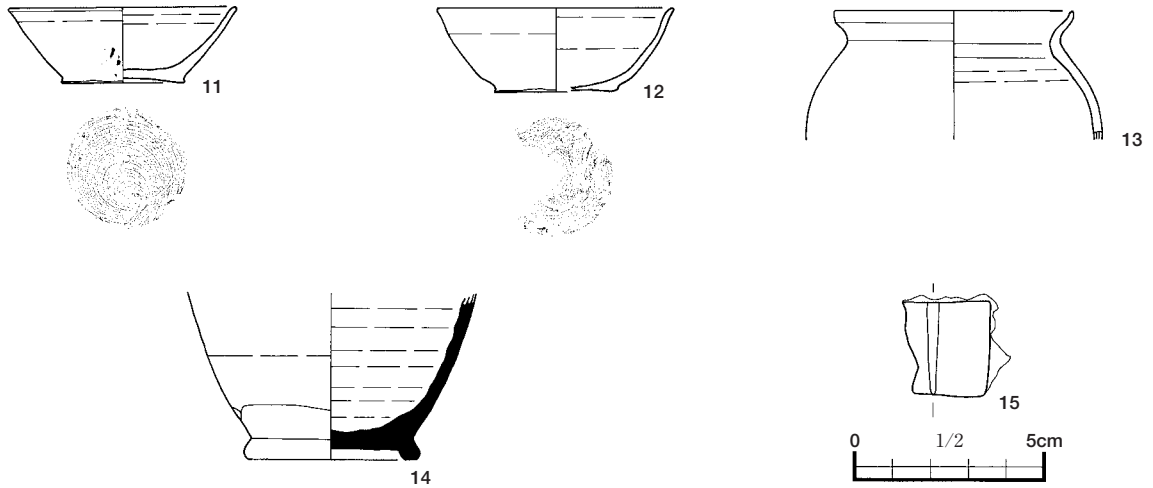
- A-A'
- 1 黒褐色 ローム粒を含む
  - 2 暗褐色 ローム粒・ロームブロックを含む
  - 3 暗褐色 砂質土・ローム粒・ロームブロックを含む
  - 4 暗褐色 ローム粒を多く含み、ロームブロックも含む
  - 5 暗褐色 ロームブロックを含む

- B-B'
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土を含む
  - 2 黒褐色 ローム粒を含む
  - 3 黒褐色 ロームブロックを含む

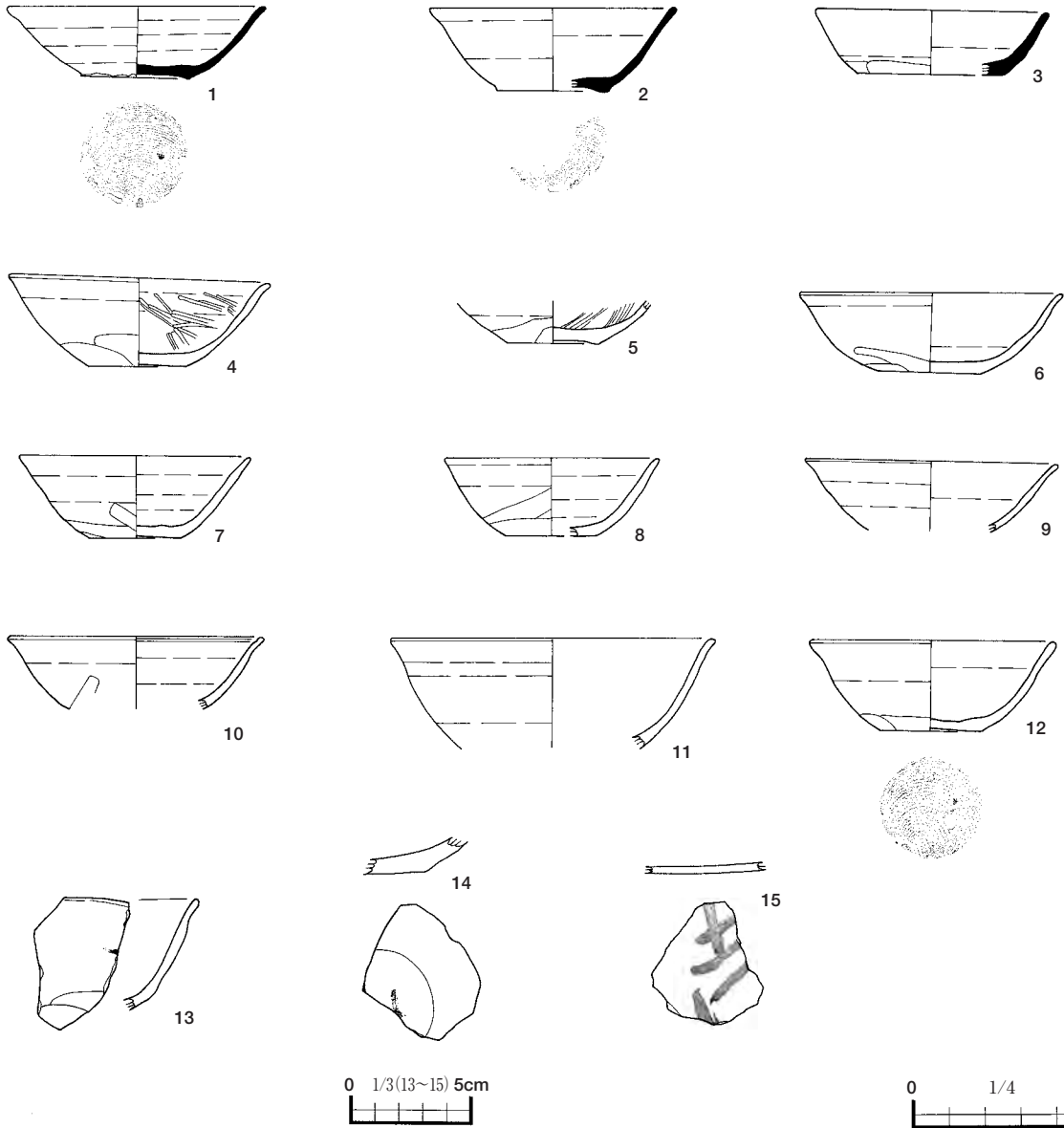
29号住



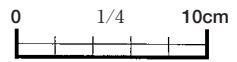
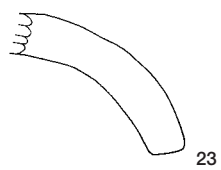
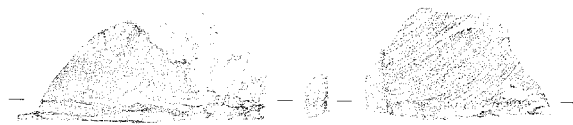
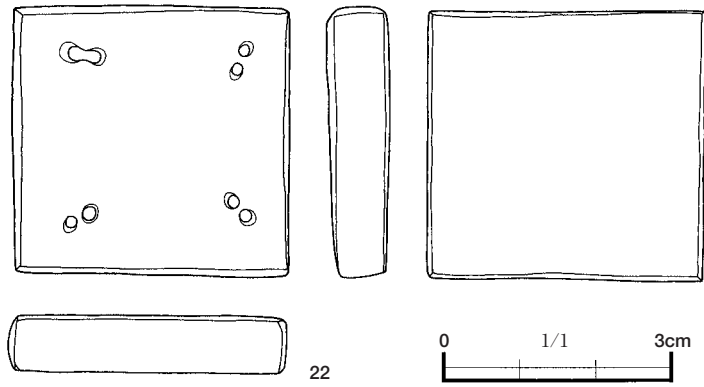
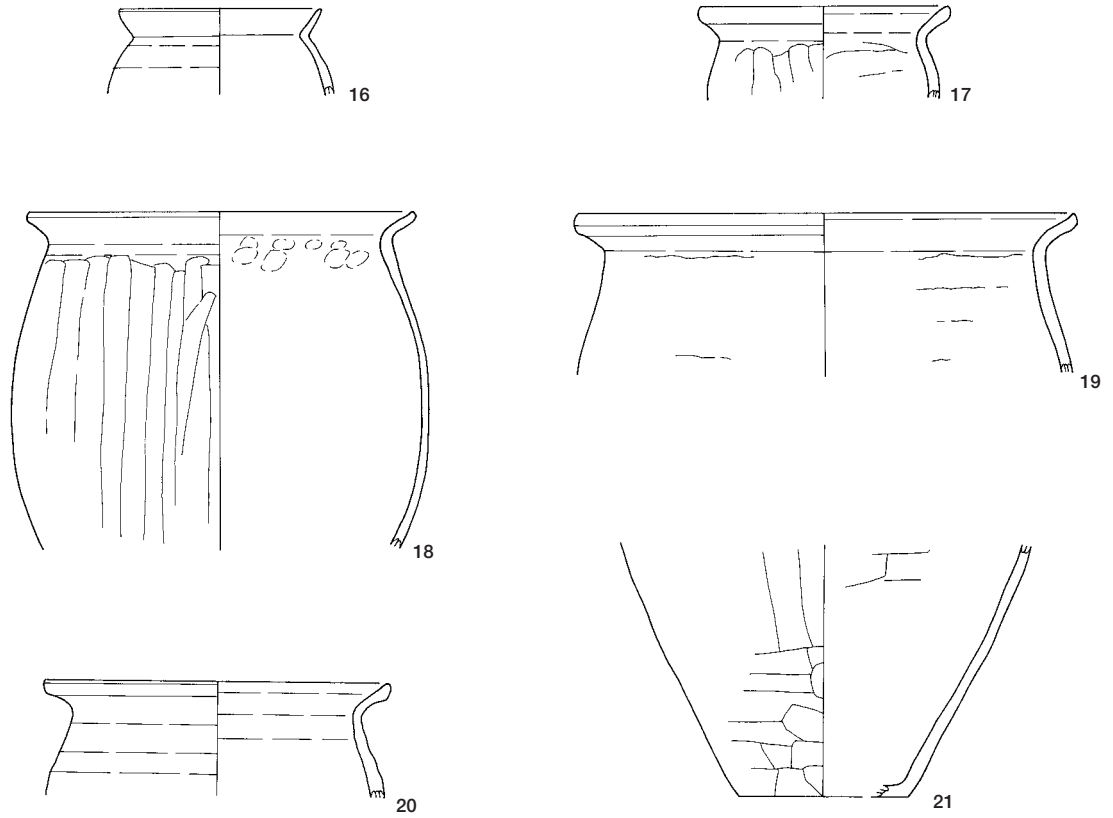
第43図 29号・30号・77号住居跡実測図・29号住居跡出土遺物(1)



30号住



第44图 29号住居跡出土遺物(2)・30号住居跡出土遺物(1)



第45图 30号住居跡出土遺物(1)

不明である。

#### 31号住居跡 (第46図)

調査区の東，中央寄り，方形溝状遺構の南東隅に位置している。

形態は方形を呈している。規模4.36×4.33m。主軸方向N-24° 30′ -W。柱穴6本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1～8は土師器の坏，1・2は内外面赤彩。3～6は内面赤彩。7は内面黒色処理。9・10は土師器の甕，9は外面に砂が付着。

#### 32号住居跡 (第47・第48図)

調査区の東，中央寄りに位置している。

形態は方形を呈している。規模6.02×5.75m。主軸方向N-59° 0′ -E。柱穴6本。カマドは2基検出。北壁にカマドと，東壁にカマドを構築している。床面4ヶ所に焼土堆積が確認された。

出土遺物 1・2は土師器の坏，2は内面黒色処理。3・4は土師器の高坏。5・6は土師器の椀。7は土師器の鉢。8は土師器の甕。9は土製支脚。10は砂岩製砥石，縄文時代凹石の転用。断面の砥面に擦痕が見られる。

#### 33号住居跡 (第49・第50図)

調査区の西側中央に位置している。

形態は方形を呈している。規模4.82×4.40m。主軸方向N-66° 0′ -E。柱穴3本。カマドは東壁中央。

出土遺物 1～3は土師器の坏。4は置きカマド。5は白色凝灰岩製砥石。6は布目瓦。

#### 34号住居跡 (第51・第52図)

調査区の西側中央に位置している。攪乱土壌3基と重複している。

形態は方形を呈している。規模4.39×4.22m。主軸方向N-53° 30′ -E。柱穴5本。カマドは東壁中央。

出土遺物 6は攪乱土壌出土遺物である。1は須恵器の坏。2は土師器の灯明皿，口縁にスス付着。3～11は土師器の坏，11は底部外面にヘラ書きが見られるが判読できない。12は土師器の小型甕。13は土師器の甌。14～16は布目瓦。

#### 35号住居跡 (第53図)

調査区の中央やや北西に位置している。

形態は方形を呈している。規模6.16×6.02m。主軸方向N-25° 30′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。北西隅に焼土堆積が確認された。

出土遺物なし。

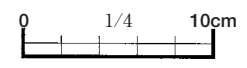
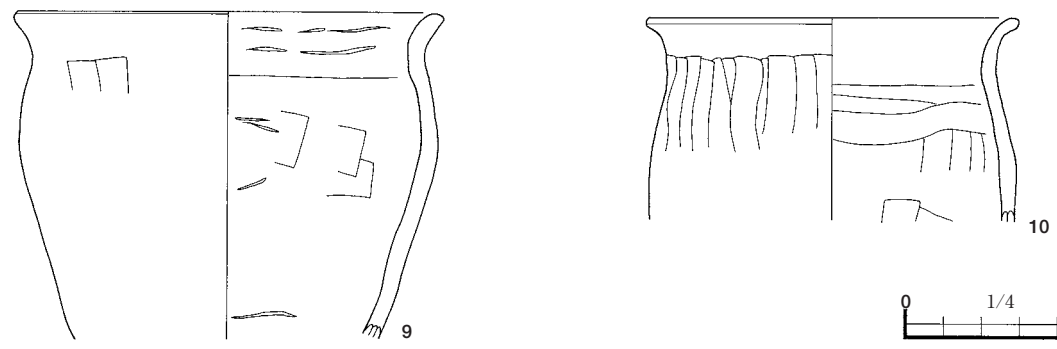
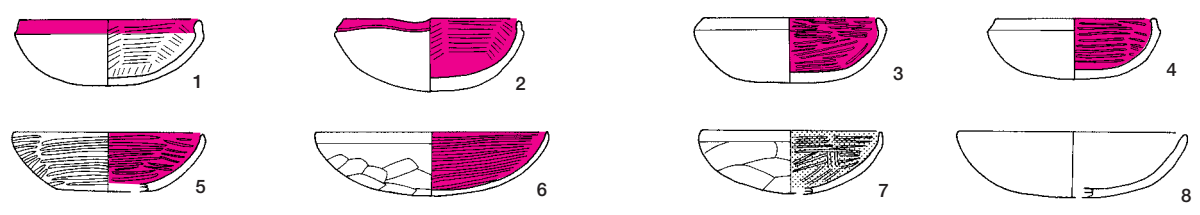
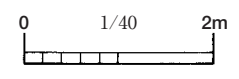
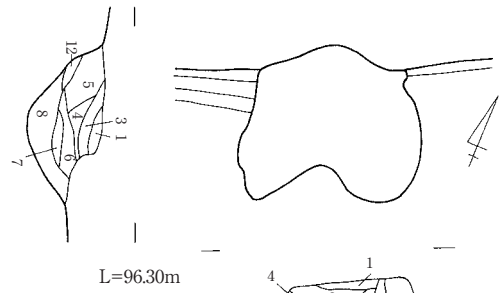
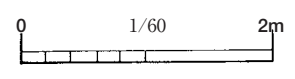
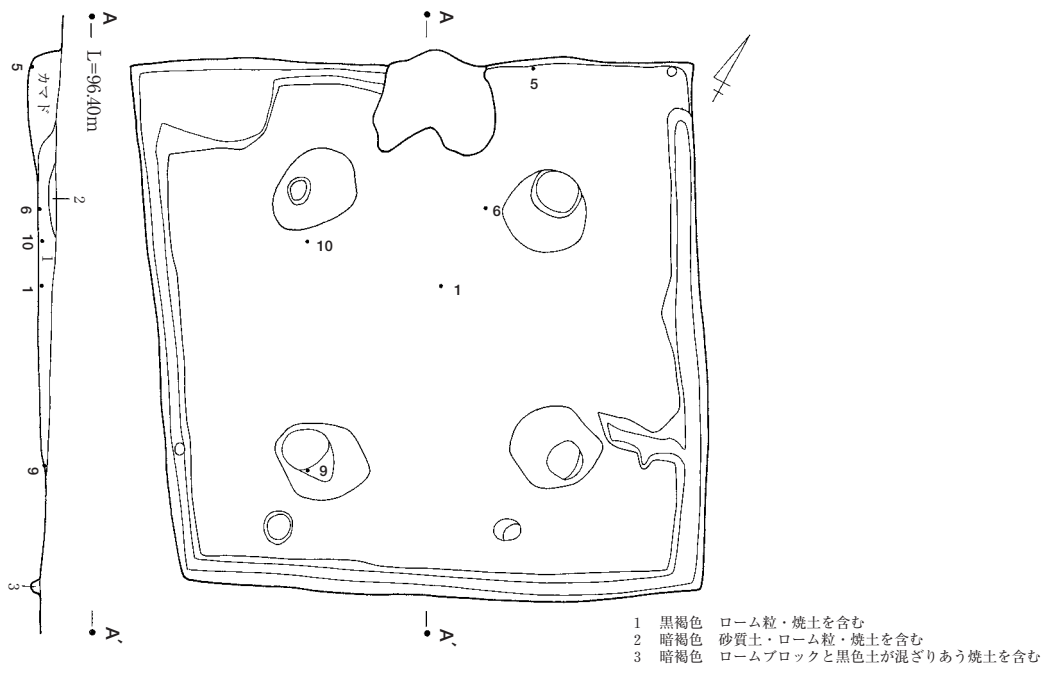
#### 36号住居跡・75号住居跡 (第54・第55図)

調査区の中央北寄りに位置している。36号住居跡は75号住居跡の北東で重複している。

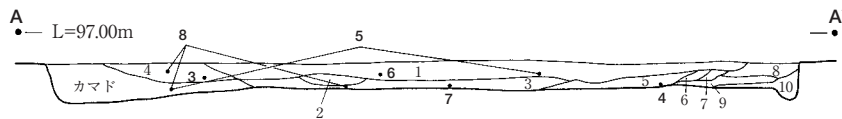
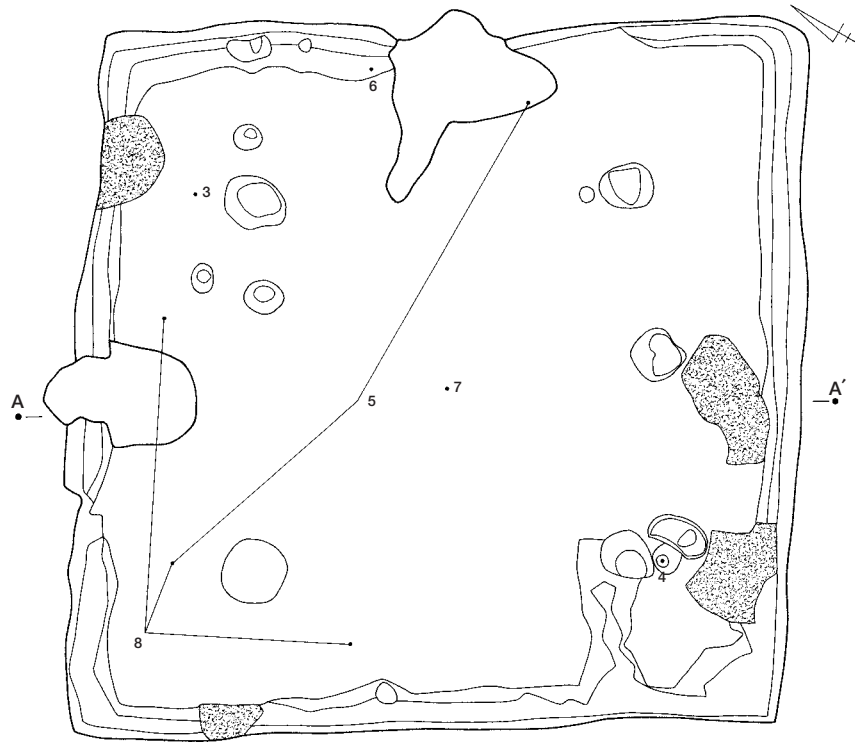
#### 36号住居跡

形態は方形を呈している。規模4.26×3.96m。主軸方向N-11° 30′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。北東隅で焼土堆積が確認された。

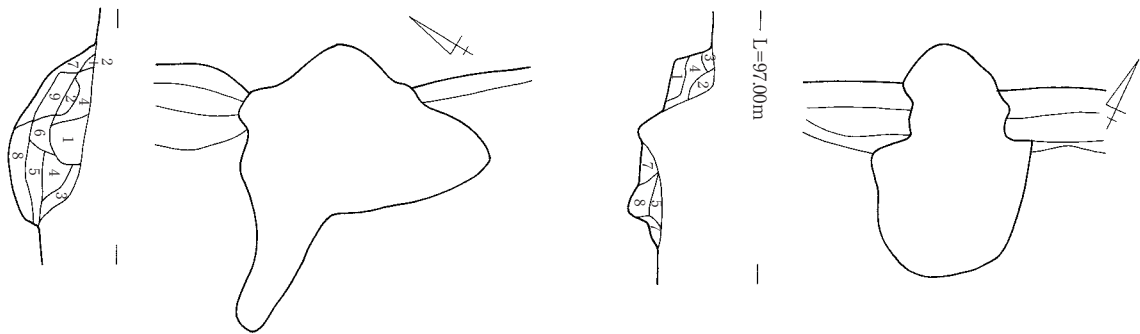
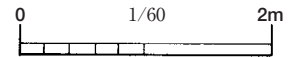




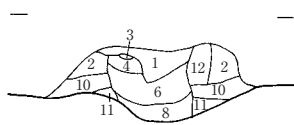
第46図 31号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



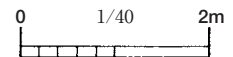
- 1 黒褐色 ローム粒・焼土を含む
- 2 黒褐色 砂質土を多く含み、ローム粒・焼土も含む
- 3 黒褐色 ローム粒を多く含む
- 4 黒褐色 砂質土・焼土粒・黒色土が混ざりあう
- 5 暗褐色 ローム粒・焼土粒を含む
- 6 灰褐色 砂質土層
- 7 黒褐色 焼土含む
- 8 黒褐色 焼土層を含む
- 9 暗赤色 焼土層と黒褐色土が混ざりあう
- 10 暗褐色 ロームブロックと黒色土が混ざりあう



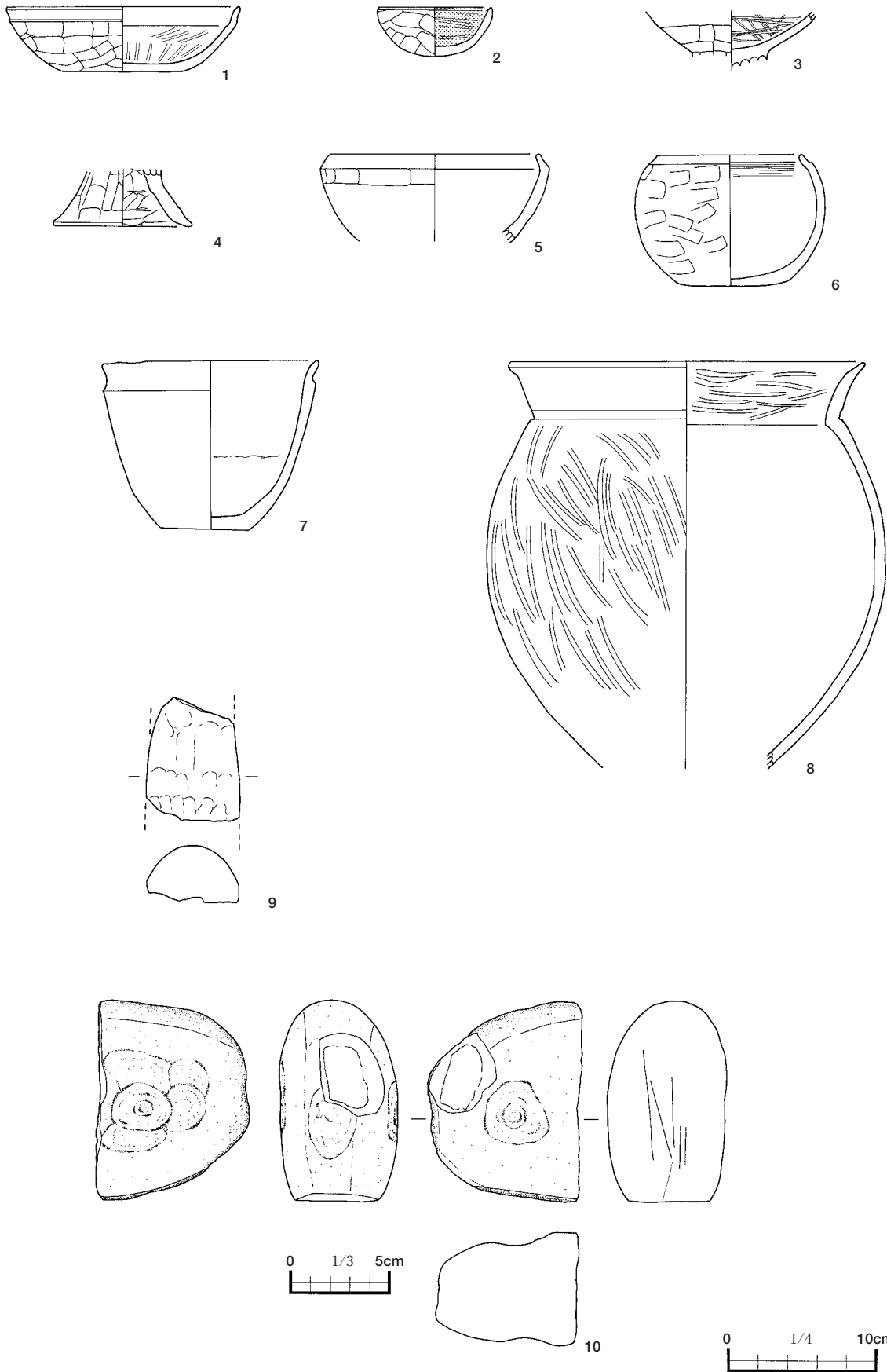
L=97.00m



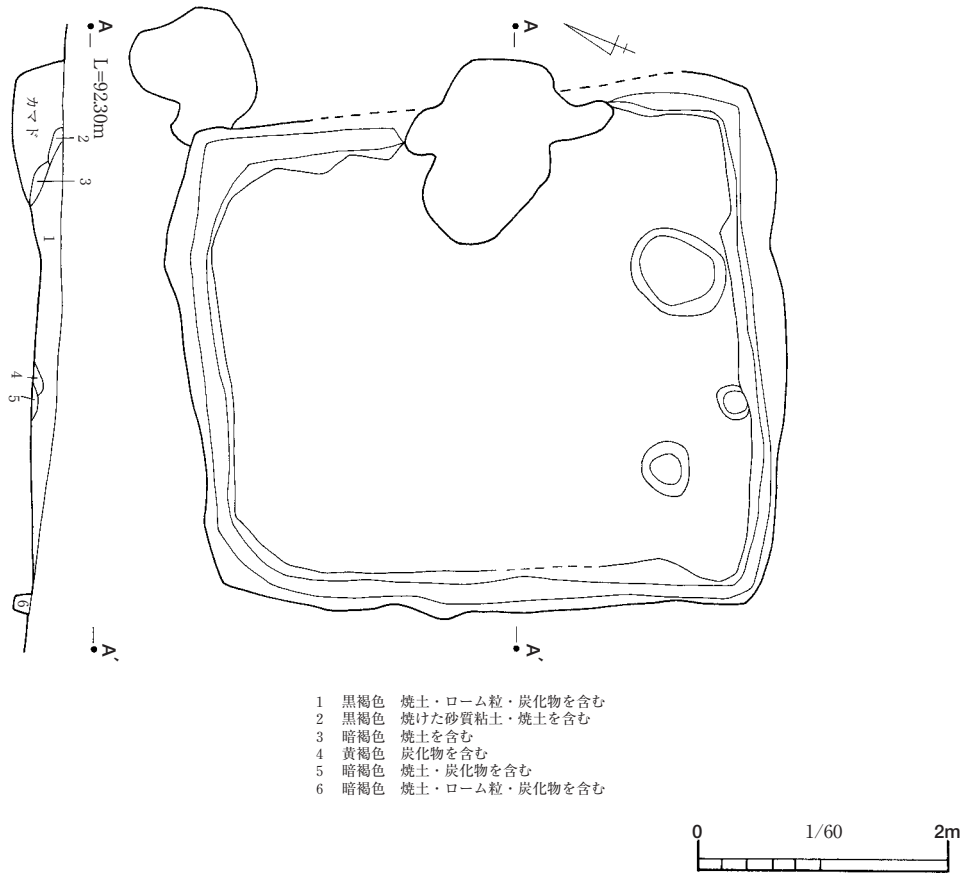
- 1 暗褐色 砂質土と焼けた粘土粒を含む
- 2 黄褐色 黄白色粘土層
- 3 褐色 砂質土と焼けた粘土粒を含む
- 4 赤褐色 焼けた粘土粒を含む砂質粘土層
- 5 赤褐色 焼土と灰が混ざりあう
- 6 暗褐色 焼けた粘土とローム粒を含む
- 7 暗褐色 粘性が強い
- 8 暗褐色 ロームブロックを含む
- 9 黒褐色 粘性が強い
- 10 暗褐色
- 11 褐色 ロームブロックを多く含む
- 12 黄褐色 焼けた黄白色粘土層



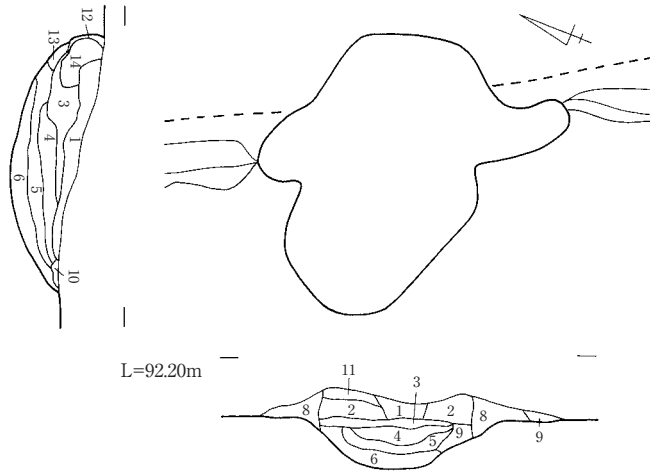
第47図 32号住居跡実測図・カマド実測図



第48図 32号住居跡出土遺物

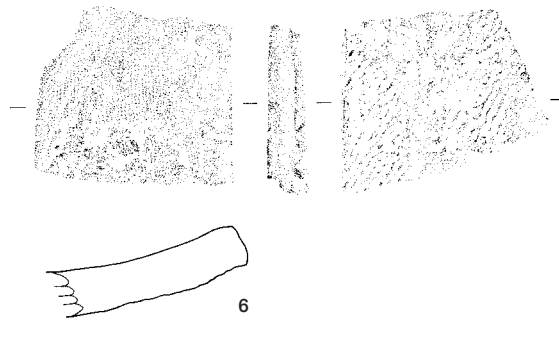
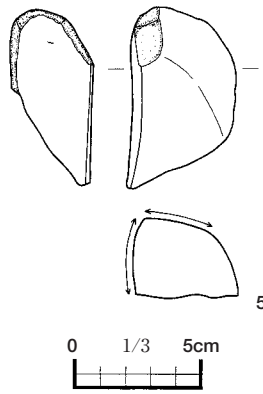
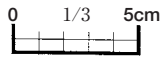
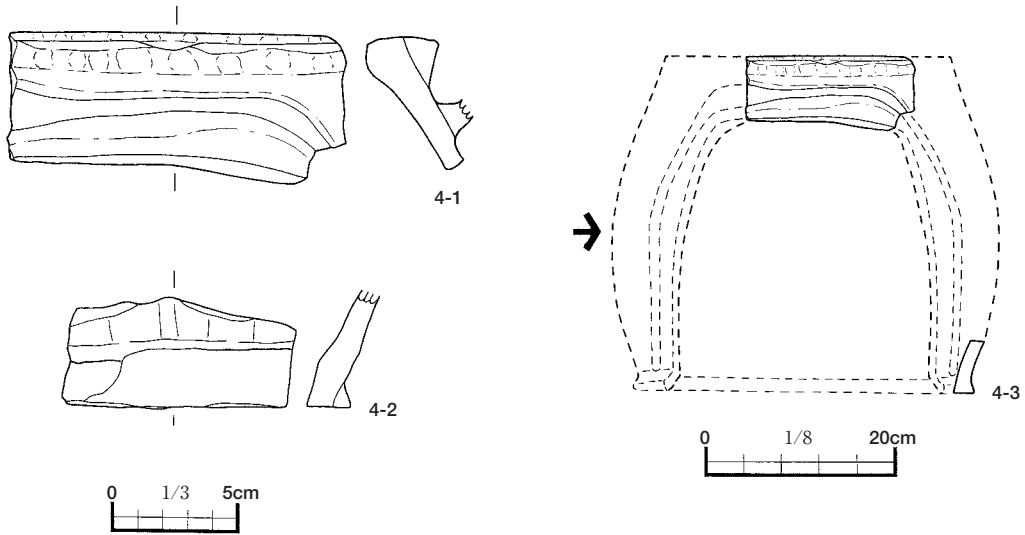
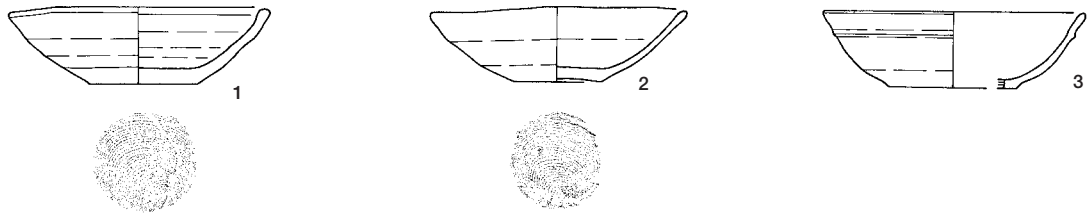


- 1 黒褐色 焼土・ローム粒・炭化物を含む
- 2 黒褐色 焼けた砂質粘土・焼土を含む
- 3 暗褐色 焼土を含む
- 4 黄褐色 炭化物を含む
- 5 暗褐色 焼土・炭化物を含む
- 6 暗褐色 焼土・ローム粒・炭化物を含む

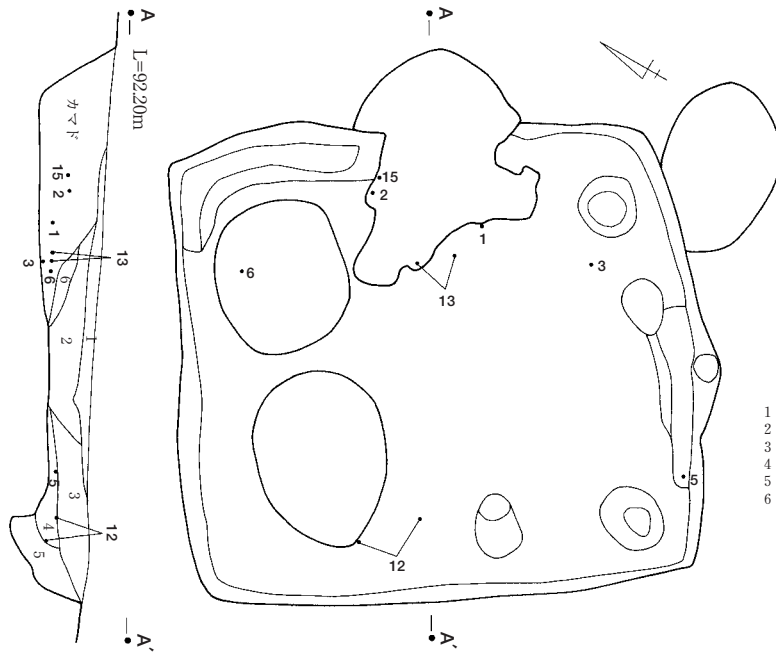


- 1 黒褐色 焼土粒・焼土ブロック・炭化物を含む砂質粘土層
- 2 暗赤褐色 粘土粒・焼土ブロック・炭化物を含む
- 3 灰褐色 粘土粒・炭化物・灰を含む砂質粘土層
- 4 赤褐色 焼土層
- 5 黄褐色 焼土・ロームブロックを含む砂質粘土層
- 6 黄褐色 ローム粒を含む砂質粘土層
- 7 黒褐色 焼土粒・ローム粒を含む砂質粘土層
- 8 黄褐色 砂質粘土
- 9 黄褐色 焼土粒・砂質粘土がまざりあう
- 10 暗褐色 焼土粒を多く含む、焼土ブロック・炭化物を含む砂質粘土層
- 11 暗黄褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 12 黄褐色 粘土を含む
- 13 黄褐色 砂質粘土・焼土粒・灰を含む
- 14 暗赤褐色 ロームブロック・灰を含む

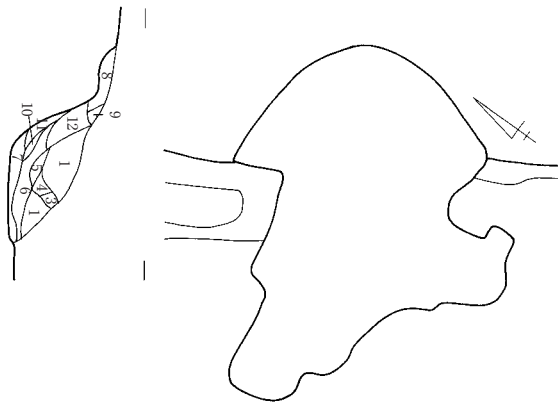
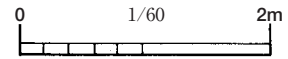
第49図 33号住居跡実測図・カマド実測図



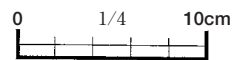
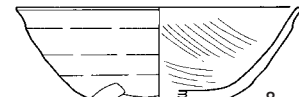
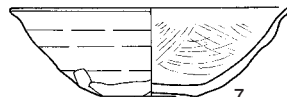
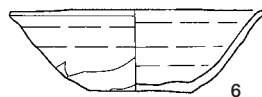
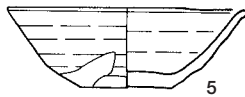
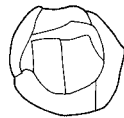
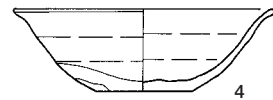
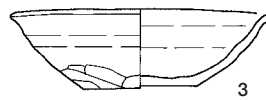
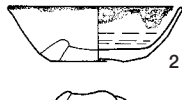
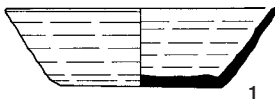
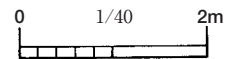
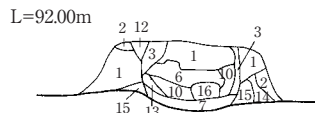
第50図 33号住居跡出土遺物



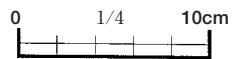
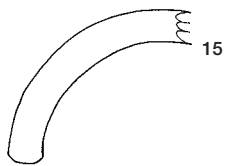
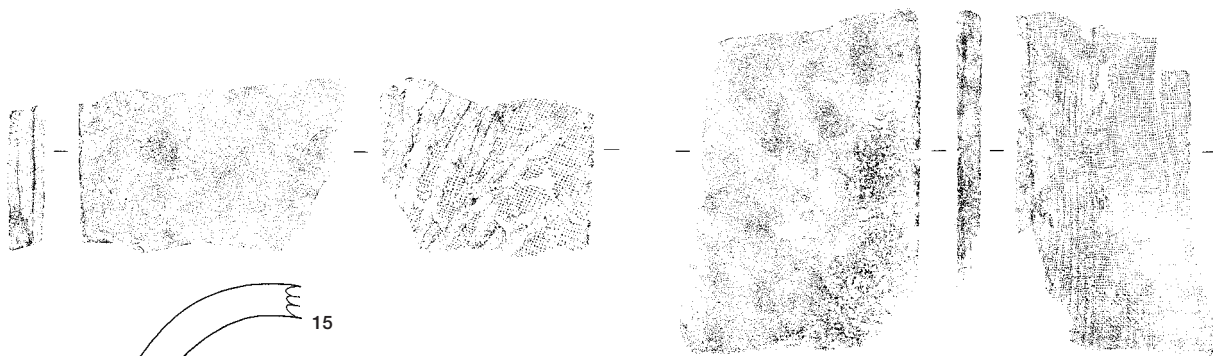
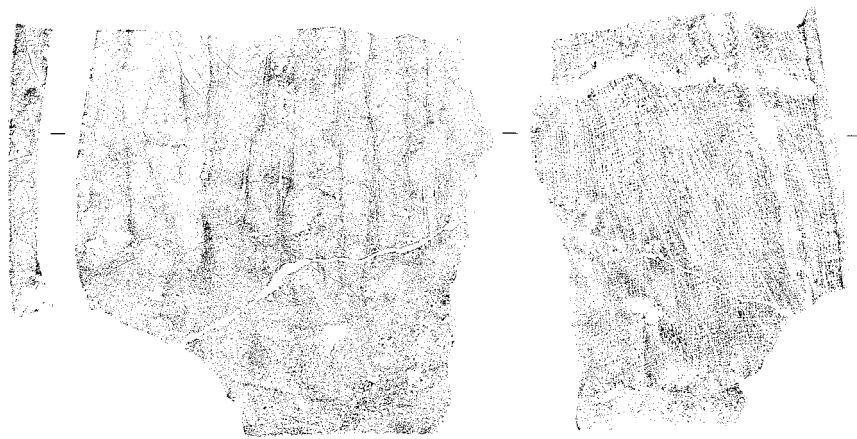
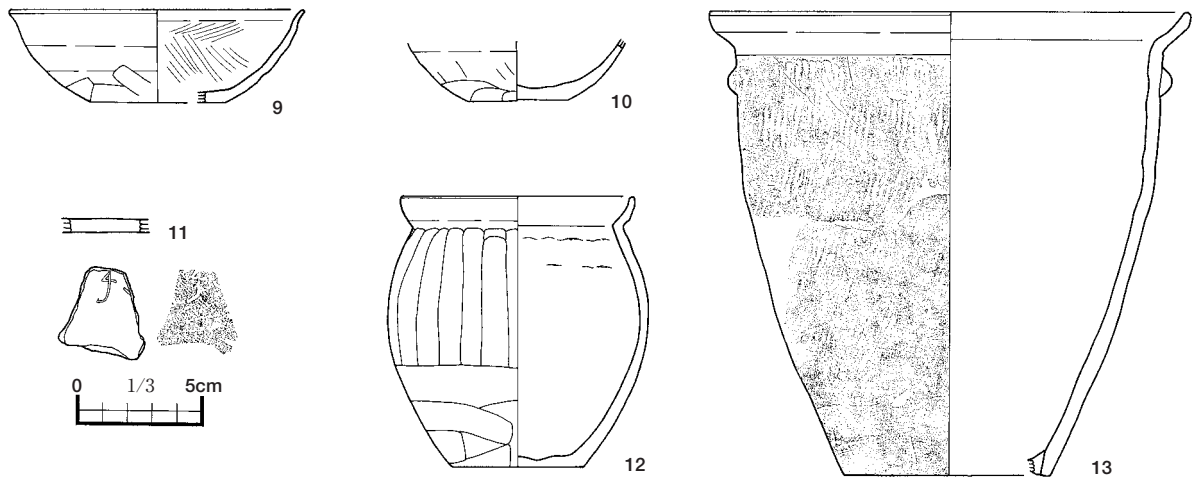
- 1 黒褐色 ローム粒・焼土を含む
- 2 黒褐色 砂質粘土・ローム粒・焼土・炭化物を含む
- 3 黒褐色 ローム粒・焼土・炭化物を含む
- 4 黒褐色 ローム粒・焼土・炭化物を含む
- 5 黒褐色 ローム粒・焼土ブロック・炭化物を含む
- 6 暗褐色 砂質粘土・焼土を含む



- 1 黄澄色 白色粘土層
- 2 黄澄色 褐色土を含む白色粘土層
- 3 黄澄色 焼けた白色粘土ブロック
- 4 黄澄色 焼土ブロックを含む白色粘土層
- 5 暗褐色 粘土ブロック・焼土ブロック・灰が混ざりあう
- 6 暗褐色 焼土ブロックを含む
- 7 褐色 焼けたロームブロックを多く含む
- 8 にぶい黄澄色
- 9 褐色 焼土を含む
- 10 灰褐色 灰層
- 11 赤色 焼土ブロック
- 12 黄澄色 焼けた白色粘土層
- 13 灰褐色 焼土ブロックを含む灰層
- 14 黄澄色 白色粘土を多く含む
- 15 黄澄色 しまりが強い
- 16 赤褐色 焼土ブロック

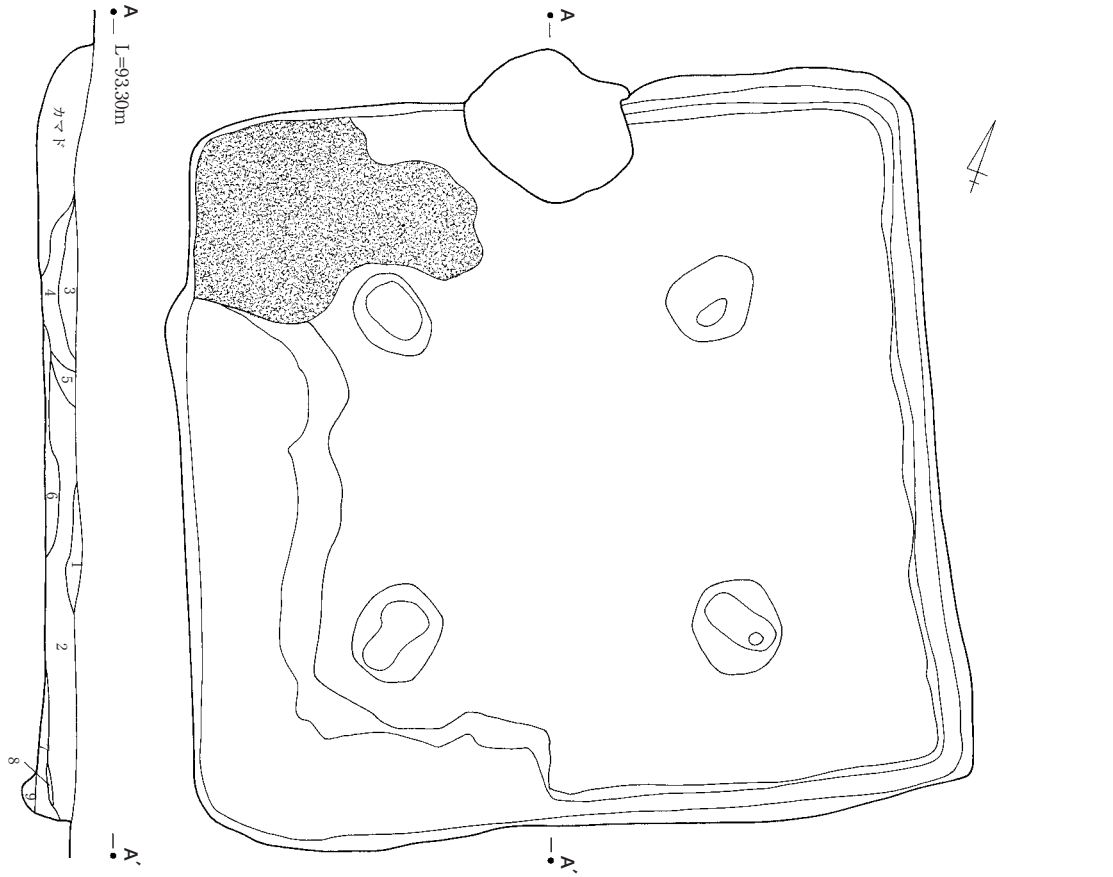


第51図 34号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物(1)

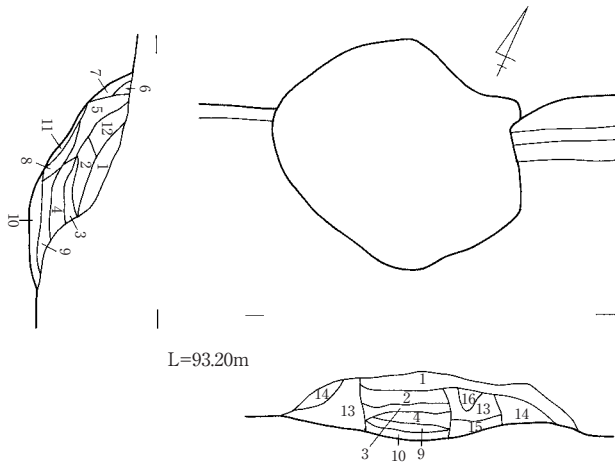
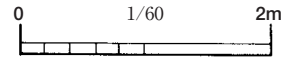


第52图 34号住居跡出土遺物(2)

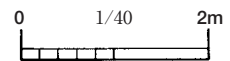




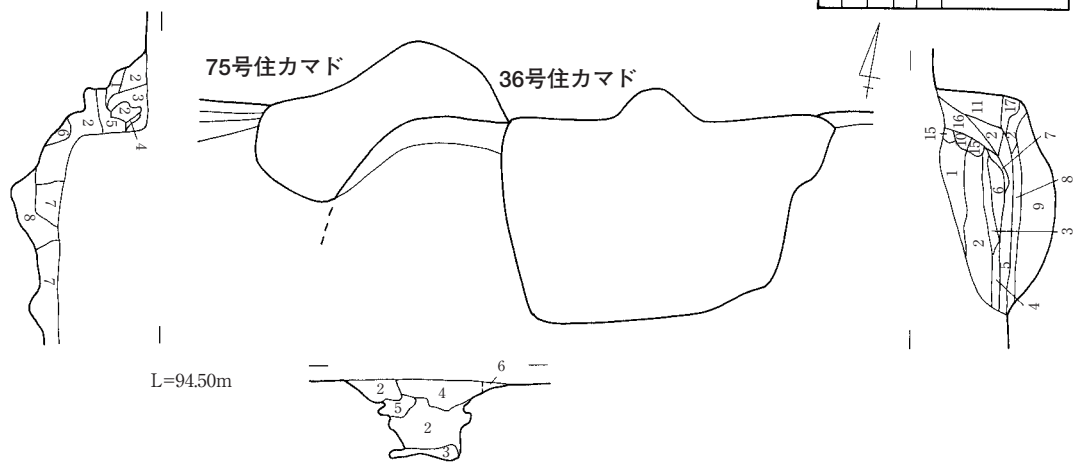
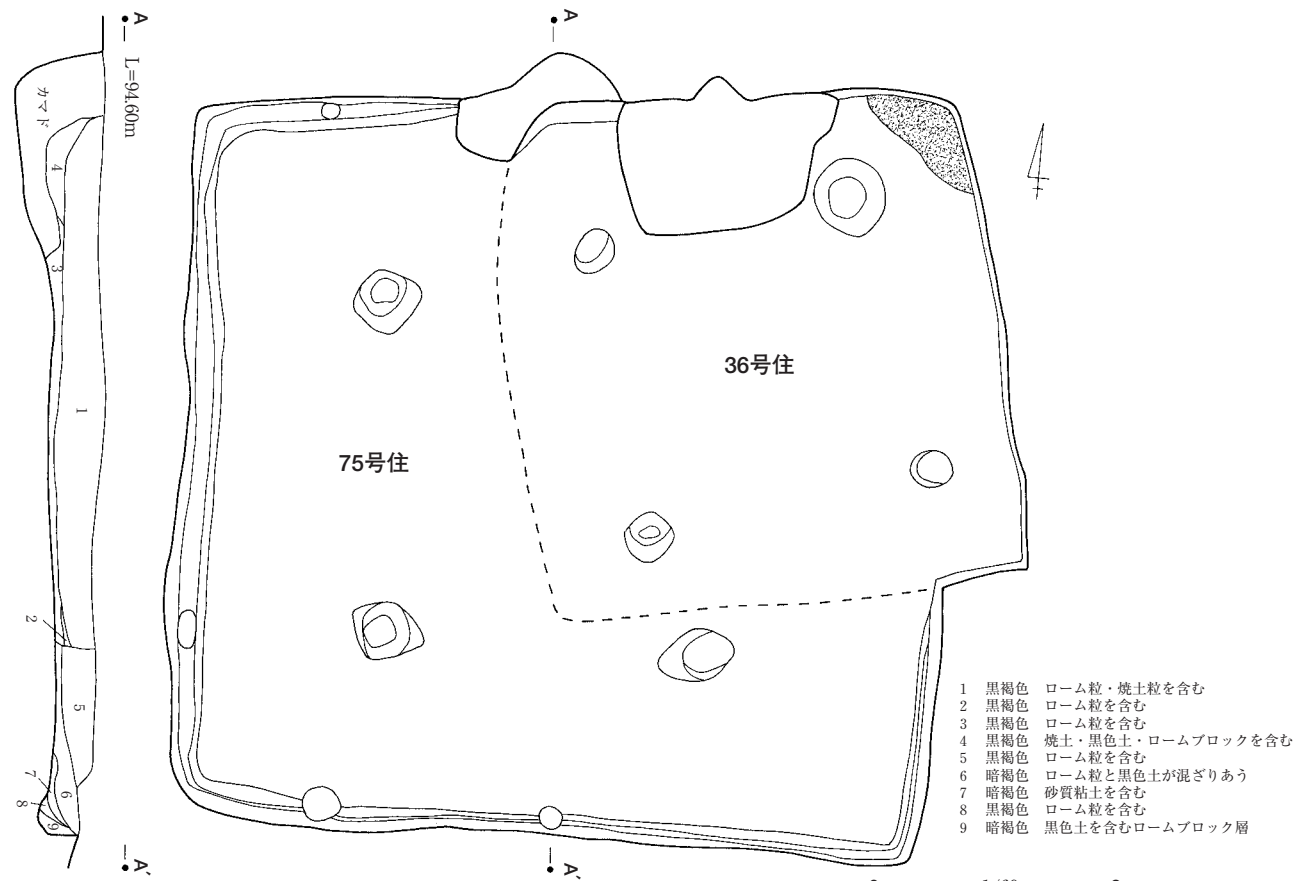
- 1 黒褐色 焼土・ローム粒を含む
- 2 黒褐色 焼土・ローム粒・炭化物を含む
- 3 黒褐色 焼土・ローム粒・炭化物・砂質粘土を含む
- 4 黒褐色 焼土・ローム粒・ロームブロック・砂質粘土を含む
- 5 黒褐色 焼土・砂質粘土を含む
- 6 黒褐色 焼土・ローム粒を含む
- 7 黒褐色 焼土・ローム粒・炭化物・砂質粘土を含む
- 8 黒褐色 粘性しまりなし
- 9 黒褐色 粘性の強い層



- 1 黄澄色 褐色土を含む白色粘土層
- 2 黄澄色 焼土粒・褐色土を含む白色粘土層
- 3 黄澄色 焼けた白色粘土層
- 4 黄澄色 白色粘土を含む焼土層
- 5 暗褐色 粘土粒を含む
- 6 黄澄色 粘土を含む焼土層
- 7 黄澄色 白色粘土層
- 8 赤褐色 焼けた粘土ブロック層
- 9 灰褐色 灰層
- 10 赤褐色 焼けたロームブロック層
- 11 黄澄色 粘土・ロームブロックのまざりあう層
- 12 にぶい黄澄色 焼土粒・褐色土を含む白色粘土層
- 13 黄澄色 焼けた白色粘土と粘土のまざりあう層
- 14 褐色 褐色土をブロック状に含む粘土層
- 15 黄澄色 焼土粒・ローム粒・褐色土を含む粘土層
- 16 にぶい黄澄色 焼けた白色粘土と粘土のまざりあう層



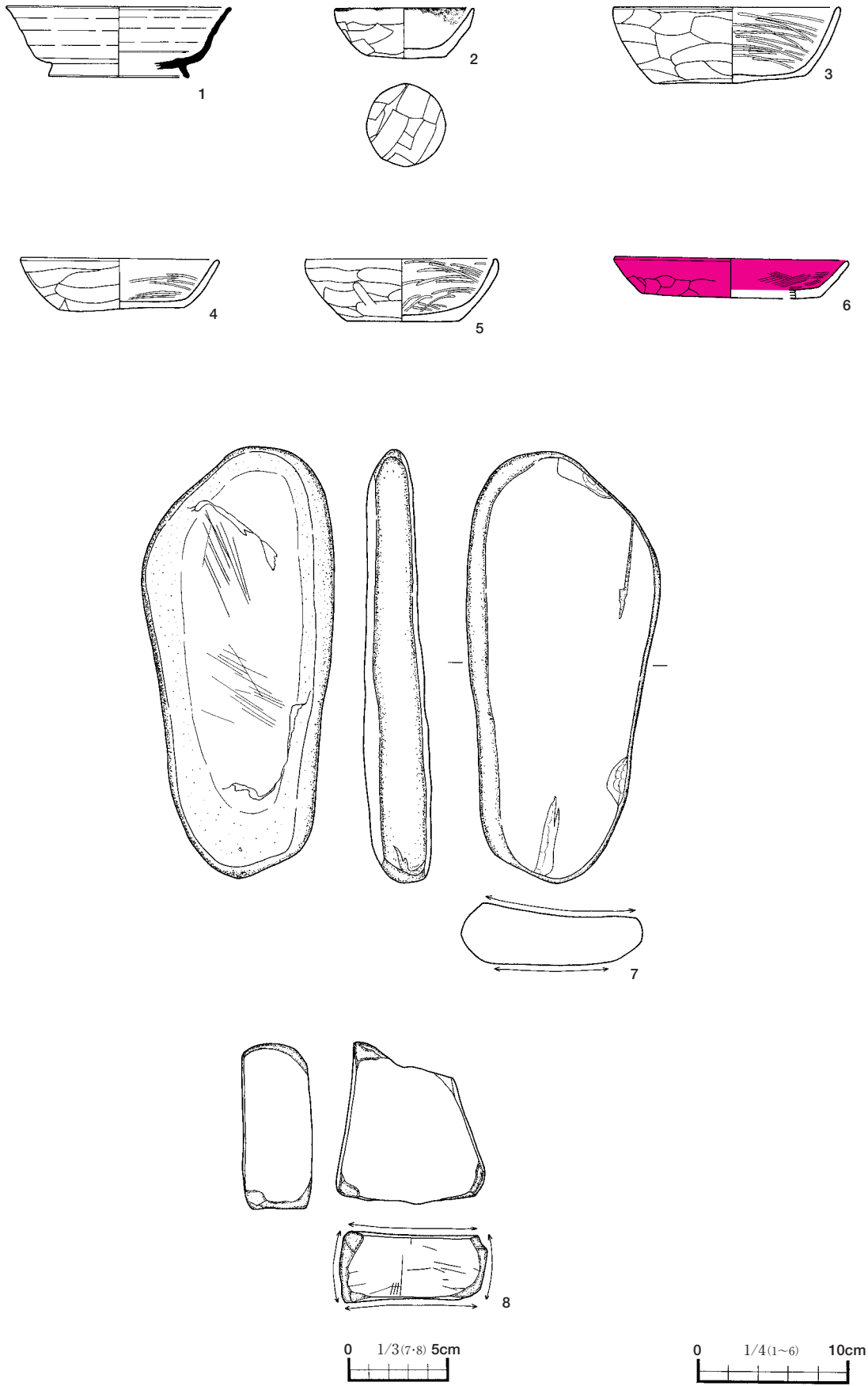
第53図 35号住居跡実測図・カマド実測図



- 36号住カマド
- |    |     |                          |
|----|-----|--------------------------|
| 1  | 暗褐色 | 白色粘土と暗褐色土のブロックが混ざりあう     |
| 2  | 黄褐色 | 黄白色粘土層                   |
| 3  | 褐色  | 焼土・灰を含む粘土層               |
| 4  | 暗褐色 | 砂質粘土を多く含む、粘性が強い          |
| 5  | 暗褐色 | 砂質粘土を多く含む                |
| 6  | 灰褐色 | 灰層                       |
| 7  | 赤褐色 | 焼けた粘土ブロック                |
| 8  | 褐色  | 掘り方                      |
| 9  | 褐色  | 掘り方                      |
| 10 | 暗褐色 | 黄白色粘土を含む                 |
| 11 | 暗褐色 |                          |
| 12 | 褐色  | 焼けた粘土粒を含む砂質粘土層           |
| 13 | 褐色  | ローム粒を含む砂質粘土層             |
| 14 | 褐色  | 焼けた粘土粒を多く含む、砂質土も含む       |
| 15 | 赤褐色 | 焼けた粘土ブロック                |
| 16 | 暗褐色 | 焼けた粘土ブロック・粘土・焼土を多く含む砂質土層 |
| 17 | 暗褐色 | 砂質土を含む粘土層                |

- 75号住カマド
- |   |      |                          |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 黒褐色  | 焼土ブロック・焼土粒・粘土ブロック・粘土粒を含む |
| 2 | 赤褐色  | 焼土層                      |
| 3 | 黄褐色  | 粘土層                      |
| 4 | 黄褐色  | 焼土粒を含む粘土層                |
| 5 | 暗赤褐色 | 焼土・粘土・黒色土が混ざりあう          |
| 6 | 黒褐色  |                          |
| 7 | 黄褐色  | ロームブロックを含む               |
| 8 | 黄褐色  | ロームブロック・焼土を含む            |

第54図 36号・75号住居跡実測図・カマド実測図



第55图 36号住居跡出土遺物

出土遺物について、全て36号住居跡の遺物として取り上げられているため、75号住居跡に伴う遺物は不明である。

1は須恵器の高台付坏。2は土師器の灯明皿、口縁にスス付着。3～5は土師器の坏。6は土師器の盤、内外面赤彩。7・8は砥石、7は粘板岩製。8は白色凝灰岩製。

#### 75号住居跡

形態は方形を呈している。規模6.20×6.18m。主軸方向ほぼ磁北。柱穴3本、周溝内に小穴4本。カマドは北壁中央に位置している。

#### 37号住居跡 (第56図)

調査区の中央南寄りに位置している。

形態は方形を呈している。規模4.74×4.36m。主軸方向N-14° 0′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は須恵器の坏。2は土師器の甕。3は鉄鏃、刃部を欠損。

#### 38号住居跡 (第57図)

調査区のはほぼ中央に位置している。

形態は方形を呈している。規模3.73×3.54m。主軸方向N-79° 0′ -E。柱穴2本。カマドは東壁中央。住居の中央と東南壁で焼土堆積が確認された。

出土遺物 1～3は土師器の甕。1は外面に砂が付着。

#### 39号住居跡 (第58図)

調査区の中央に位置している。

形態は方形を呈している。規模4.48×4.30m。主軸方向N-17° 30′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。カマドと西壁の間で焼土堆積が確認された。

出土遺物なし。

#### 40号住居跡 (第59図)

調査区の中央やや南寄りに位置している。

形態は方形を呈している。規模4.66×4.22m。主軸方向N-23° 0′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は須恵器の坏。2は土師器の坏、ススが付着。3は土製支脚。

#### 41号住居跡・42号住居跡 (第60・第61図)

調査区の南側中央に位置している。41号住居跡は西壁側で42号住居跡と重複している。

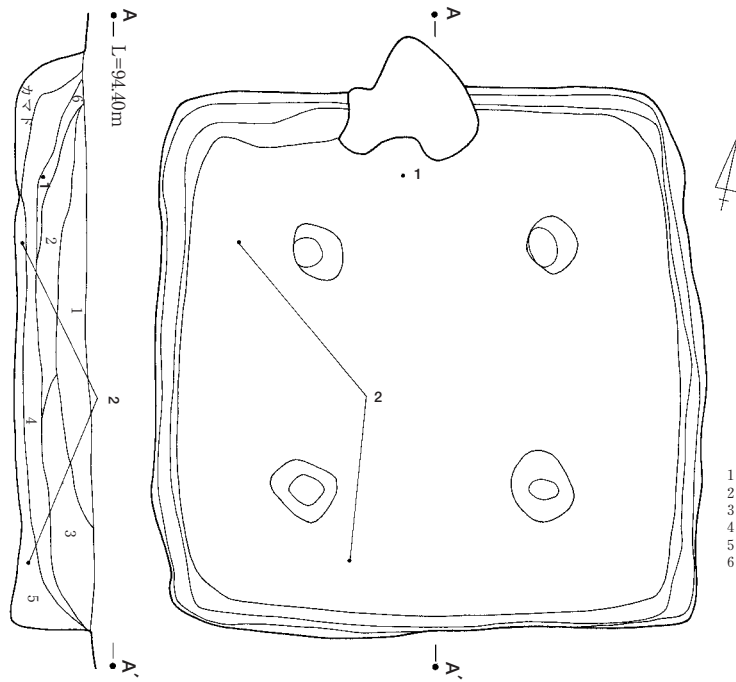
#### 41号住居跡

形態は方形と推測される。規模4.50×3.97m。主軸方向N-12° 30′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

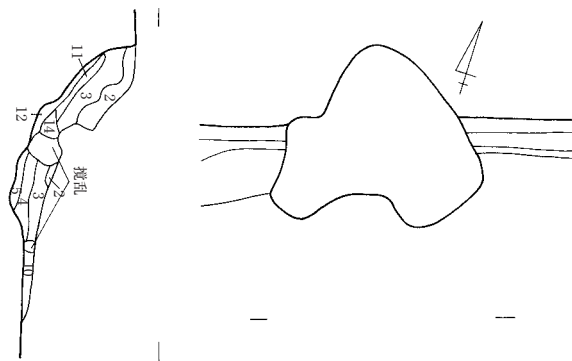
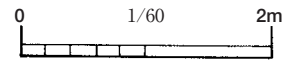
出土遺物 1は土師器の坏、内面黒色処理。2は土師器の坏、内外面赤彩。3は土師器の椀。4は土師器の甕。

#### 42号住居跡

形態は方形と推測される。規模4.20×3.88m。主軸方向N-15° 0′ -W。柱穴6本。カマドは北

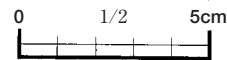
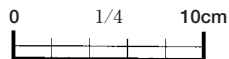
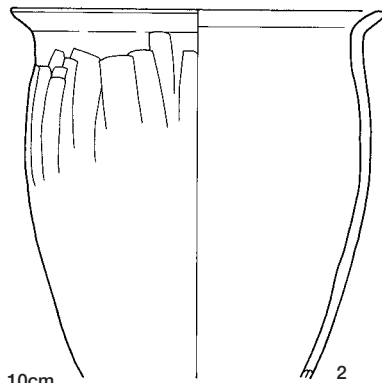
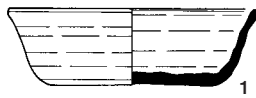
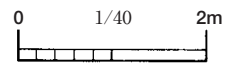


- 1 黒褐色 焼土・ローム粒・炭化物を含む
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒・炭化物・砂質粘土を含む
- 3 黒褐色 ローム粒を含む
- 4 暗褐色 焼土・ローム粒・ロームブロック・炭化物を含む
- 5 暗褐色 焼土・ロームブロック・炭化物を多く含む
- 6 暗褐色 砂質粘土・焼土を含む

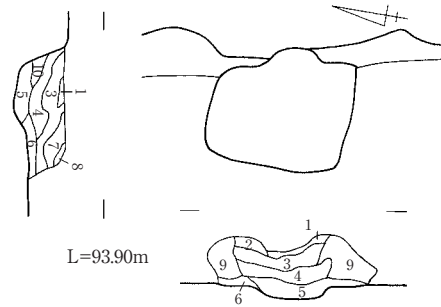
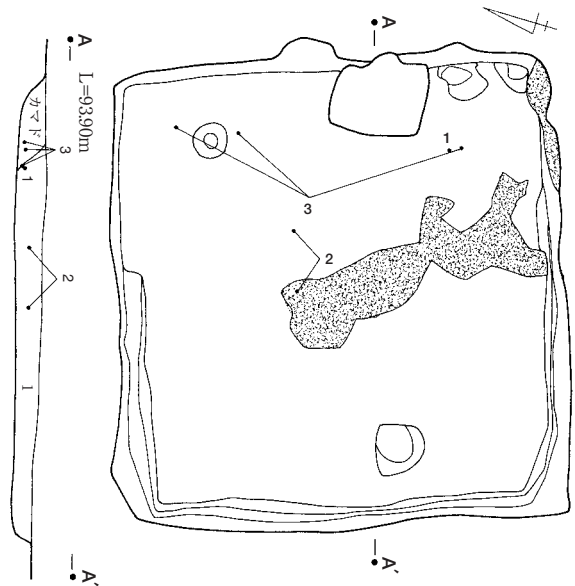


- 1 黄褐色 ローム粒を含む
- 2 黄褐色 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層
- 3 暗褐色 炭化物を多く含み、焼土も含む砂質粘土層
- 4 暗黄褐色 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層
- 5 暗黄褐色 焼土粒・ロームブロック・炭化物を含む砂質粘土層
- 6 黄褐色 砂質粘土層
- 7 暗褐色 ローム粒を含む砂質粘土層
- 8 暗褐色 ローム粒・炭化物を含む砂質粘土層
- 9 暗褐色 焼土粒・ローム粒・炭化物を含む砂質粘土層
- 10 暗赤褐色 粘土・焼土粒・炭化物のまざりあう層
- 11 極暗赤褐色 砂質粘土・焼土粒のまざりあう層
- 12 黒褐色 砂質粘土・焼土粒・炭化物を含む

L=94.30m

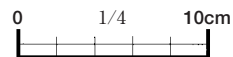
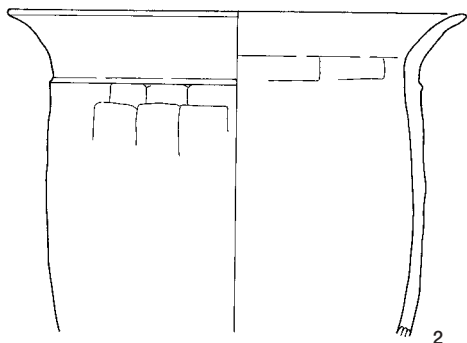
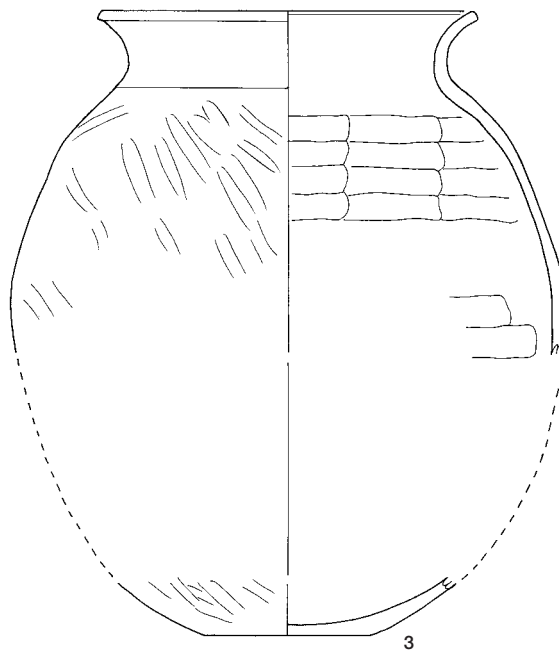
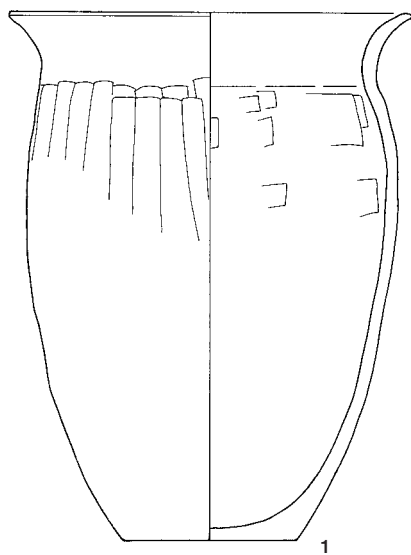
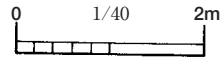
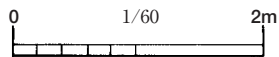


第56図 37号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



- |    |       |                      |
|----|-------|----------------------|
| 1  | 黄褐色   | 焼土粒を含む砂質粘土層          |
| 2  | 黄褐色   | 砂質粘土層                |
| 3  | 灰褐色   | 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層      |
| 4  | 極暗赤褐色 | 砂質粘土・焼土粒・炭化物・灰を含む    |
| 5  | 黒褐色   | ローム粒・炭化物を含む          |
| 6  | 灰褐色   | 砂質粘土・焼土粒・ローム粒・炭化物を含む |
| 7  | 黄褐色   | 焼土粒を含む砂質粘土層          |
| 8  | 灰褐色   | 砂質粘土層                |
| 9  | 黄褐色   |                      |
| 10 | 灰褐色   | 砂質粘土・ローム粒・炭化物を含む     |

1 黒褐色 焼土・炭化物・砂質粘土を含む



第57図 38号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物

壁中央。

出土遺物 1は土師器の坏。2は土師器の甕，底部外面に木葉痕様のヘラ書きが見られる。

43号住居跡・79号住居跡 (第62図)

調査区の南側中央に位置している。43号住居跡は北東隅で79号住居跡と重複している。2軒とも遺構の遺存状態が良くない。

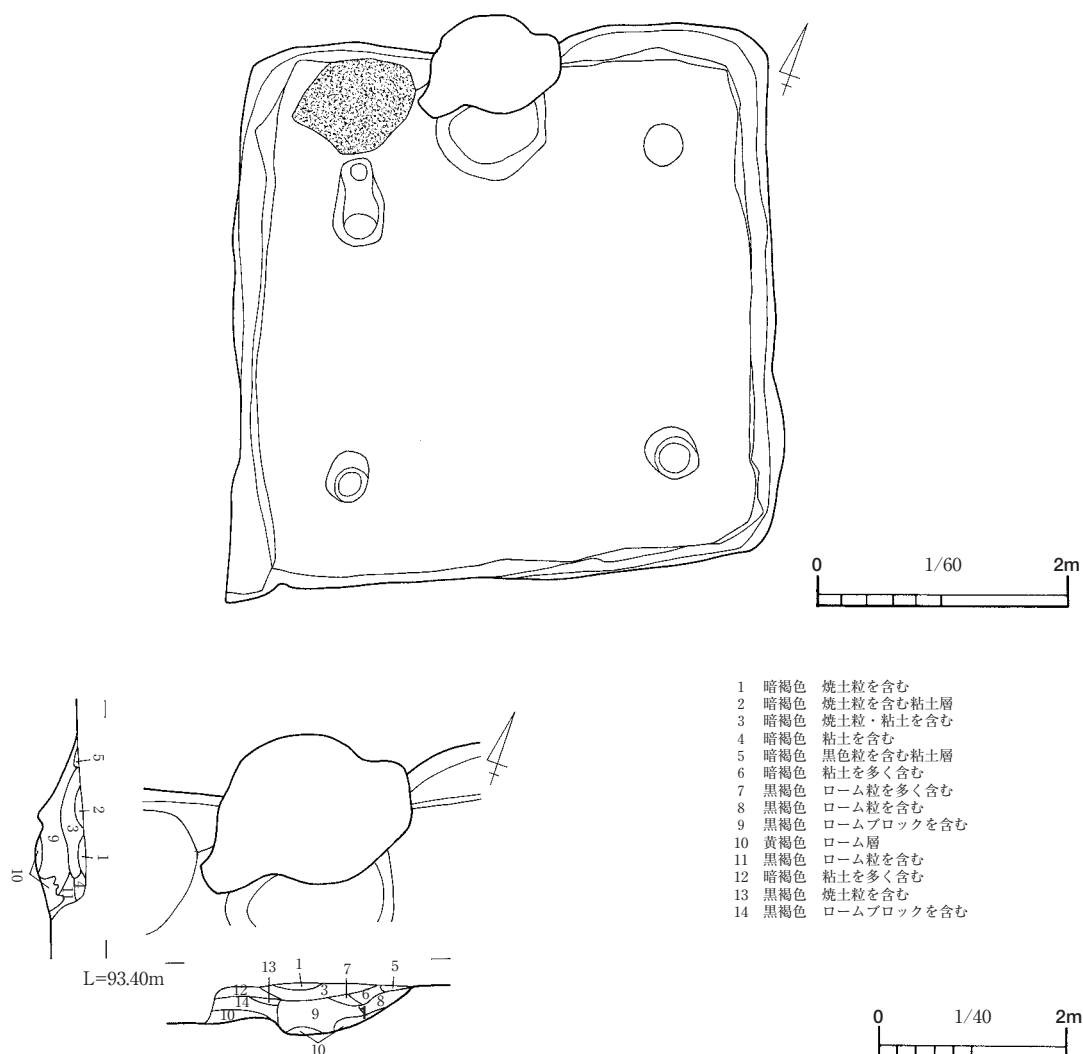
43号住居跡

形態は方形と推測される。規模(3.36)×2.22m。主軸方向N-18° 30' -W。柱穴3本。カマドは北壁。

出土遺物について，1・6・10は79号住居跡の遺物である。2は須恵器の坏。3は土師器の坏。4・5・7~9は土師器の坏，9は底部外面に墨書がある。「万(得)」か。11は布目瓦。

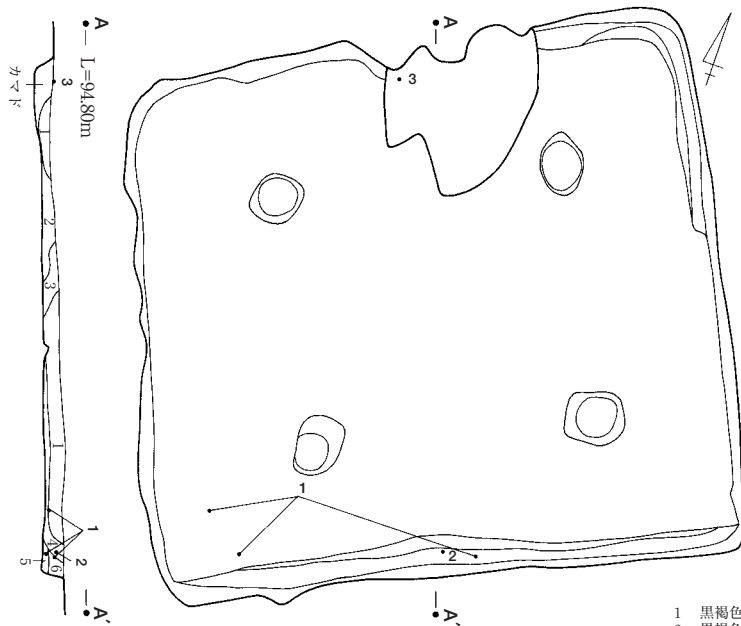
79号住居跡

形態は方形を呈している。規模2.92×2.60m。主軸方向N-100° 0' -W。柱穴2本。カマドは西壁中央。

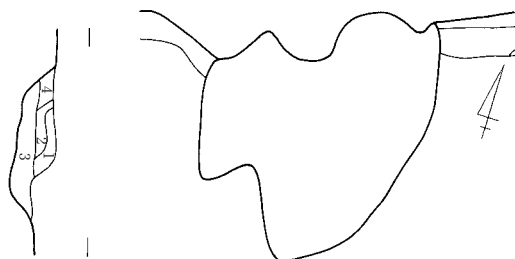
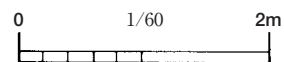


第58図 39号住居跡実測図・カマド実測図



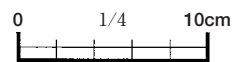
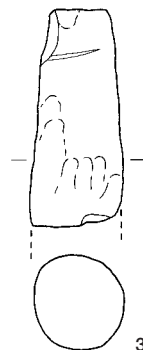
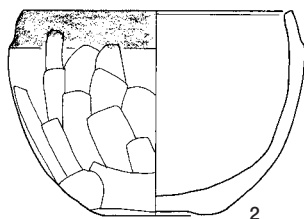
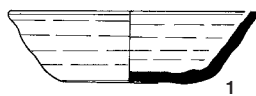
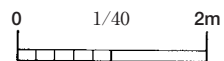


- 1 黒褐色 ローム粒・ロームブロック・焼土を含む
- 2 黒褐色 ローム粒を含む
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土・砂質粘土を含む
- 4 暗褐色 ローム粒・ロームブロック・砂質粘土を含む
- 5 暗褐色 ローム粒・ロームブロック・焼土を含む
- 6 暗褐色 ローム粒・焼土・炭化物を含む

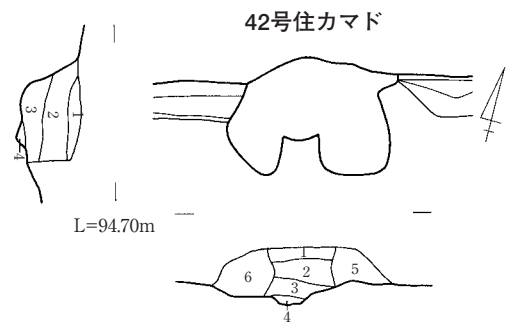
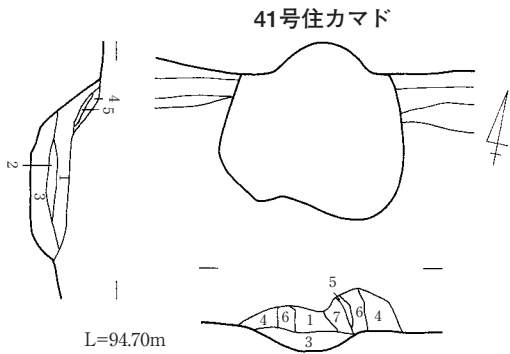
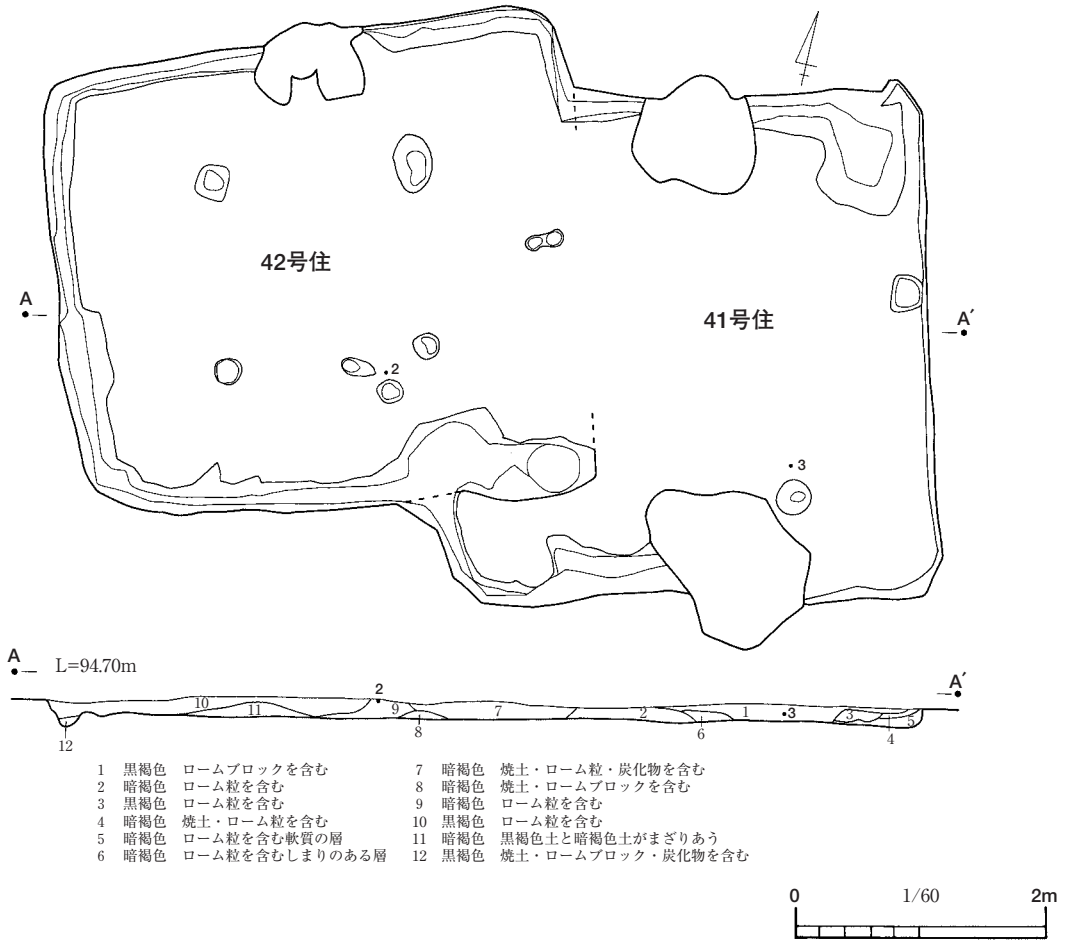


L=94.70m

- 1 灰褐色 砂質粘土と焼土粒が混ざりあう
- 2 暗赤褐色 ロームブロック・砂質粘土を含む焼土層
- 3 黄褐色 砂質粘土とロームブロックが混ざりあう
- 4 暗褐色 焼土粒・ローム粒を含む砂質粘土層
- 5 黄褐色 砂質粘土層
- 6 黄褐色 焼土ブロック・ロームブロックを含む砂質粘土層
- 7 暗褐色 ロームブロックを含む砂質粘土層
- 8 暗褐色 焼土ブロック・ロームブロック・砂質粘土を含む
- 9 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土を含む

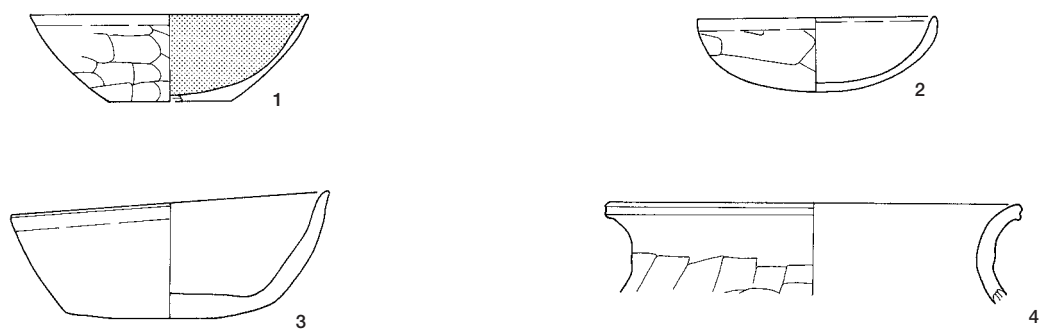


第59図 40号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



第60図 41号・42号住居跡実測図・カマド実測図

41号住



42号住



第61図 41号・42号住居跡出土遺物

出土遺物 1は須恵器の坏。6は土師器の坏。10は須恵器の甕。

44号住居跡 (第63図)

調査区の南側中央に位置している。遺存状態が良くない。

形態は台形と推測される。規模3.24×(2.50)m。主軸方向N-92°0′-W。柱穴なし。カマドは西壁。

出土遺物 1～3は土師器の坏, 2は底部外面に墨書があるが判読できない。4は土師器の甕。5は布目瓦。

45号住居跡 (第64図)

調査区の中央やや北寄りに位置している。

形態は方形を呈している。規模4.85×4.44m。主軸方向N-64°0′-E。柱穴5本。カマドは2基, 北壁中央と, 東壁中央に構築されている。床面の北東側に砂の堆積が確認された。

出土遺物 1は土師器の坏。2は蛇紋岩製敲石。

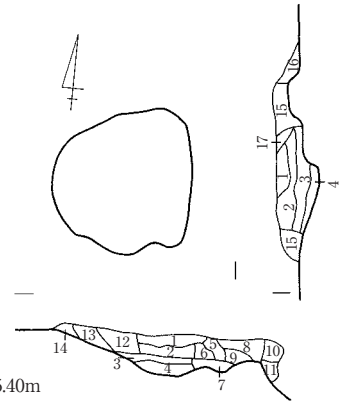
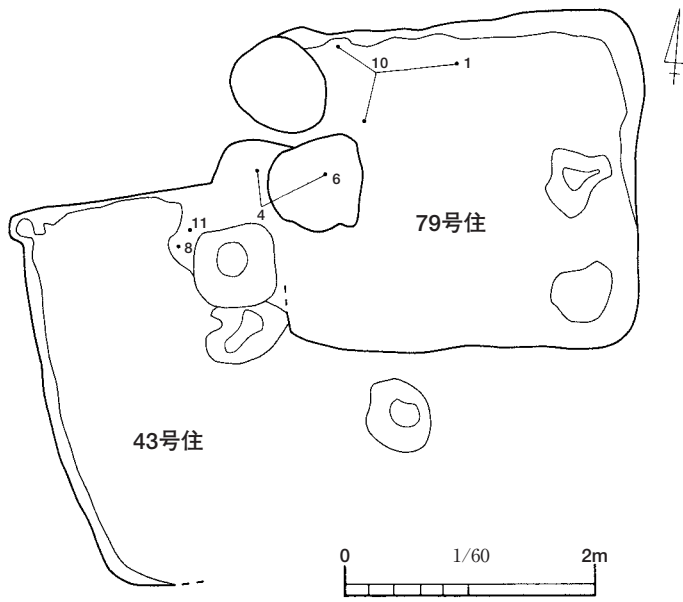
46号住居跡 (第65図)

調査区の中央に位置している。

形態は方形を呈している。規模5.18×5.00m。主軸方向N-59°0′-E。柱穴4本。カマドは東壁中央。

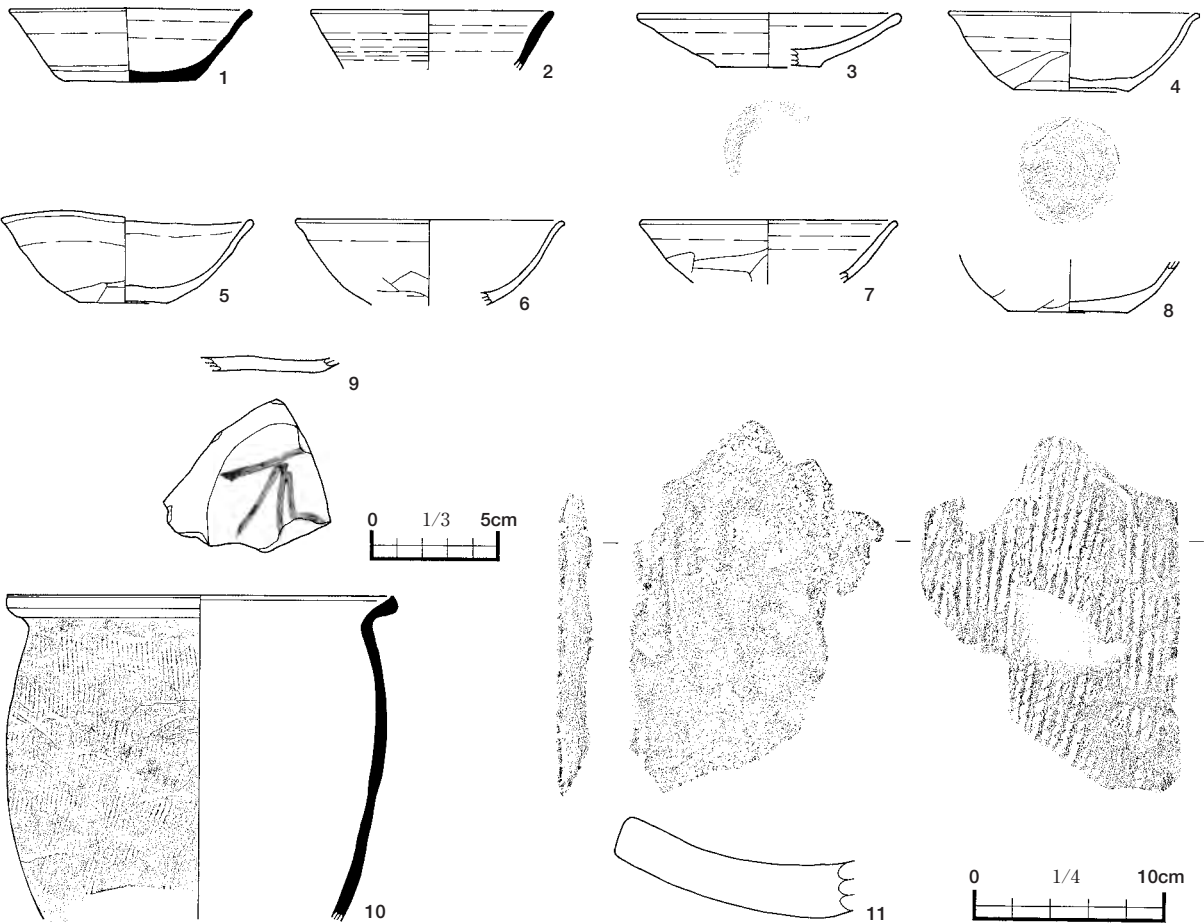
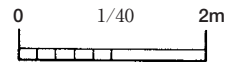
出土遺物 1は須恵器の蓋。2は須恵器の小型壺。

47号住居跡 (第66図)

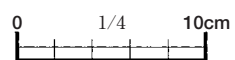
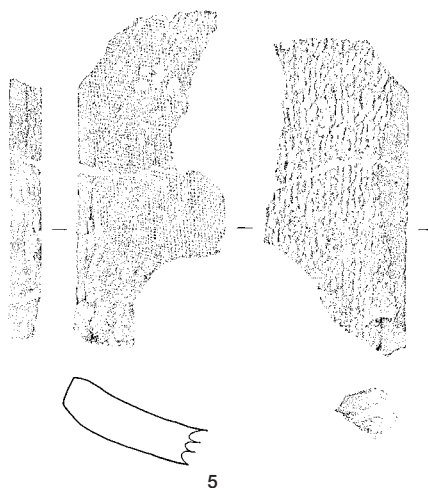
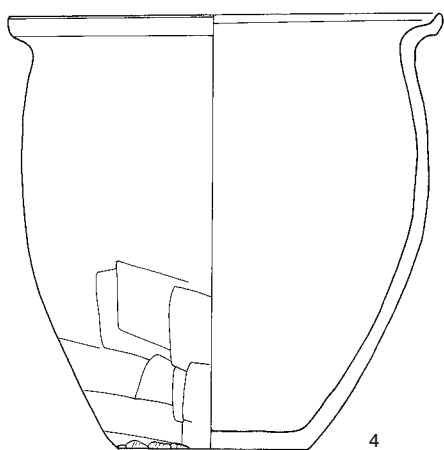
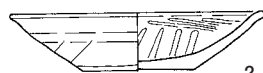
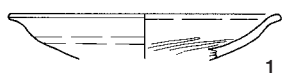
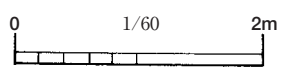
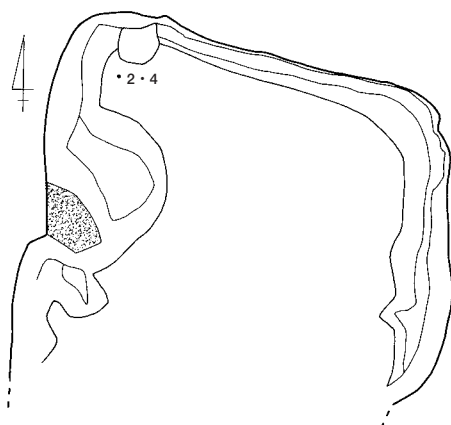


L=95.40m

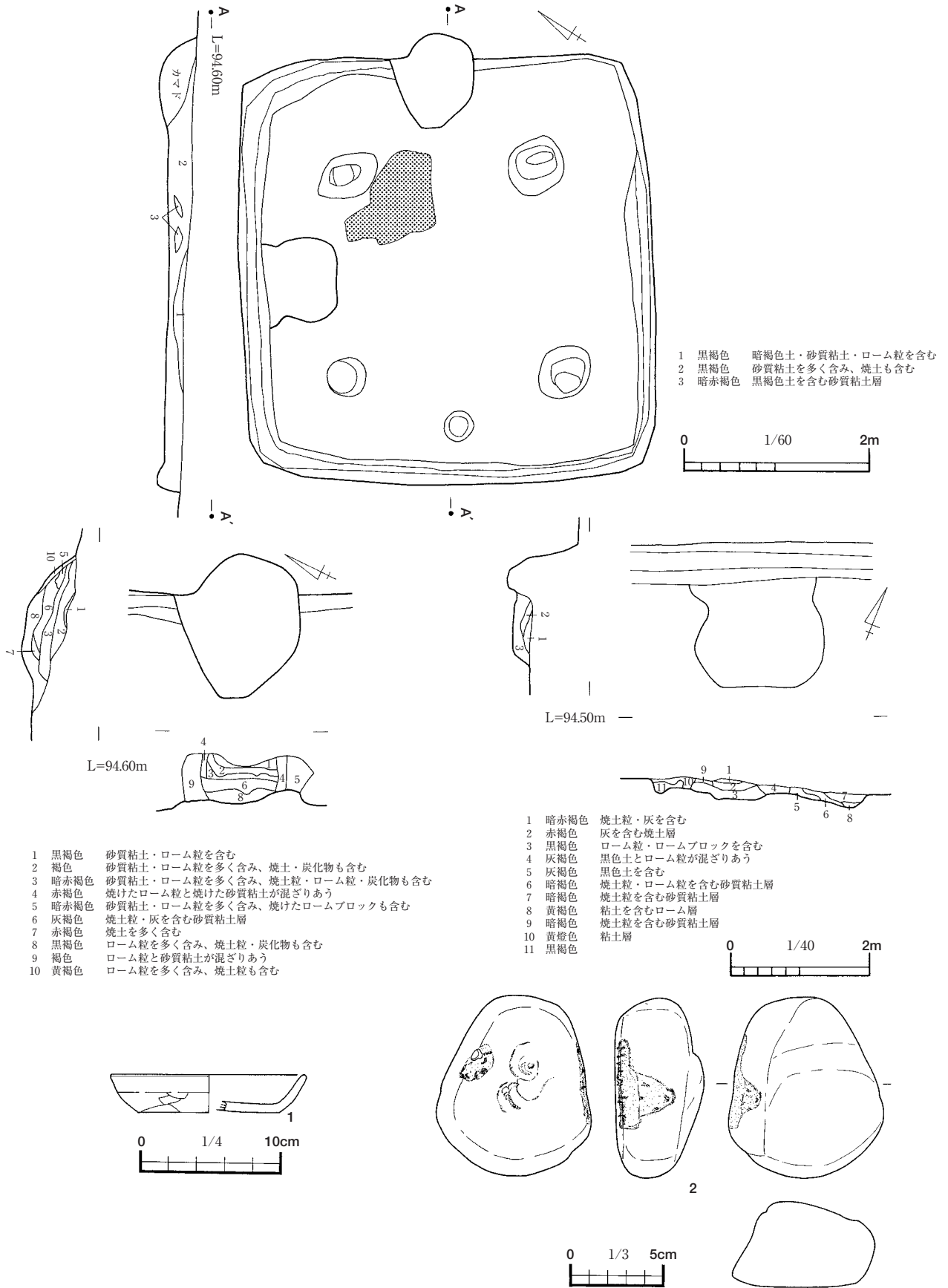
- |    |      |                      |
|----|------|----------------------|
| 1  | 暗褐色  | 焼土粒を含む砂質粘土層          |
| 2  | 暗褐色  | 灰・炭化物を含む             |
| 3  | 暗赤褐色 | 焼土粒を多く含み、灰も含む        |
| 4  | 暗褐色  | 焼けたローム粒を含む           |
| 5  | 黒褐色  | 炭化物を多く含み、焼土も含む       |
| 6  | 暗褐色  | 灰・焼土粒を含む             |
| 7  | 暗赤褐色 | 粘土・ローム粒を含む焼土層        |
| 8  | 灰褐色  | 焼土粒・ローム粒・炭化物を含む砂質粘土層 |
| 9  | 灰褐色  | 焼土粒を多く含む             |
| 10 | 暗褐色  | 焼土粒を含む               |
| 11 | 暗褐色  |                      |
| 12 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・灰を含む          |
| 13 | 暗褐色  | 焼土粒・灰を含む粘土層          |
| 14 | 暗褐色  |                      |
| 15 | 黄褐色  |                      |
| 16 | 暗褐色  | 砂質粘土層                |
| 17 | 黒褐色  | 焼土粒を含む               |



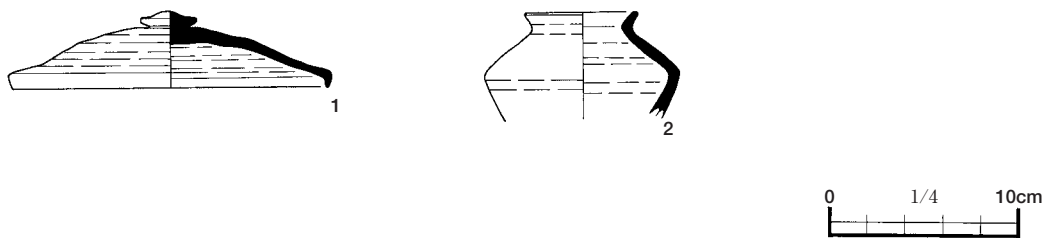
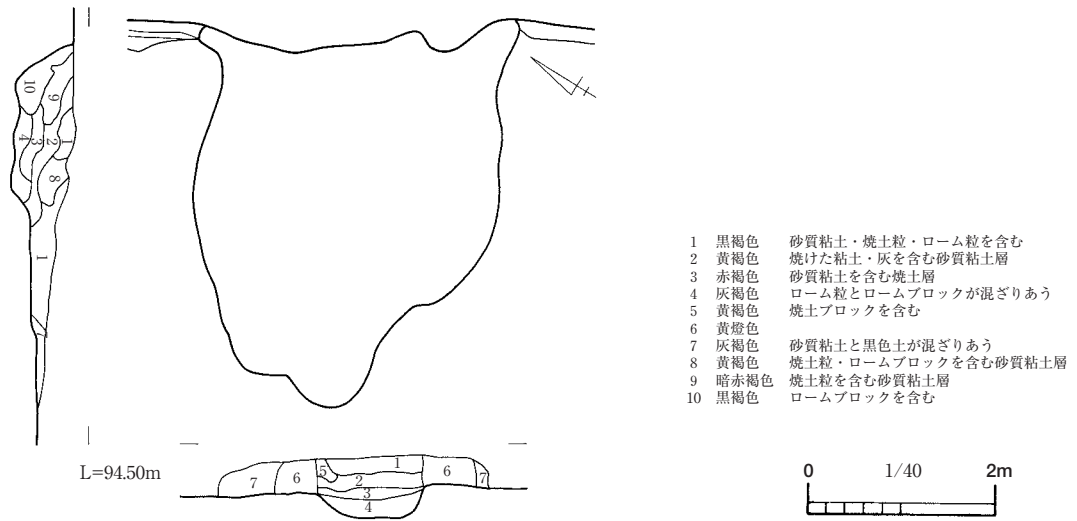
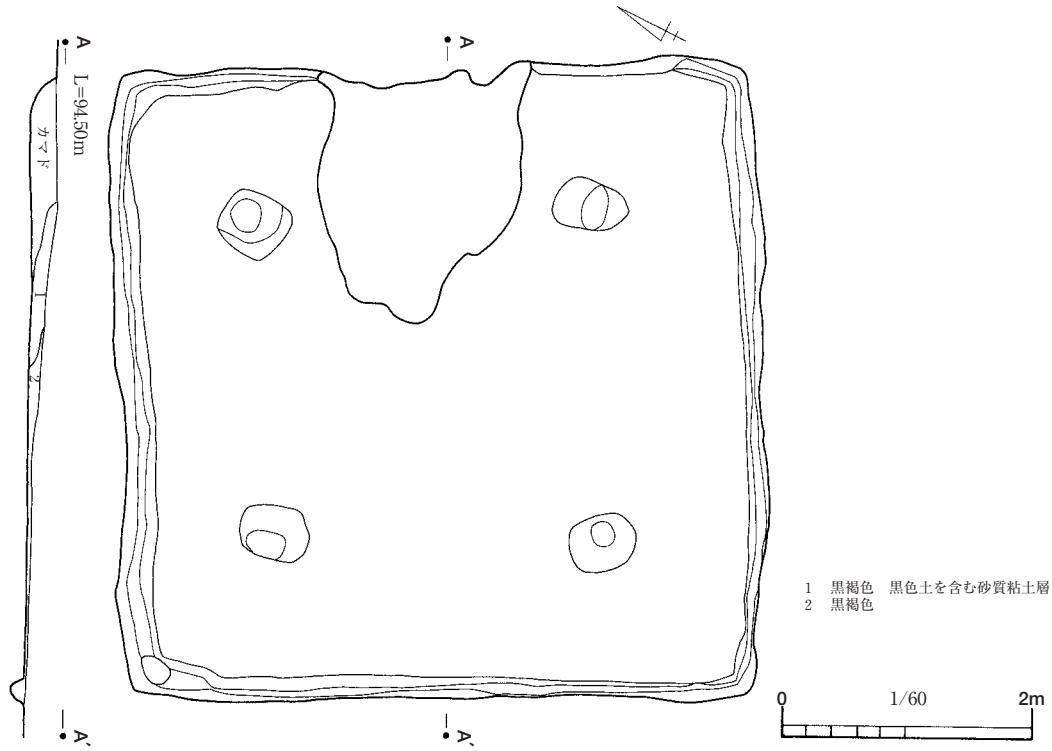
第62図 43号・79号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



第63図 44号住居跡実測図・出土遺物

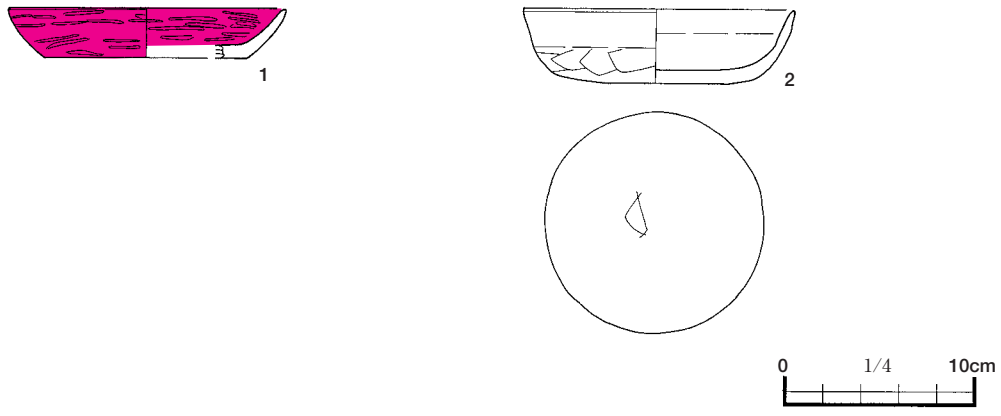
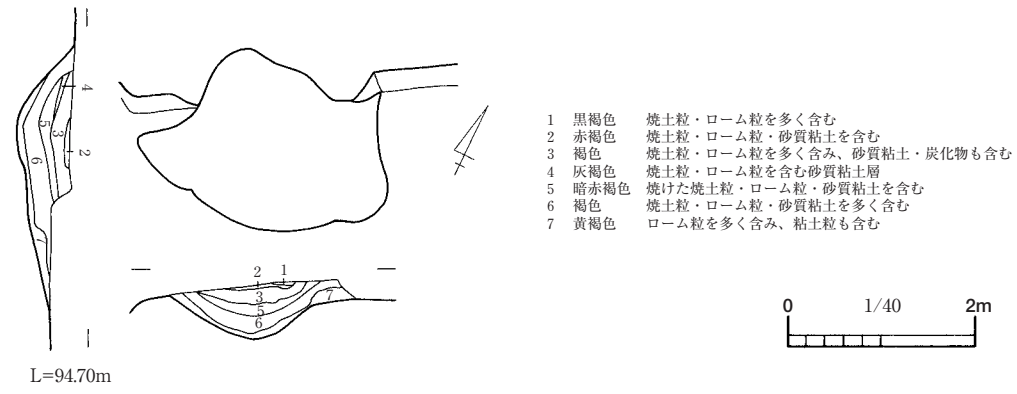
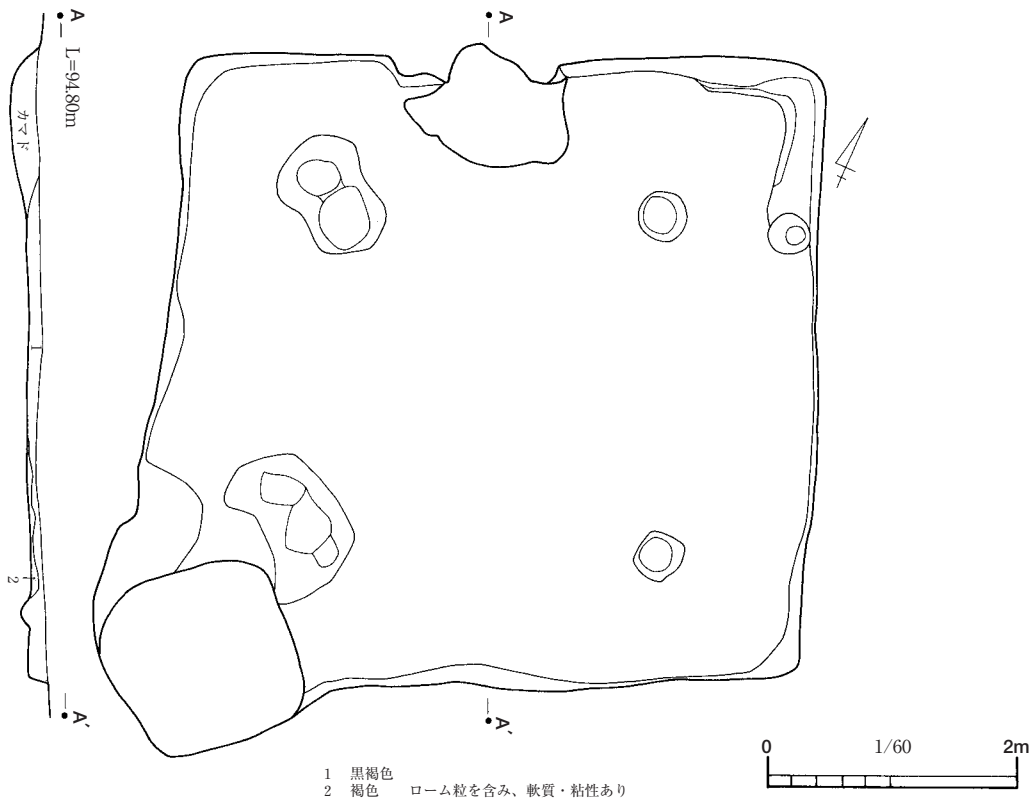


第64図 45号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



第65図 46号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物





第66図 47号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物

調査区の中央に位置している。西南隅に攪乱土壌が重複している。

形態は方形を呈している。規模5.18×5.10m。主軸方向N-26° 30′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1・2は土師器の坏, 1は内外面赤彩。2は底部外面に線刻がある。

48号住居跡・62号住居跡 (第67・第68図)

調査区の東側中央に位置している。48号住居跡は南東側で62号住居跡と重複している。62号住居跡は南東側で11号掘立柱建物跡と重複している。

48号住居跡

形態は方形を呈している。規模4.70×4.58m。主軸方向N-40° 30′ -W。柱穴6本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は土師器の甕。2は土師器の甑。3は須恵器の瓶。4は土製羽口。

62号住居跡

形態は方形を呈している。規模5.16×(2.32)m。主軸方向N-91° 30′ -E。柱穴1本。カマドは東壁中央。

出土遺物 1は土師器の高坏。

50号住居跡 (第69図)

調査区の西側の南寄りに位置している。東壁側が消失している。

形態は方形と推測される。規模4.66×(4.14)m。主軸方向N-84° 30′ -E。柱穴1本。カマドは東壁側中央。床面上2ヶ所で白色粘土堆積が確認された。土器製作等に伴うものか。

出土遺物 1は須恵器の坏。2～6は土師器の坏, 2は側面に「イ(欠損)」のヘラ書きがある。7・8は土師器の甕。9は布目瓦。

51号住居跡 (第70図)

調査区の中央北寄りに位置している。遺構の遺存状態は悪い。

形態は方形と推測される。規模(5.11)×(4.98)m。主軸方向N-34° 30′ -W。柱穴4本。カマドはなし。西隅に焼土堆積が確認された。

出土遺物 1は須恵器の坏。

52号住居跡 (第71図)

調査区の南東に位置している。5号掘立柱建物跡と重複している。

形態は台形を呈している。規模4.74×4.66m。主軸方向N-10° 0′ -W。柱穴5本。カマドは北壁に2基検出された。北壁の西寄と、北壁中央にカマドが構築されている。

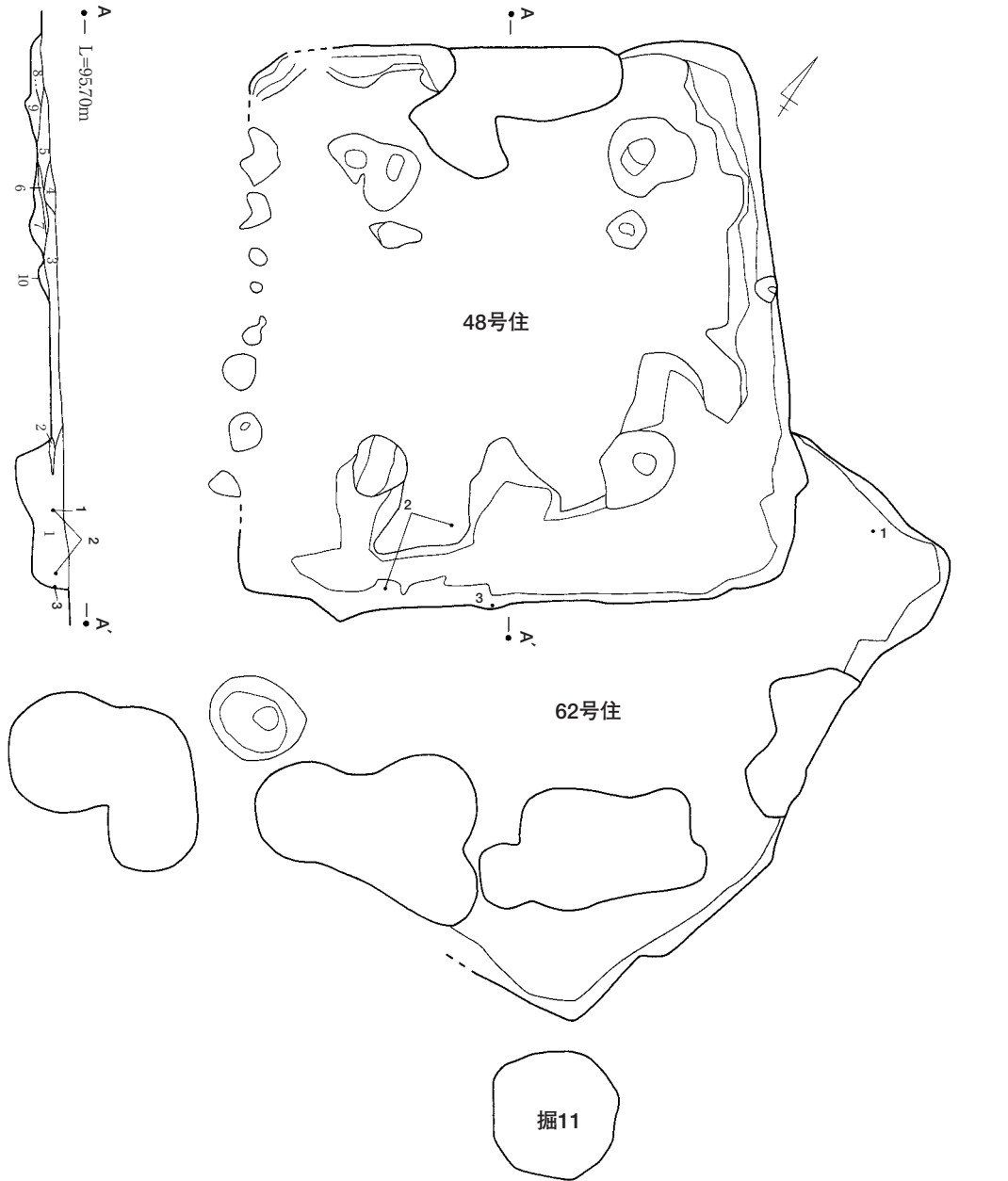
出土遺物 1は布目瓦。

53号住居跡・63-A号住居跡 (第72・第73図)

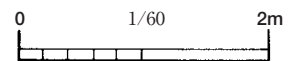
調査区の南東に位置している。53号住居跡は南東隅で63-A号住居跡と5号掘立柱建物跡と重複している。

53号住居跡

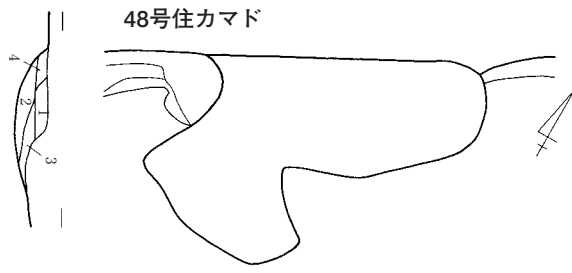
形態は方形を呈している。規模4.85×4.58m。主軸方向N-11° 0′ -W。柱穴5本。カマドは北



- 1 黒褐色 ロームブロックを多く含む
- 2 灰褐色 砂質土と黒褐色土が混ざりあう
- 3 黒褐色 ローム粒を含む
- 4 灰褐色 砂質土層
- 5 黒褐色 砂質土・焼土を多く含む
- 6 暗赤色 焼土粒を多く含む
- 7 暗褐色 ローム粒を多く含む、砂質土も含む
- 8 赤褐色 焼けた砂質土を多く含む
- 9 暗褐色 焼土を含む砂質土層
- 10 黒褐色 焼けた砂質土を多く含む



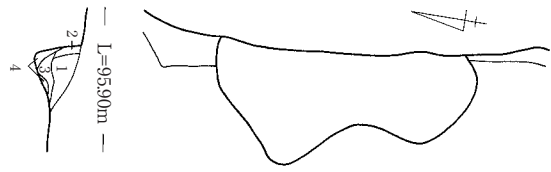
第67図 48号・62号住居跡実測図



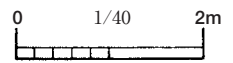
L=95.40m

- 1 赤褐色 焼土層
- 2 褐色 焼けたロームブロックを多く含む
- 3 褐色 焼けたロームブロックを多く含む、灰も含む
- 4 暗褐色 ローム粒を含む
- 5 褐色 ローム粒を含む
- 6 暗褐色 ローム粒を含む

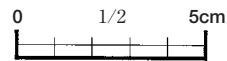
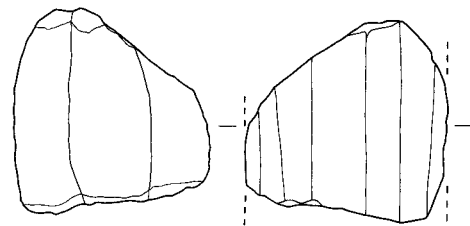
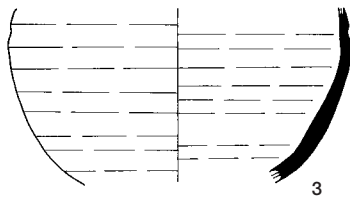
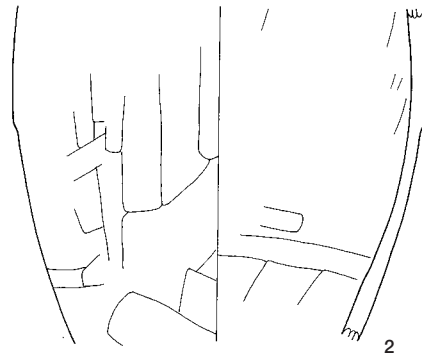
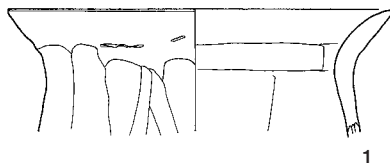
62号住カマド



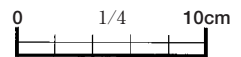
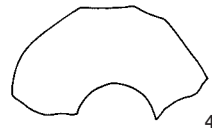
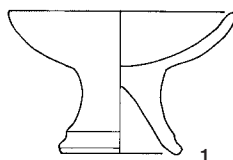
- 1 赤褐色 焼土層
- 2 暗褐色 ローム粒を含む
- 3 明褐色 ローム粒を多く含む
- 4 褐色 地山



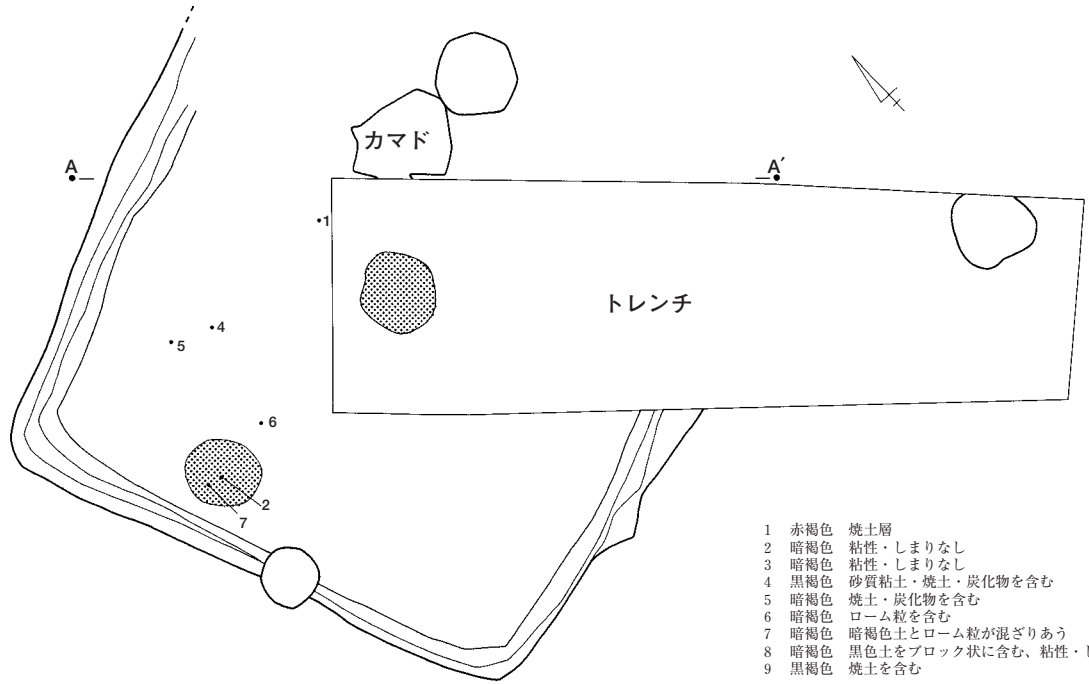
48号住



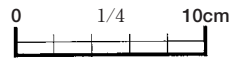
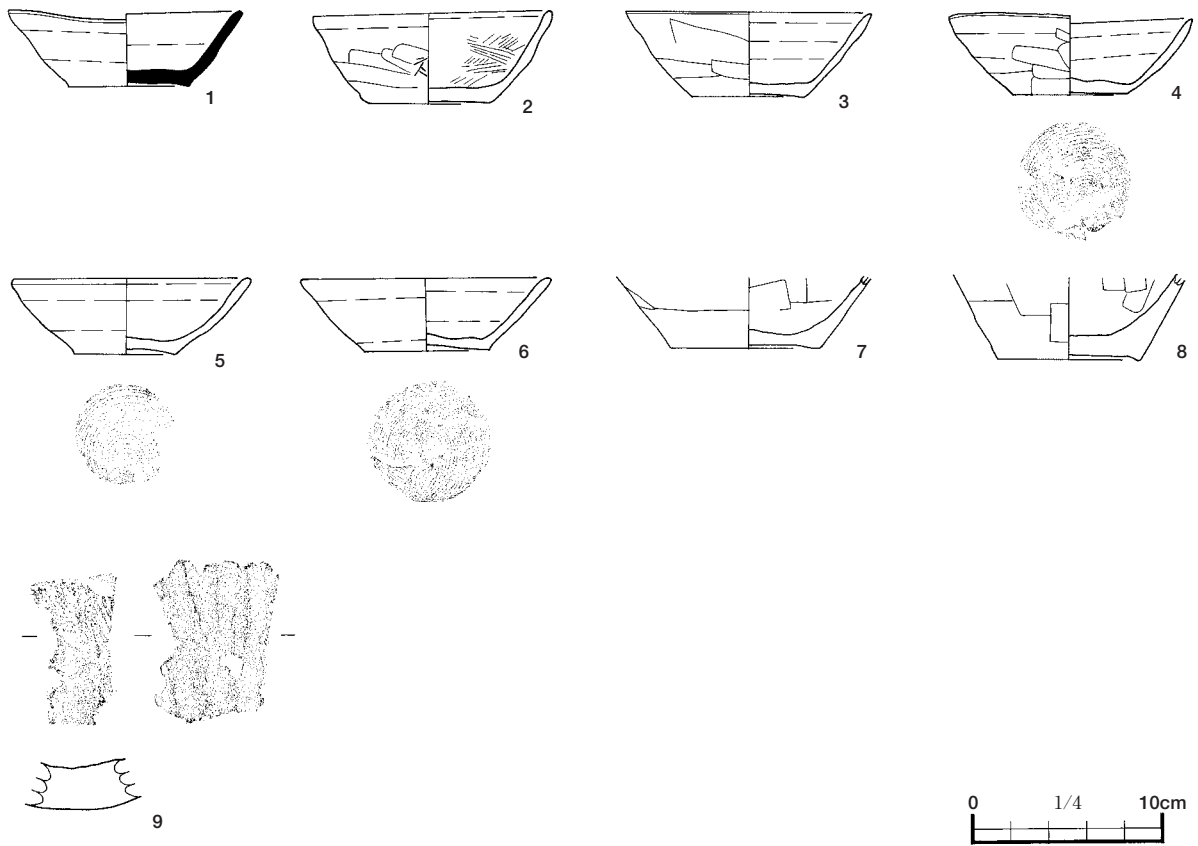
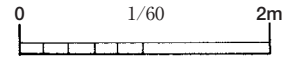
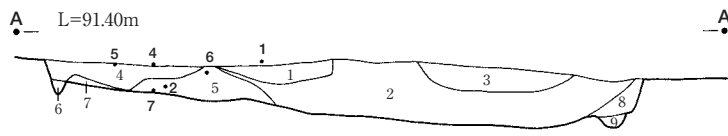
62号住



第68図 48号・62号住居跡カマド実測図・出土遺物



- 1 赤褐色 焼土層
- 2 暗褐色 粘性・しまりなし
- 3 暗褐色 粘性・しまりなし
- 4 黒褐色 砂質粘土・焼土・炭化物を含む
- 5 暗褐色 焼土・炭化物を含む
- 6 暗褐色 ローム粒を含む
- 7 暗褐色 暗褐色土とローム粒が混ざりあう
- 8 暗褐色 黒色土をブロック状に含む、粘性・しまりなし
- 9 黒褐色 焼土を含む



第69図 50号住居跡実測図・出土遺物

壁中央。

出土遺物 1は須恵器の坏。2は土師器の坏。3は鉄製品。

63-A号住居跡

形態は方形か。規模は不明。主軸方向N-9° 30′ -W。柱穴3本。カマドは北壁。

出土遺物 1は布目瓦。

54号住居跡 (第74図)

調査区の南東に位置している。遺構の東半分で攪乱土壌と重複している。

形態は方形を呈している。規模4.36×4.30m。主軸方向N-3° 0′ -E。柱穴5本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は須恵器の坏，底部外面に放射状の線刻がある。ドーマンか。2は土師器の盤，内外面赤彩。3～6は土師器の坏，3・4・6は内外面赤彩。7は土師器の小型甕。8は土師器の甕。9は土師器の甌。

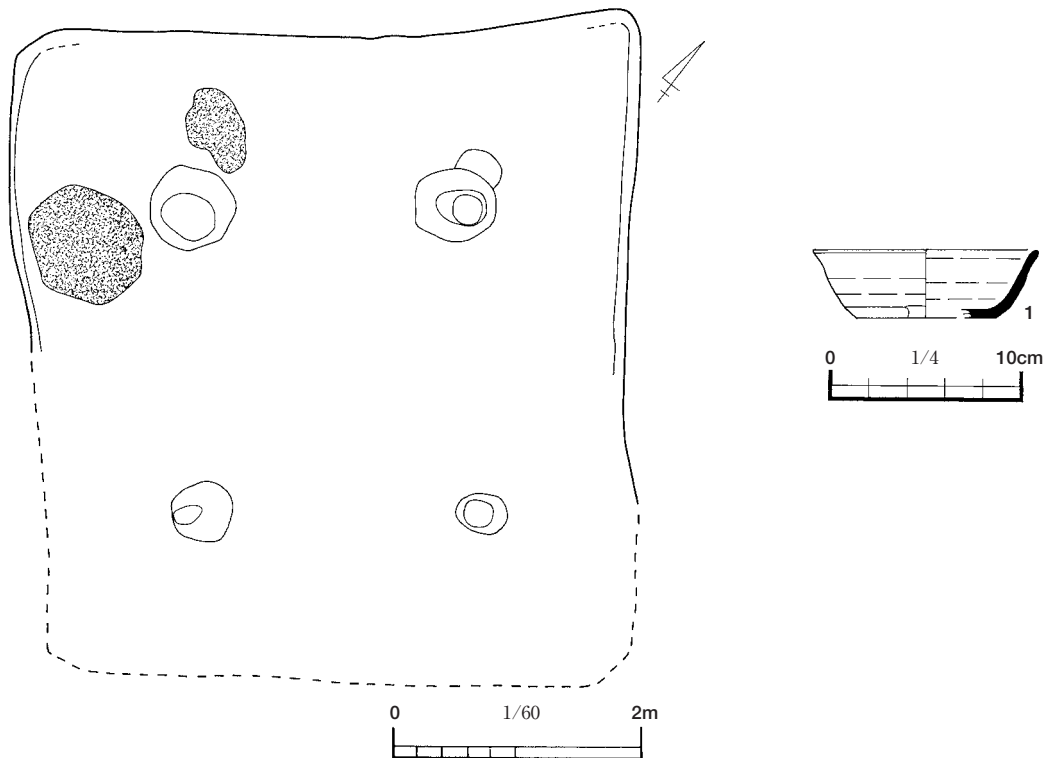
55号住居跡 (第75・第76図)

調査区の西南側に位置している，北に34号住居跡が所在している。

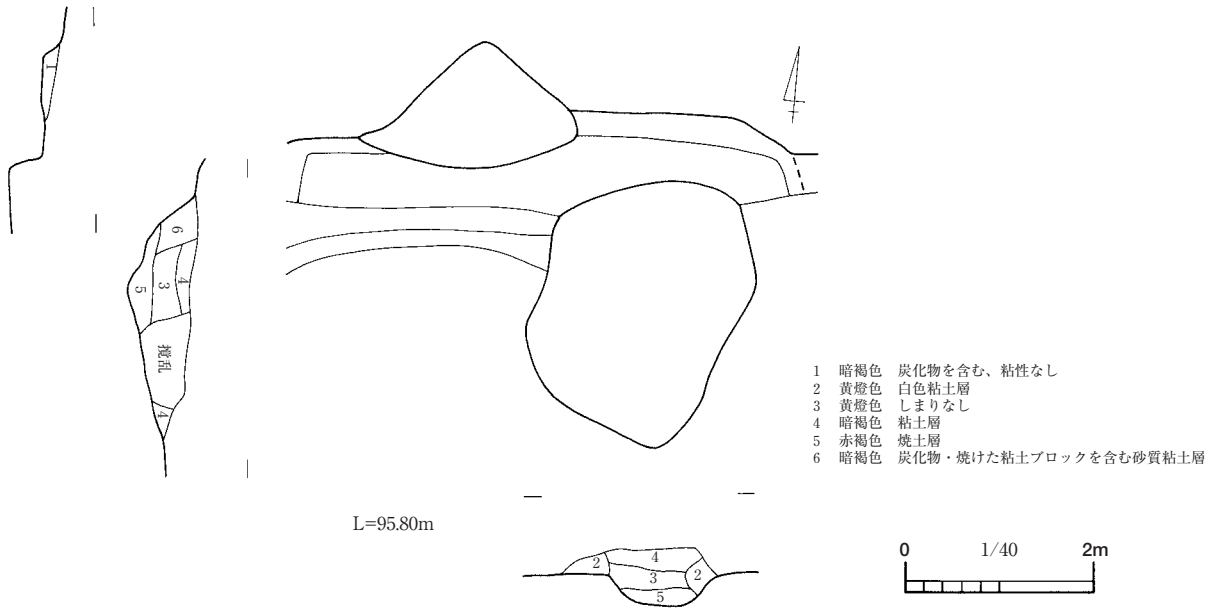
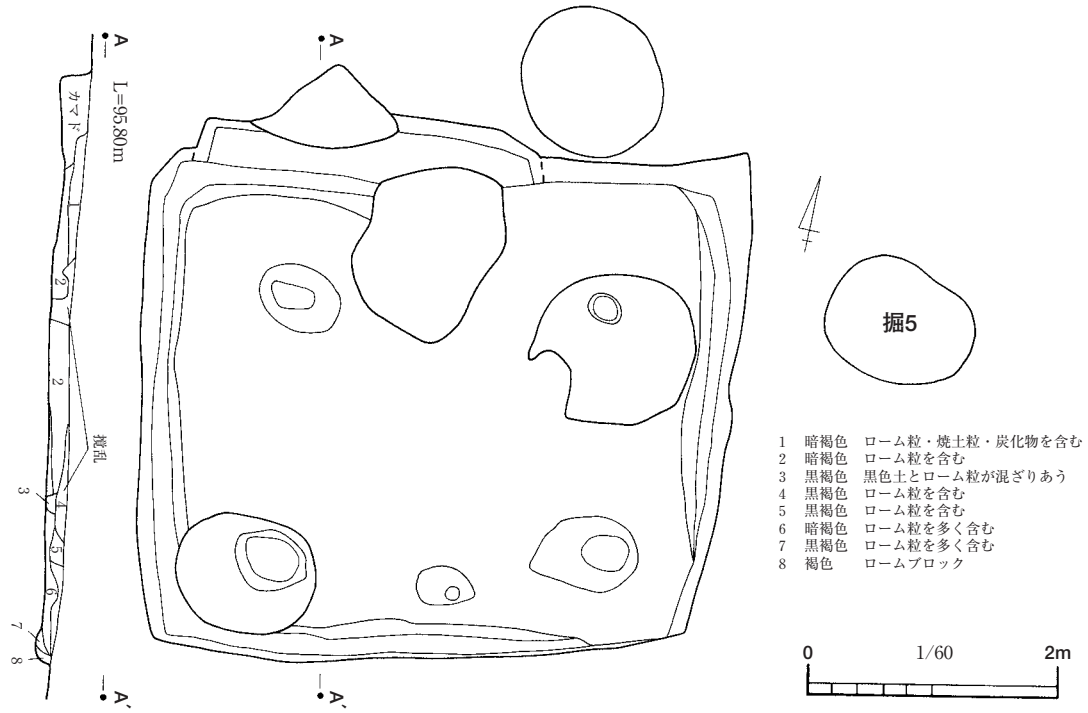
形態は方形を呈している。規模3.74×3.30m。主軸方向N-57° 30′ -E。柱穴4本。カマドは東壁中央。

出土遺物 1・2は土師器の坏，2は底部内面と側面に「#」の線刻がある。3は須恵器の甕。4～6は土師器の甕，5は外面に焼土が付着。7～9は布目瓦。

56号住居跡 (第77・第78・第79図)

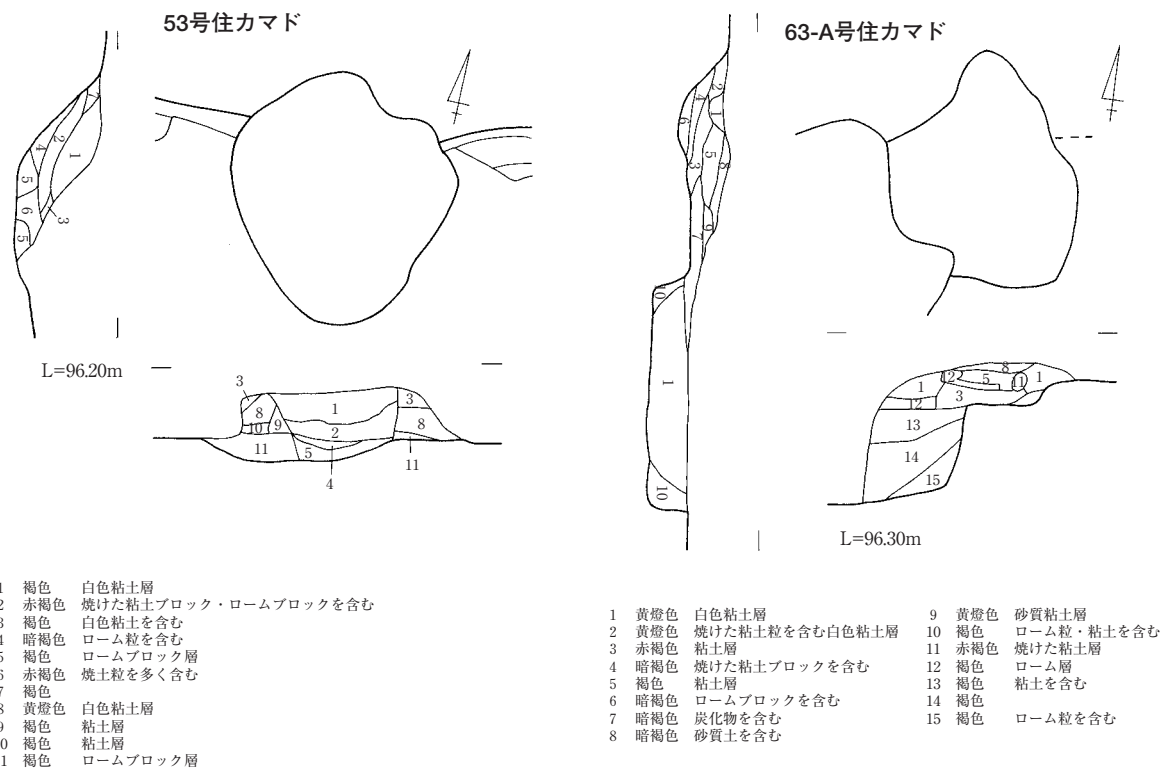
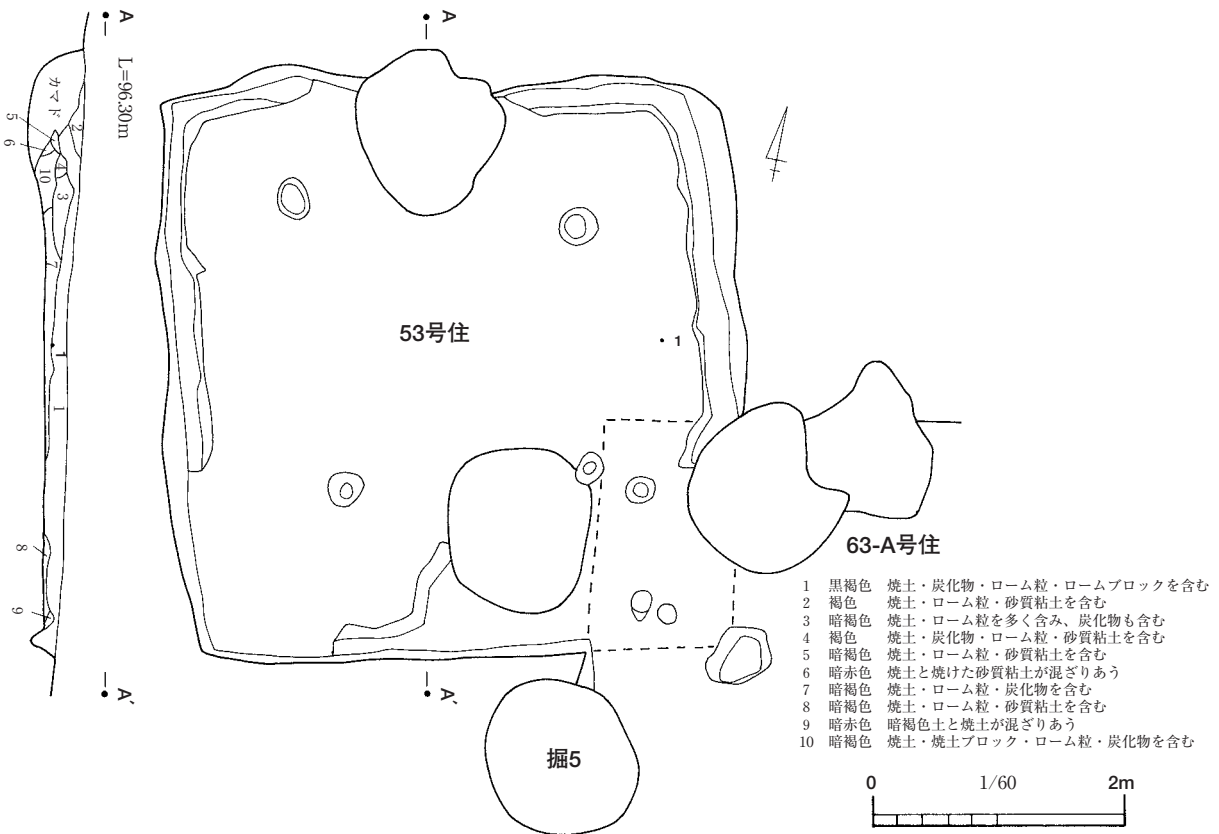


第70図 51号住居跡実測図・出土遺物



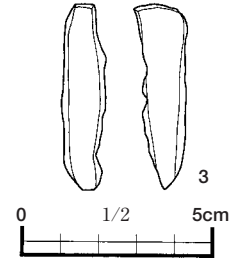
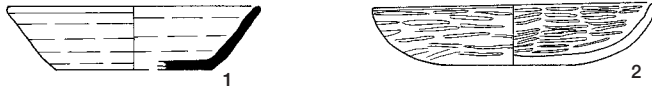
第71図 52号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



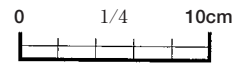
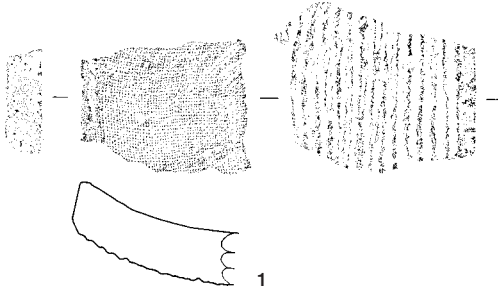


第72図 53号・63-A号住居跡実測図・カマド実測図

53号住



63-A号住



第73図 53号・63-A号住居跡出土遺物

調査区の南側に位置している。南壁側で攪乱土壌2基と10号掘立柱建物跡と重複している。形態はほぼ方形を呈している。規模7.18×6.10m。主軸方向N-9° 0′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は須恵器の蓋。2～7は須恵器の坏，4は内面にスス付着。8は土師器の小型甕。9は須恵器の甕。10・11は土師器の甕。12は軽石製浮子，1孔がみられる。13～15は布目瓦。

57号住居跡 (第80図)

調査区の南側に位置している。南壁側で攪乱土壌1基と重複している。

形態は方形を呈している。規模3.62×3.36m。主軸方向N-9° 30′ -W。柱穴2本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は土師器の甕。

58号住居跡 (第81・第82図)

調査区の南側に位置している。

形態は方形を呈している。規模4.98×3.80m。主軸方向N-5° 30′ -E。柱穴は周溝内に1本その他は攪乱である。カマドは北壁中央。床面2ヶ所に焼土堆積が確認された。

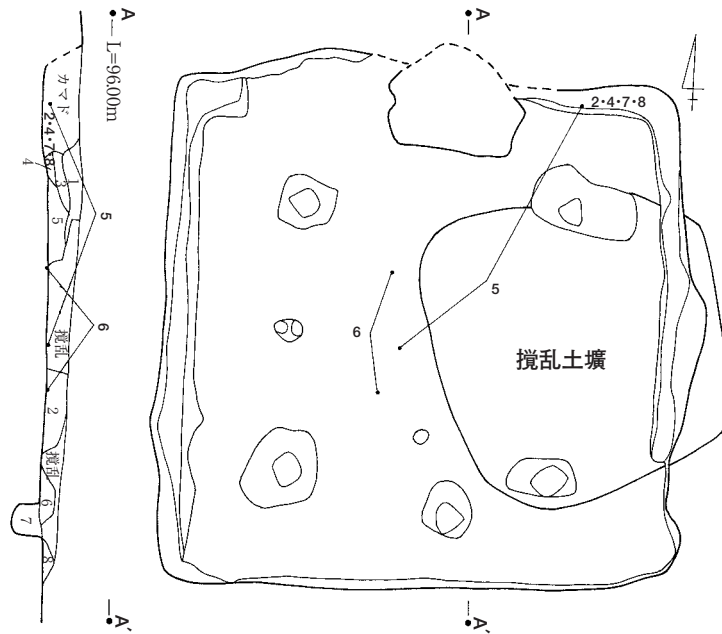
出土遺物 1・2は土師器の坏。3は土師器の大鉢。4は土師器の甕。5～7は布目瓦。そのほか鉄滓が出土している。

59号住居跡 (第83・第84図)

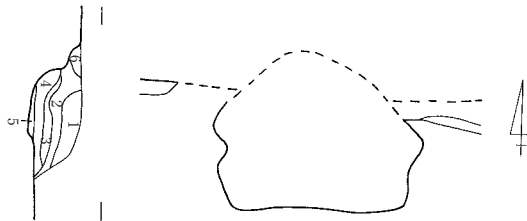
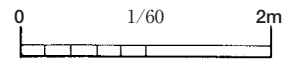
調査区の南東に位置している。遺構の西半分で4号掘立柱建物跡と重複している。

形態は方形を呈している。規模6.90×5.88m。主軸方向N-6° 30′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

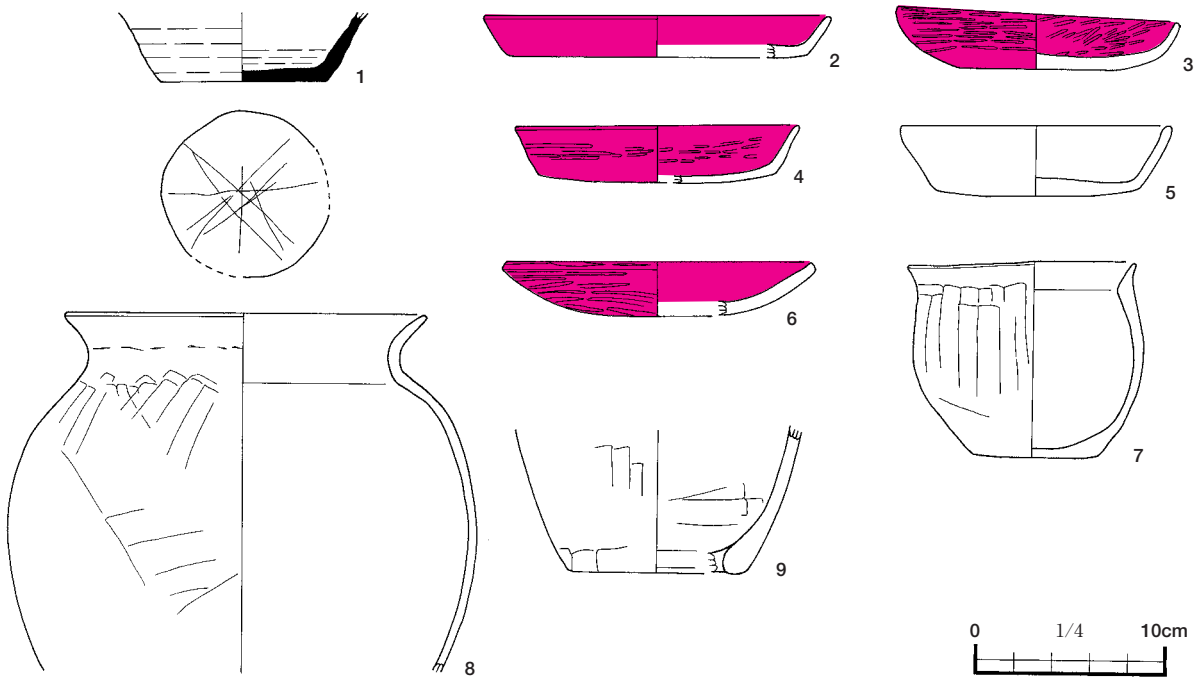
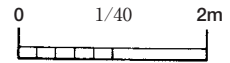
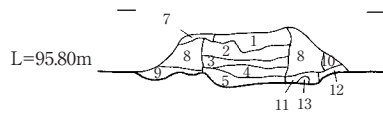
出土遺物 1は須恵器の蓋。2・3は土師器の坏。4・5は土師器の甕。そのほか鉄滓が出土している。



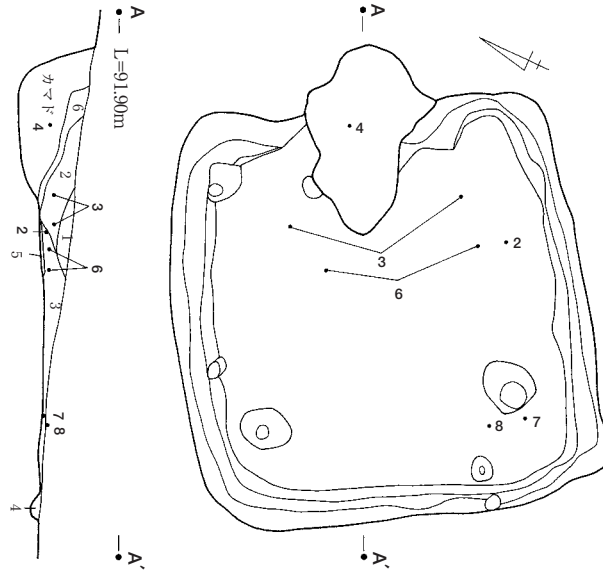
- 1 暗褐色 焼土・ローム粒を含む
- 2 暗褐色 ローム粒を多く含み、焼土も含む
- 3 暗褐色 ローム粒を多く含み、炭化物・焼土も含む
- 4 黒褐色 焼土・ローム粒・炭化物・砂質粘土を含む
- 5 暗褐色 ローム粒・焼土・炭化物を含む
- 6 暗褐色 ローム粒・焼土を含む
- 7 褐色 ローム粒・ロームブロックを多く含む
- 8 暗褐色 ローム粒を含む



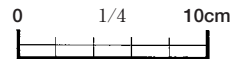
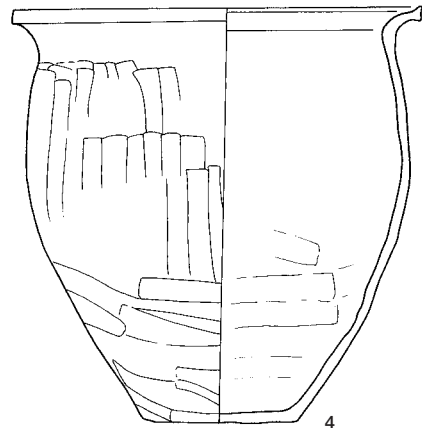
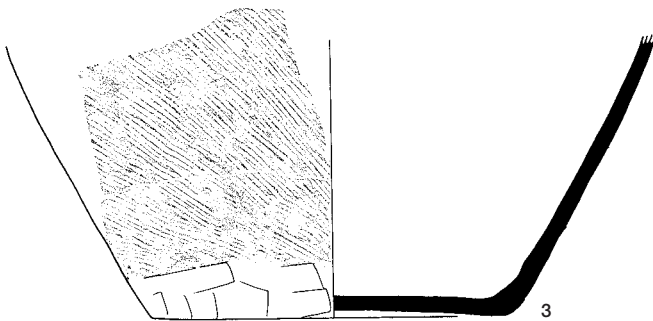
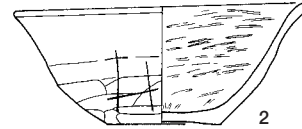
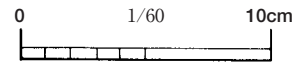
- 1 暗褐色 砂質粘土・焼土粒・焼土ブロック・ローム粒・炭化物を含む
- 2 暗赤褐色 焼土粒・炭化物・灰を含む
- 3 暗赤褐色 焼土粒・灰を含む
- 4 赤褐色 焼土・灰を多く含む
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土を含む
- 6 暗褐色 焼土粒・ローム粒・炭化物を含む
- 7 暗褐色 砂質粘土・ローム粒・炭化物を含む
- 8 黄褐色 粘土層
- 9 黒褐色 ローム粒を含む
- 10 暗褐色 砂質粘土層
- 11 暗褐色 焼土粒・ローム粒を含む砂質粘土層
- 12 黄褐色 砂質粘土とロームブロックが混ざりあう
- 13 褐色 ロームブロック



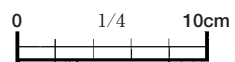
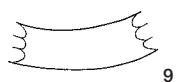
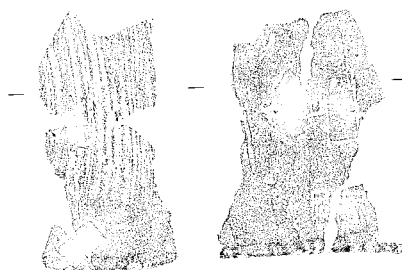
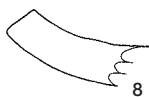
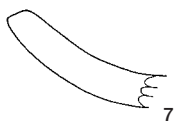
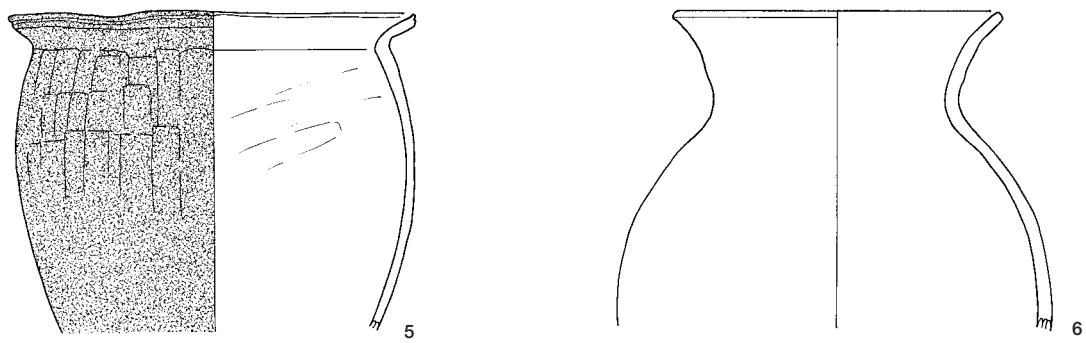
第74図 54号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



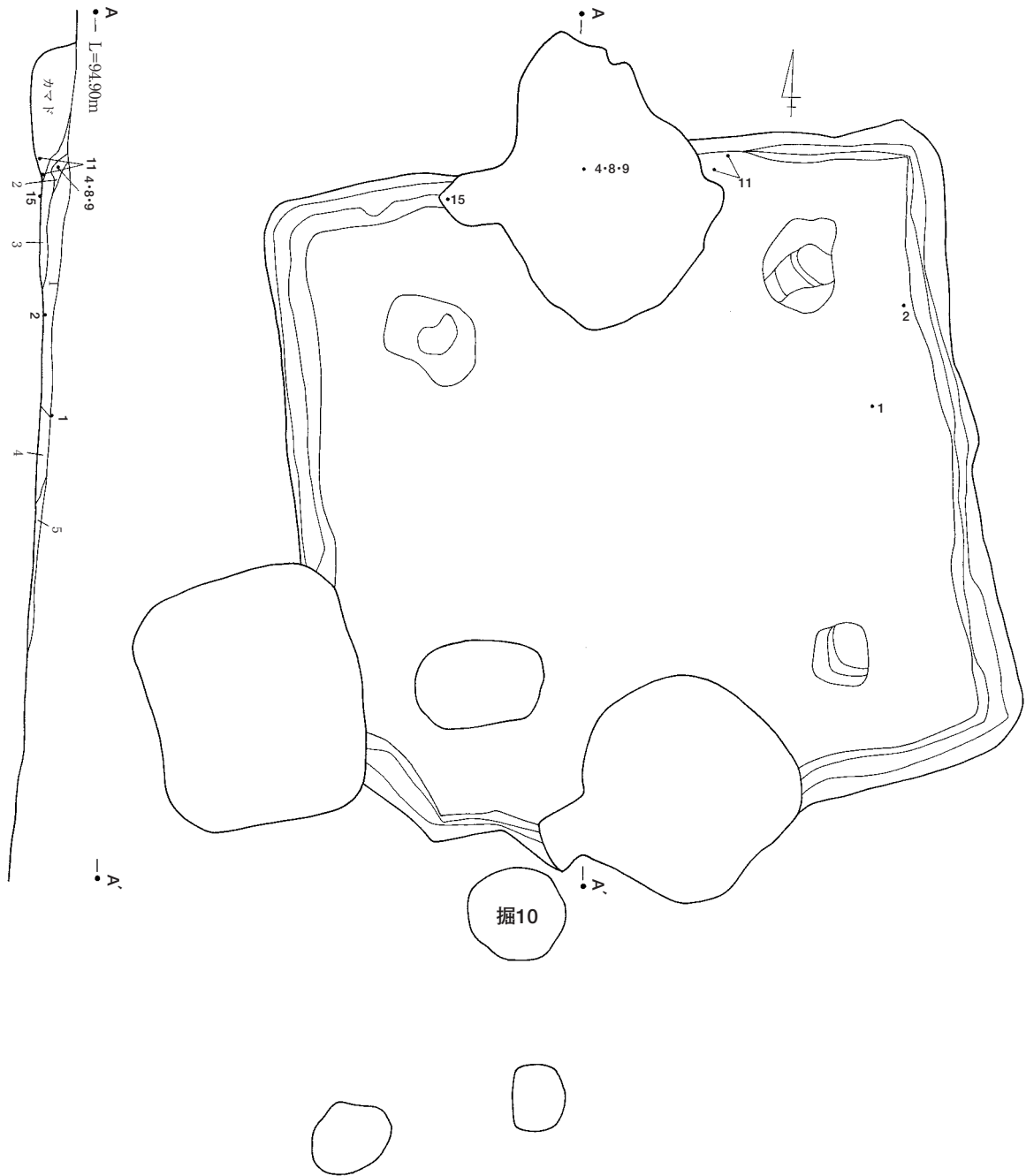
- 1 暗褐色 焼土・ローム粒を含む
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒を多く含み、砂質粘土も含む
- 3 暗褐色 焼土・ローム粒・炭化物を含む
- 4 暗褐色 ローム粒を含む
- 5 黒褐色 ローム粒・焼土・炭化物を多く含む
- 6 暗褐色 焼土・ローム粒・砂質粘土を含む



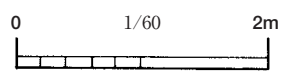
第75図 55号住居跡実測図・出土遺物(1)



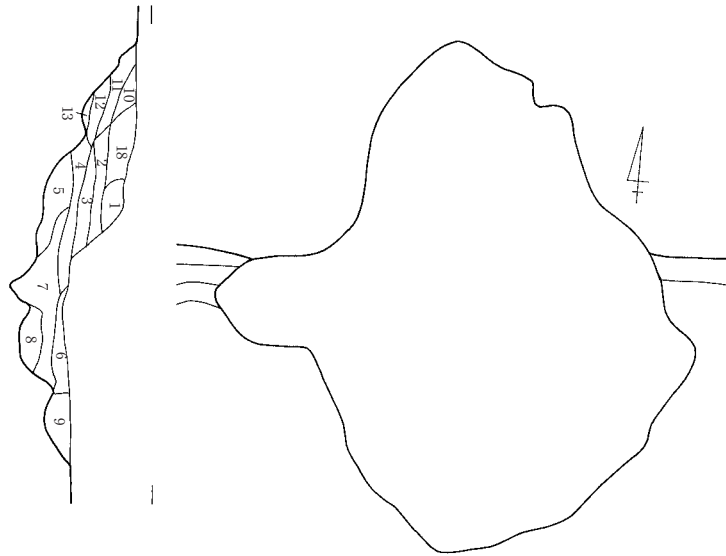
第76图 55号住居跡出土遺物(2)



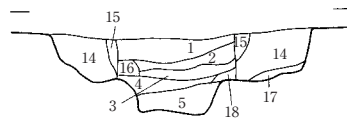
- 1 暗褐色 ローム粒・焼土・炭化物・砂質粘土を含む
- 2 暗褐色 砂質粘土を多く含み、ローム粒・焼土・炭化物も含む
- 3 暗褐色 砂質粘土を多く含み、ローム粒・焼土・炭化物・黒色土も含む
- 4 暗赤褐色 砂質粘土・焼土が混ざりあう、炭化物・ローム粒を含む
- 5 暗褐色 ローム粒・炭化物を含む



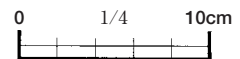
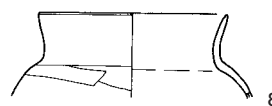
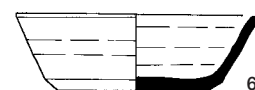
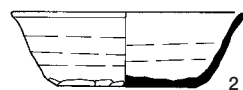
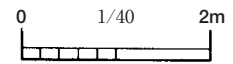
第77図 56号住居跡実測図



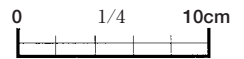
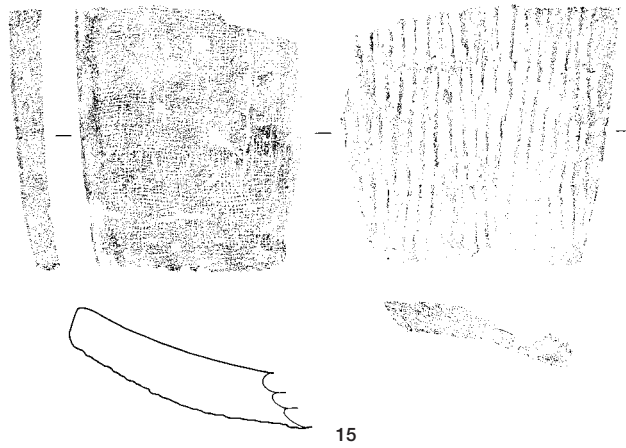
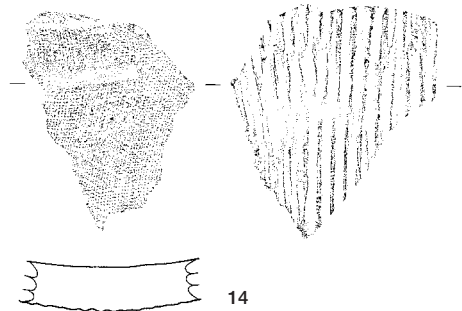
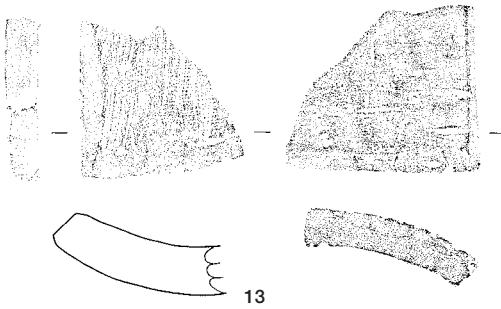
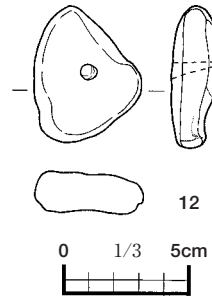
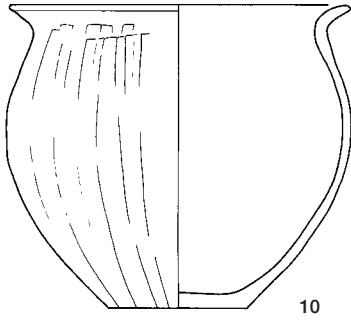
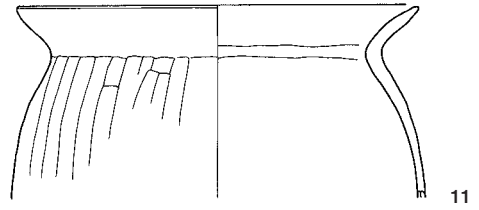
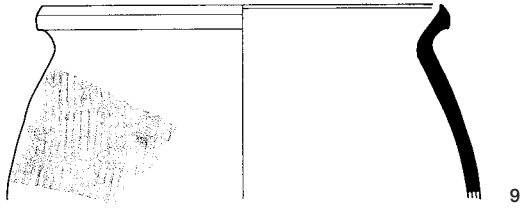
L=94.80m



- |         |                          |
|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色   | 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層          |
| 2 黒褐色   | ローム粒・焼土を多く含む             |
| 3 灰褐色   | 灰を多く含み、焼土も含む             |
| 4 赤褐色   | 炭化物を含む焼土層                |
| 5 暗赤褐色  | ロームブロックを含む焼けた砂質粘土層       |
| 6 黒褐色   | 炭化物を多く含み、焼土粒・ローム粒も含む     |
| 7 暗赤褐色  | 砂質粘土と焼土ブロックが混ざりあう        |
| 8 褐色    | 焼土粒を含むロームブロック層           |
| 9 暗褐色   | 焼土粒・ローム粒・ロームブロックを含む砂質粘土層 |
| 10 黄褐色  | 砂質粘土と焼土ブロックが混ざりあう        |
| 11 黄褐色  | 砂質粘土層                    |
| 12 黄褐色  | 焼土粒・炭化物・ローム粒を含む          |
| 13 黒褐色  | 砂質粘土・ローム粒を含む             |
| 14 黄褐色  | 砂質粘土層                    |
| 15 赤褐色  |                          |
| 16 暗赤褐色 | 焼土粒・炭化物を含む               |
| 17 黄褐色  | ローム粒を含む                  |
| 18 黄褐色  | 粘土層                      |

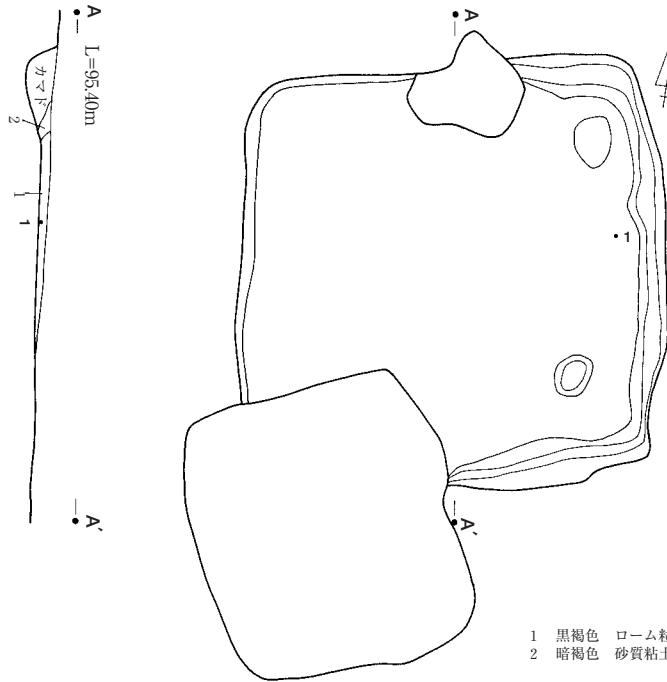


第78図 56号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物(1)

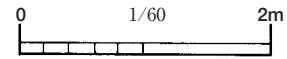


第79図 56号住居跡出土遺物(2)

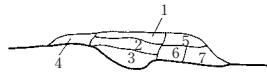




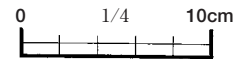
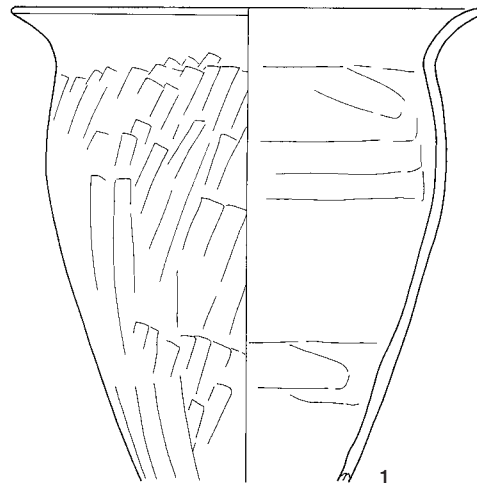
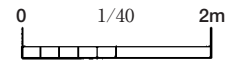
- 1 黒褐色 ローム粒・焼土・炭化物・砂質粘土を含む
- 2 暗褐色 砂質粘土を多く含み、焼土・炭化物も含む



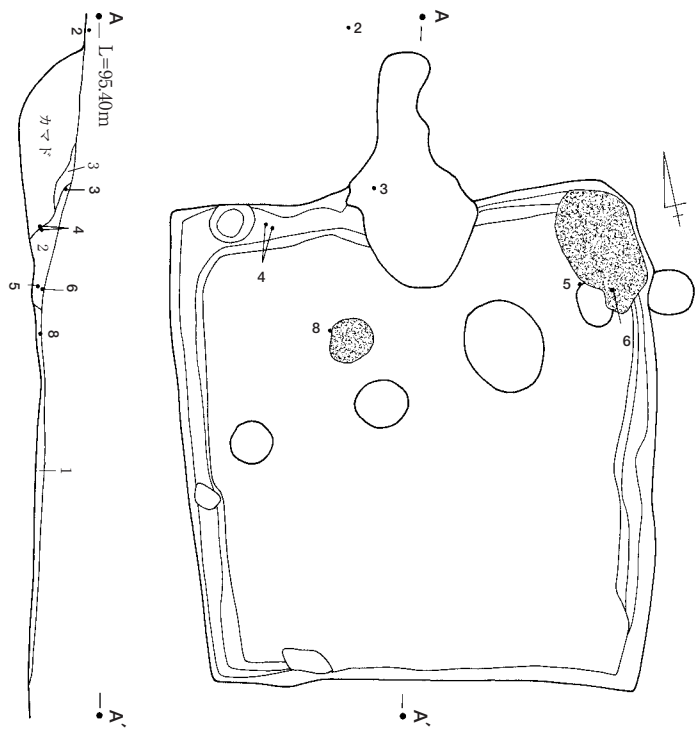
L=95.40m



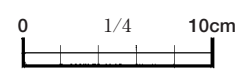
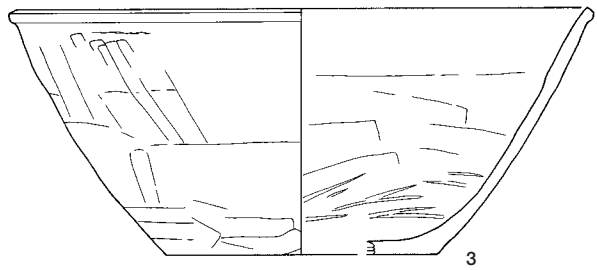
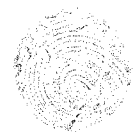
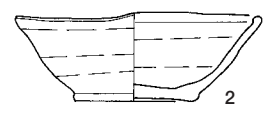
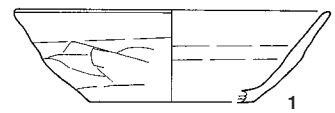
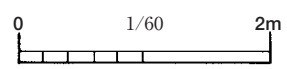
- 1 暗褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 2 暗赤褐色 焼土粒を含む
- 3 赤褐色 焼土粒・焼土ブロック・灰を含む
- 4 暗褐色 焼土粒・炭化物を含む砂質粘土層
- 5 暗褐色 焼土粒・ロームブロックを含む
- 6 暗褐色 ローム粒を含む
- 7 赤褐色 焼土粒を含む砂質粘土層
- 8 暗褐色 焼土粒・ローム粒を含む



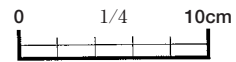
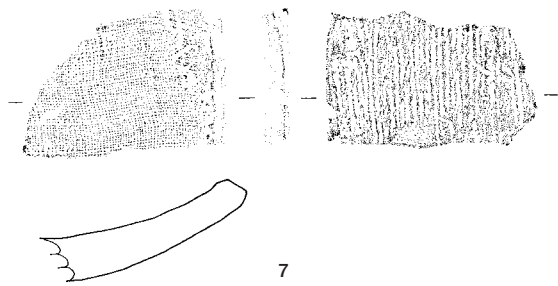
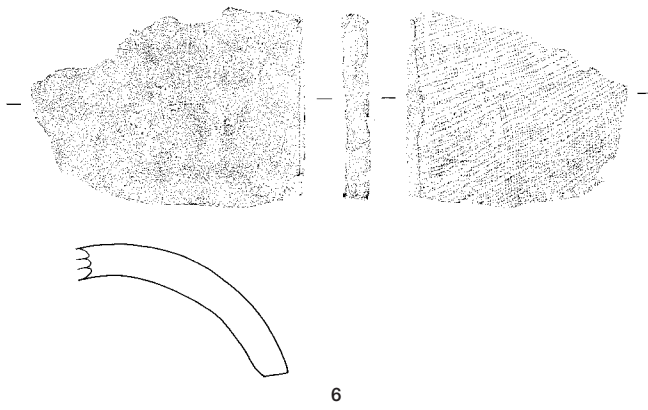
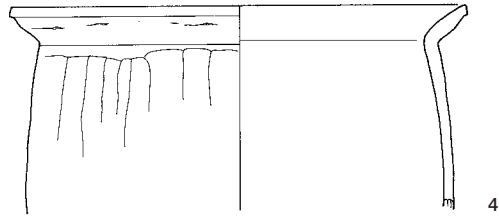
第80図 57号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



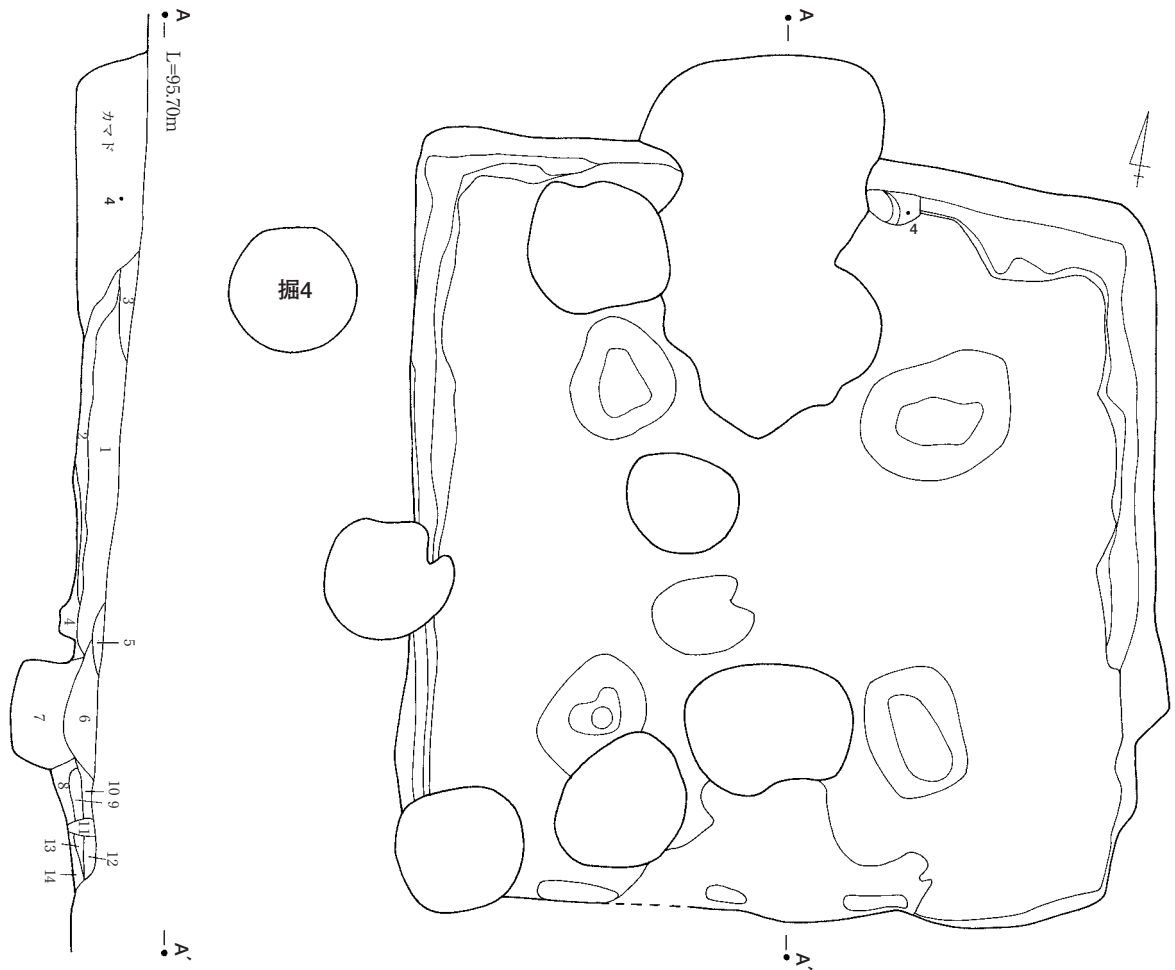
- 1 暗褐色 ローム粒を多く含み、焼土・炭化物も含む
- 2 暗褐色 ローム粒・焼土・砂質粘土を含む
- 3 暗赤褐色 焼けた砂質粘土を多く含み、焼土粒・炭化物も含む



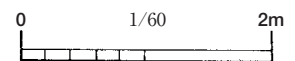
第81図 58号住居跡実測図・出土遺物(1)



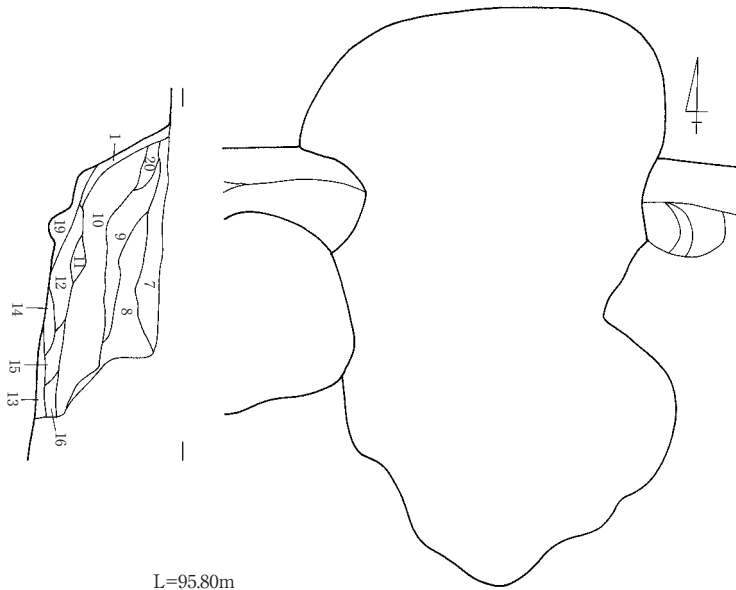
第82图 58号住居跡実測図・出土遺物(2)



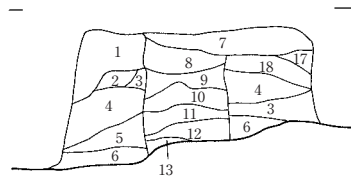
- 1 黒褐色 ローム粒・ロームブロック・焼土・炭化物・砂質粘土を含む
- 2 暗褐色 砂質粘土を多く含み、焼土・ローム粒も含む
- 3 暗褐色 ローム粒・焼土・炭化物・砂質粘土を含む
- 4 暗褐色 ローム粒を多く含み、焼土も含む
- 5 暗褐色 焼土を多く含み、炭化物・砂質粘土も含む
- 6 暗褐色 ローム粒・焼土を多く含む
- 7 黒褐色 ローム粒・ロームブロック・焼土・炭化物を含む
- 8 黒褐色 ローム粒・焼土を含む
- 9 赤色 焼土層
- 10 暗褐色 ローム粒・焼土・炭化物・砂質粘土を含む
- 11 暗褐色 ローム粒・焼土・砂質粘土を含む
- 12 暗褐色 ローム粒・焼土・砂質粘土を含む
- 13 暗褐色 焼土を多く含む
- 14 暗褐色 ローム粒を多く含み、焼土も含む



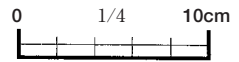
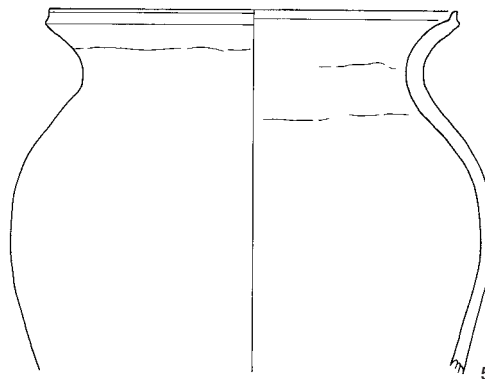
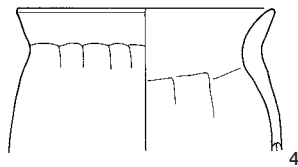
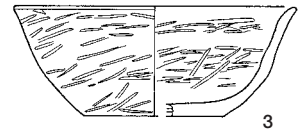
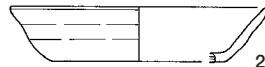
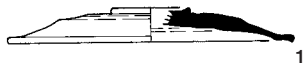
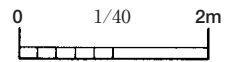
第83図 59号住居跡実測図



L=95.80m



- |        |                   |         |                 |
|--------|-------------------|---------|-----------------|
| 1 褐色   | ローム粒を多く含むロームブロック層 | 11 黄橙色  | ローム粒を含む         |
| 2 褐色   | ローム粒・砂質粘土を含む      | 12 赤褐色  | 焼土層             |
| 3 褐色   | 砂質粘土を含む           | 13 褐色   | ローム粒・焼土を含む      |
| 4 暗褐色  | 砂質粘土を含む           | 14 黄褐色  | 灰を含む砂質粘土層       |
| 5 暗褐色  |                   | 15 暗赤褐色 | 焼土と粘土が混ざりあう     |
| 6 暗褐色  | しまりが強い            | 16 暗赤褐色 | 粘土を多く含み、焼土も含む   |
| 7 褐色   | 焼けた粘土を含む砂質粘土層     | 17 褐色   | 砂質粘土を含む         |
| 8 褐色   | 砂質粘土を含む           | 18 褐色   | 砂質粘土を含む         |
| 9 褐色   |                   | 19 黒褐色  | ロームブロックを含む      |
| 10 黄橙色 | 砂質粘土層             | 20 褐色   | ローム粒を含むロームブロック層 |



第84図 59号住居跡カマド実測図・出土遺物

60号住居跡 (第85図)

調査区の南東に位置している。東壁は土壇と重複している。西隣りに5号掘立柱建物跡が所在している。

形態は方形を呈している。規模3.84×3.48m。主軸方向N-11° 30′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1・2は土壇出土遺物である。1は須恵器の蓋。2は須恵器の坏。3は須恵器の高台付坏。4は土師器の坏。

61号住居跡 (第86図)

調査区の最も南東に位置している。南壁側で攪乱土壇と重複している。北に2号古墳が所在している。

形態は方形と推測される。規模(4.30)×(2.94)m。主軸方向N-7° 30′ -E。柱穴は中央の2本以外は攪乱か。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は土師器の高台付坏。

63-B号住居跡 (第87図)

調査区の南東に位置している。北東隅で1号古墳の周溝と重複している。

形態は方形と推測される。規模3.70×(2.70)m。主軸方向N-25° 0′ -W。柱穴なし。カマドは北壁中央。

出土遺物 1～3は土師器の坏, 3は内外面赤彩で底部外面に「野井」の墨書がある。

64号住居跡・80号住居跡 (第88・第89図)

64号住居跡

調査区の最も南東に位置している。64号住居跡は北側で80号住居跡と重複している。

形態は方形と推測される。規模3.94×3.26m。主軸方向N-14° 0′ -W。柱穴なし。カマドは北壁西寄り。

出土遺物 1・2・4・5・13・16は80号住居跡に伴う遺物である。1・2は須恵器の坏。1は火ダスキがみられる。3は土師器の皿。4は土師器の灯明皿, 口縁にスス付着。5～12は土師器の坏。13は土師器の鉢。14は須恵器の甕。15～17は土師器の甕。18は鉄製釘。19は鉄製鎌, 刃部の先端を欠損。20は鉄製刀子, 茎部と刃部先端を欠損。21は布目瓦。

80号住居跡

形態は方形と推測される。規模4.01×(3.00)m。主軸方向N-3° 0′ -E。柱穴なし。カマドは北壁中央。

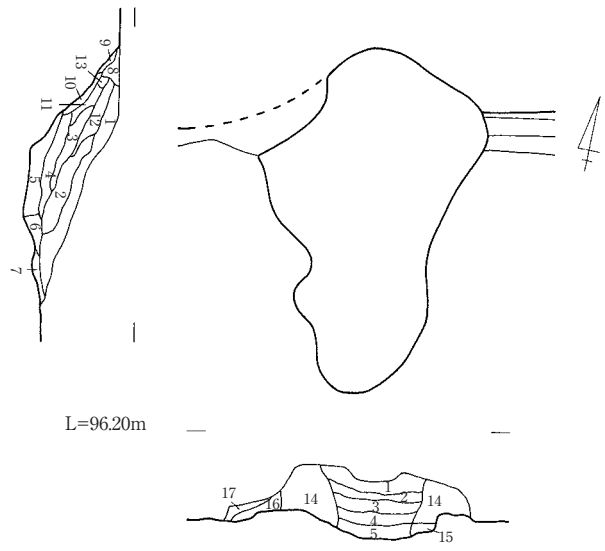
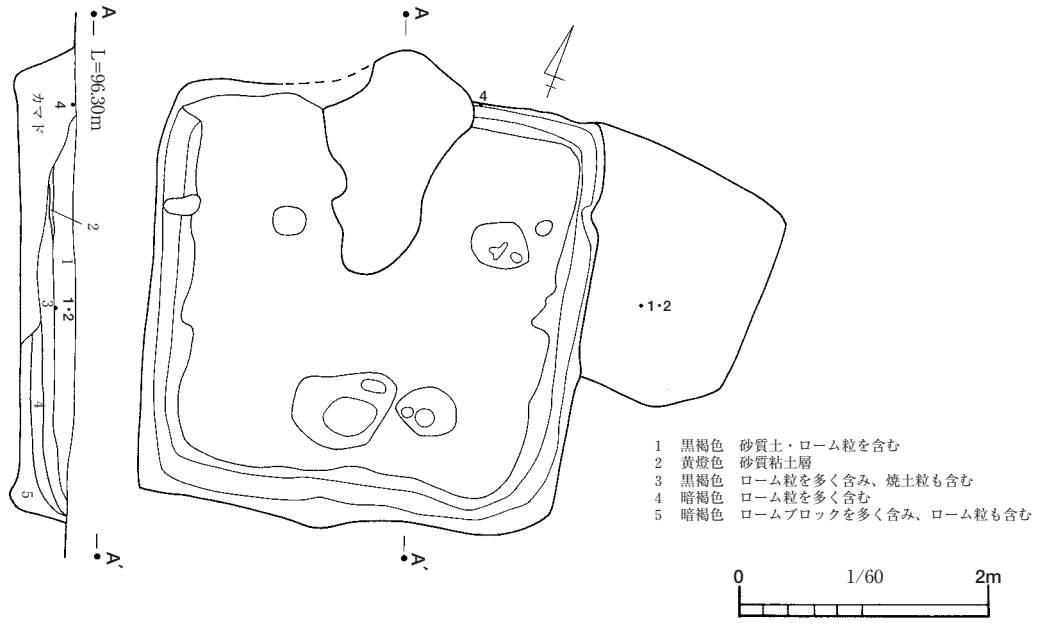
出土遺物は上記のほか, カマド内より少量の骨片(鳥か)が検出されている。

65号住居跡 (第90図)

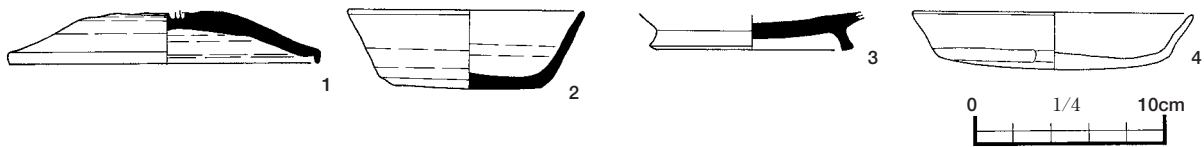
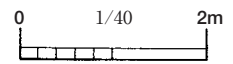
調査区の南側中央に位置している。西に41号住居跡と42号住居跡が所在している。遺構の遺存状態は大変悪い。

形態は方形と推測される。規模2.64×(2.22)m。主軸方向N-5° 0′ -W。柱穴なし。カマドなし。

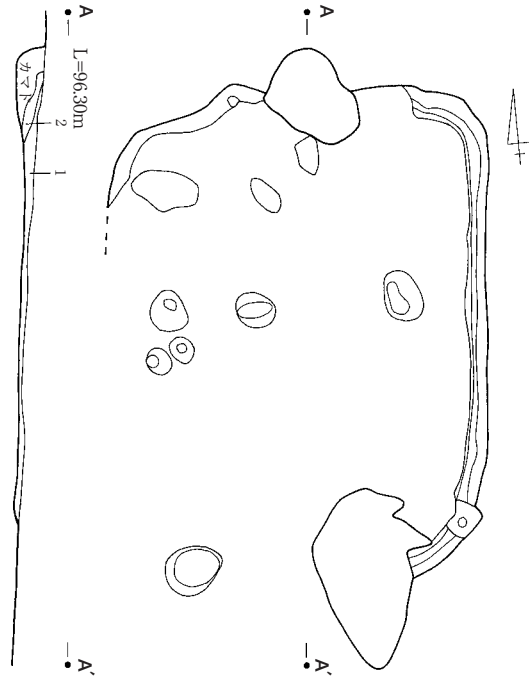
出土遺物なし。



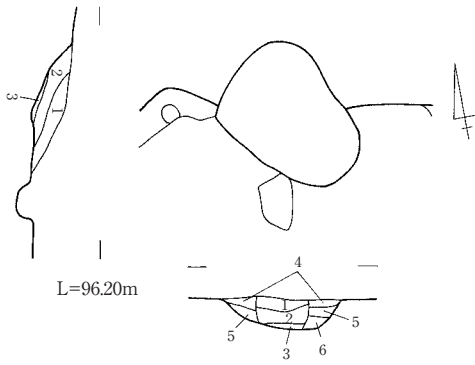
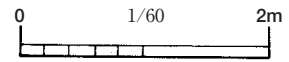
- |        |                      |          |                    |
|--------|----------------------|----------|--------------------|
| 1 黄褐色  | ローム粒を含む砂質粘土層         | 10 黄褐色   | 粘土層                |
| 2 暗褐色  | 砂質粘土・ローム粒・焼土粒を含む     | 11 極暗赤褐色 | 焼土粒を含む粘土層          |
| 3 黄褐色  | 焼土粒を含む砂質粘土層          | 12 暗赤褐色  | 焼土粒を含む粘土層          |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒・焼土ブロック・灰を含む砂質粘土層 | 13 暗褐色   | ローム粒・焼土粒・粘土粒が混ざりあう |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土・焼土粒を含む          | 14 黄褐色   |                    |
| 6 黒褐色  | 焼土粒・ローム粒を含む砂質粘土層     | 15 黒褐色   | ローム粒・焼土粒を含む砂質粘土層   |
| 7 暗褐色  | 砂質粘土層                | 16 暗褐色   | ローム粒・焼土粒を含む        |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒を多く含む、ローム粒も含む     | 17 暗褐色   |                    |
| 9 黄褐色  | 粘土層を含む               |          |                    |



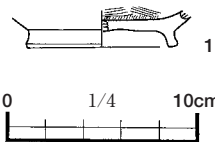
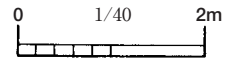
第85図 60号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



- 1 暗褐色 ローム粒を多く含み、焼土も含む
- 2 暗褐色 ローム粒・焼土・炭化物・砂質粘土を含む

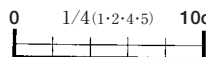
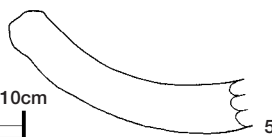
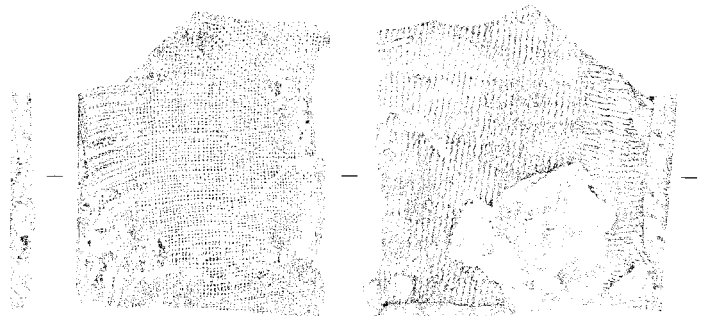
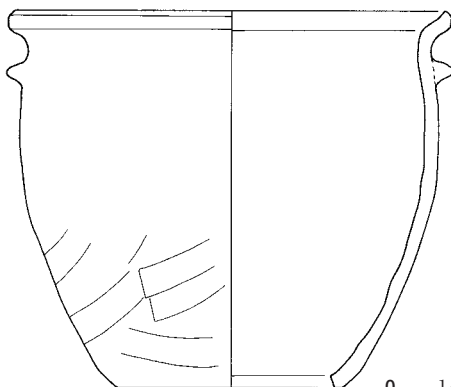
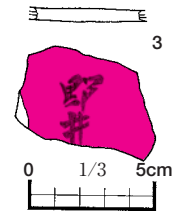
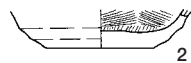
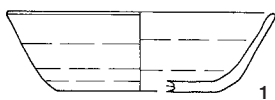
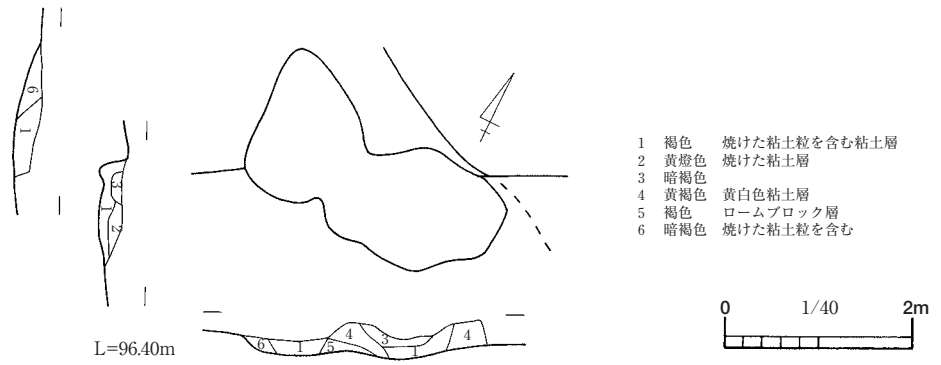
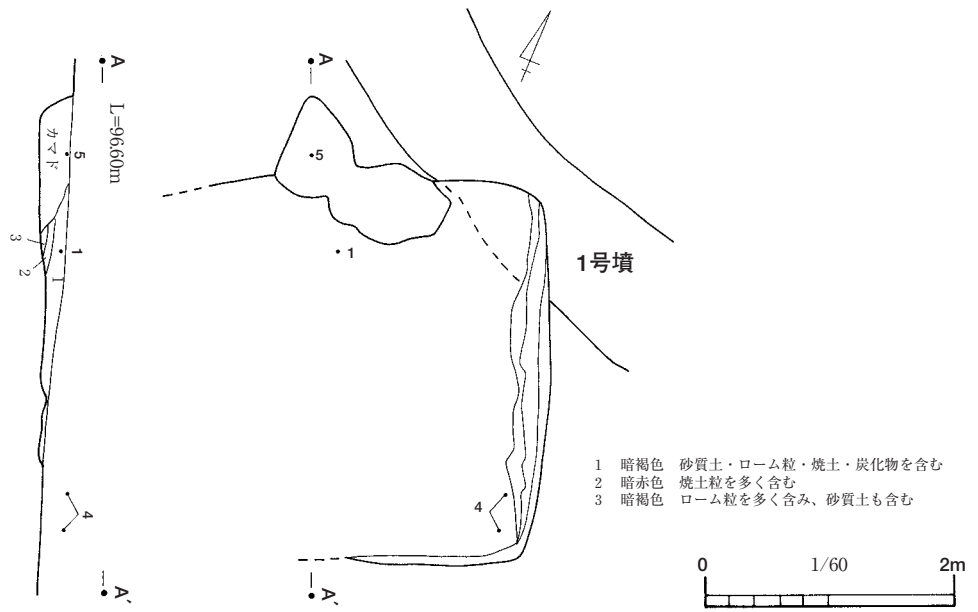


- 1 暗褐色 ローム粒を含む
- 2 赤褐色 焼けた粘土ブロックを含む粘土層
- 3 褐色 焼けたロームブロックを含む
- 4 褐色 砂質粘土層
- 5 赤褐色 焼けた粘土ブロックを含む粘土層
- 6 暗赤褐色 ローム粒・焼けた粘土を含む

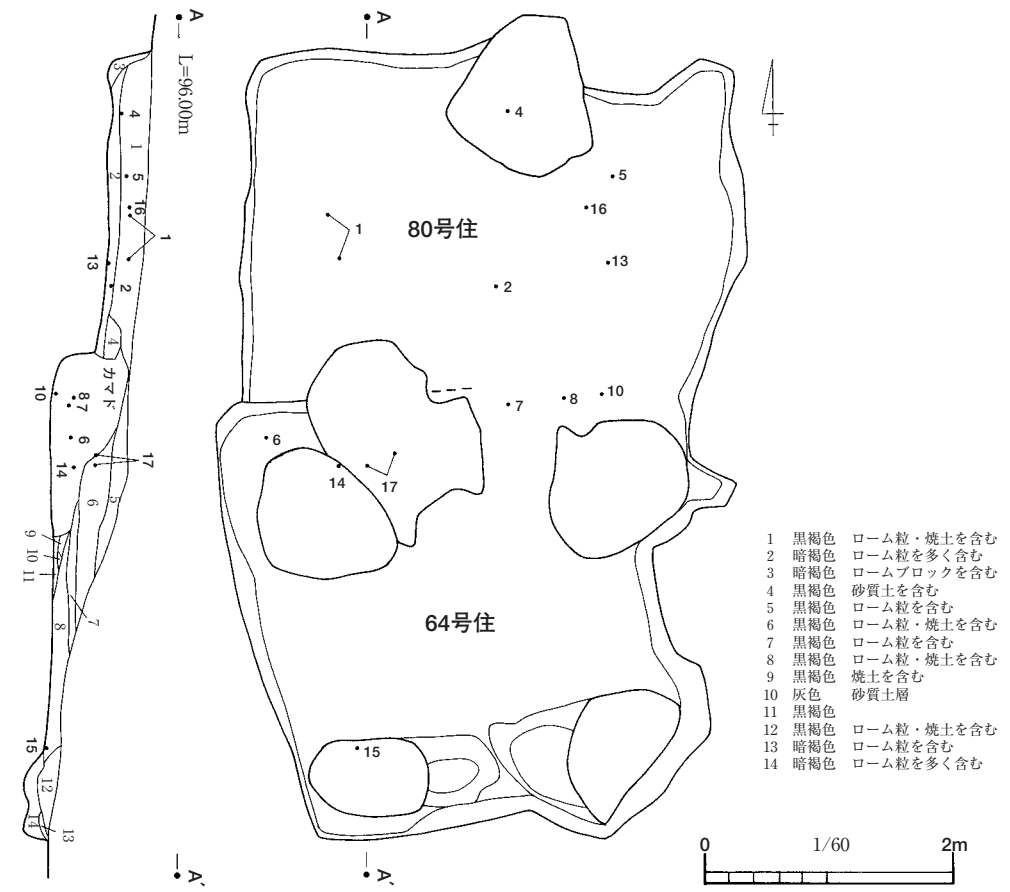


第86図 61号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物

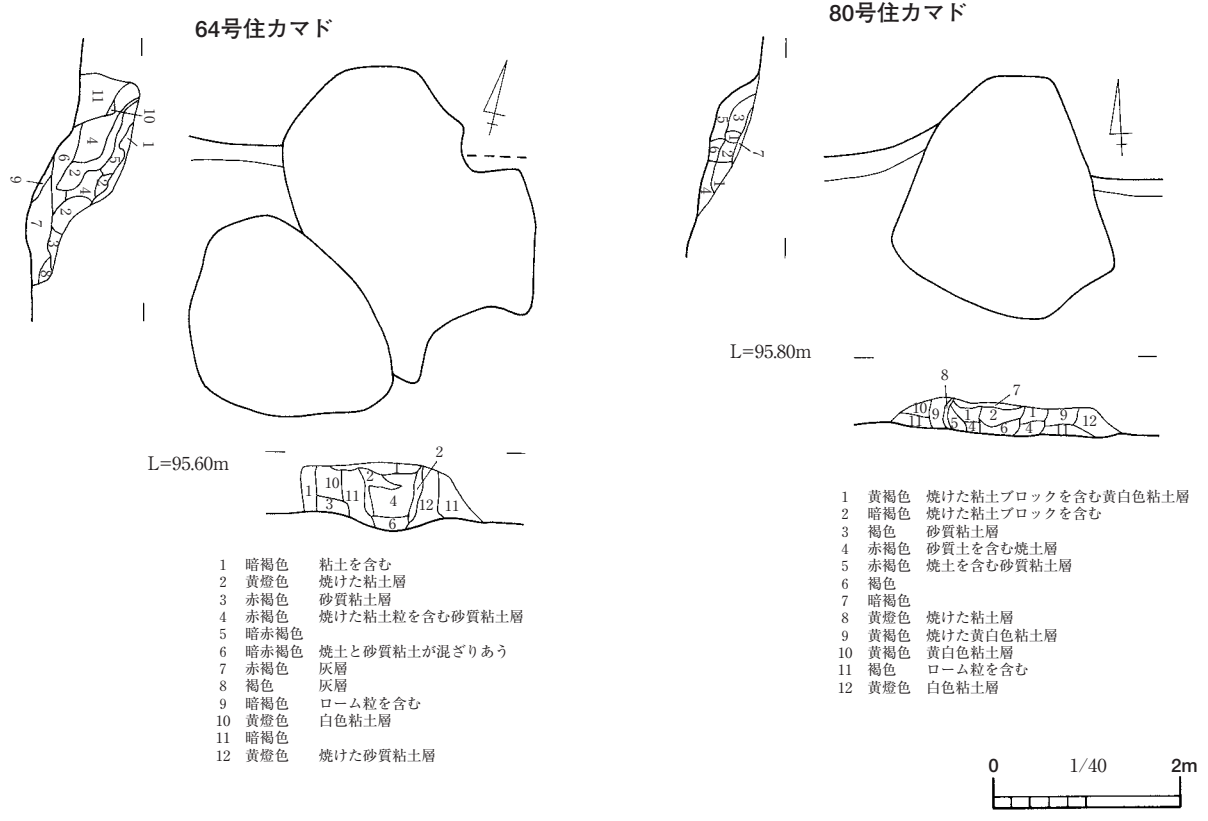




第87図 63-B号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



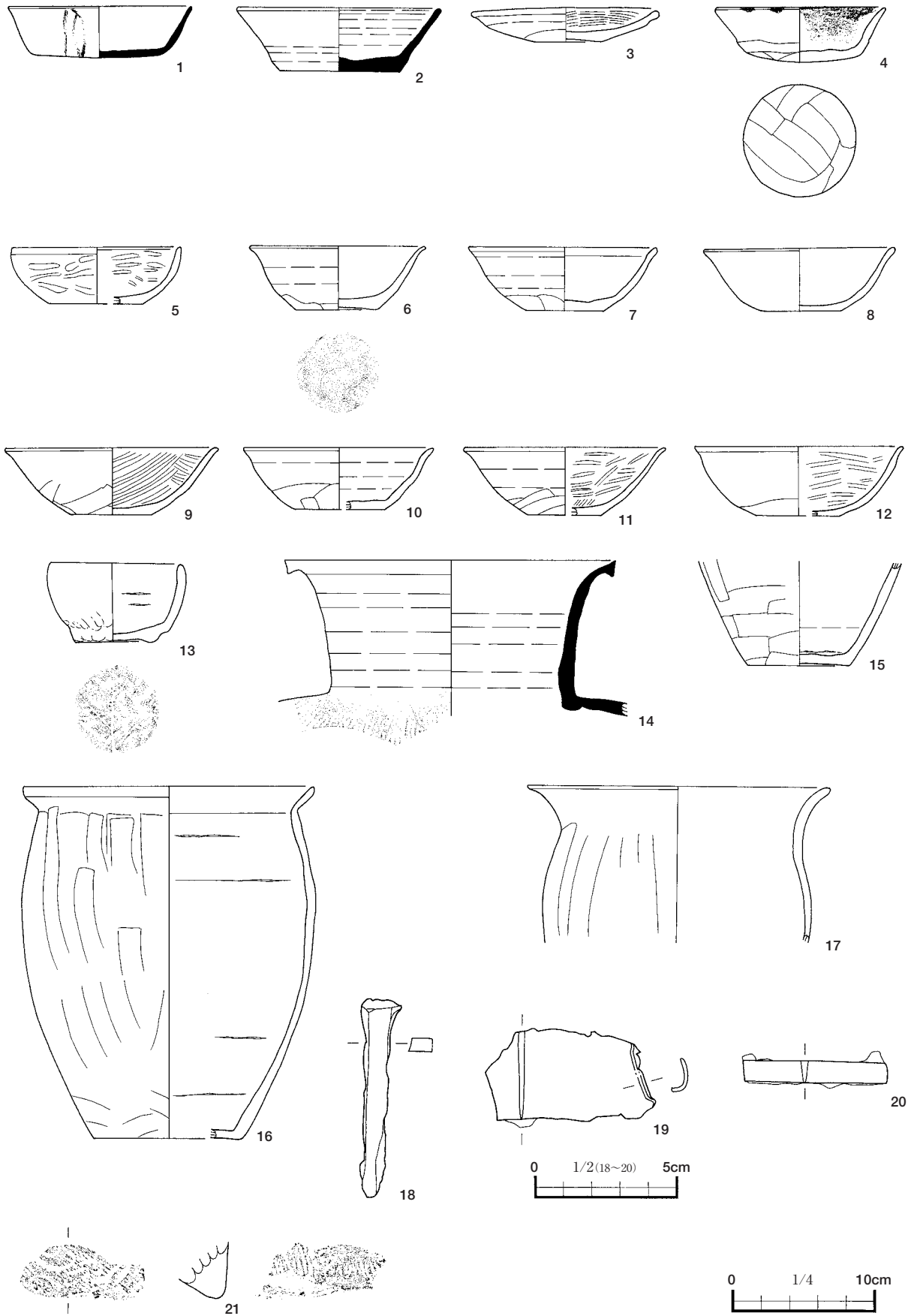
- |    |     |            |
|----|-----|------------|
| 1  | 黒褐色 | ローム粒・焼土を含む |
| 2  | 暗褐色 | ローム粒を多く含む  |
| 3  | 暗褐色 | ロームブロックを含む |
| 4  | 黒褐色 | 砂質土を含む     |
| 5  | 黒褐色 | ローム粒を含む    |
| 6  | 黒褐色 | ローム粒・焼土を含む |
| 7  | 黒褐色 | ローム粒を含む    |
| 8  | 黒褐色 | ローム粒・焼土を含む |
| 9  | 黒褐色 | 焼土を含む      |
| 10 | 灰色  | 砂質土層       |
| 11 | 黒褐色 |            |
| 12 | 黒褐色 | ローム粒・焼土を含む |
| 13 | 暗褐色 | ローム粒を含む    |
| 14 | 暗褐色 | ローム粒を多く含む  |



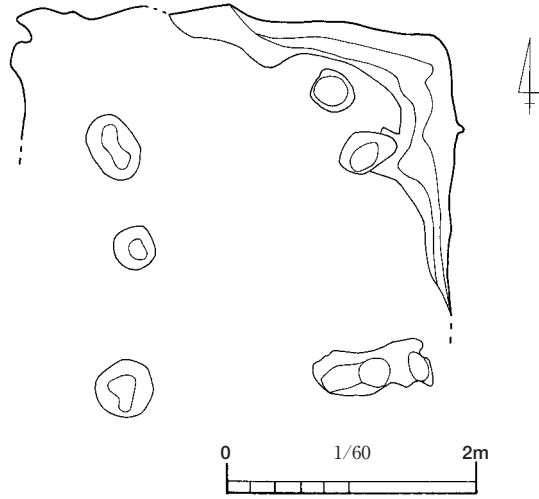
- |    |      |                |
|----|------|----------------|
| 1  | 暗褐色  | 粘土を含む          |
| 2  | 黄橙色  | 焼けた粘土層         |
| 3  | 赤褐色  | 砂質粘土層          |
| 4  | 赤褐色  | 焼けた粘土粒を含む砂質粘土層 |
| 5  | 暗赤褐色 |                |
| 6  | 暗赤褐色 | 焼土と砂質粘土が混ざりあう  |
| 7  | 赤褐色  | 灰層             |
| 8  | 褐色   | 灰層             |
| 9  | 暗褐色  | ローム粒を含む        |
| 10 | 黄橙色  | 白色粘土層          |
| 11 | 暗褐色  |                |
| 12 | 黄橙色  | 焼けた砂質粘土層       |

- |    |     |                    |
|----|-----|--------------------|
| 1  | 黄褐色 | 焼けた粘土ブロックを含む黄白色粘土層 |
| 2  | 暗褐色 | 焼けた粘土ブロックを含む       |
| 3  | 褐色  | 砂質粘土層              |
| 4  | 赤褐色 | 砂質土を含む焼土層          |
| 5  | 赤褐色 | 焼土を含む砂質粘土層         |
| 6  | 褐色  |                    |
| 7  | 暗褐色 |                    |
| 8  | 黄橙色 | 焼けた粘土層             |
| 9  | 黄褐色 | 焼けた黄白色粘土層          |
| 10 | 黄褐色 | 黄白色粘土層             |
| 11 | 褐色  | ローム粒を含む            |
| 12 | 黄橙色 | 白色粘土層              |

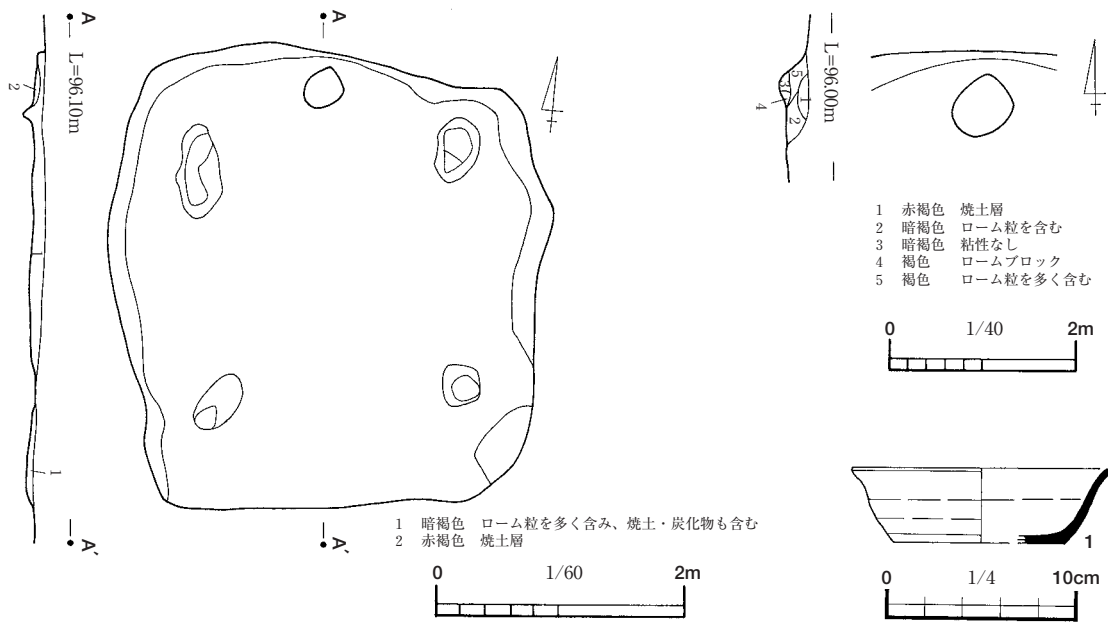
第88図 64号・80号住居跡実測図・カマド実測図



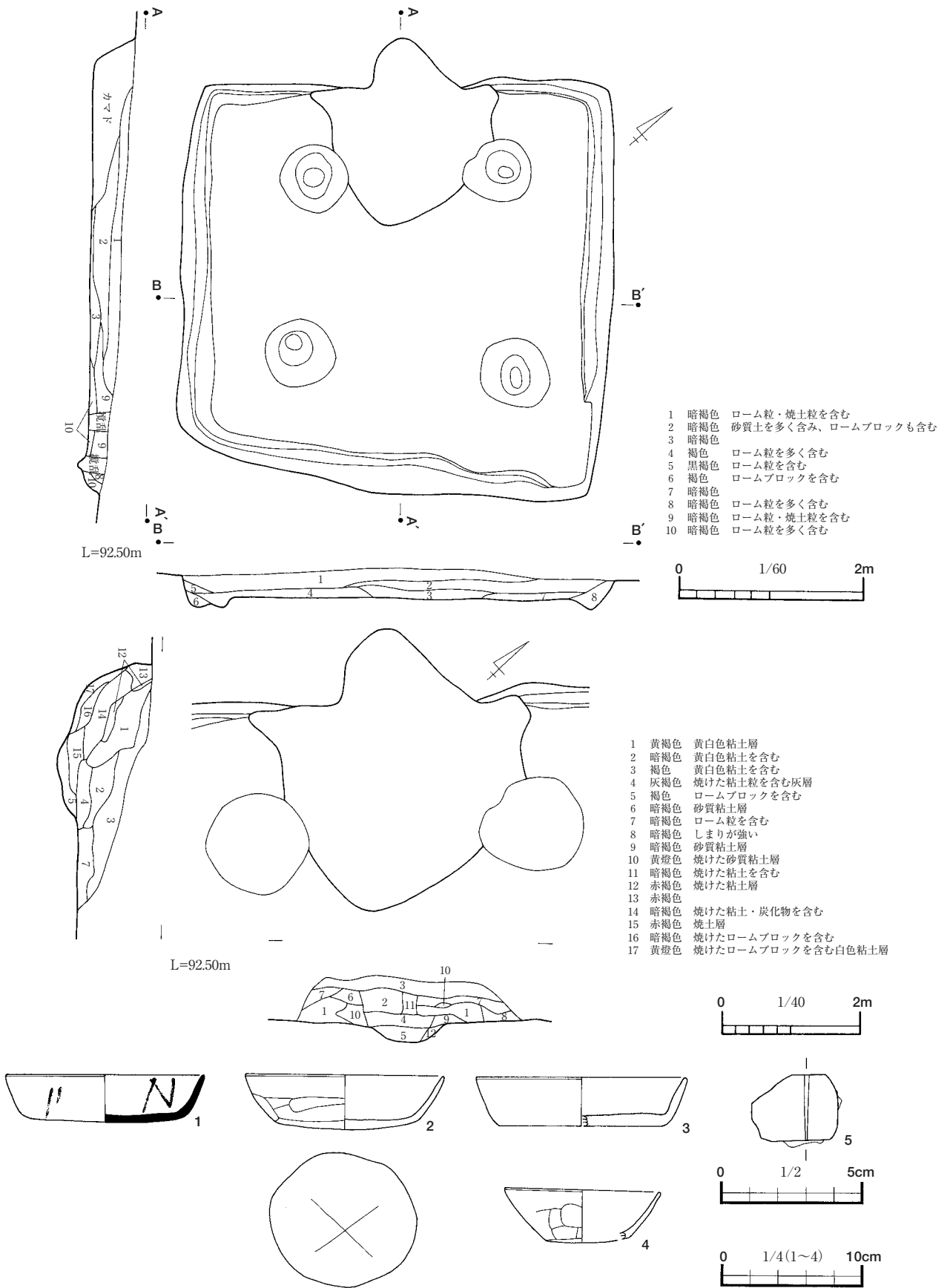
第89図 64号・80号住居跡出土遺物



第90図 65号住居跡実測図



第91図 66号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



第92図 68号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物

#### 66号住居跡 (第91図)

調査区の東側中央、方形溝状遺構と1号古墳との間に位置している。

形態は方形を呈している。規模3.56×3.46m。主軸方向N-5° 0′ -W。柱穴4本。カマドは北壁中央。

出土遺物 1は須恵器の坏。

#### 68号住居跡 (第92図)

調査区の西側に位置する。

形態は台形を呈している。規模4.90×4.60m。主軸方向N-50° 0′ -W。柱穴4本。カマドは北西壁中央。

出土遺物 1は須恵器の坏、火ダスキがみられる。2～4は土師器の坏、2は底部外面に「×」の線刻がある。5は鉄製鎌、刃部の中程から先端を欠損。

## 2. 掘立柱建物跡

調査区からは18棟検出されている。掘立柱建物跡の分布域は概ね3群に分けられる。

1群は調査区の北東、方形溝状遺構の中で検出された17号掘立柱建物跡と18号掘立柱建物跡の2棟。2群は調査区の南側に位置する11棟の一群。3群は調査区の西側に位置する4棟の一群である。

#### 1号掘立柱建物跡 (第93図)

調査区の南東に位置している。南西隅で63-A号住居跡および5号掘立柱建物跡と重複している。北西側には13-A号掘立柱建物跡と13-B号掘立柱建物跡が位置している。

桁行<sup>けたゆき</sup>3間、梁行<sup>はりゆき</sup>2間。桁行5.33m、梁行3.90mを測る。主軸方向N-14° 0′ -W。

出土遺物 1は土師器の高坏。2は鉄製釘。

#### 2号掘立柱建物跡・7号掘立柱建物跡 (第94図)

調査区の南中央寄りに位置している。東側で7号掘立柱建物跡と重複している。

#### 2号掘立柱建物跡

桁行3間、梁行2間。桁行5.75m、梁行3.82mを測る。主軸方向N-15° 0′ -W。

出土遺物なし。

#### 7号掘立柱建物跡

桁行3間、梁行2間。桁行5.33m、梁行4.00mを測る。主軸方向N-19° 30′ -W。

出土遺物なし。

#### 3号掘立柱建物跡 (第95図)

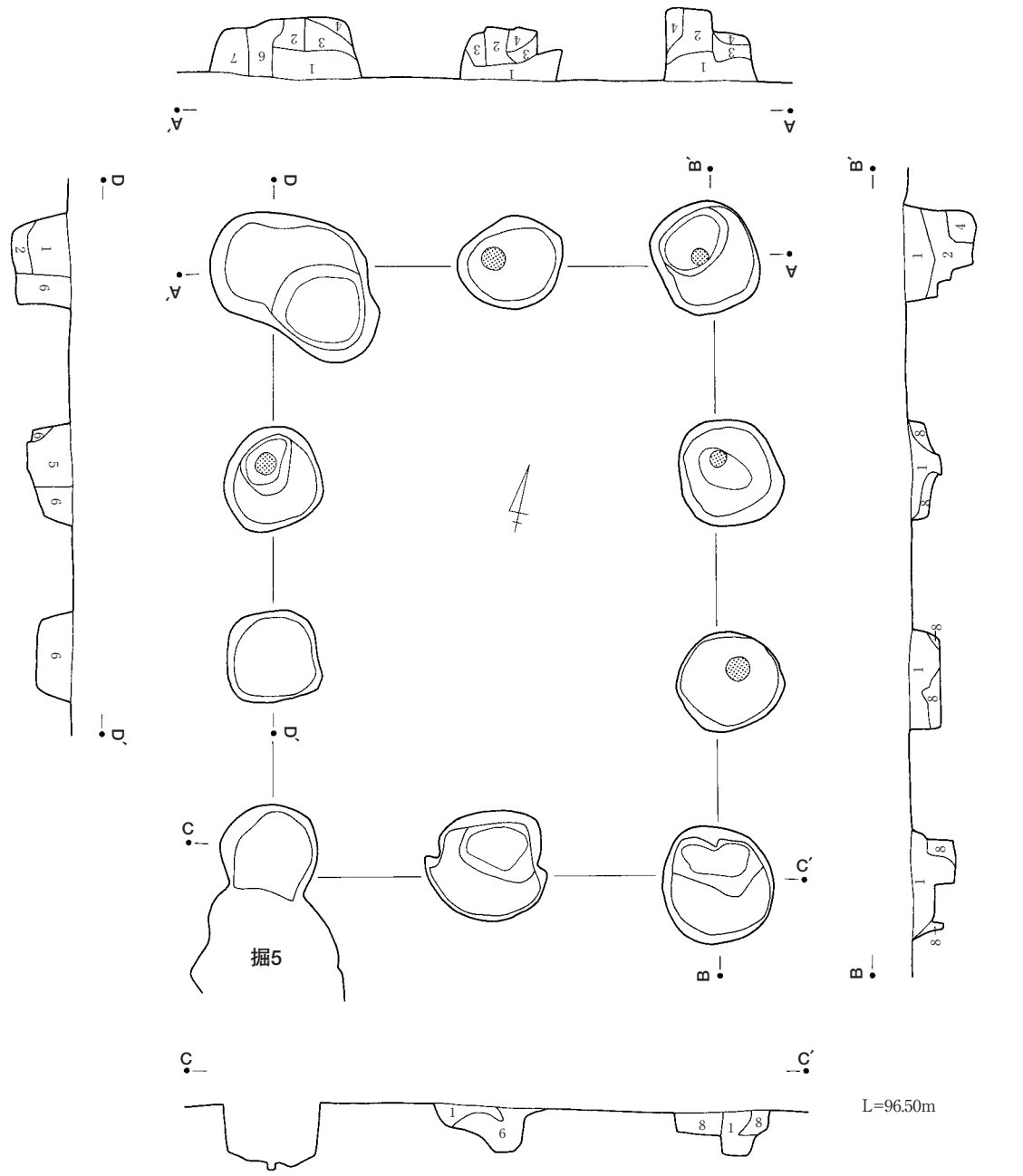
調査区の西側に位置している。西隣りに15号掘立柱建物跡が所在している。

桁行3間、梁行2間。桁行5.67m、梁行4.45mを測る。主軸方向N-27° 0′ -W。

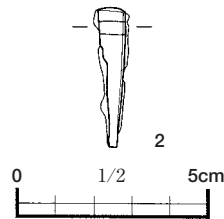
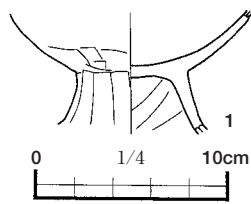
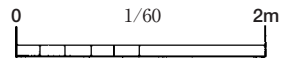
出土遺物なし。

#### 4号掘立柱建物跡 (第96図)

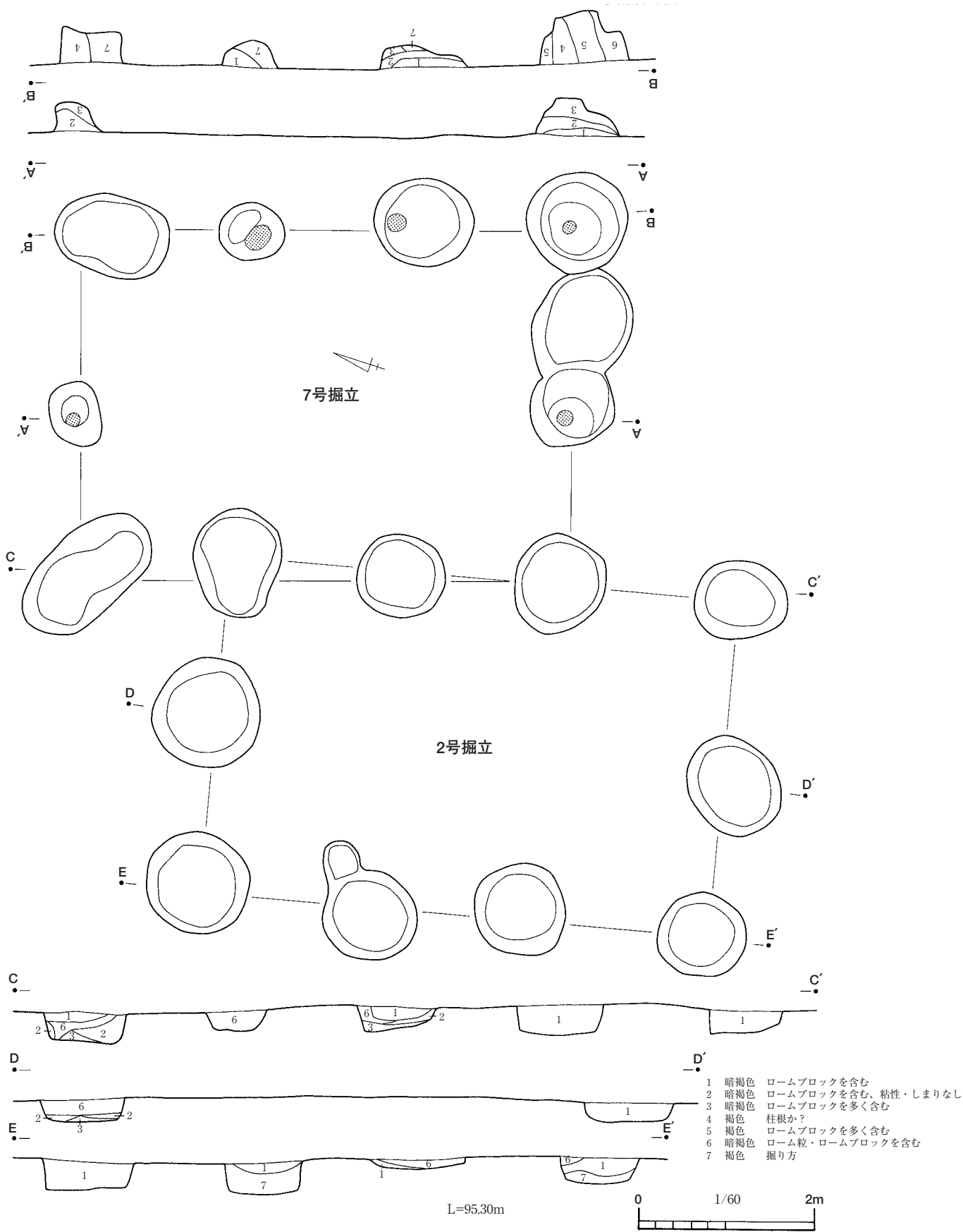
調査区の南東に位置している。59号住居跡と重複している。



- 1 暗褐色 ロームブロックを多く含む
- 2 暗褐色 柱根か？
- 3 暗褐色 ロームブロックを含む
- 4 暗褐色 ローム粒を含む、粘性・しまりなし
- 5 暗褐色 ローム粒・ロームブロック・焼土・炭化物を含む
- 6 暗褐色 ローム粒・焼土・炭化物を含む
- 7 暗褐色 ローム粒・炭化物を含む
- 8 暗褐色 ロームブロックを含む

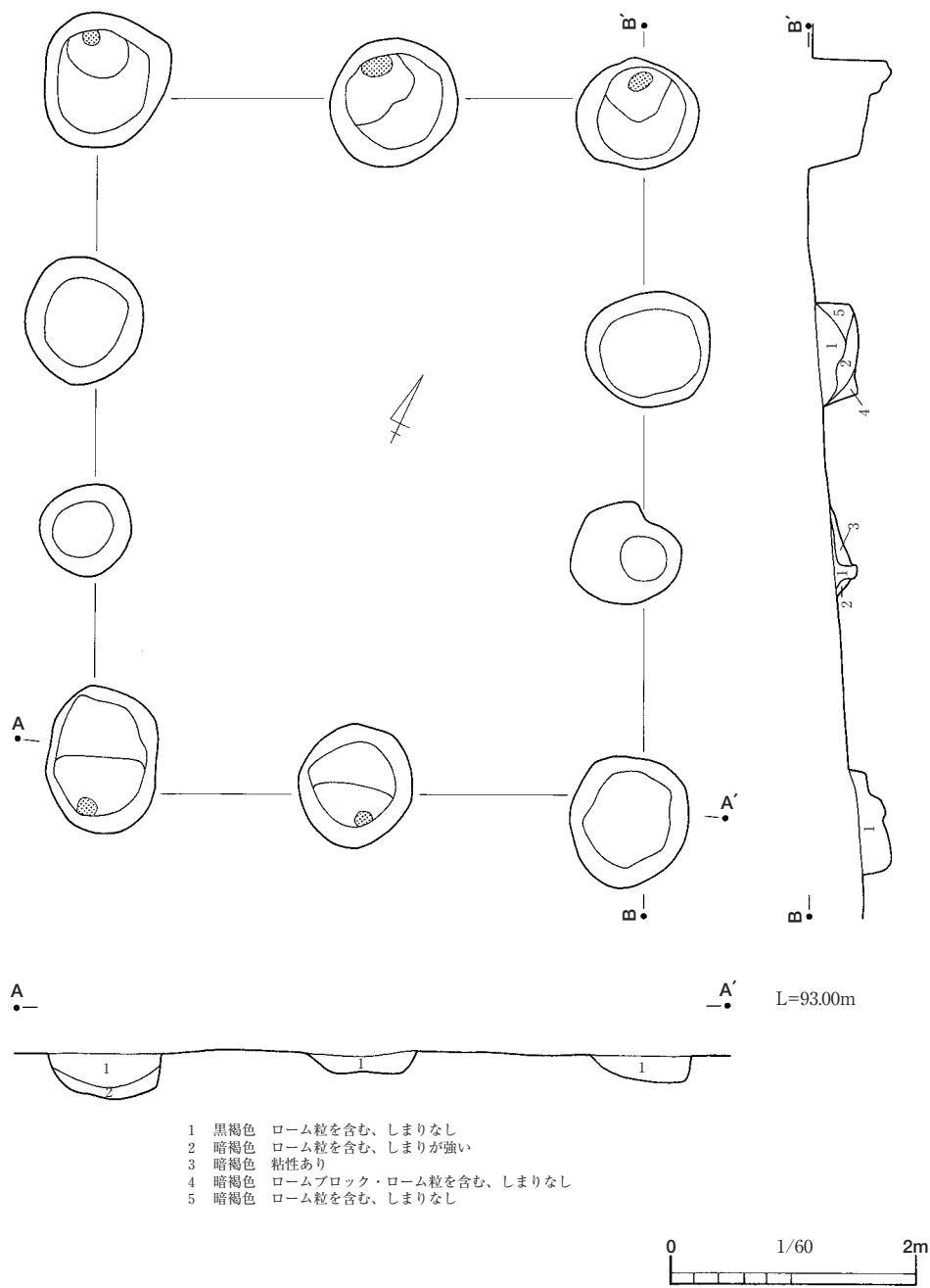


第93図 1号掘立柱建物跡実測図・出土遺物

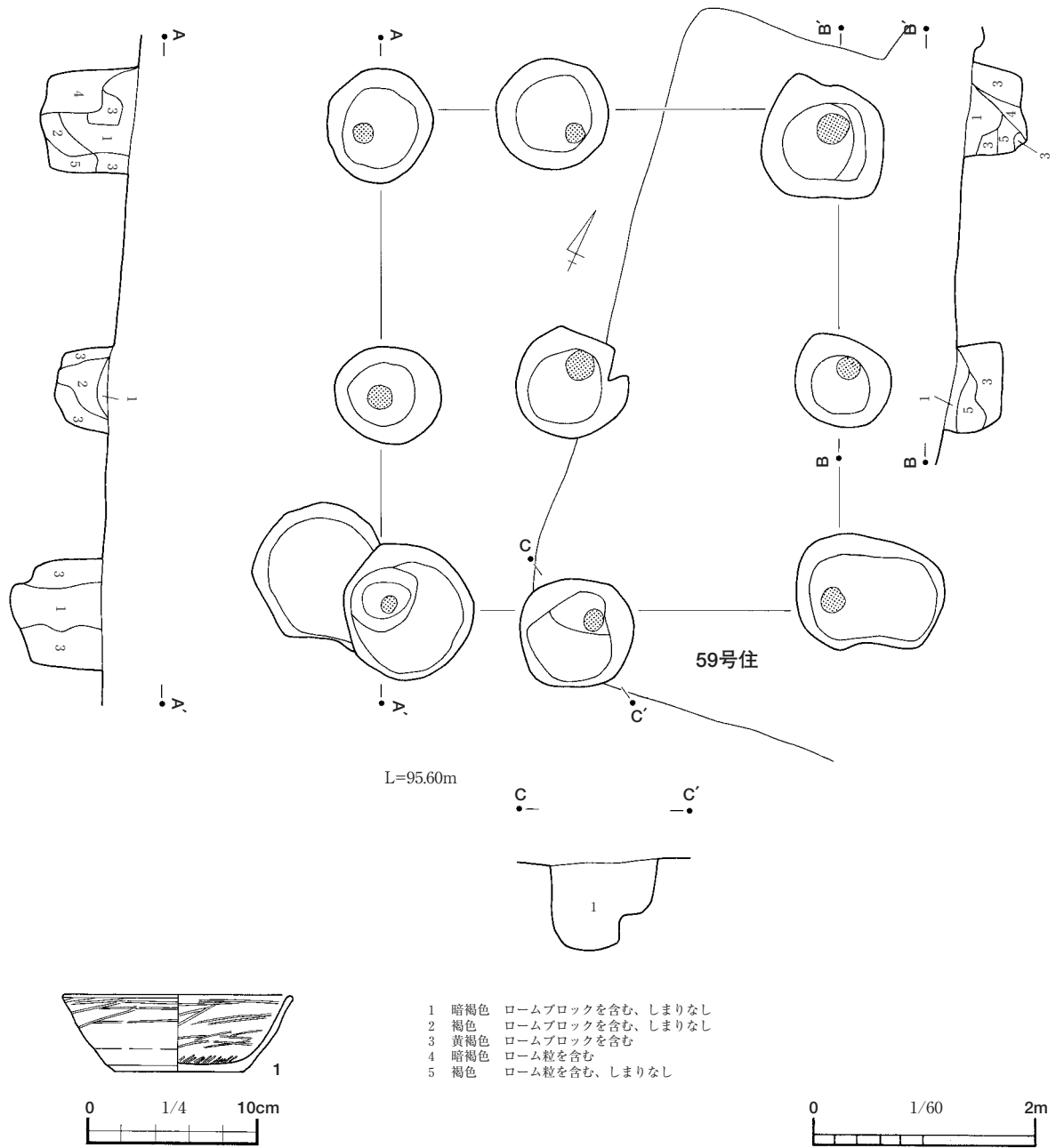


第94図 2号・7号掘立柱建物跡実測図





第95図 3号掘立柱建物跡実測図



第96図 4号掘立建物跡実測図・出土遺物

桁行 2 間，梁行 2 間。桁行4.48m，梁行4.08m を測る。主軸方向N-23° 0′ -W。

出土遺物 1 は土師器の坏。

5 号掘立柱建物跡 (第97図)

調査区の南東に位置している。52号住居跡・53号住居跡・63-A号住居跡と重複している。

桁行 3 間，梁行 2 間。桁行6.05m，梁行4.07m を測る。主軸方向N-21° 0′ -W。

出土遺物 1 は土師器の坏，内面黒色処理。

6 号掘立柱建物跡 (第98図)

調査区の南側中央寄りに位置している。

桁行 3 間，梁行 2 間。桁行4.82m，梁行4.00m を測る。主軸方向N-5° 0′ -W。

出土遺物なし。

8 号掘立柱建物跡・9号掘立柱建物跡 (第99図)

調査区の南側中央やや東寄りに位置している。8号掘立柱建物跡は南側で9号掘立柱建物跡と重複している。

8 号掘立柱建物跡

桁行 3 間，梁行 2 間。桁行6.58m，梁行3.40m を測る。主軸方向N-18° 0′ -W。

出土遺物なし。

9 号掘立柱建物跡

遺構は西北側の柱穴のみ検出されたために，桁行・梁行とも不明である。推定主軸方向N-5° 0′ -W。

出土遺物なし。

10号掘立柱建物跡 (第100図)

調査区の南側中央寄りに位置している。56号住居跡と重複している。

桁行 3 間，梁行 2 間。桁行4.80m，梁行3.80m を測る。主軸方向N-80° 0′ -E。

出土遺物なし。

11号掘立柱建物跡 (第101図)

調査区の南東に位置している。62号住居跡と重複している。

桁行 3 間，梁行 2 間。桁行6.78m，梁行4.56m を測る。主軸方向N-74° 0′ -E。

出土遺物 1 は土師器の坏。2 は布目瓦。

12号掘立柱建物跡 (第102図)

調査区の西北側に位置している。72号住居跡と73号住居跡と重複している。

桁行 3 間，梁行 2 間。桁行6.38m，梁行4.60m を測る。主軸方向N-67° 0′ -E。

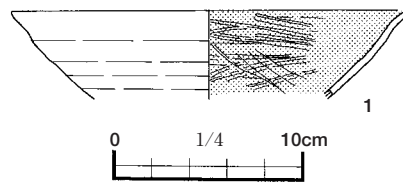
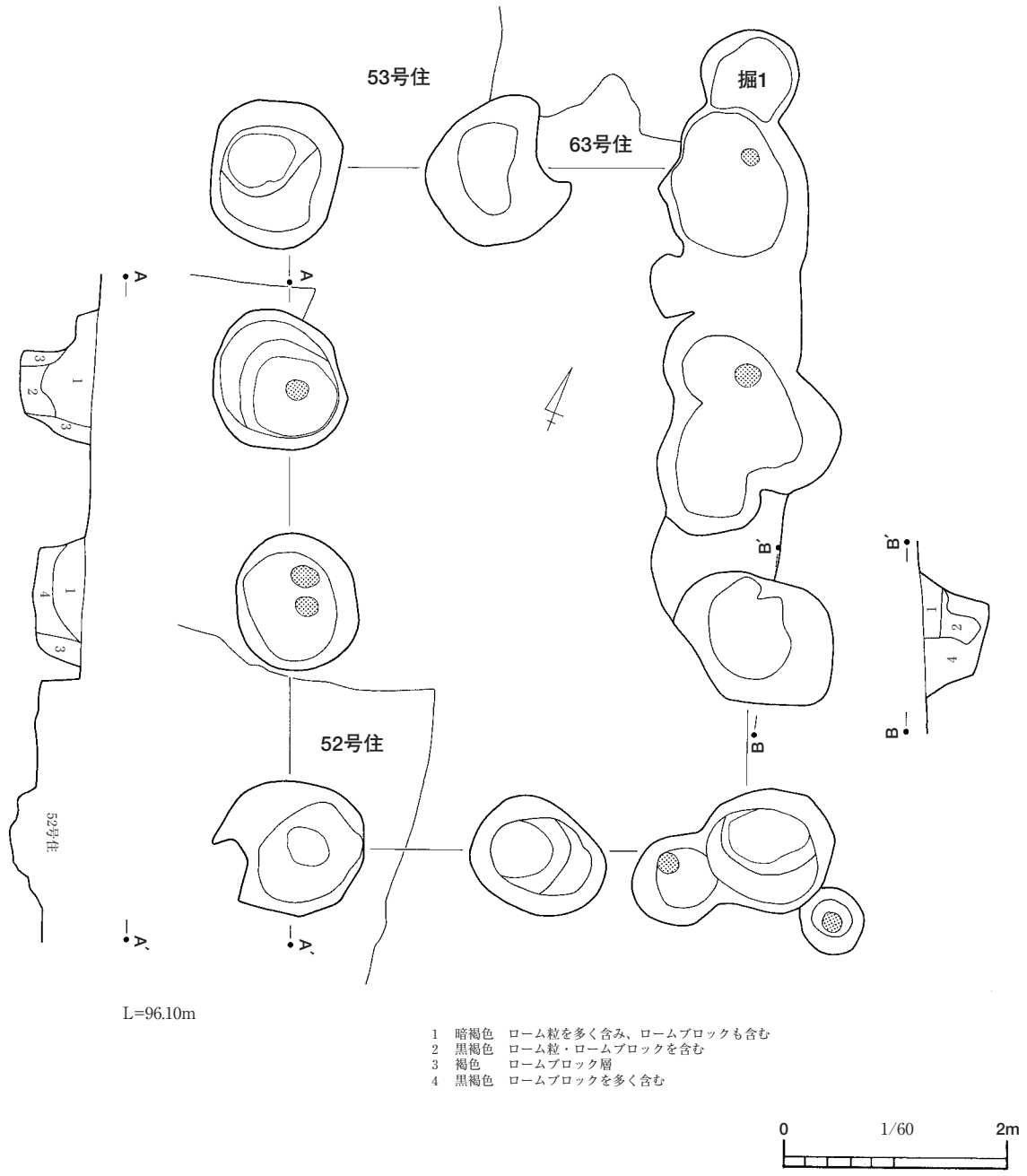
出土遺物なし。

13-A号掘立柱建物跡・13-B号掘立柱建物跡 (第103図)

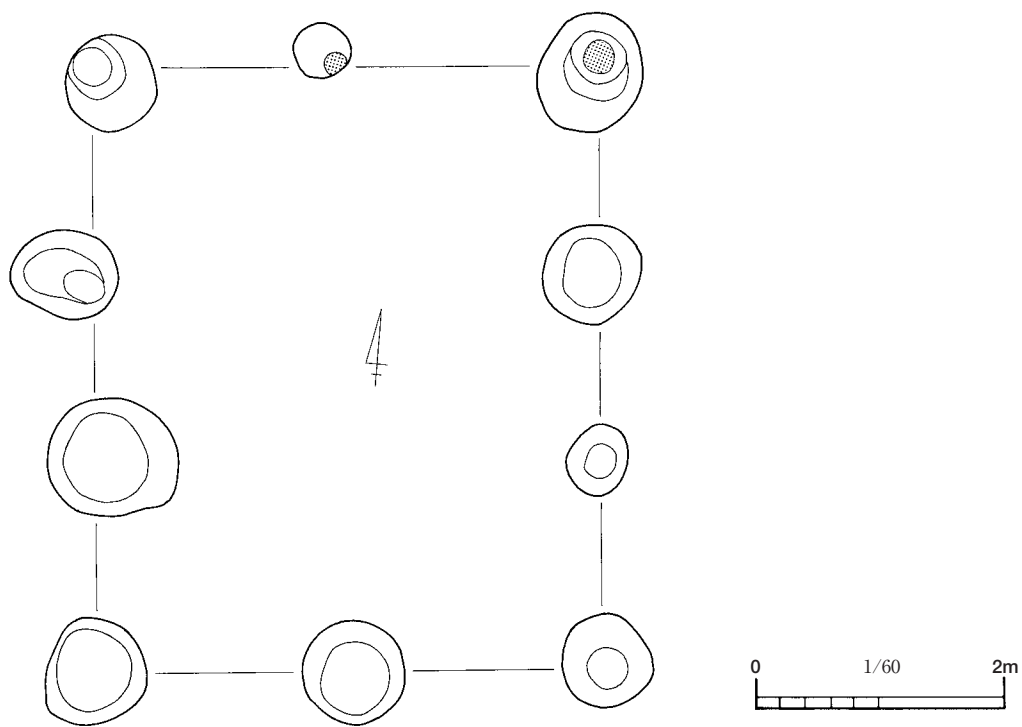
調査区の南東に位置している。13号掘立柱建物跡はA棟・B棟の2棟と1号住居跡と重複している。

13-A号掘立柱建物跡

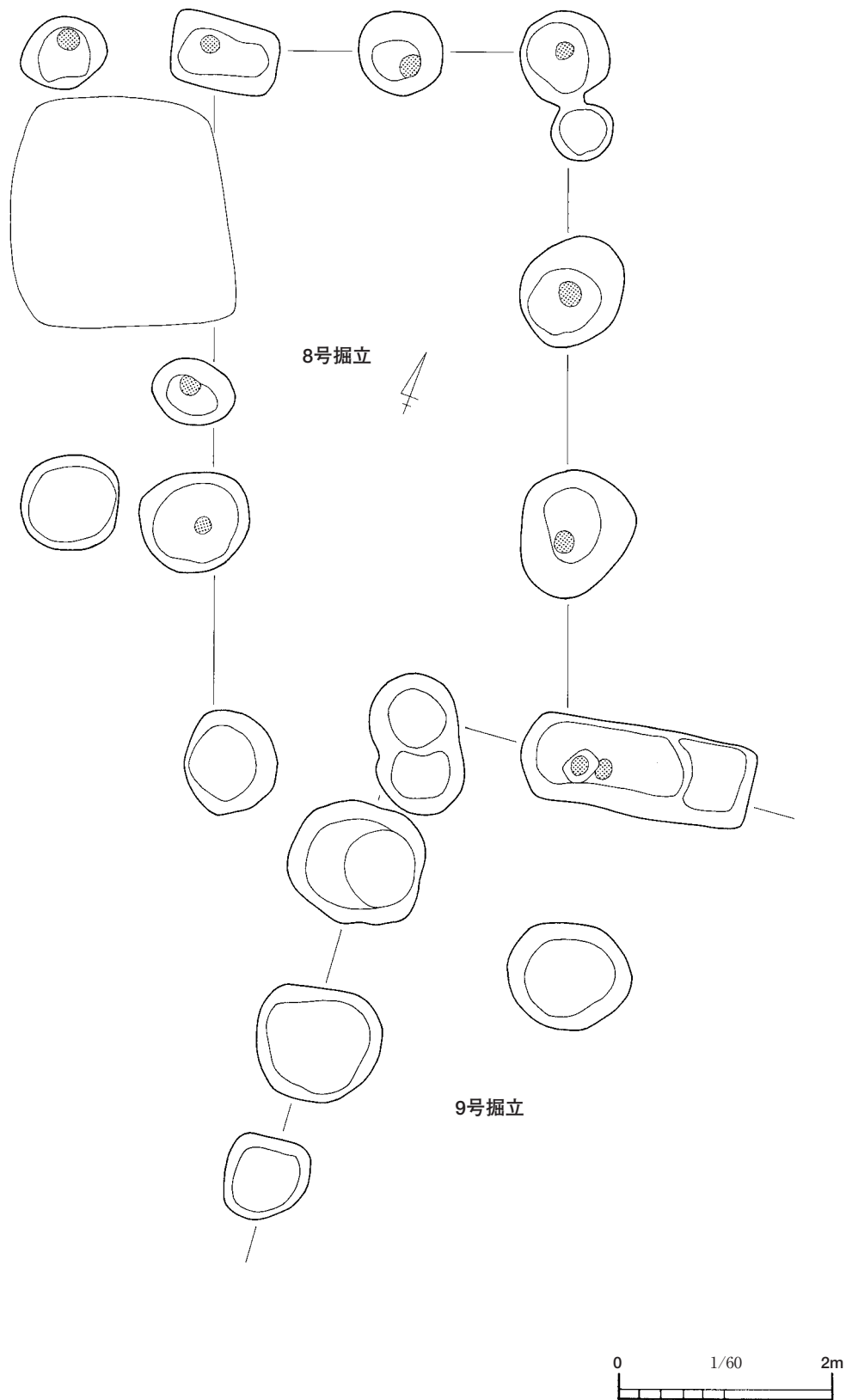
桁行 3 間，梁行 2 間。桁行7.85m，梁行4.50m を測る。主軸方向N-25° 30′ -W。



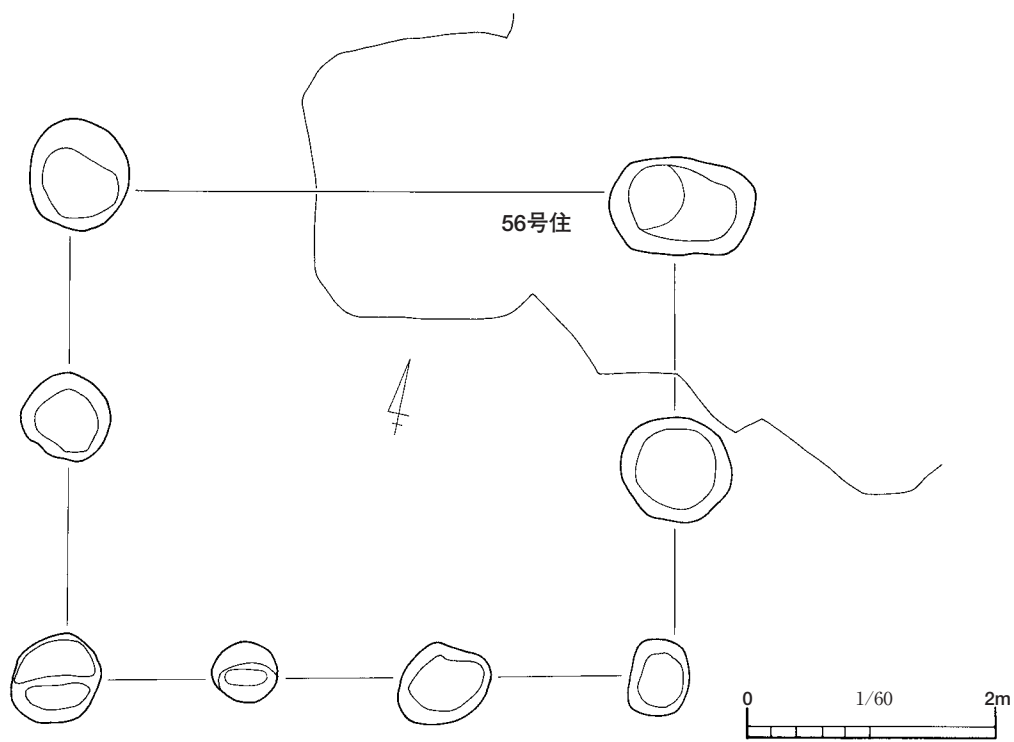
第97図 5号掘立柱建物跡実測図・出土遺物



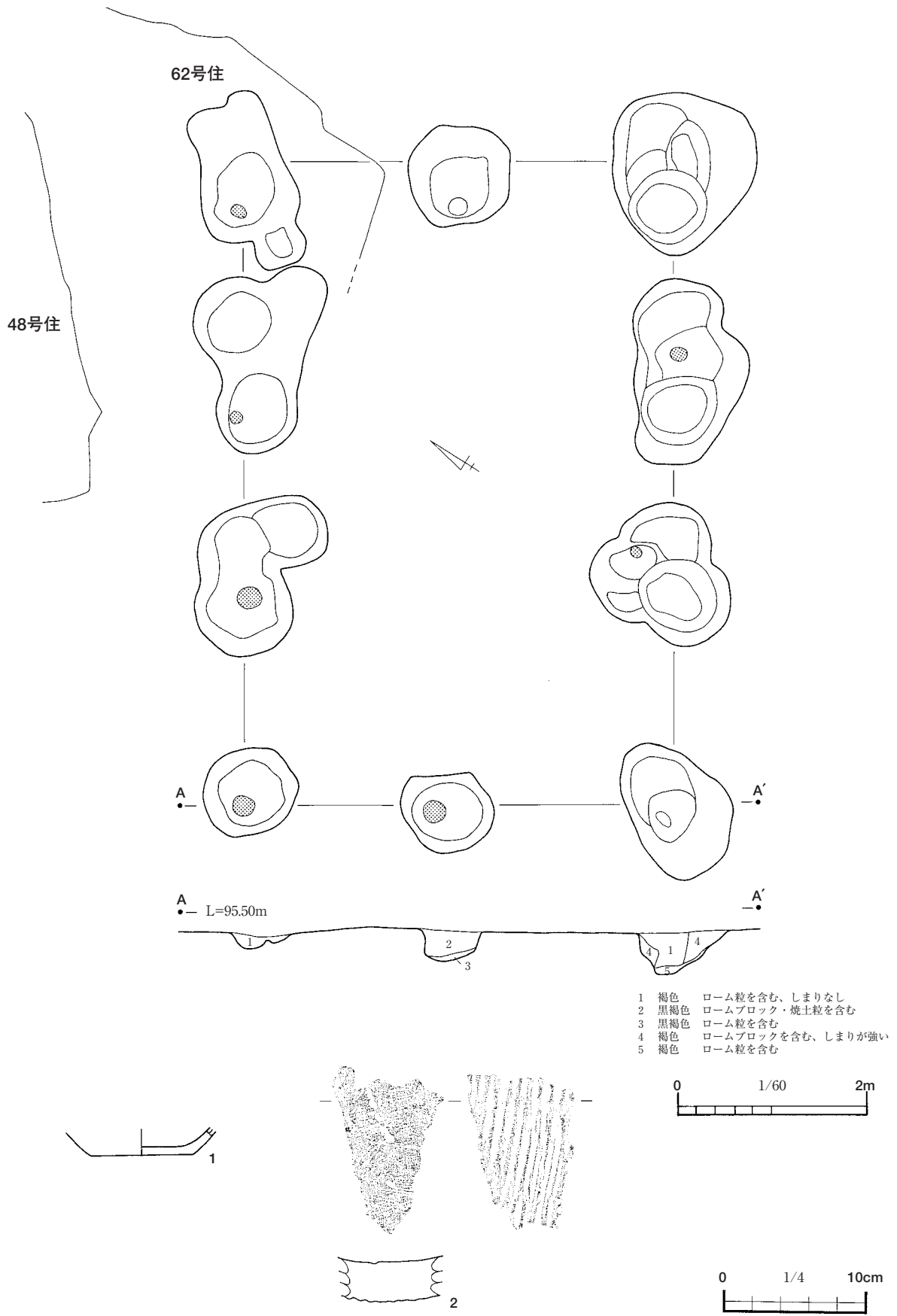
第98图 6号掘立柱建物跡実測図



第99图 8号·9号掘立柱建物跡実測图

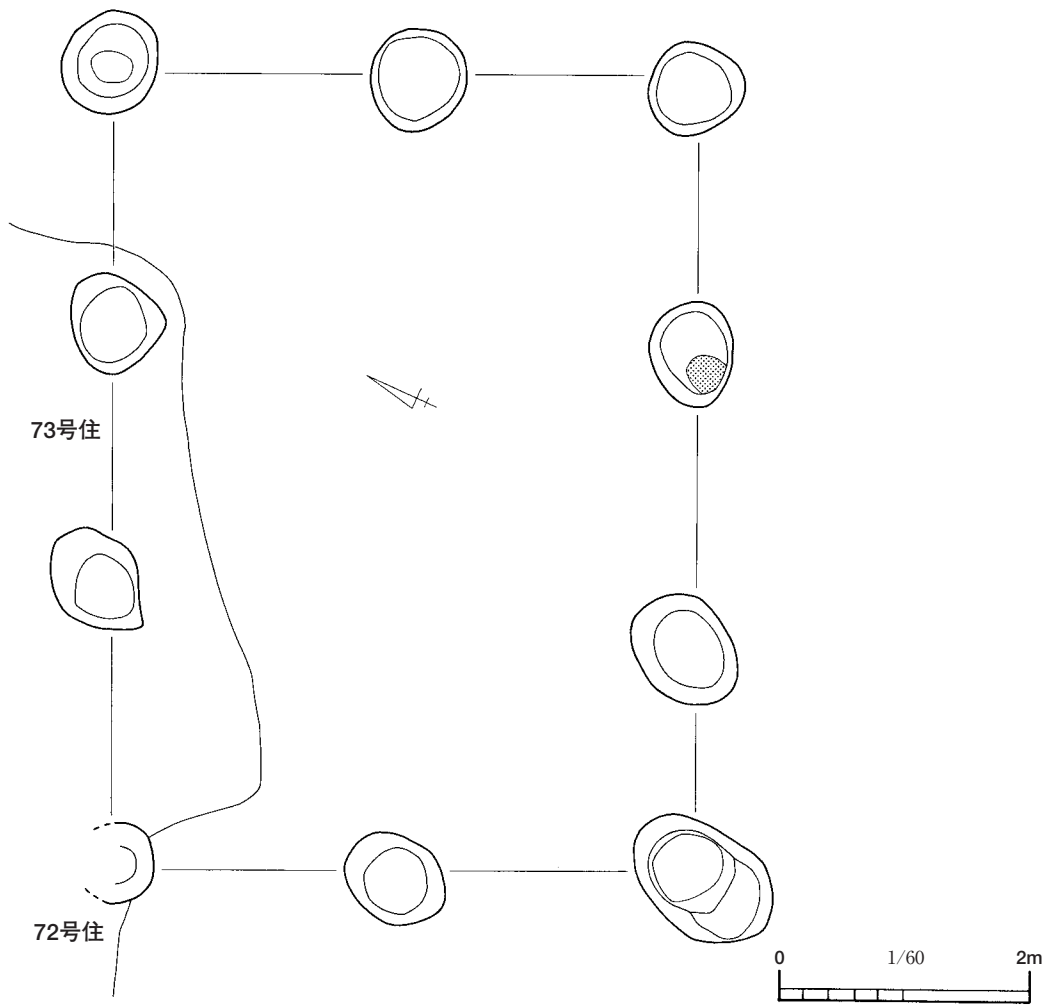


第100图 10号掘立柱建物跡実測図

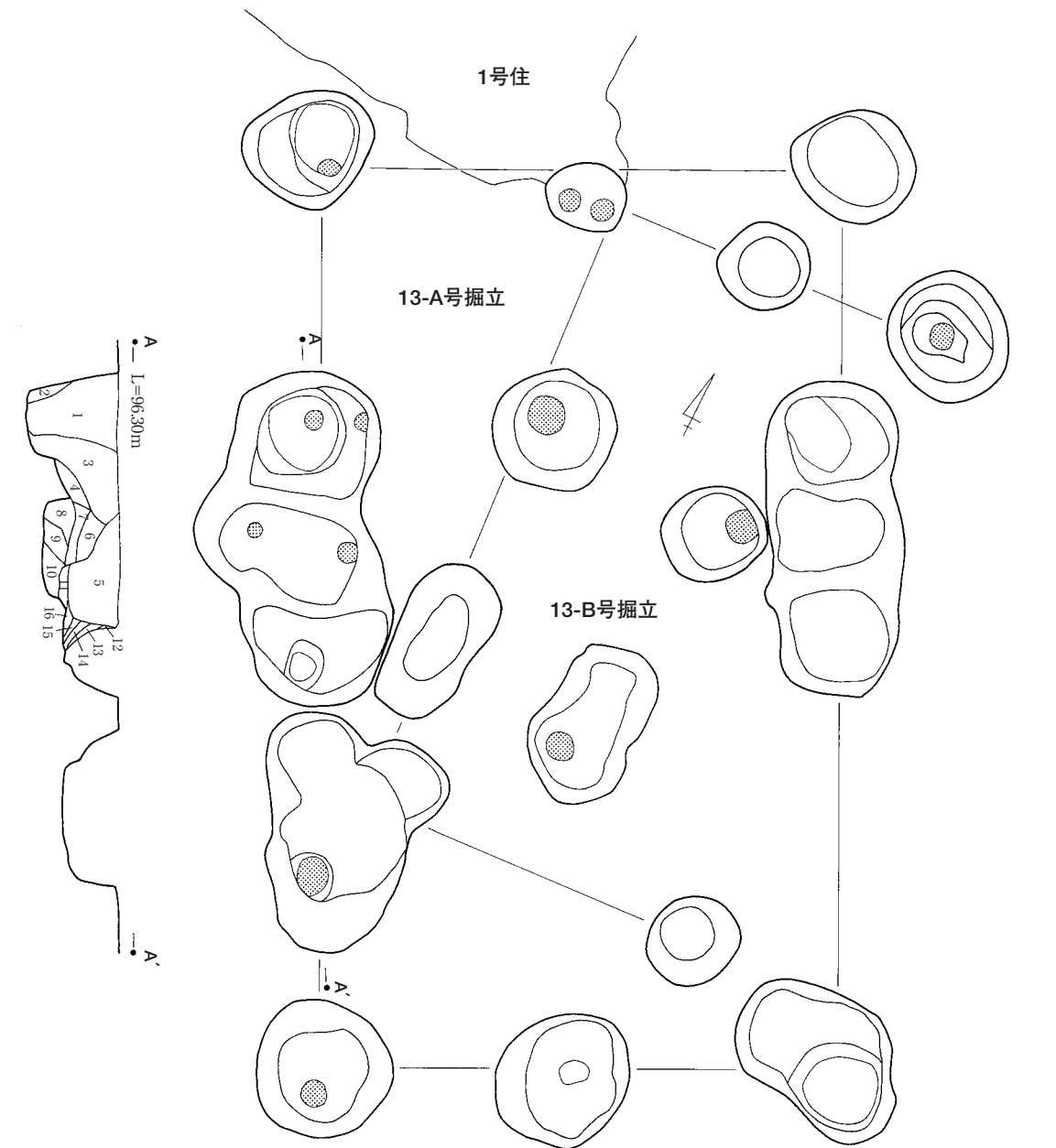


第101図 11号掘立柱建物跡実測図・出土遺物

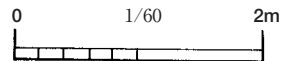
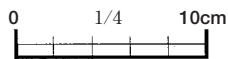
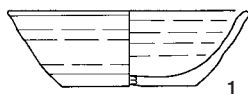




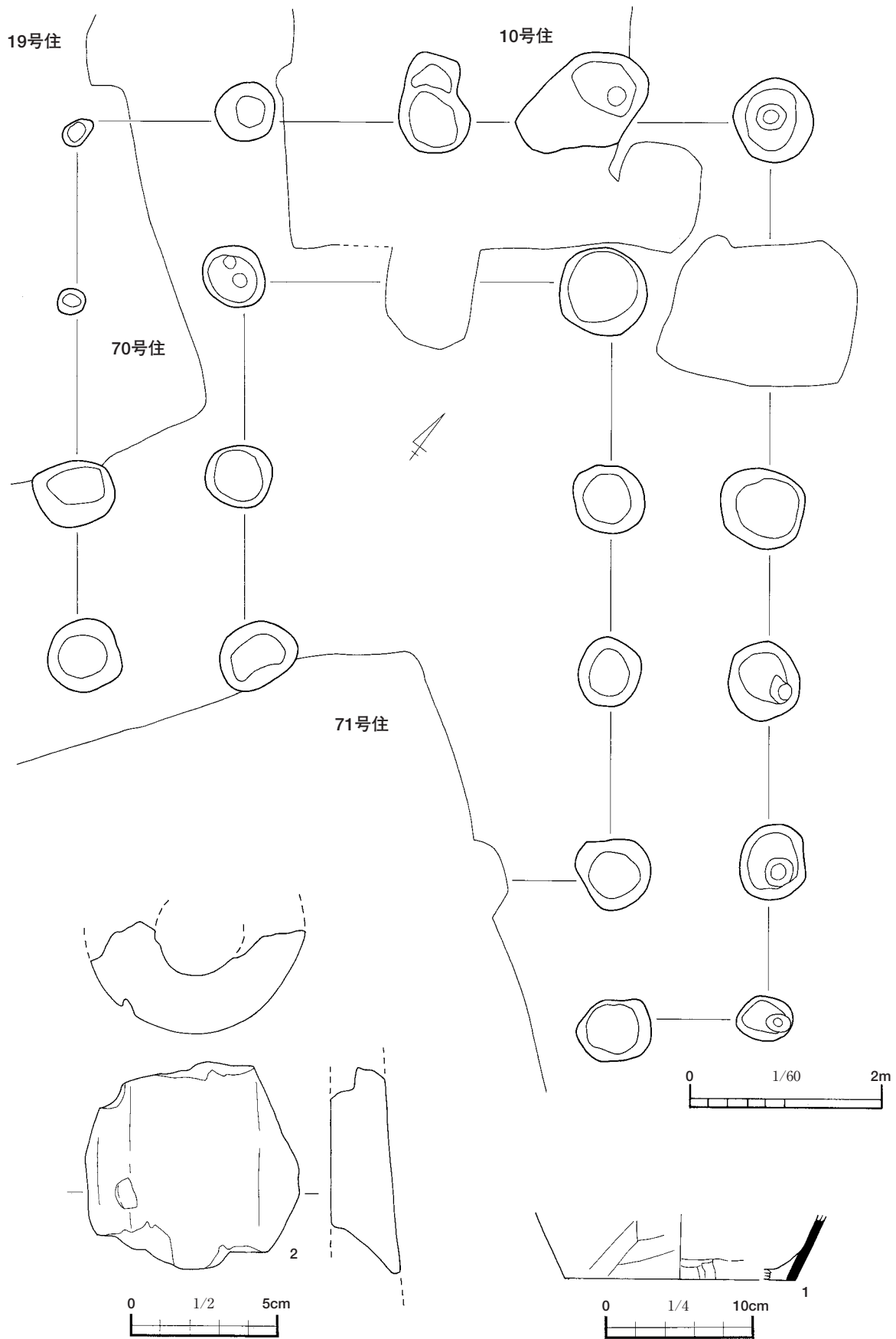
第102图 12号掘立柱建物跡実測図



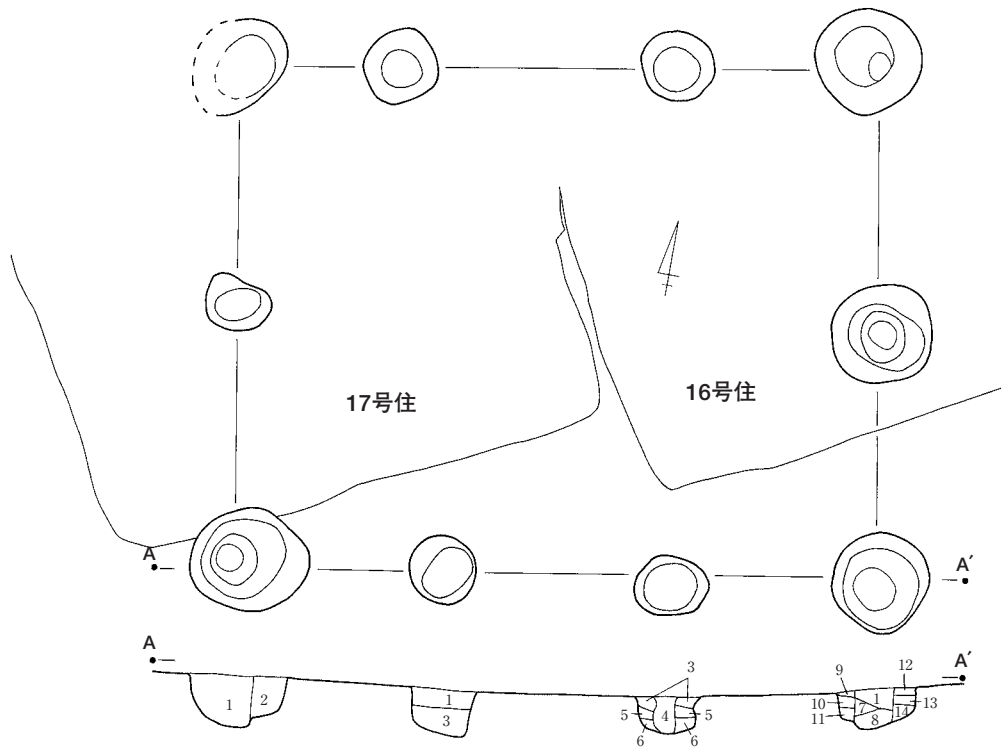
- |    |     |                             |
|----|-----|-----------------------------|
| 1  | 黒褐色 | ローム粒・ロームブロック・炭化物・焼土を含む      |
| 2  | 黒褐色 | ローム粒・ロームブロックを含む             |
| 3  | 黒褐色 | ローム粒・ロームブロックを多く含む、炭化物・焼土も含む |
| 4  | 暗褐色 | ローム粒・ロームブロック・炭化物・焼土を含む      |
| 5  | 黒褐色 | ローム粒・炭化物・焼土を含む              |
| 6  | 暗褐色 | ローム粒・ロームブロックを多く含む、炭化物・焼土も含む |
| 7  | 暗褐色 | ローム粒・焼土を含む                  |
| 8  | 黒褐色 | ローム粒を含む                     |
| 9  | 黒褐色 | ローム粒・炭化物・焼土を含む              |
| 10 | 黒褐色 | ローム粒・ロームブロック・炭化物・焼土を含む      |
| 11 | 暗褐色 | ローム粒・炭化物を含む                 |
| 12 | 黒褐色 | ローム粒・炭化物を含む                 |
| 13 | 暗褐色 | ローム粒・炭化物・焼土を含む              |
| 14 | 黒褐色 | ローム粒・炭化物・焼土を含む              |
| 15 | 褐色  | ロームブロックを含む                  |
| 16 | 黒褐色 | ローム粒を含む                     |



第103図 13-A号・13-B号掘立柱建物跡実測図・出土遺物

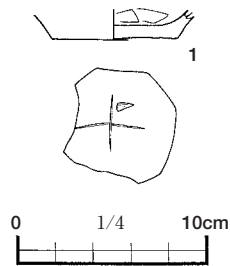
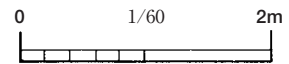


第104图 15号掘立柱建物跡実測図・出土遺物

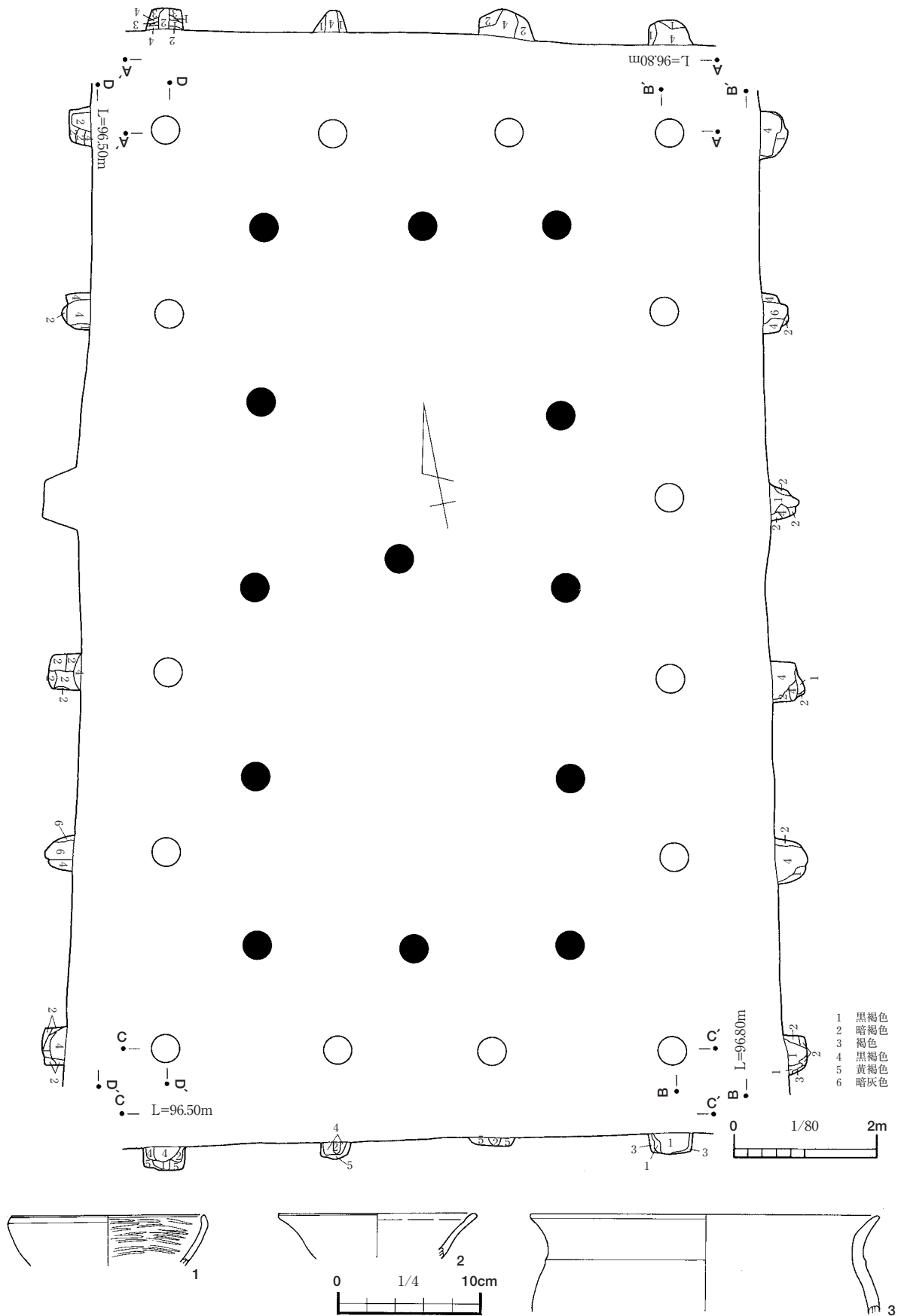


L=94.00m

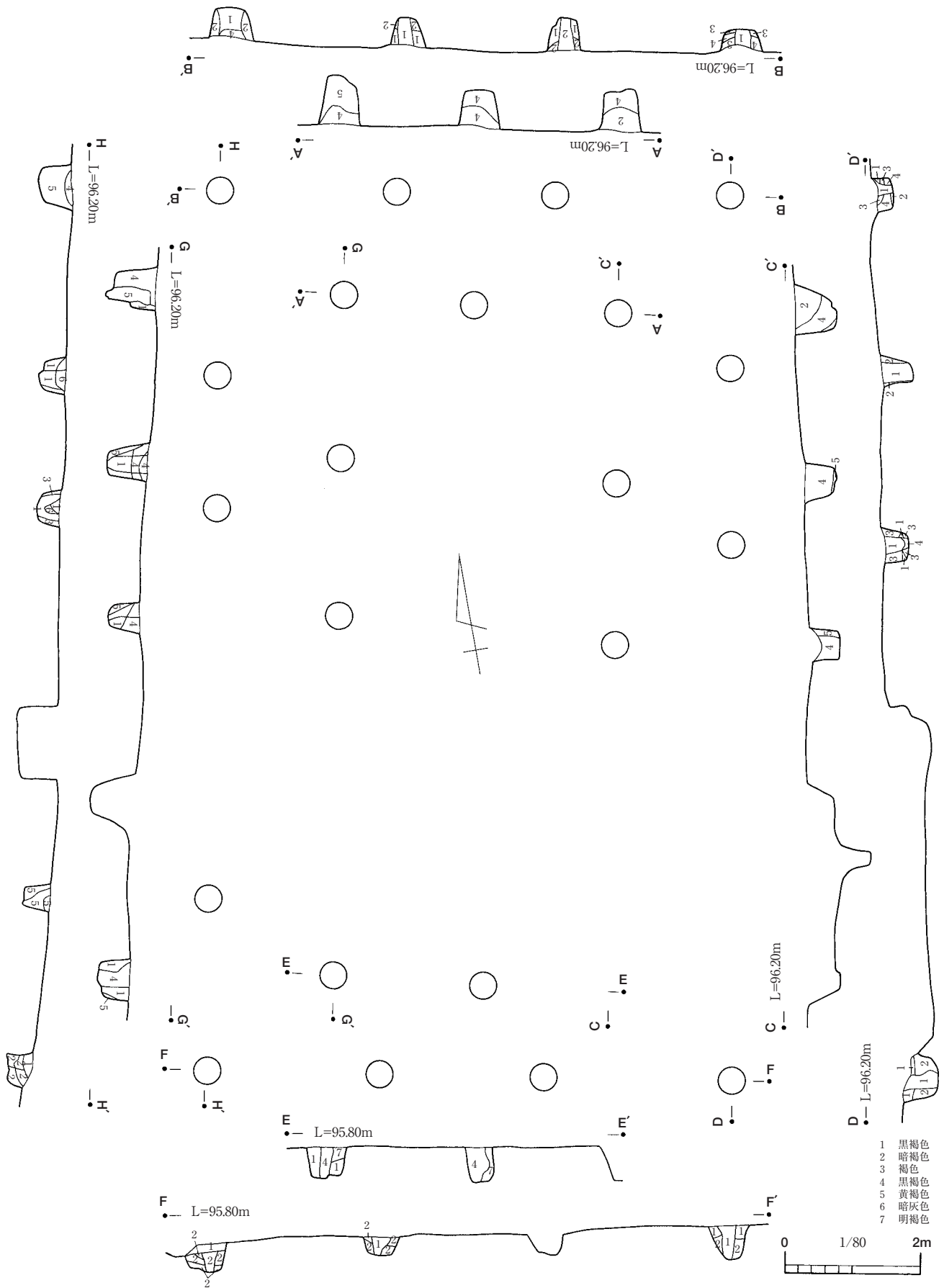
- |       |               |        |           |
|-------|---------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒を多く含む     | 8 黒褐色  | ローム粒を含む   |
| 2 暗褐色 | ローム粒を含む       | 9 黒褐色  | 焼土粒を含む    |
| 3 黄褐色 | ロームブロックを含む    | 10 褐色  | ローム層      |
| 4 暗褐色 | ローム粒を含む、しまりなし | 11 暗褐色 | ローム粒を多く含む |
| 5 黒褐色 | ロームブロックを含む    | 12 黒褐色 | 焼土を含む     |
| 6 黄褐色 | ロームブロックを含む    | 13 黄褐色 | ローム粒を含む   |
| 7 黒褐色 | ローム粒を含む       | 14 褐色  |           |



第105図 16号掘立柱建物跡実測図・出土遺物



第106图 17号掘立柱建物跡推定復元図・出土遺物



第107图 18号掘立柱建物跡推定復元図

出土遺物 A棟とB棟とも一括で取り上げられているため、どちらに伴う遺物かは不明である。1は土師器の坏。

#### 13-B号掘立柱建物跡

桁行3間，梁行2間。桁行5.60m，梁行3.10mを測る。主軸方向N-4° 0′ -W。

#### 15号掘立柱建物跡（第104図）

調査区の西側中央寄りに位置している。10号住居跡・19号住居跡・70号住居跡・71号住居跡の4軒および1基の攪乱土層と重複している。

桁行3間，梁行2間の4面庇付。桁行6.00m，梁行3.80mを測る。主軸方向N-36° 0′ -W。

出土遺物 1は須恵器の甗。2は土製羽口。柱穴間より多くの鉄滓が出土している。

#### 16号掘立柱建物跡（第105図）

調査区の中央北寄りに位置している。16号住居跡・17号住居跡・74号住居跡と重複している。

桁行3間，梁行2間。桁行5.00m，梁行4.04mを測る。主軸方向N-8° 0′ -W。

出土遺物 1は土師器の坏，底部外面に「+」の線刻がある。

#### 17号掘立柱建物跡・18号掘立柱建物跡

調査区の北東，方形溝状遺構内に位置している。2棟の遺構は，平面図と土層断面図の調査位置が記録されていないため，平面図は「第2・第3図」を参考に推定復元したものである。

土層断面図の調査位置は，推定復元図を基に設定したものである。土層断面の記録された柱穴を白抜きで示し，無いものは●としている。

#### 17号掘立柱建物跡（第106図）

桁行4間，梁行2間の外側に5間・4間の外周柱穴列がある。桁行(10.10)m，梁行(4.40)m。身舎の中央やや北寄りに，間仕切り様の柱穴が1ヶ所確認された。外周柱穴列は身舎の柱穴に沿っていない。主軸方向N-9° 30′ -Eを測る。

出土遺物 1・2は土師器の坏。3は土師器の甕。

#### 18号掘立柱建物跡（第107図）

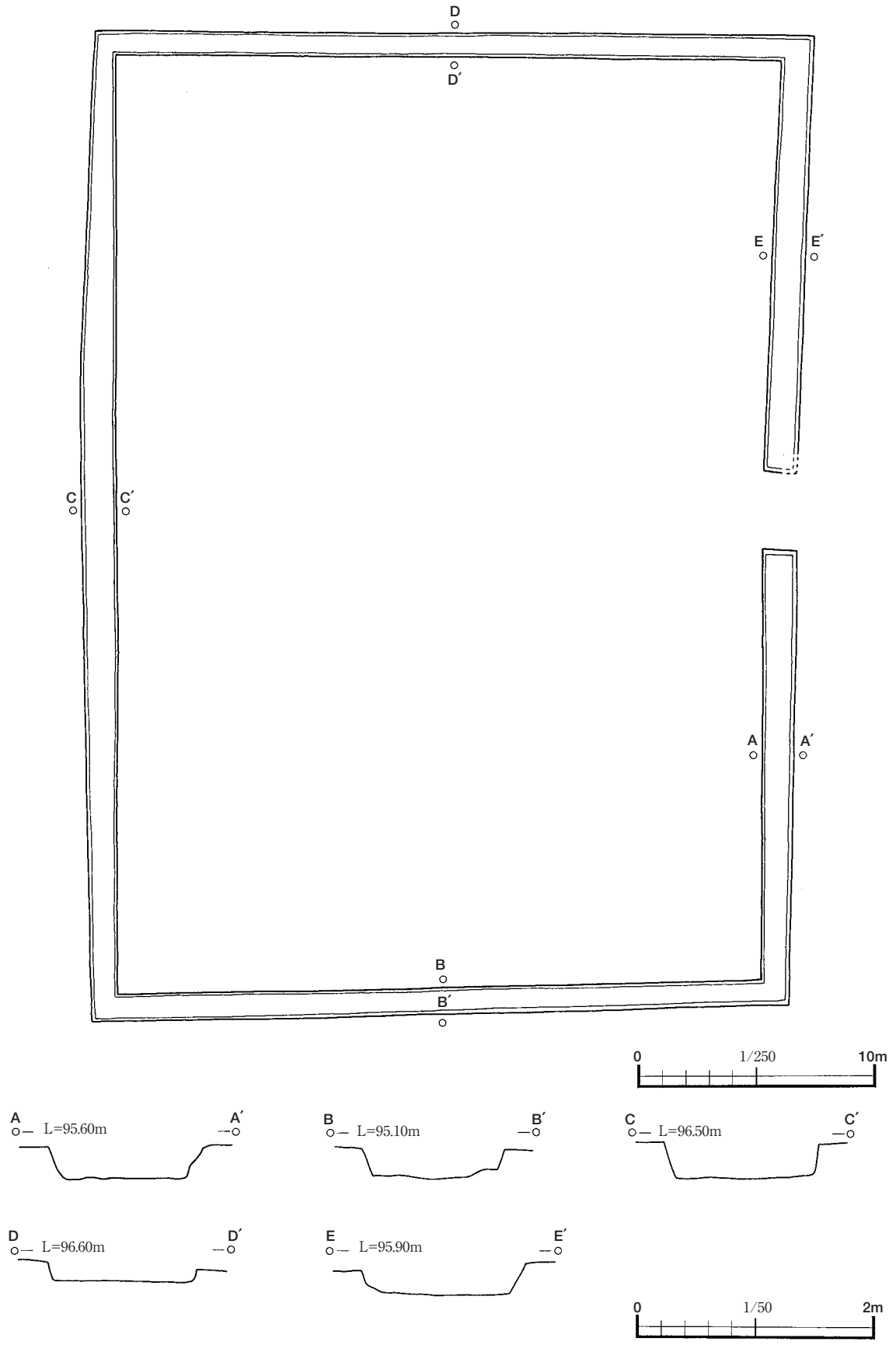
本遺構は24号住居跡・25号住居跡と重複しており，南側中程の柱穴を失っている。本来は17号掘立柱建物跡と同規格で桁行4間，梁行2間の外側に5間・4間の外周柱穴列があったと思われる。桁行(10.00)m，梁行(4.00)m。外周柱穴列は身舎の柱穴に沿っていない。主軸方向N-11° 0′ -Eを測る。

出土遺物なし。

### 3. 方形溝状遺構（第108・第109・第110・第111図）

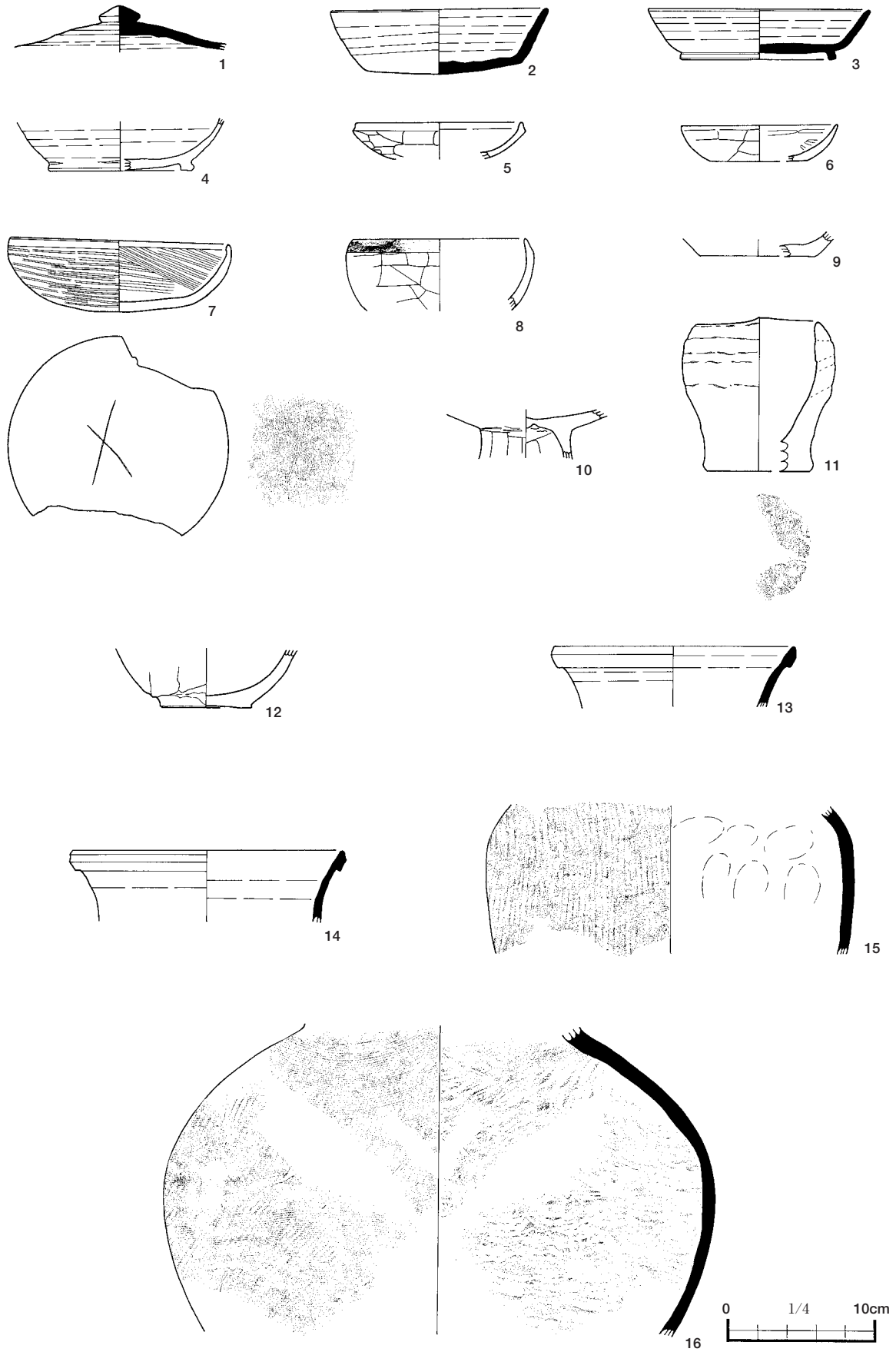
本遺構の名称については，凡例で述べているので参照されたい。

遺構は調査区の北東に位置している。圍繞している内側に，2棟の掘立柱建物跡と8軒の竪穴住居跡が所在している。調査当時から17号掘立柱建物跡と18号掘立柱建物跡に伴う遺構と考えられている。平面図は「第2・第3図」により作成した。遺構断面図は調査位置の記録が無いため位置不明である。図中の断面図の位置はおおよその位置である。

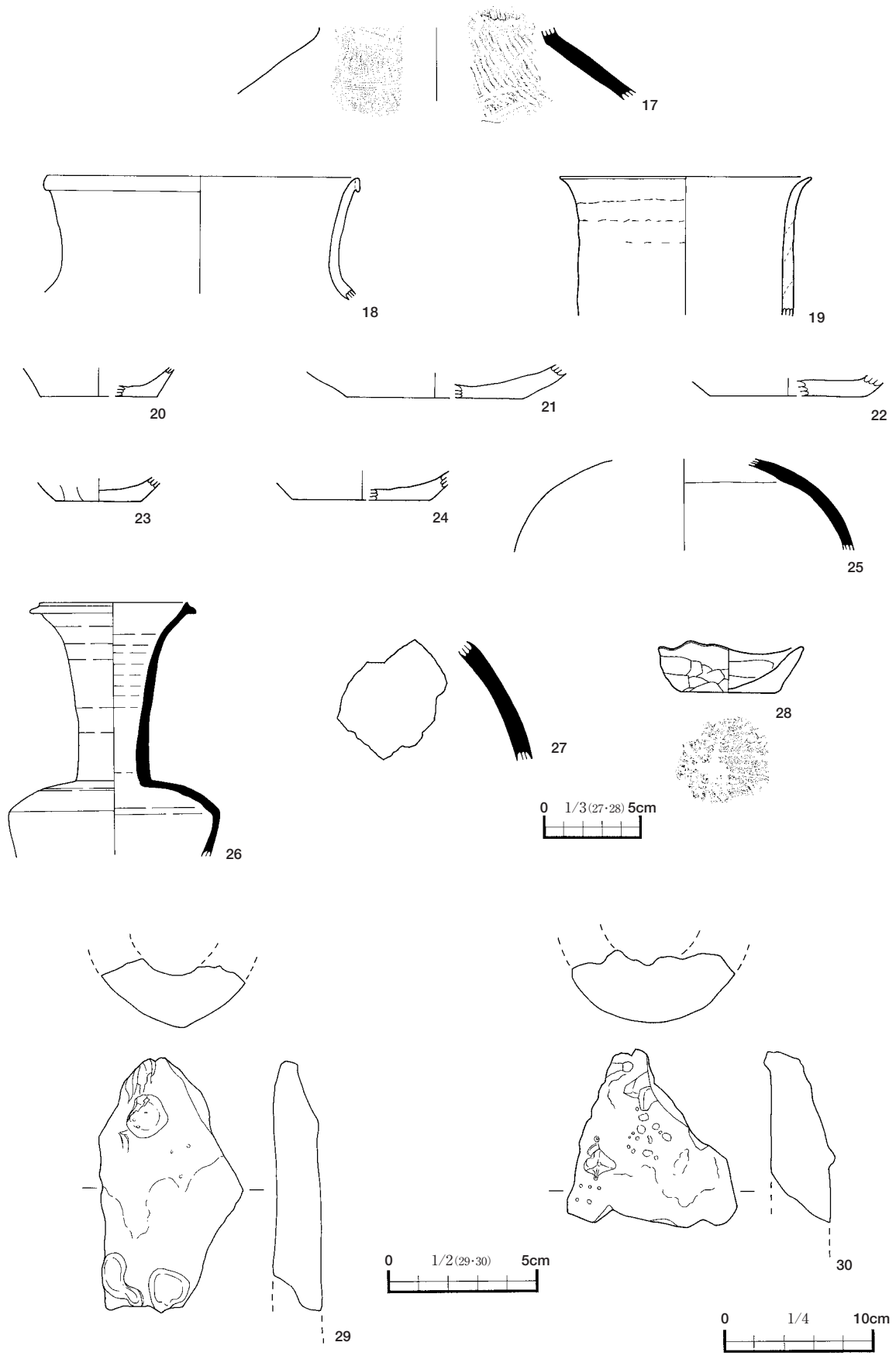


第108図 方形溝状遺構実測図





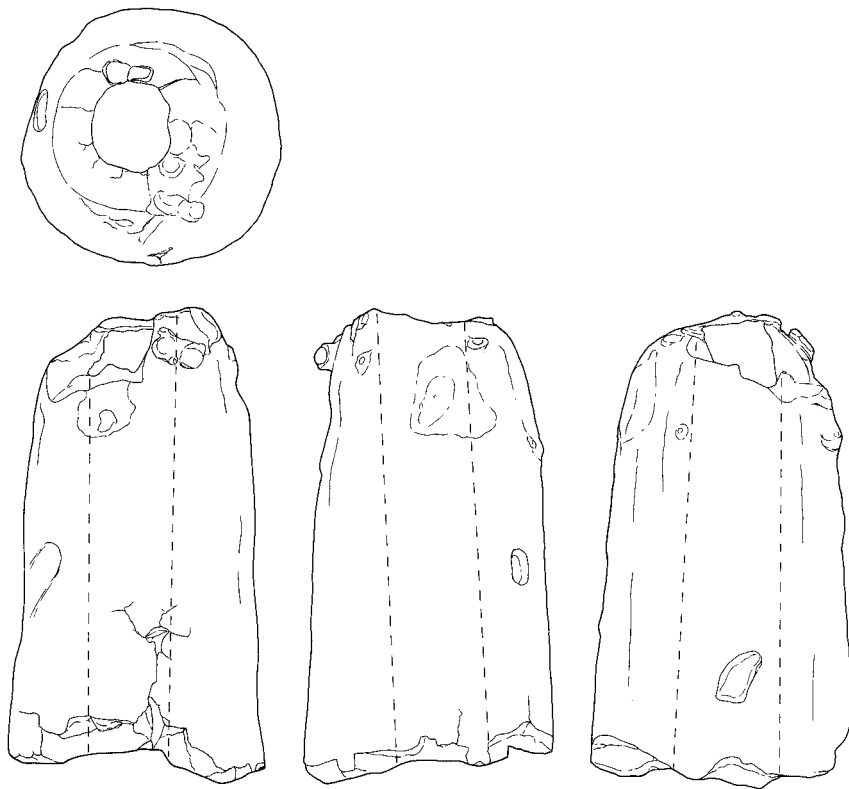
第109图 方形溝状遺構出土遺物(1)



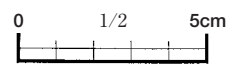
第110図 方形溝状遺構出土遺物(2)



31



32



第111図 方形溝状遺構出土遺物(3)

形態は南側中央に開口部としての土橋をもつ長方形を呈している。溝の底部はほぼ平坦である。規模溝の外側より東西に約41.70m, 南北約30.40mを測る。

出土遺物 1は須恵器の蓋。2は須恵器の坏。3は須恵器の高台付坏。4は土師器の高台付坏。5～9は土師器の坏, 7は「+」の線刻がある。8は口縁部にスス付着。10は土師器の高坏。11・12は土師器の鉢。13～17は須恵器の甕。18～24は土師器の甕。25～27は湖西産灰釉陶器の瓶。28は手捏土器。29～32は土製羽口。そのほか多くの鉄滓が出土している。

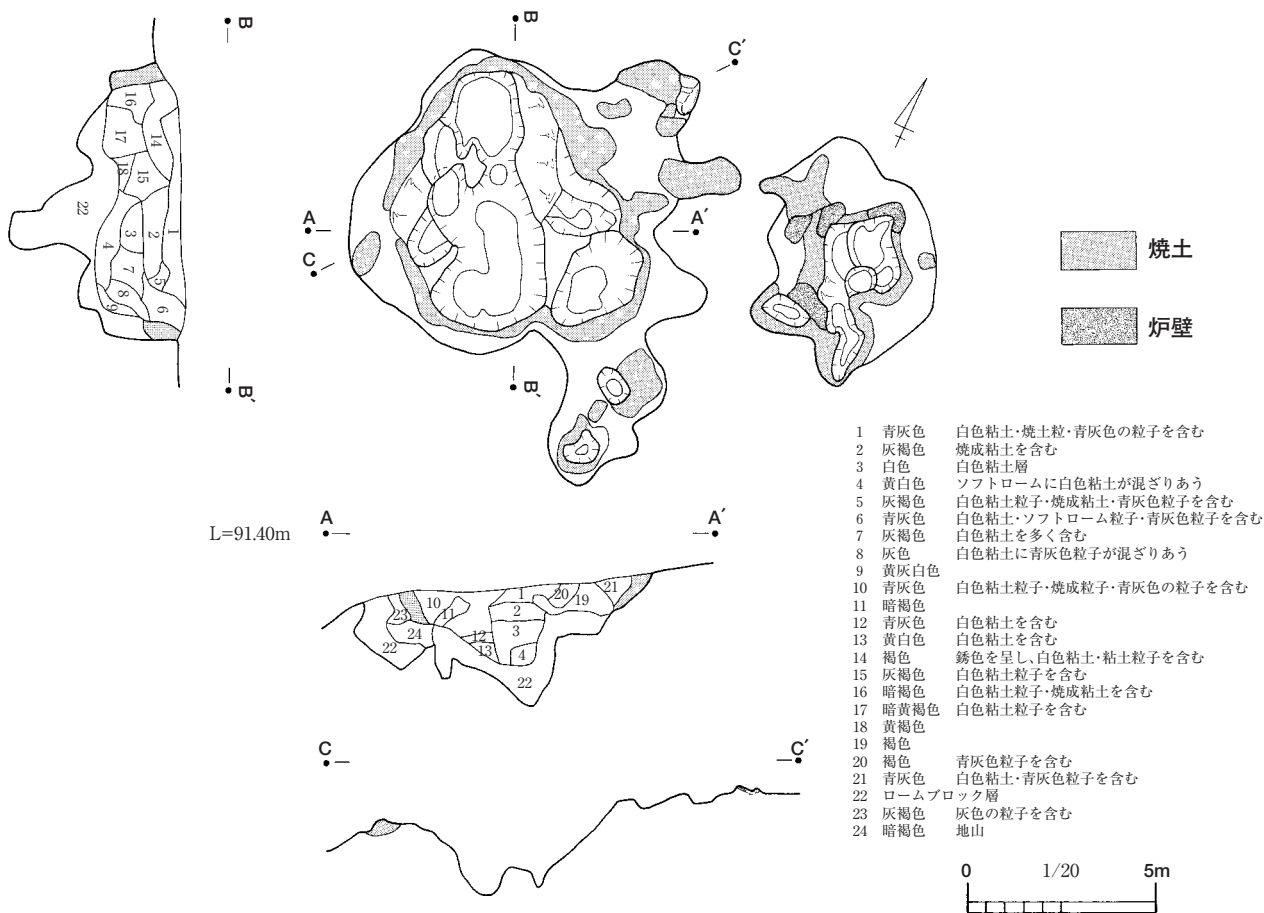
#### 4. 鍛冶跡

調査区内の遺構などから羽口・鉄滓などの製鉄関連遺物が出土しているが、鍛冶炉跡は1基のみ検出された。

##### 1号鍛冶炉跡 (第112図)

調査区の西側, 14号住居跡・71号住居跡の付近と思われる。平面図に調査位置の記載がなく, 写真等の資料を調べても正確な位置は分からないため, 遺構分布図(第2・第3図)に記載されていない。

炉跡の形態はゆるやかな傾斜地に不整形を呈している。本来は一体の遺構であったものが遺構上部が失われ, 2ヶ所に分かれた状態で遺構の下部が遺存している。西側の窪みの規模は径95cm×80cm。深さ45cmを測る。30cmの間をあけて東側に位置する窪みの規模は径60cm×45cm。遺構の最下部で



第112図 1号鍛冶炉跡実測図

ある。双方とも窪みの周囲から焼土が検出されている。

出土遺物なし。

## 5. 土 壙

土壙は18基検出されているが、一部を除き調査記録が残されていないため、1号土壙・2号土壙・3号土壙の3基について報告する。

### 1号土壙 (第113図)

調査区の西側、竪穴住居跡や掘立柱建物跡の集中している地区に位置している。15号掘立柱建物跡と重複している。

形態は方形を呈している。規模1.95×1.50mを測る。主軸方向N-113° 0′ -W。

出土遺物 1～3は土師器の坏。

### 2号土壙 (第113・114・115図)

調査区の西側に位置している。調査時は7号住居跡とされていた遺構である。3基の攪乱土壙と重複している。

形態はほぼ円形を呈している。規模3.60×3.10m。主軸方向N-3° 30′ -W。

出土遺物 1～4は須恵器の坏。5・6は須恵器の高台付坏。7～16は土師器の坏、9は底部外面に「万得」の墨書がある。15は側面に墨書があり「仲万菩薩」か。17は土師器の高台付皿、底部外面に墨書があるが解読できない。18は須恵器の椀、底部外面にヘラ書きがあるが解読できない。19は土師器の椀、内外面黒色処理。20・21は須恵器の小型甕。22は灰釉陶器の瓶。23・24は土師器の小型甕。25は須恵器の大型甕。26は須恵器の甕。27～29は土師器の甕。30・31は須恵器の甑。32は布目瓦。

### 3号土壙 (第116図)

調査区の北東、方形溝状遺構内の18掘立柱建物跡西隣りに位置している。平面図は上場輪郭のみ記録されている。

形態は六角形を呈している。規模5.55×4.15m。主軸方向N-5° 30′ -E。

出土遺物 1～7は須恵器の坏、1は火ダスキ、内面スミ付着、底部外面「祈」または「新」のヘラ書きがある。2は火ダスキ。8・9は須恵器の高台付坏。10・11は土師器の坏。12は土師器の小型甕。13・14は須恵器の甕。15～18は土師器の甕。19は土製支脚。そのほか鉄滓が出土している。

## 6. 古 墳

調査区の南東側に3基まとめて検出された。3次調査でも1基検出されている。本遺跡の北側の小谷を隔てた台地上に展開する、長塚古墳群に連なる古墳群であろうか。

### 1号古墳 (第117図)

墳丘と埋葬施設は残っておらず、周溝のみ検出された。南西側で63-B号住居跡と重複している。

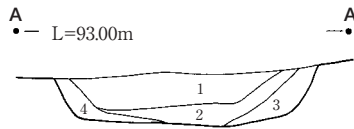
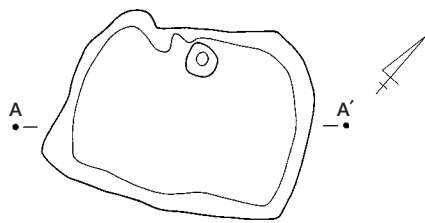
周溝の形態は円形を呈しているので円墳であったと考えられる。

規模15.0×14.3mを測る。

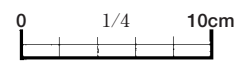
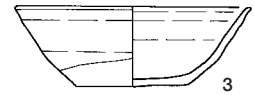
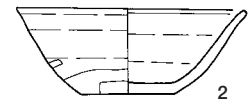
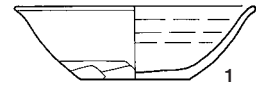
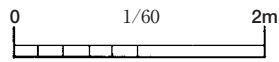
出土遺物 1は土師器の坏、内外面赤彩。出土地点は不明ながら周溝出土か。

### 2号古墳 (第118図)

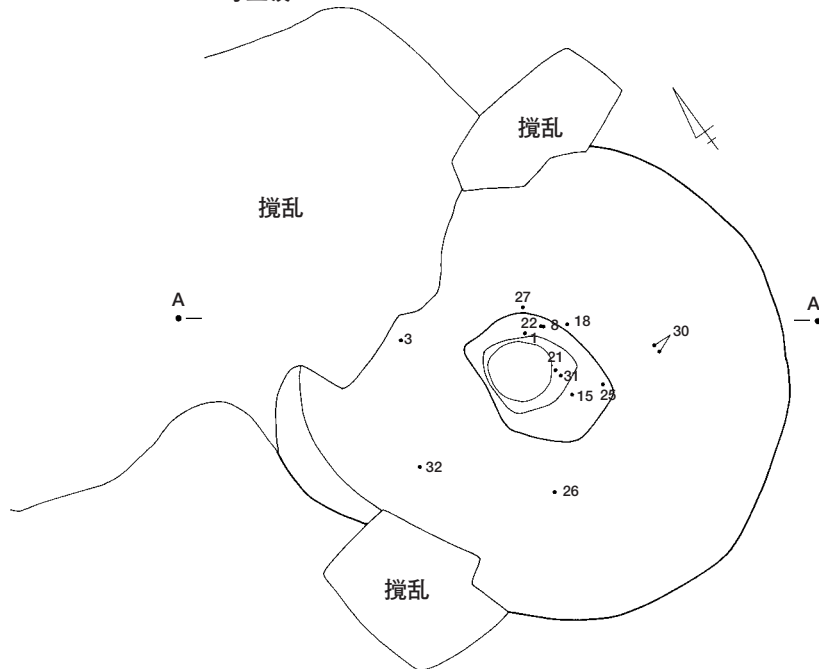
1号土壌



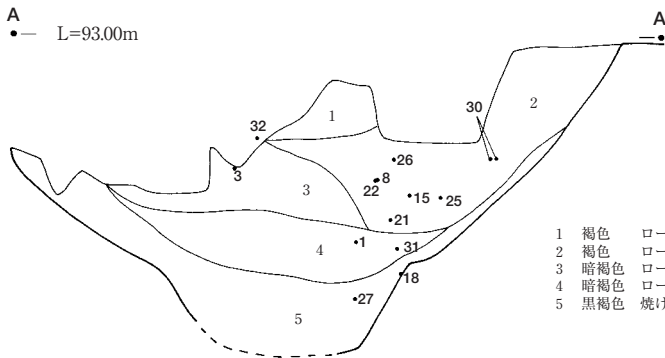
- 1 黒褐色 焼土・ローム粒を多く含む
- 2 黒褐色 焼土・炭化物・ローム粒を含む
- 3 暗褐色 粘性の強い土層
- 4 暗褐色 炭化物を含む



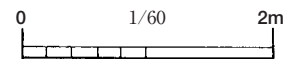
2号土壌



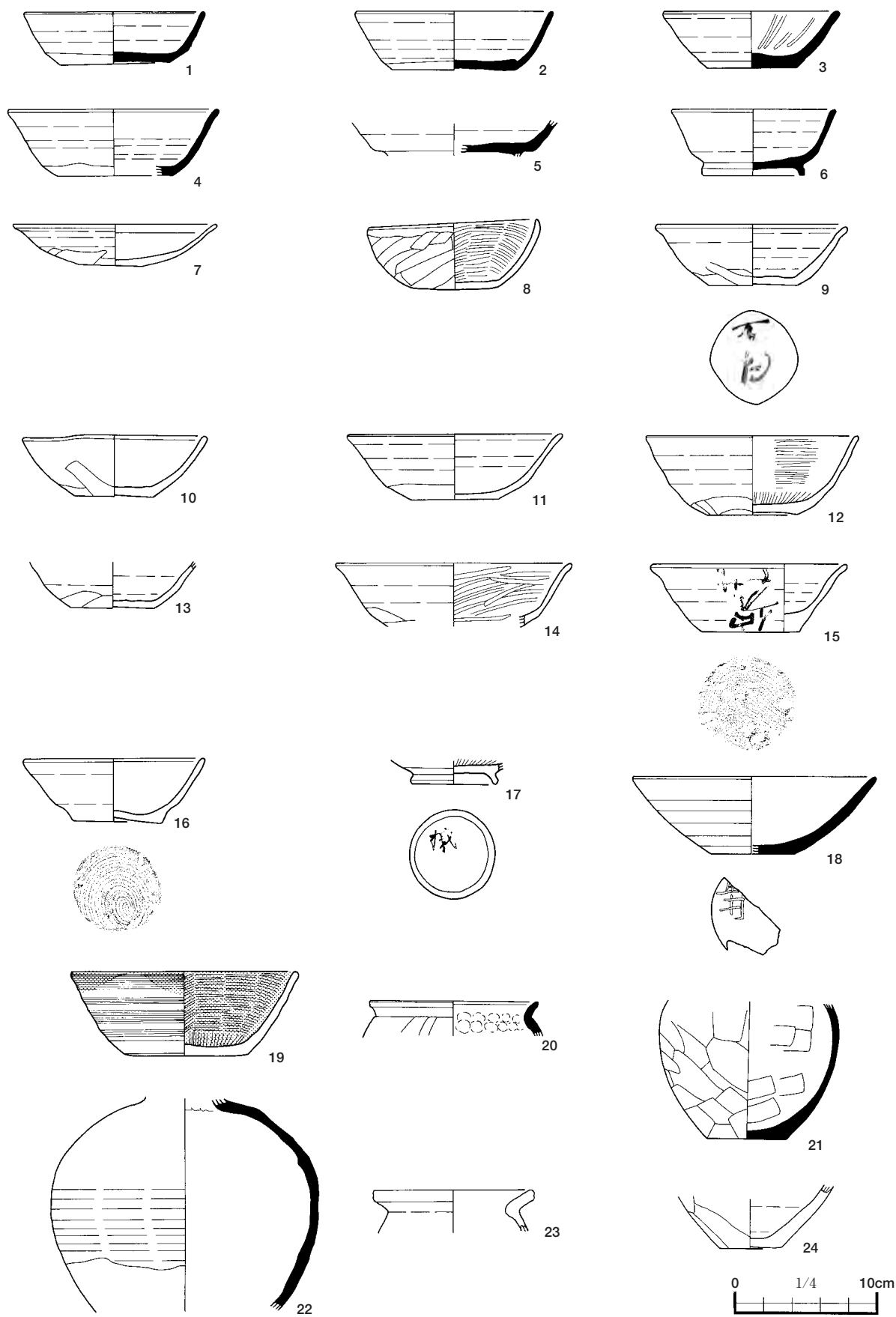
A — L=93.00m



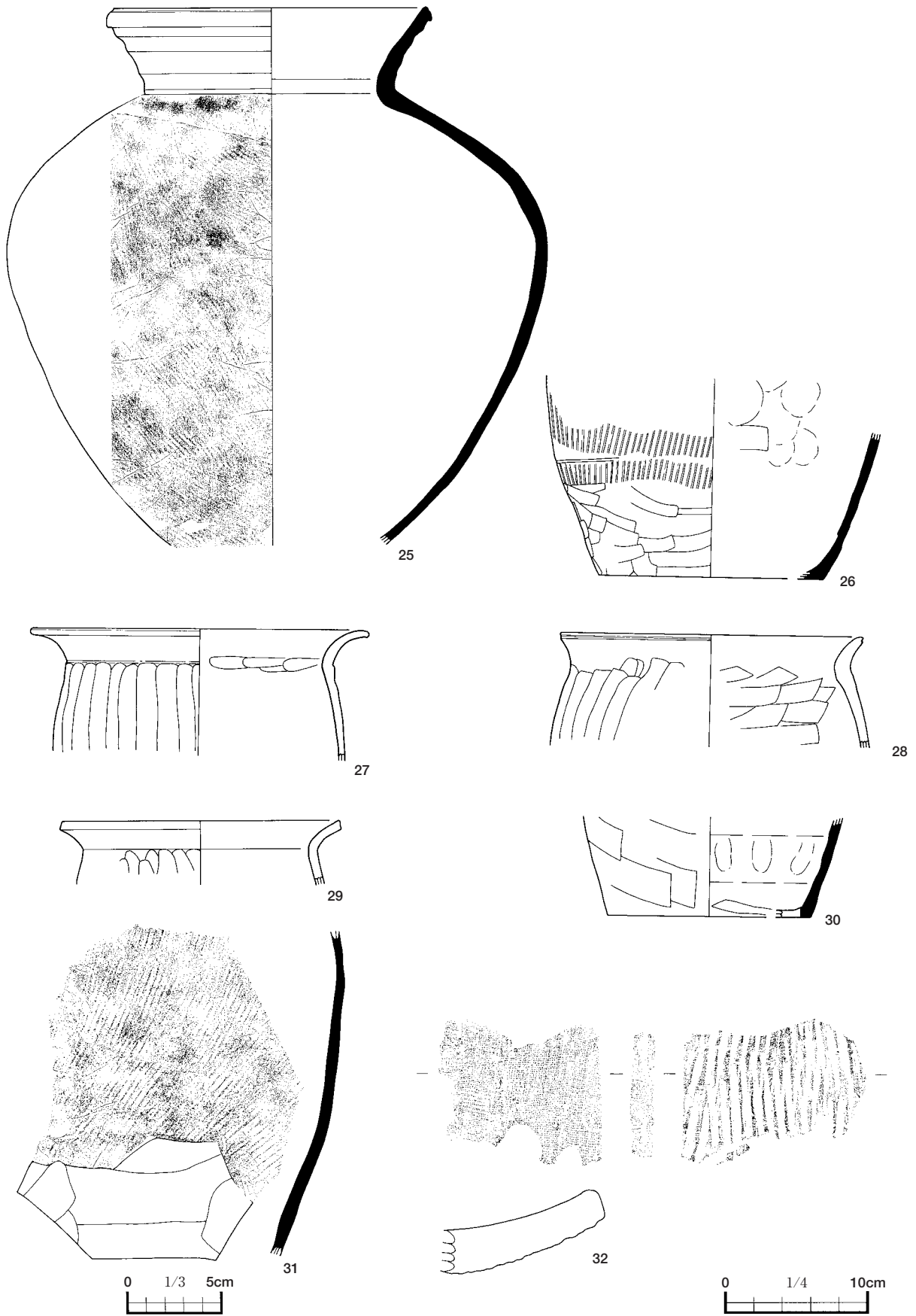
- 1 褐色 ロームブロックを含む
- 2 褐色 ローム粒を多く含む
- 3 暗褐色 ロームブロックを少し含む、砂層
- 4 暗褐色 ロームブロックを少し含む
- 5 黒褐色 焼けた灰を多く含む



第113図 1号・2号土壌実測図・1号土壌出土遺物

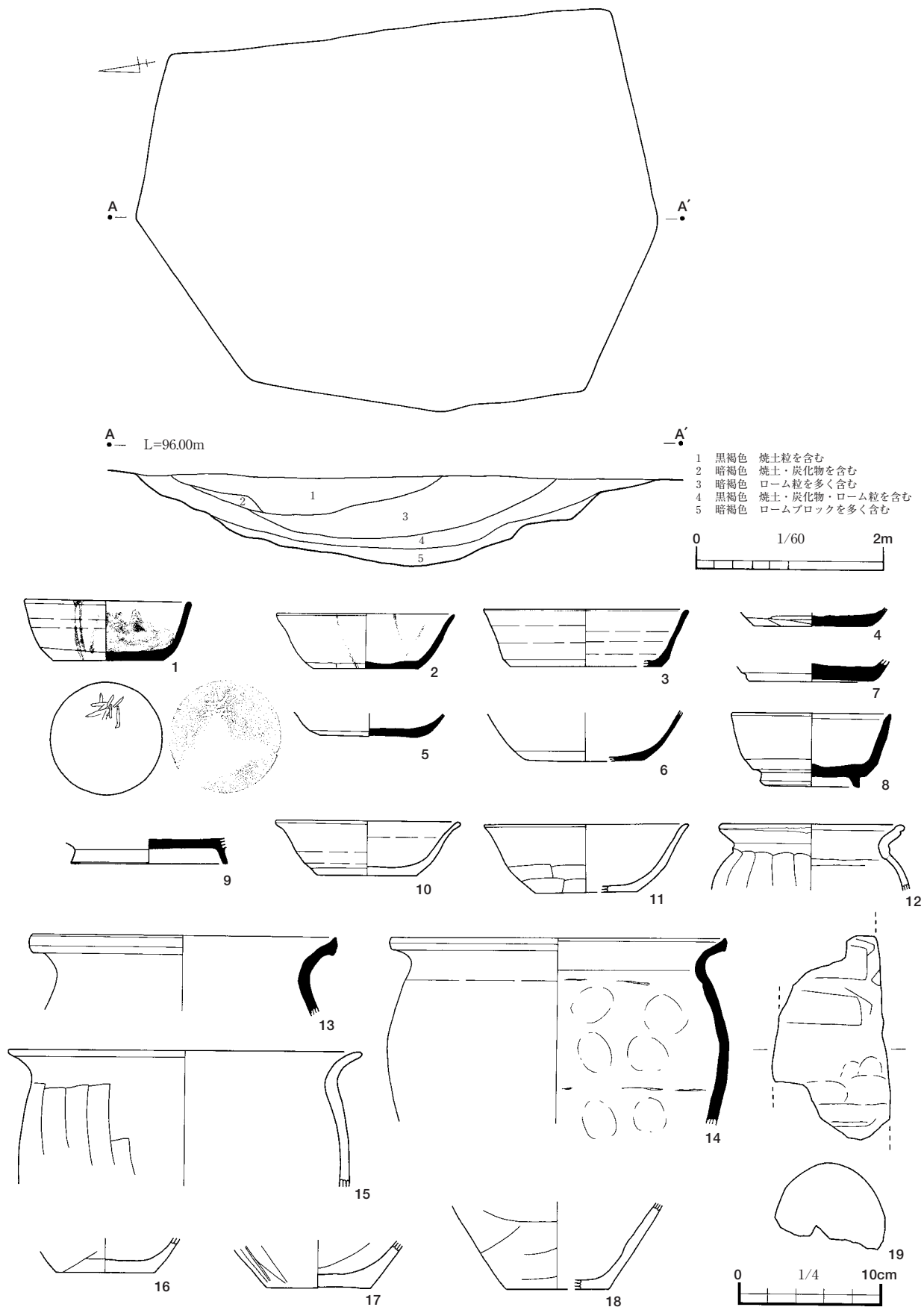


第114图 2号土壤出土遗物(1)

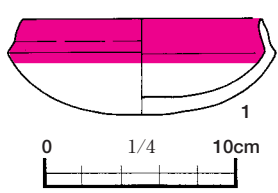
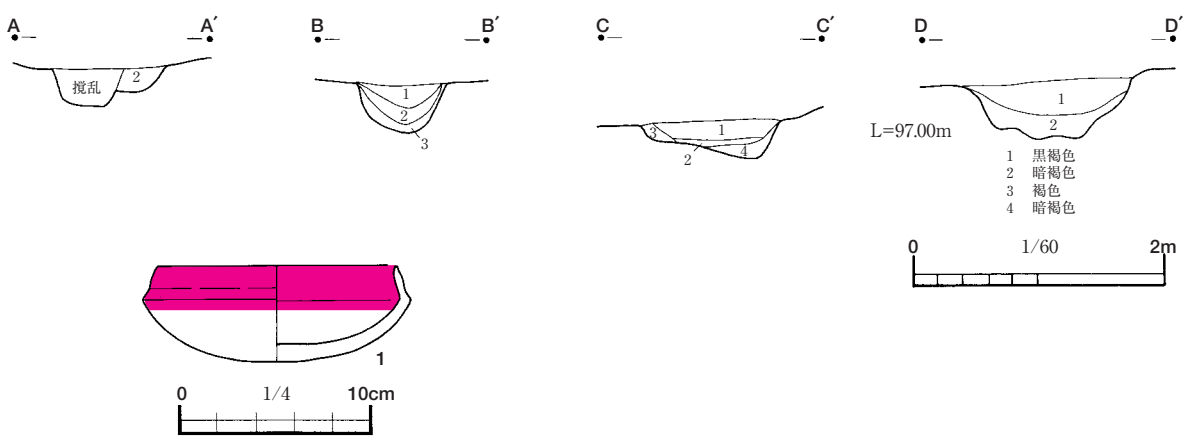
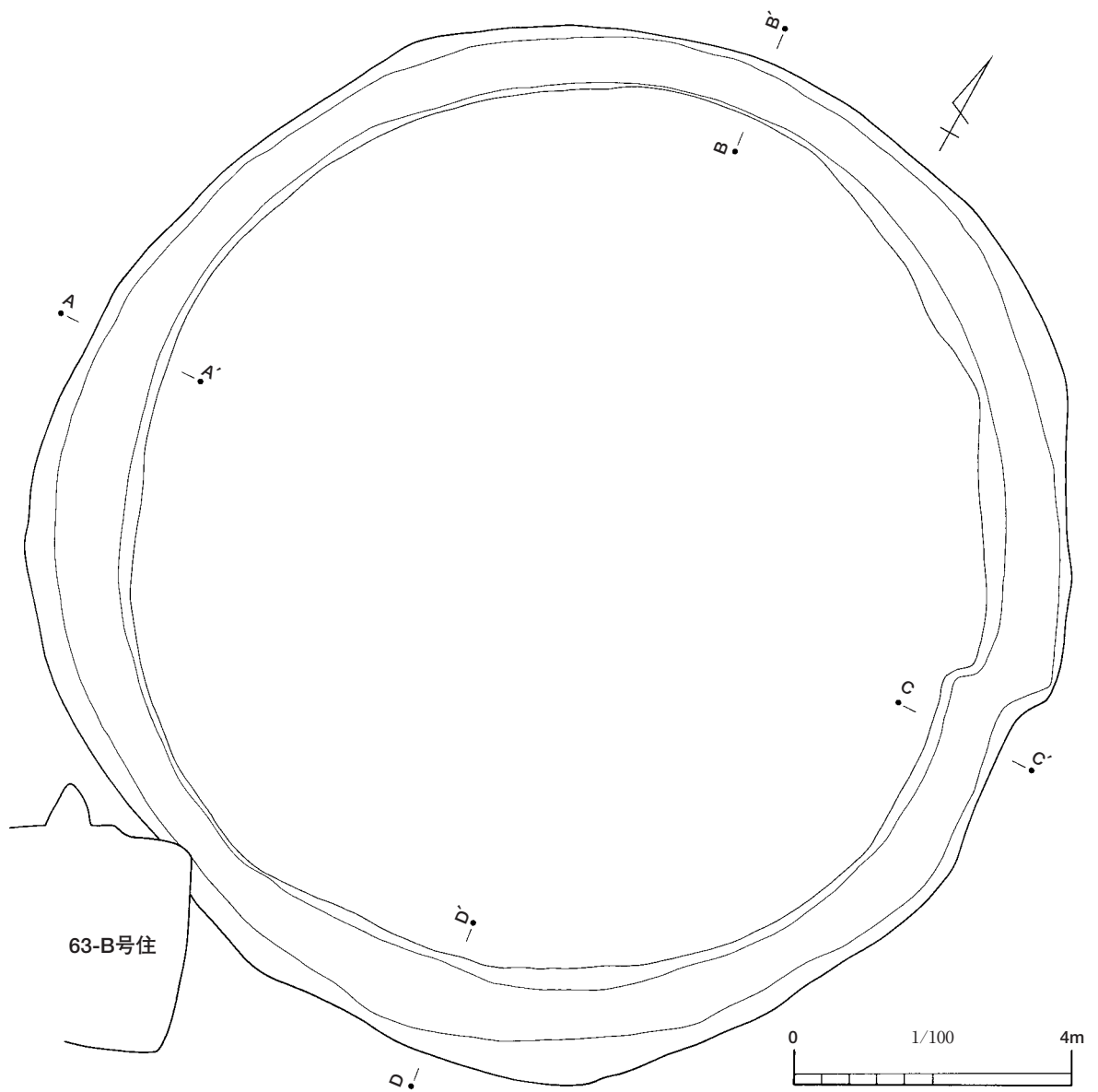


第115图 2号土壙出土遺物(2)

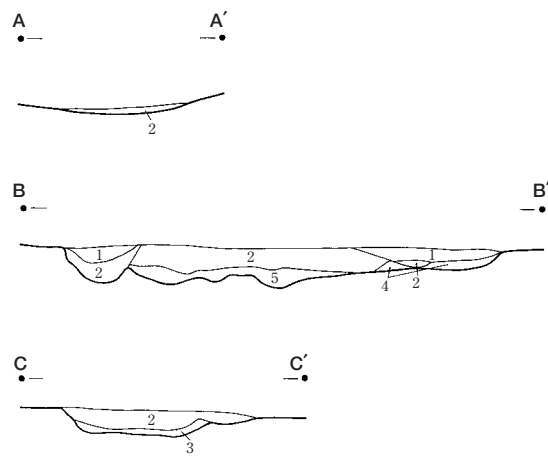
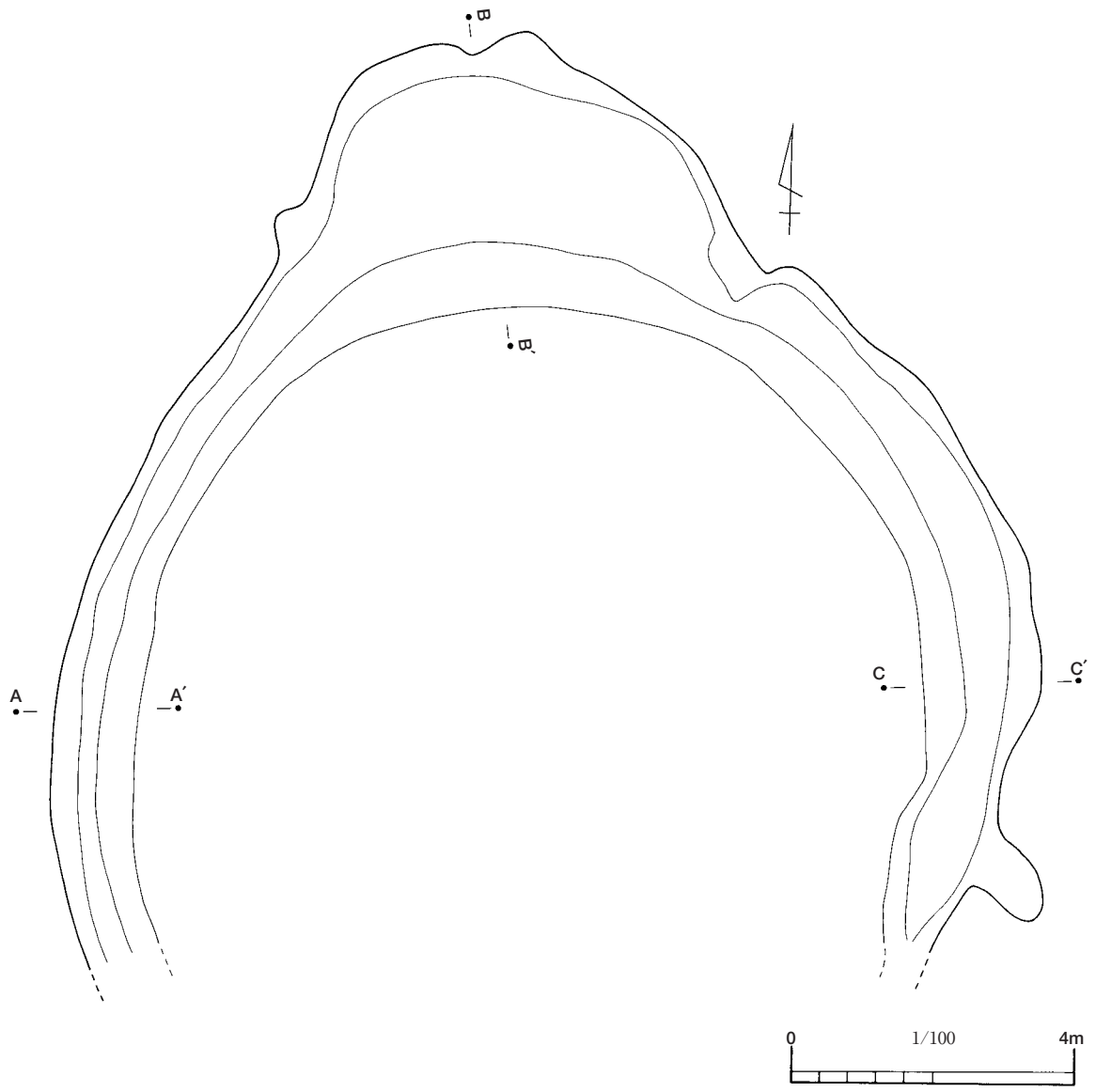




第116図 3号土壌実測図・出土遺物

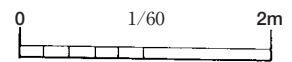


第117図 1号古墳実測図・出土遺物

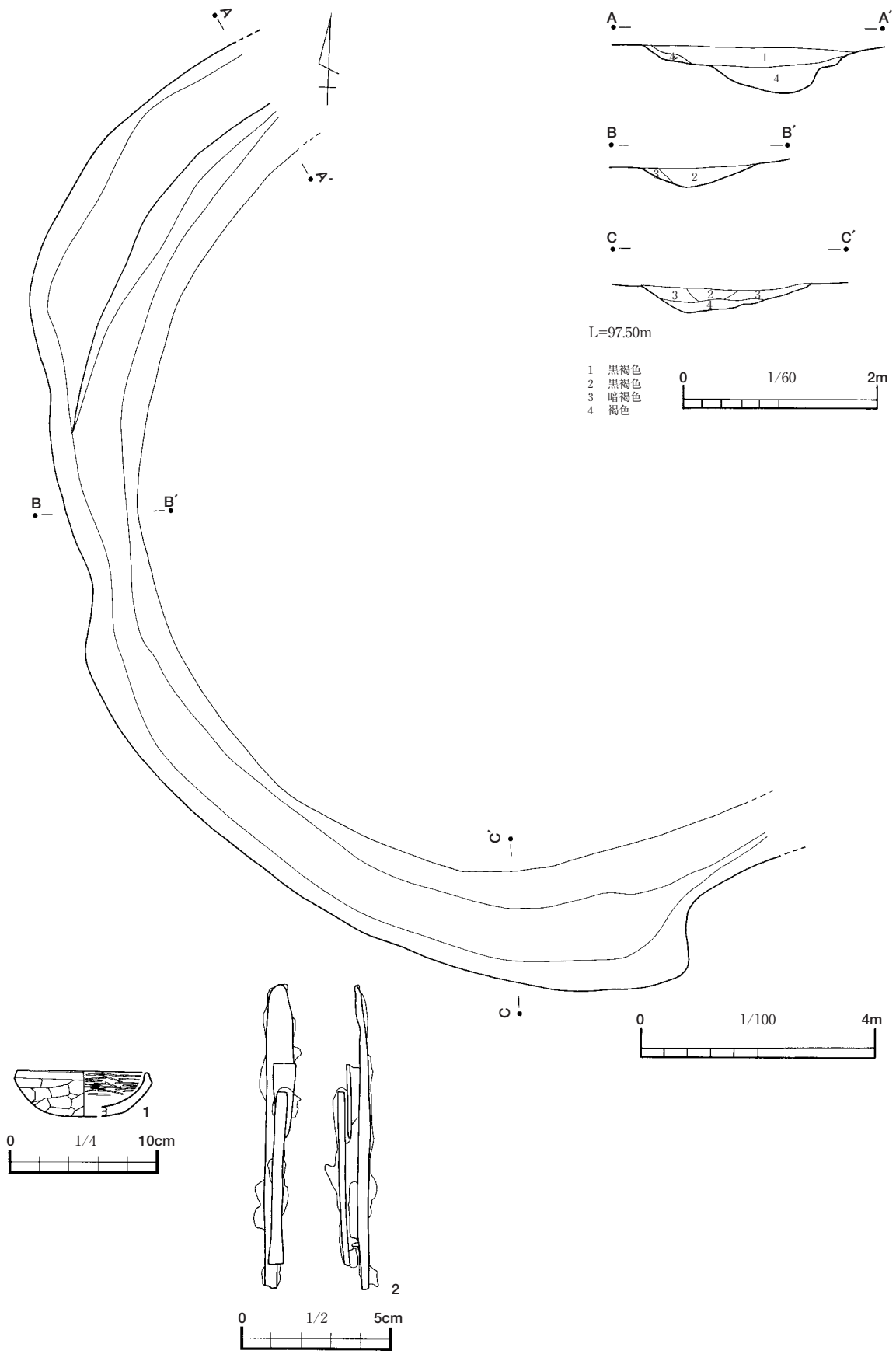


L=97.00m

- 1 黑褐色
- 2 黑褐色
- 3 暗褐色
- 4 褐色
- 5 褐色



第118图 2号古墳実測図



第119图 3号古墳実測図・出土遺物

墳丘と埋葬施設は残っていない。周溝の南側は消滅している。

周溝の形態は円形を呈しているものと推測される。

規模 東西13.2mを測る。

出土遺物なし。

### 3号古墳 (第119図)

墳丘と埋葬施設は残っていない。周溝の北東側は消滅している。

周溝の形態は円形を呈しているものと推測される。

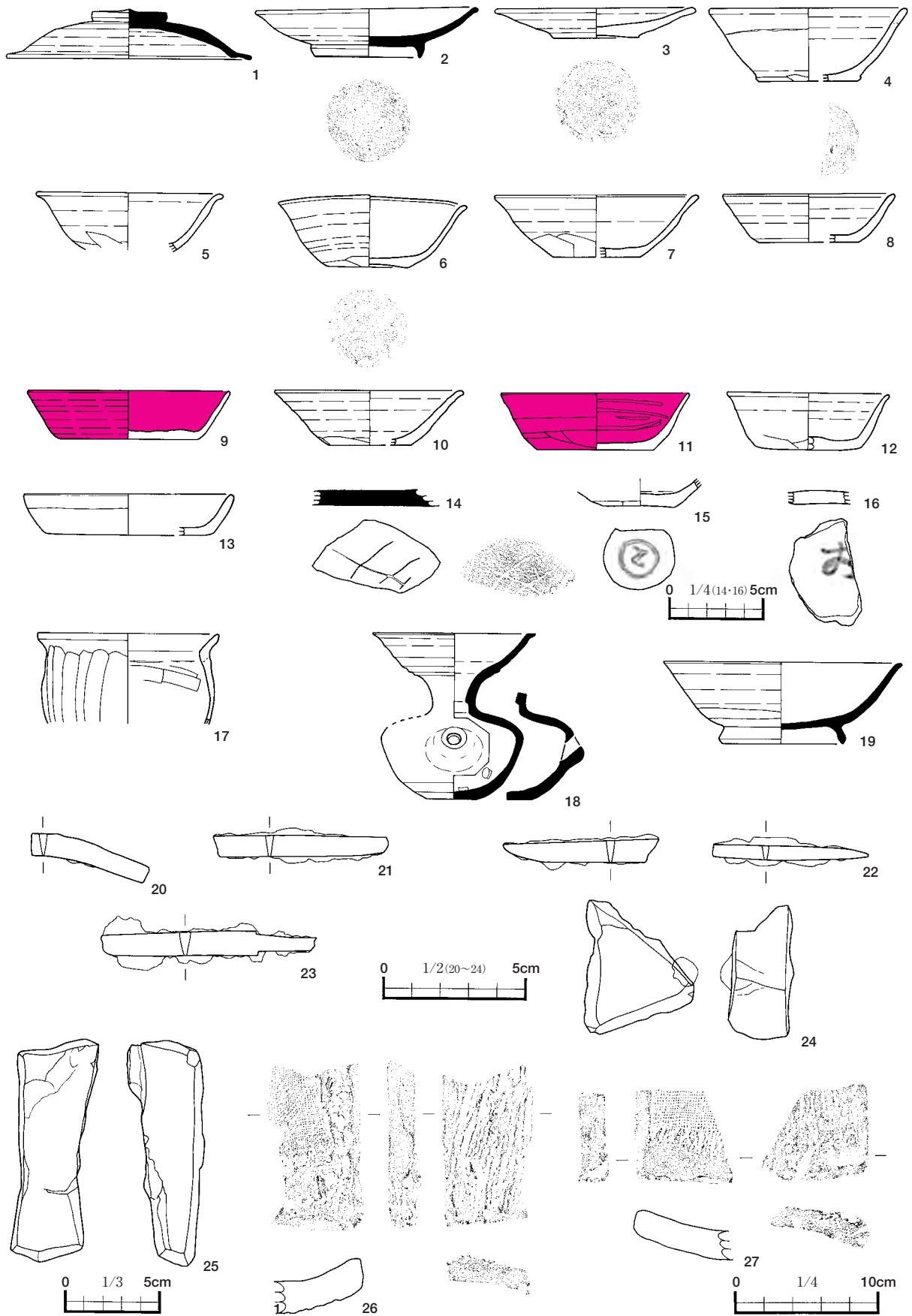
規模 北西～南東16.6mを測る。

出土遺物 1は土師器の坏。2は鉄鏃で3本が錆付いている。出土地点は不明ながら周溝出土か。

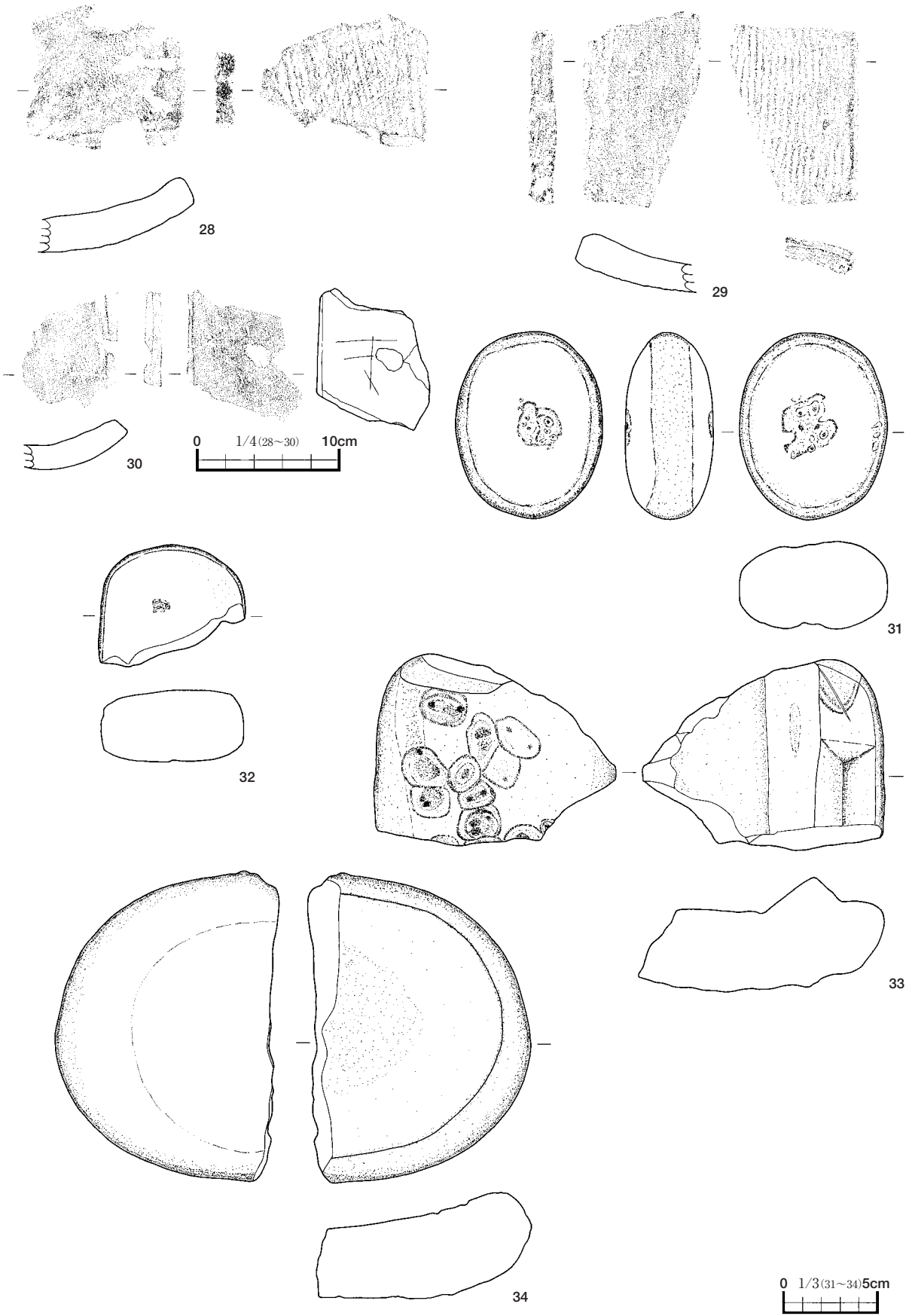
## 7. 表採遺物 (第120・121・122図)

遺構外出土の遺物は表採として報告する。

1は須恵器の蓋。2は須恵器の高台付皿。3は土師器の皿。4～13は土師器の坏，9は内外面赤彩。11は内外面赤彩。14は須恵器の坏，底部外面に線刻があるが判読できない。15は土師器の坏，底部外面に墨書がある。○の中に乙，則天文字「日」。16は土師器の坏，底部外面に墨書があるが判読できない。17は土師器の甕。18は須恵器の甕。19は湖西産灰釉陶器の高台付椀。20～23は鉄製刀子。24は用途不明鉄製品。25は白色凝灰岩製砥石。26～30は布目瓦，30は外面に線刻があるが判読できない。31・32は安山岩製磨石。33・34は安山岩製石皿。35～70は縄文土器片，35～45は早期条痕文系土器。46～49は前期後半。50～70中期中葉～後半。



第120図 表採遺物(1)



第121図 表採遺物(2)



第122図 表採遺物(3)



## 第3章 2次調査

### 1節 概要

1次調査区の北側に、第3駐車場の建設することとなり確認調査を行ったところ、溝状遺構が1条検出されたため、千葉市教育委員会文化課が本調査を実施した。

調査について

- ① 調査区には任意にグリッドを設定した。
- ② 遺構番号は変更していない。

調査された遺構

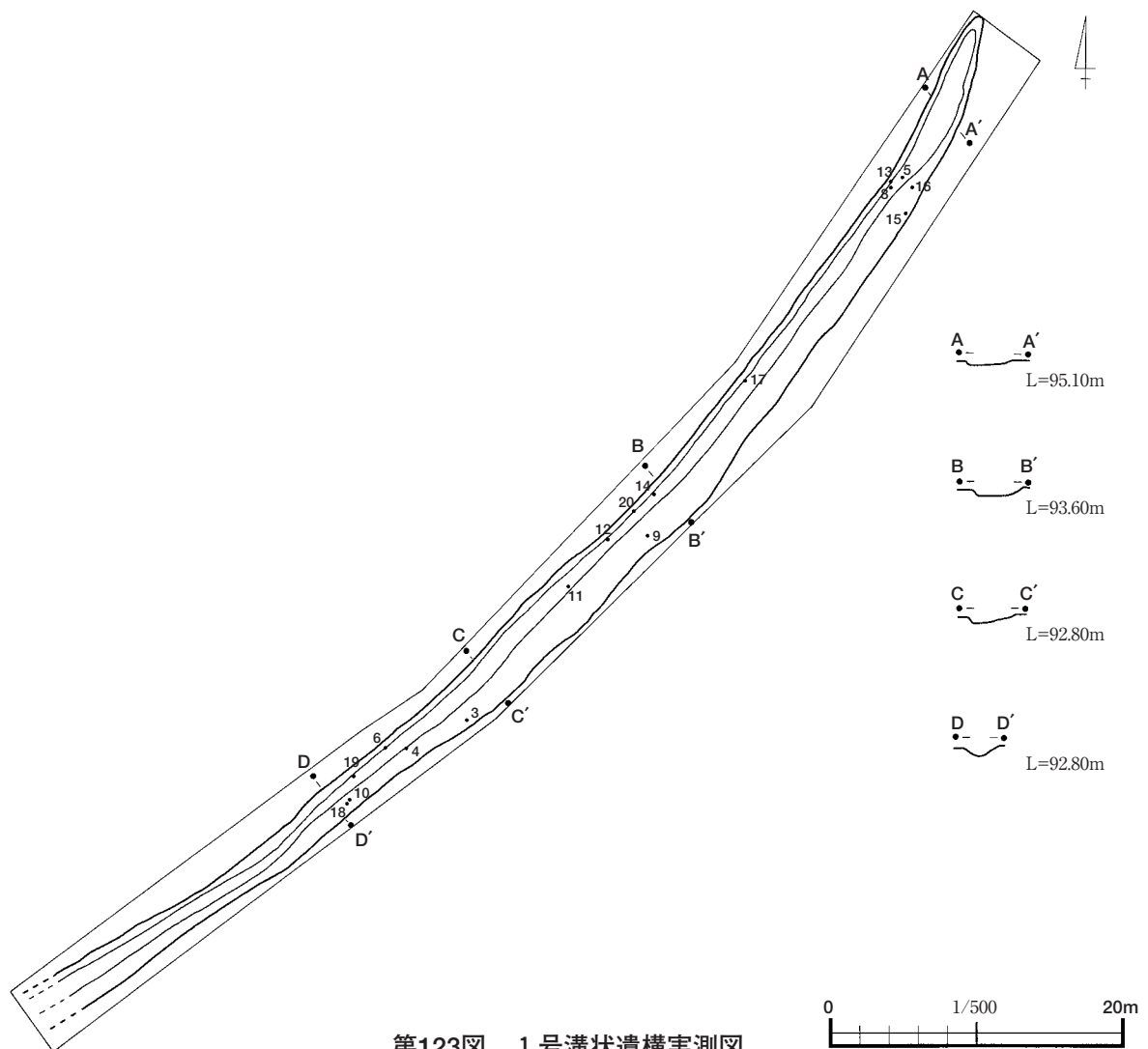
確認調査時に検出された溝状遺構1条である。

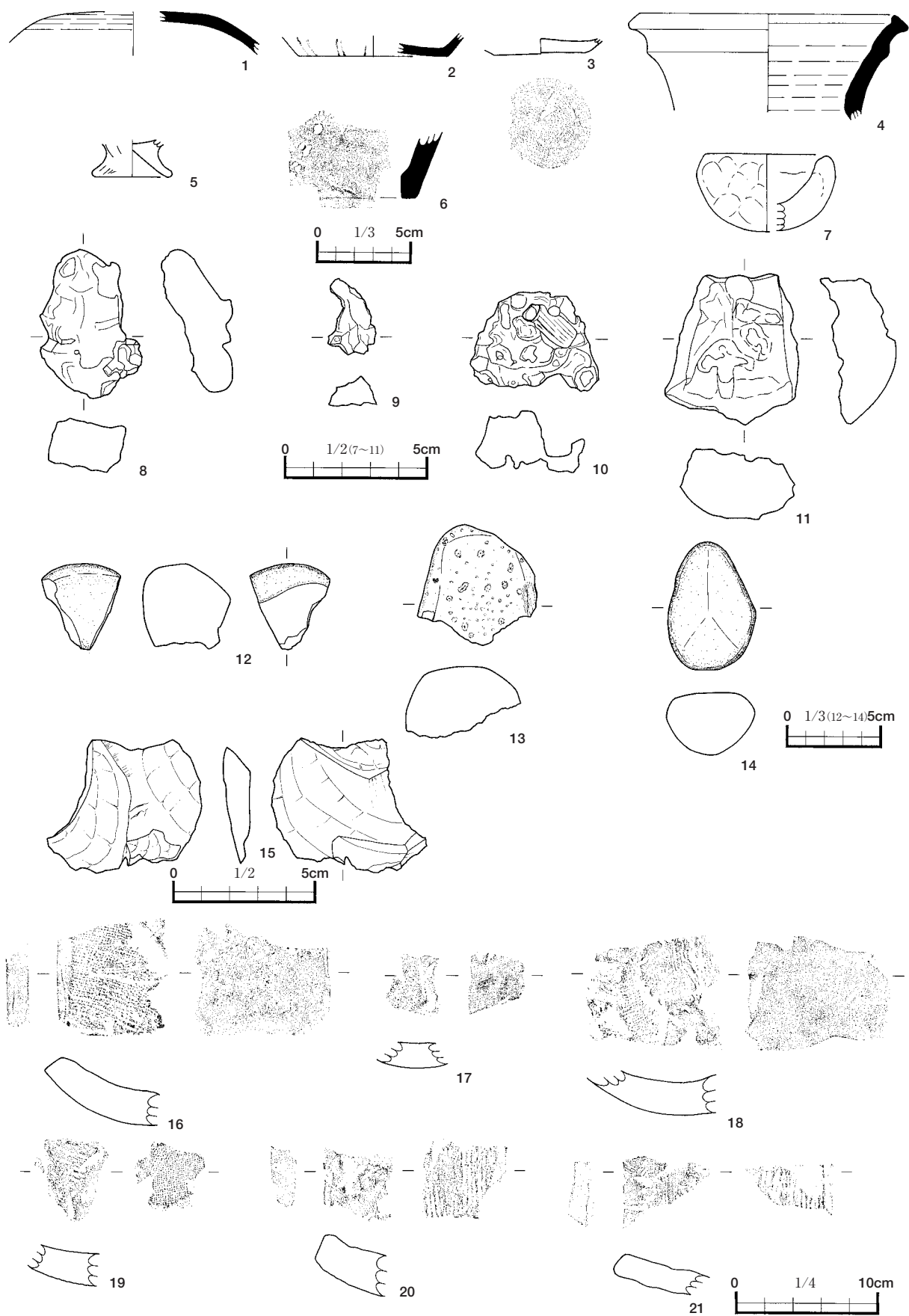
### 2節 遺構と遺物

#### 1. 溝状遺構

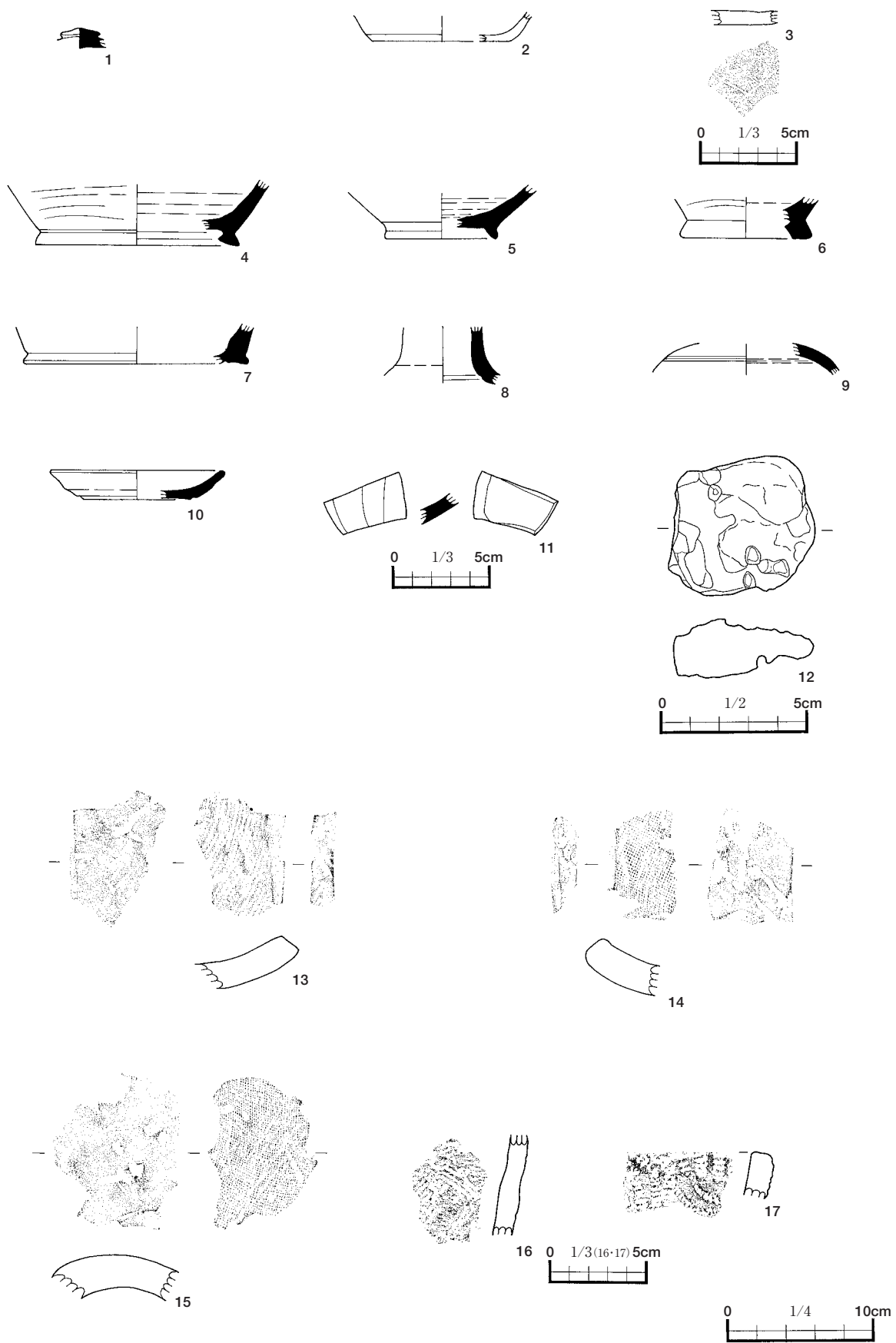
1号溝状遺構 (第123・124図)

遺構は北側の小谷に沿うように、台地の縁辺を北東から南西にはしている。





第124图 1号溝状遺構出土遺物



第125図 表採遺物（2次）

溝の断面は、台地側で緩やかに傾斜し谷側では立ち上がっている。調査された溝の長さ9.1m。幅2～4m。深さ0.15～0.30mを測る。

出土遺物 1は須恵器の蓋。2は須恵器の坏、火ダスキがみられる。3は土師器の坏。4は須恵器の甕。5は土師器の台付甕。6は須恵器の甑。7は手捏土器。8～11は鉄滓。12は頁岩製磨石。13は安山岩製敲石。14は頁岩の礫。15は頁岩の剥片。16～21は布目瓦。

## 2. 表採遺物 (第125図)

遺構外および確認調査で出土した遺物である。

1は須恵器の蓋。2・3は土師器の坏、3は底部外面に線刻があるが判読できない。4～8は須恵器の瓶。9は灰釉陶器の瓶。10は陶器の皿、内外面に釉がみられる。11は青磁の碗、内面に花卉文様がある。12は鉄滓。13～15は布目瓦。16・17は縄文時代前期の土器片。

## 第4章 3次調査

### 1節 概要

1次調査区の東側道路を隔てた芝生地に駐輪場・身障者トイレ・園路を設置することとなり、(財)千葉県文化財調査協会が本調査を実施した。

調査について

- ① 磁北に合わせてグリッドを設定。
- ② 調査時の遺構番号はNo1から始めているため1次調査と重複している。本報告書では、1次の続き番号に改めている。

調査された遺構

縄文時代土壇1基。古墳の周溝1基。奈良から平安時代の竪穴住居跡2軒を調査した。

### 2節 遺構と遺物

1次調査時での遺構分布状況を見ると、調査区東側では遺構分布が薄くなる状況を示しているように観察されたが、3次調査によってさらに東に遺構が展開することが判明した。本遺跡の北東200mに位置する小食土廃寺では、昭和60年の千葉県教育委員会による確認調査によって12軒の住居跡が報告されていることから、荻生道遺跡の東側台地上にも遺構が広く展開する事が予想される。

#### 1. 竪穴住居跡

調査区は2ヶ所に分かれているが、それぞれより1軒ずつ検出された。

83号住居跡 (第126図)

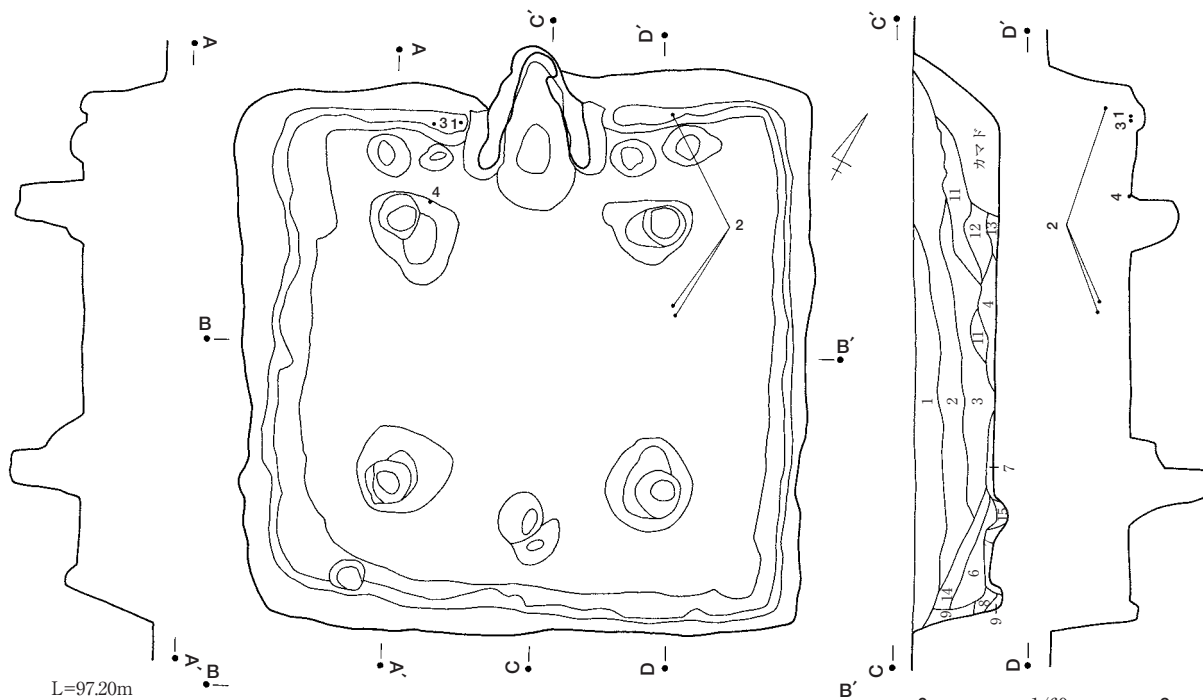
北西調査区の西寄りに位置している。

形態は方形を呈している。規模4.70×4.48m。主軸方向N-30°0′-W。柱穴9本。

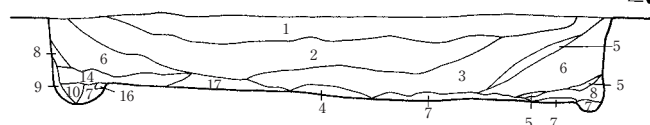
カマドは北壁中央。

出土遺物 1は土師器の坏。2は土師器の鉢。3は鉄鏃、先端部を欠損。4は白色凝灰岩製砥石。

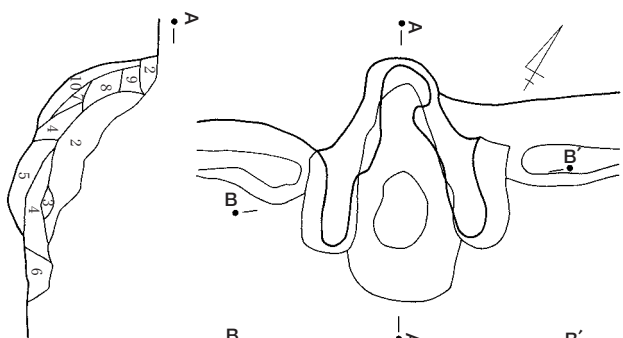
84号住居跡 (第127図)



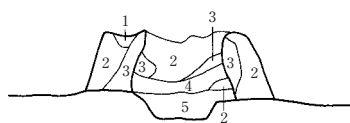
L=97.20m



- |        |                      |
|--------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロックを含む           |
| 2 黒褐色  | ローム粒を含む              |
| 3 暗褐色  | ローム粒を含む              |
| 4 褐色   | 砂質粘土層                |
| 5 黒褐色  | ローム粒を含む              |
| 6 暗褐色  | ローム粒を多く含む、ロームブロックも含む |
| 7 褐色   | しまりが強い               |
| 8 暗褐色  | ローム粒を含む              |
| 9 暗褐色  | ローム粒を含む              |
| 10 黒褐色 | 黒色土粒を含む              |
| 11 暗褐色 | 砂質粘土を含む              |
| 12 黄褐色 | 砂質粘土層                |
| 13 暗褐色 | ロームブロックを多く含む         |
| 14 黒褐色 | ローム粒を含む              |
| 15 褐色  | ローム粒を含む              |
| 16 褐色  | ロームブロックを多く含む         |
| 17 黒褐色 | 黒色土粒を含む              |

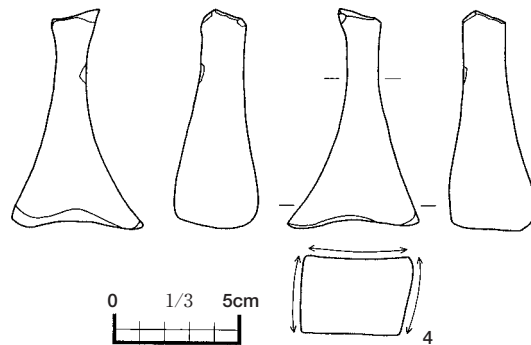
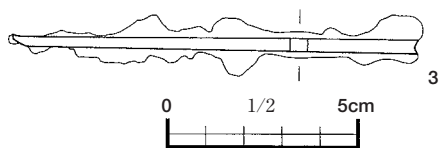
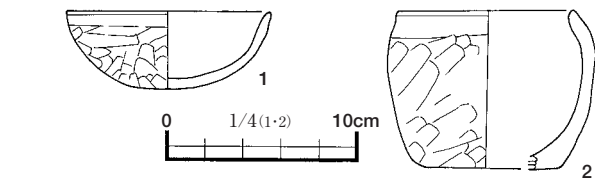
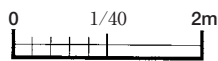


L=97.10m

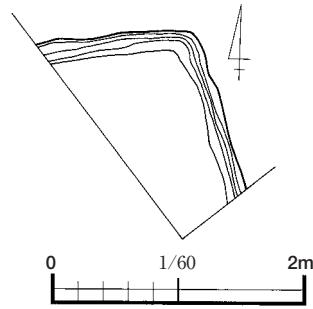


- |       |                 |
|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土層           |
| 2 黄褐色 | 砂質粘土層           |
| 3 黄褐色 | 焼けた砂層           |
| 4 暗褐色 | ローム粒・焼けた粘土・灰を含む |
| 5 黒褐色 | 焼けた砂質土を含む       |

- |        |            |
|--------|------------|
| 6 暗褐色  | ローム粒を含む    |
| 7 暗褐色  | 炭化物を含む     |
| 8 黄褐色  | 焼土粒・炭化物を含む |
| 9 黄褐色  | 炭化物を含む     |
| 10 暗褐色 | ローム粒を含む砂質土 |



第126図 83号住居跡実測図・カマド実測図・出土遺物



第127図 84号住居跡実測図

南東調査区より遺構の北東隅（全体の5分に1程度）が検出された。形態は方形か台形と思われる。規模・主軸方向不明。出土遺物なし。

## 2. 古墳

1次調査で調査された古墳群に所属する古墳と考えられる。

### 4号古墳（第128図）

調査区の北東側で、周溝が検出された。盛土および埋葬施設は認められなかった。

確認された周溝は全体の四分の一程である。形態は円形を呈しているものと推測される。推定規模（11m）。

出土遺物 1は須恵器の蓋。2は須恵器の坏。3は土師器の高坏。4は土師器の甕。全て周溝内出土遺物である。

## 3. 土壙

縄文時代の遺構は1次～3次調査でこの土壙1基のみである。

### 4号土壙（第128図）

北東調査区の4号古墳周溝内南寄りに位置している。

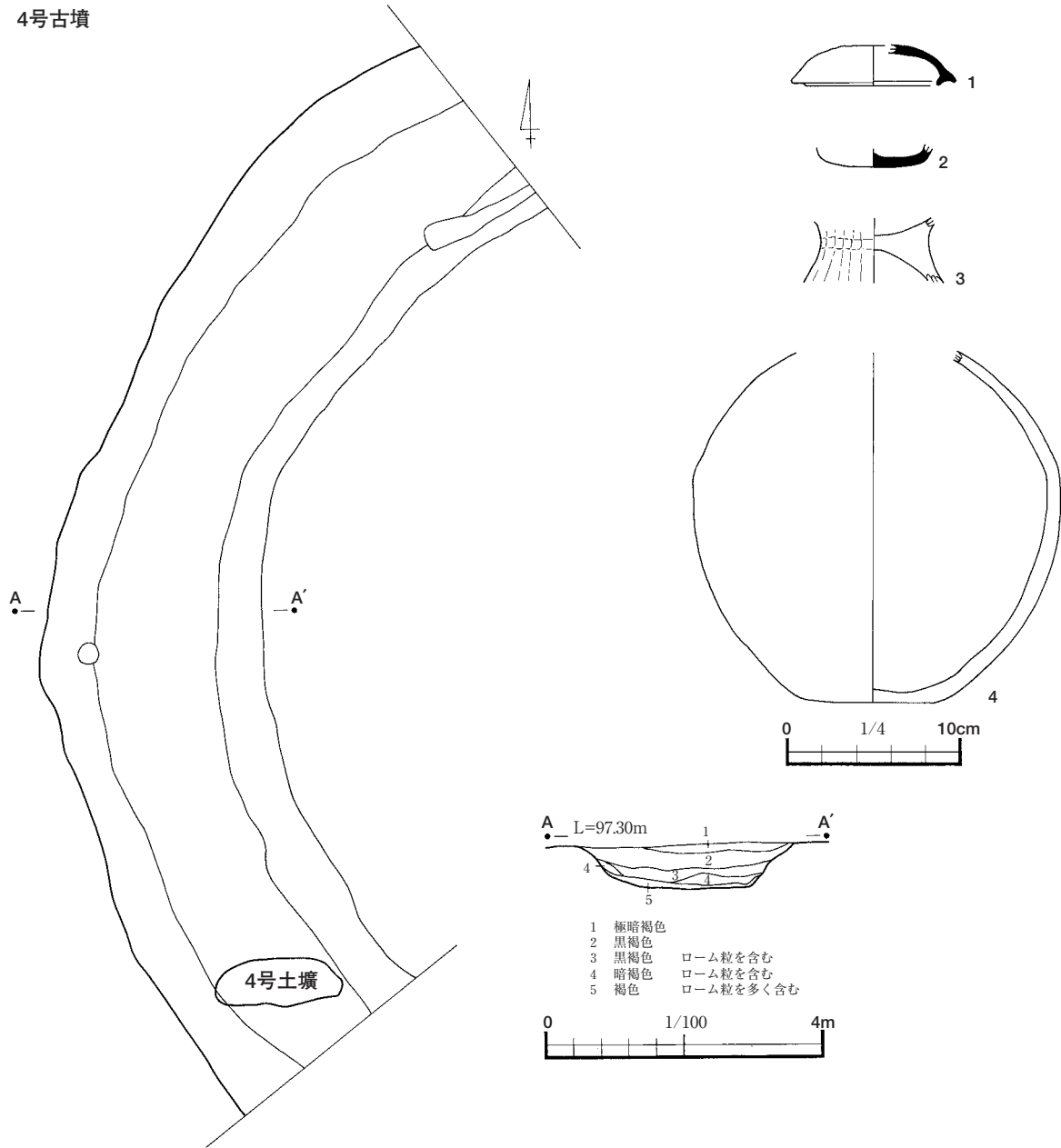
形態は細長い長方形を呈している。規模1.82×0.67m。深さ1.06m。主軸方向はほぼ磁北を示している。形態から陥穴と思われる。

## 4. 表採遺物（第129図）

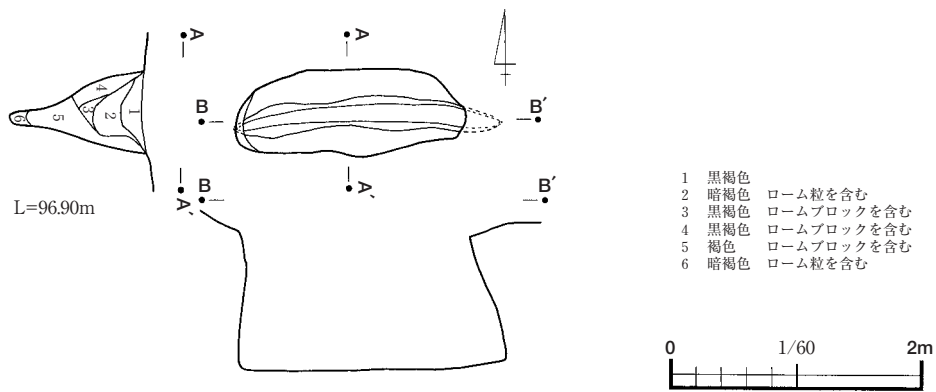
調査区内から出土した遺物である。

1は須恵器の蓋。2は須恵器の坏。3は土師器の坏。4は土師器の甕。5は須恵器の瓶。6は鉄製曲刃鎌。7は布目瓦。8は頁岩製石鏃。9～13は縄文土器片である、9は早期後半の条痕文系土器。10は前期黒浜式。11・12は前期浮島式。13は加曾利E式。

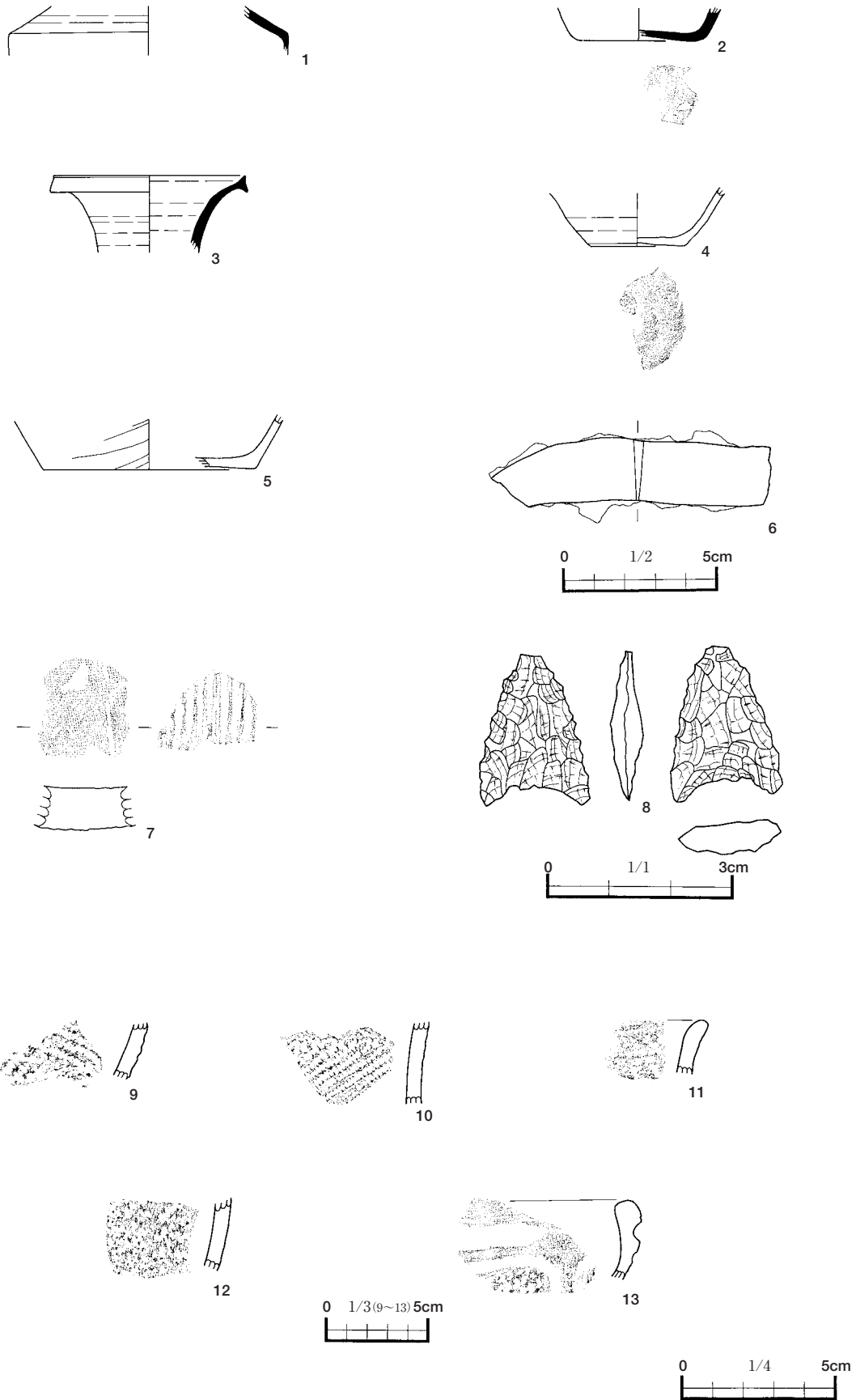
4号古墳



4号土壙



第128図 4号古墳実測図・出土遺物・4号土壙実測図



第129図 表採遺物（3次）



## 第5章 まとめ

### 1節 荻生道遺跡<sup>おぎゆ そらい</sup>と荻生徂徠

遺跡名となっている字名<sup>あざな</sup>の「荻生」と荻生徂徠との関係について、簡単に触れておきたい。

荻生徂徠は江戸時代の寛文6年（1666年）に江戸に生まれている。医師であった父方庵が罪を得て上総国本納に下ったのは14歳の頃といわれている。元禄3年（1690年）罪を許されて江戸にもどり、その後大儒学者となる。荻生徂徠の兄春竹は本納に残り、現在も当地にある荻生徂徠の母の墓は、春竹の子孫によって守られている。（註1）

荻生道遺跡の西の谷を隔てた南側台地上、現在ユースホステルの所在する台地の南西の小谷部、現在は土気あすみが丘からゴルフ場に向かう道路の下夕田池脇にある小集落が、かつて荻生と称されていた（別称小食土新田）。この集落と土気往還に至る道を「荻生道」と称したのではないかと推測される。荻生集落が南面する谷を深く刻む北側の谷を徂徠谷と称している。伝承として、ここ荻生の集落に荻生徂徠がかって住んでいたと伝えられているが、その詳細については文献資料等にも見いだせないため不明である。（註2）

註1 茂原市公式サイト<http://www.city.mobara.chiba.jp/> 「茂原市の文化財」

註2 千葉市史編纂委員会編『千葉市図誌 上巻』1993

### 2節 荻生道遺跡の古墳と土気東地区の古墳群

荻生道遺跡では1次と3次の調査によって、4基の古墳（周溝のみ）が検出された。4基とも墳丘および埋葬施設は検出されなかった。僅かな遺物が出土したにとどまり、古墳の構築された時期については、それを明らかにする資料に乏しい。そこで周辺に存在しこれまでに調査されている古墳の資料から、荻生道遺跡の4基の古墳について考えてみたい。

昭和の森遺跡群を含む土気東地区に展開する古墳は近年、土気東区画整理に伴い調査例を増やしている。JR 外房線の走る谷の南側、黒ハギ遺跡では円墳3基（径約25m・26m・26m）・主体部のみ2基。計5基が検出されている。黒ハギ遺跡の東に位置する東城楽台遺跡には、二重周溝に横穴式石室を持つ円墳1基（径26m）が検出されている。この1群にたいして、小食土廃寺の西側、深く刻まれた谷に隔てられた南側台地上に所在する古墳を、東から西へと概観すると、もっとも東に位置する枯木台遺跡の円墳1基（径19m）、荻生道遺跡で円墳4基、長塚古墳群では10基の円墳古墳（内3基調査、径19m・19m・12m）、県立土気高校の船塚古墳に至る1群が展開している。周辺の調査が進めばさらに古墳の数が増えることも予想される。

荻生道遺跡をはじめ、これまで調査または確認された古墳のほとんどが円墳である。唯一、船塚古墳だけが前方後円墳である。舟塚古墳は昭和28年早稲田大学により調査され、県立農村青年研修所改築により湮滅（現県立土気高校敷地内）。古墳の規模構造は墳丘37m、後円部径19m、高さ3.6m、前方部幅28m、高さ3.9mを測る。二重周溝を持ち、後円部に南東に開口する横穴式石室が検出され、複室構造をとり、両室とも両袖式。砂岩切石により築かれている。石室は盗掘を受けており、石室内から副葬品は検出されなかったと報告されている（註3）。古墳の形態と石室の構造から後期古墳とされている。舟塚古墳以外の古墳は詳細な報告が未刊ながら、二重周溝をもつ東城楽台遺跡の円墳も砂

岩切石積み横穴式石室を築いていることから後期古墳と考えられる。

荻生道遺跡の4基を含む土気東地区の古墳群が築かれた時代は、これまで当該地域で調査された古墳時代集落跡は鬼高期に展開し、それ以前の遺構はほとんど検出されていないことなども考慮すると、後期の古墳群と推測することが妥当と思われる。

古墳時代以降の葬送遺構については、方形区画墓が営まれるようになっている。土気東区画整理事業地内の上塚遺跡、五十石遺跡、五十石西遺跡、奥房台遺跡。土気南遺跡群内では南河原坂第3遺跡、観音山遺跡などで検出されている。上塚遺跡と五十石遺跡以外は報告書が刊行されており、五十石西遺跡・奥房台遺跡の報告書では築瀬裕一氏によって詳細に論じられているので参照されたい。(註4)

註3 千葉市史編纂委員会編『千葉市史 資料編 1』1976

註4 (財)千葉市文化財調査協会編『千葉市土気東遺跡群(I)』2002

### 3節 荻生道遺跡の集落

1次調査では、竪穴住居跡・掘立柱建物跡の遺構に伴う遺物は一括して取り上げられている。出土状況の記録されていることが稀なため、個々の遺構の時期を判断することは躊躇せざるをえない。そのため遺構の所属時期については、明確な判断をしていないことをご理解頂きたい。

竪穴住居跡および掘立柱建物跡の所属時期については上記の理由により判断していないので主軸方向の統計図(第130図)は参考までに掲載した。

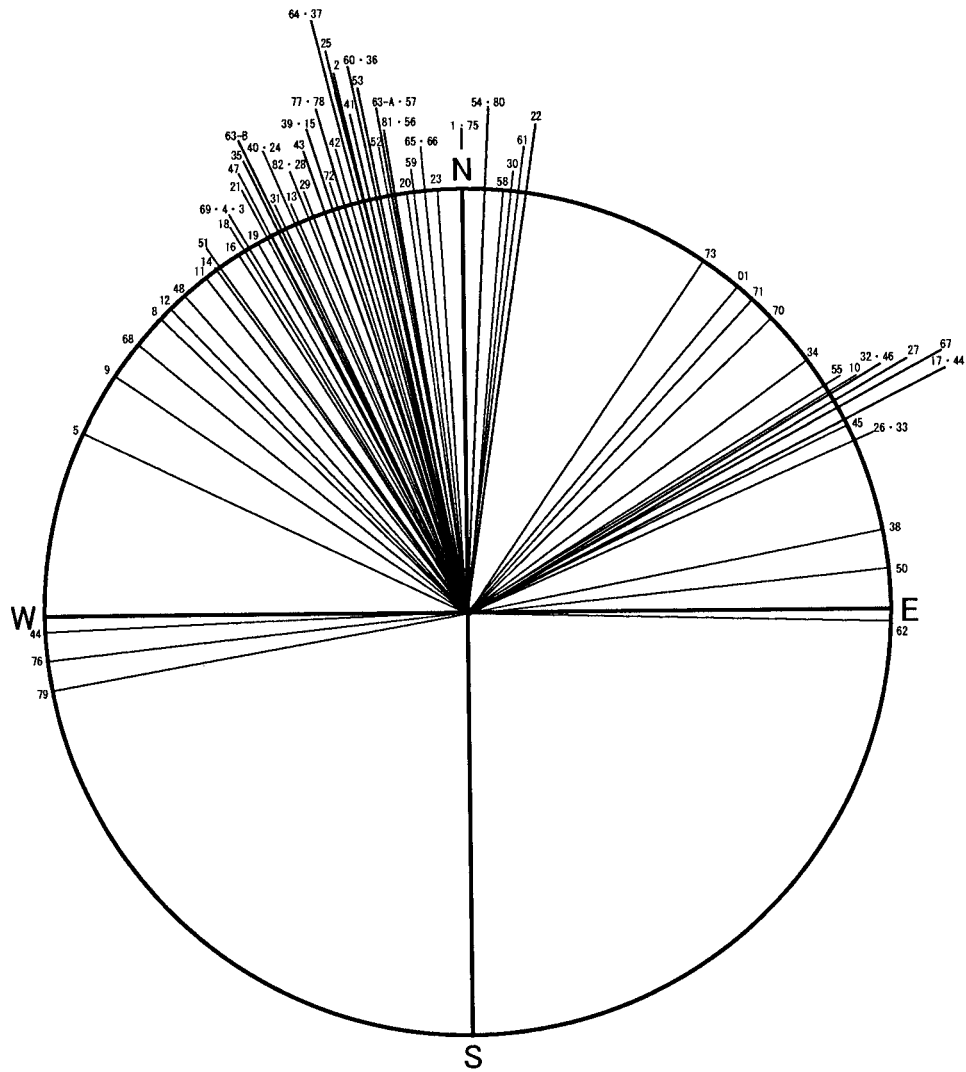
荻生道遺跡が古代史研究のなかで注目されている遺構として、1次調査で検出された2棟の掘立柱建物跡(17号・18号)とこの掘立柱建物跡を囲繞する方形溝状遺構があげられよう。しかしながら、第2図で掲載した平板による遺構分布図以外に、これらの遺構の平面図が残されていないため、推定復元図の掲載のやむなきに至っていることも併せてご理解願いたい。

#### 1. 17号・18号掘立柱建物跡と方形溝状遺構について

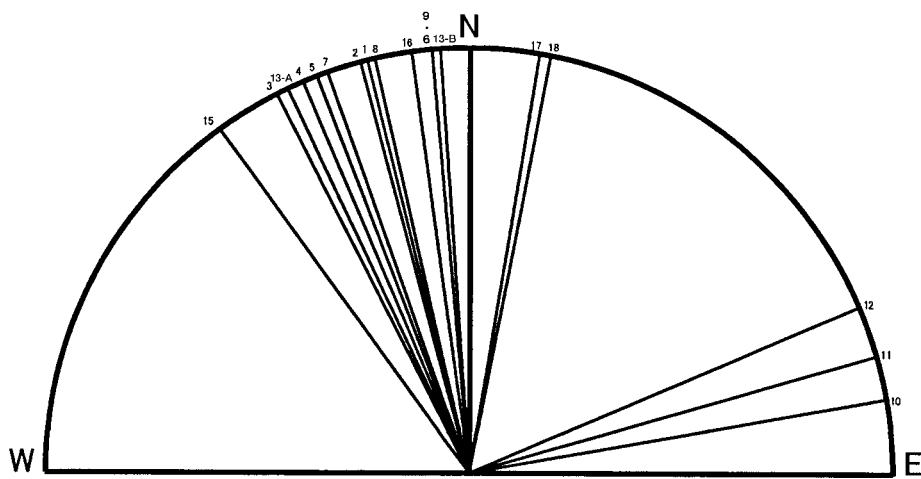
調査区の北東、枯木台遺跡から船塚古墳に至る古墳群を遮るような位置に所在している。

1次調査の折、調査担当者によって、2棟の掘立柱建物跡と方形溝状遺構は相互に関係を有しているものとして考えられ、「特殊遺構」という性格を付されて現在に至っている。今回、整理・報告にあたり2棟の掘立柱建物跡と方形溝状遺構が相互に関係しているという明確な根拠を、残念ながら見出すことはできなかった。しかし、だからといって関係のない別々の遺構とも考えられないため、2棟の掘立柱建物跡と方形溝状遺構は一連の遺構として取り扱うものとした。

① 17号・18号掘立柱建物跡 2棟の掘立柱建物跡は桁行4間・梁行2間の外側に5間・4間の外周柱穴列が廻っている。建物が平入か妻入かは判断できない。外周柱穴列は掘立柱建物跡の柱と柱の間に柱を設けている。また柱列は途切れずに全周している。外周柱穴列は奈良文化財研究所「古代の官衙遺跡(I)遺構編」(註5)の外周柱穴列の類型で分類している柱配置〔②類一柱間中央型〕に相当している。掘立柱建物跡の柱穴と外周柱穴列の柱穴を土層断面図で比較しても、その規模に際違った違いはみられない。とすれば外周柱穴列の柱穴を足場柱穴とは考えられず、身舎非一体型の庇または



住居跡主軸方向



掘立柱建物跡主軸方向

第130図 竪穴住居跡・掘立柱建物跡主軸方向統計図

堀・柵などが考えられるが、何れに相当するのか判断し難い。

所属時期は、2棟の掘立柱建物跡の内、18号掘立柱建物跡に伴う遺物は出土していないが、17号掘立柱建物跡は、出土柱穴が不明ながら土師器が僅かに出土している。8世紀前半頃と思われる。

外周柱穴列の伴う遺構例としては、県内では日秀西遺跡（下総国相馬郡衙正倉）の20号建物、県外では福島県根岸遺跡S B532、茨城県平沢官衙遺跡（常陸国筑波郡衙正倉）B S45～49・同県神野向遺跡（常陸国鹿島郡衙）B S400の各遺構で総柱高床倉庫に外周柱穴列を伴っているが、軒支柱・外則柱・柵などの何れに相当するのか特定することは難しい。

② 方形溝状遺構 方形溝状遺構は掘り込みが浅く、溝底部は平坦である。溝の内側または外側には土塁や柵列などの施設は確認されていない。

方形溝状遺構の覆土からは須恵器・土師器・灰釉陶器・手捏土器などのほか羽口や鉄滓が出土している。時期としては8世紀前半頃と思われる。

方形溝状遺構内に掘立柱建物跡が検出された例は、千葉市内若葉区芳賀輪遺跡がある。一辺約70mの方形溝状遺構の中に7棟の掘立柱建物跡がコの字状に展開している。年代は8世紀末から9世紀前半とされている。規模と内容からして本遺跡の遺構を凌駕している。荻生道遺跡1次調査当時、新潟県佐渡下国府遺跡より検出された二重の方形溝状遺構に囲まれた2棟の掘立柱建物跡が遺構の形状等から注目されたが、9世紀前半以降の年代とされ、本遺跡とは1世紀ほどの開きがある。

方形溝状遺構内に外周柱穴列を伴う掘立柱建物跡が検出された例は、東京都武蔵国府関連遺跡（1067次調査）で、二重の方形溝状遺構内に外周柱穴列を伴う掘立柱建物跡が1棟検出されている。信仰に関わる遺構との説もあるが断定されていない。

本遺構の構造および遺物からもこの施設がどのような性格を有するのかについては、類似する遺構と比較をおこなっても判断し難いものである。なお、本遺構については、以前より神社遺構ではないかとして紹介（註6）されていることも承知しているが、今回の整理では明らかにすることはできなかった。遺構に伴う遺物と共に遺構調査の精度が重要であることを痛感している。

当該地域に於けるこの遺構の位置づけは今後、荻生道遺跡の所在する昭和の森遺跡群の整理が進み、隣接する土気東遺跡群の調査と整理が行われることに待ちたい。

註5 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 『古代の官衙遺構 I 遺構編』 2003

註6 金子裕之編 『古代史復元 9』1989の「村のくらし」で松村恵司氏は住吉大社本殿と大嘗祭の悠紀・主基両正殿との構造上の類似性を指摘している。

（財）千葉県文化財センター 『歴史時代（1）』 1993

井上尚明「考古学から見た古代の神社」 『埼玉県立博物館紀要 25』 2000

## 2. 出土文字資料

荻生道遺跡出土の文字資料は墨書土器18点、ヘラ書き9点、線刻10点の合計37点である。なお、文字資料の中には文字のほかに、記号も含めて取り扱っている。第131図では遺構図に出土文字資料を載せている。

### ① 器種別と内訳

須恵器 坏3点(線刻3点)

土師器 坏29点(墨書15点・ヘラ書き7点・線刻7点) 皿1点(墨書1点) 高台付皿2点(墨書2点) 甕1点(ヘラ書き1点) 瓦1点(ヘラ書き1点)

② 土器編年からみた文字資料

土器編年による資料の内容は以下のとおおりである。(判読不能を除く)

8世紀前半 方形溝状遺構線刻「×」

8世紀中頃 24住墨書「大賀」・線刻, 47住線刻, 68住線刻「×」

8世紀後半 9住線刻6条の平行線, 54住線刻

9世紀前半 3土壙ヘラ書き「祈」または「新」

9世紀中頃 10住線刻「#」

9世紀後半 12住線刻放射状, 17住墨書則天文字「日」・「菩薩」か, 18住墨書則天文字「日」, 55住線刻「#」, 67住墨書「方井」か。2土壙墨書「仲万菩薩」か・「万得」

9世紀末～10世紀初頭 26住ヘラ書きの条線,

時期不詳 63-B住墨書「野井」, 43住墨書「万得」, 3住ヘラ書き「里」か, 16掘立線刻「+」

荻生道遺跡での文字資料は、方形溝状遺構出土の8世紀代前半頃の坏に描かれた線刻「+」が最も古く、8世紀代の墨書は「大賀」1点でそれ以外は、線刻による放射状および複数の平行線を描いた資料が顕著である。文字資料は全て底部外面に施されている。線刻の文字資料は9世紀に入っても放射状の線刻は残り、新たに「#」が描かれるようになる。「+」・「#」が陰陽道で用いられる呪術の図形ドーマンと関係があるとすれば、墨書やヘラ書きの資料に見られずに、そのほとんどが線刻で描かれている点が注目される。そのほかに信仰に関わる文字資料として、ヘラ書きの「祈」または「新」と墨書の「菩薩」・「仲万菩薩」の3点が見られる。8世紀後半に創建された小食土廃寺とは200m程の距離にあり、両遺跡は当然相互に関係があったものと考えられる。「仲万」は土気南遺跡群文六第6遺跡でも出土している。9世紀の墨書では「万得」, 則天文字「日」があり、「万得」は隣接する上塚遺跡でも出土しているほか、「万得」・「得万」の文字資料は近隣で大網白里町砂田中台遺跡や東金市滝東台遺跡で、内房方面では袖ヶ浦町永吉台遺跡で多数出土しており「万得」・「得万」の文字資料は県内でもさらに増えることが予想される。線刻による「得万」は市原市千草山遺跡より出土している。(註7)「万得」, 「得万」の意味については不明であるが、文字どおり「万を得る」ということであれば財貨や福を多く得る事を願った吉祥句ではないだろうか。

次に則天文字について、中国唐時代に高宗の後だった則天武后が、西暦690年に制定した特殊な17文字のことである。武后没後の705年には使用が禁止されたが、日本ではその後も永く使用されている。本遺跡の出土資料「日」3点は、○の中に乙を書き込んでいる。何れも筆跡がよく似ているので同筆によるものとも考えられる。千葉市内出土の特殊文字資料は篆書体の「大」=「𠂇」が砂子遺跡(註8)で見られる以外、則天文字は文六第6遺跡の「月」=「𠂇」, 中鹿子第2遺跡「国」=「圀」に続き3例目(註9)である。県内では東金市作畑遺跡「正」=「𠂇」・滝東台遺跡「国」=「圀」・「圀」。八千代市白幡前遺跡「人」=「𠂇」の則天文字が知られている程度で(註10)、資料数としては未だ少ないようである。何れも1字のみ書かれており、則天文字を用いるについての特徴



として捉えられようか。則天文字の地方への普及について平川南氏は、著書「墨書土器の研究」(註11)のなかで地方行政ルート、僧侶ルートの2ルートを想定されている。荻生道遺跡においては先に示したとおり、「菩薩」・「仲万菩薩」等の仏教信仰関わる墨書を書き残した人を推測すれば、後者のルートによって則天文字が伝えられたと想定することが可能であろう。

荻生道遺跡をはじめとして周辺遺跡の調査によって、これまでに多数の文字資料が報告されている。その中には地名を表している文字資料が僅かながら見られる。土気南遺跡群内の報告(註12)によれば、前掲の文六第6遺跡からは墨書「砂田東寺」が出土している。現在、大網白里町に存在する砂田地区いさごだを示すものと考えられる。また、南河原坂第2遺跡よりヘラ書き「小中村佛」が多数出土している。現在、昭和の森の所在する台地の東側、小中池のある集落が旧小中村であり、小食土町と小山町の間位置している。本遺跡は小食土町に所属しているが、旧小食土村の本村からは離れており、旧小中村のほうにより近い位置にある。奈良・平安時代において昭和の森周辺には、近隣でも類を見ない程の大きな集落が存在していたことは、これまでの調査によって明らかであり、この地域をさして「小中村」と称し当時の小中村の信仰の中心に小食土廢寺(註13)すなわち「小中佛」が位置していたのではないかと想定している。

註7 房総歴史考古学研究会編 『房総における奈良・平安時代の出土文字資料』 1991

(財)千葉県歴史研究財団 『出土文字資料集成』 1996

(財)千葉市文化財調査協会 「文六第6遺跡」 『土気南遺跡群Ⅷ』 1996 土師器の底部片外面に「仲万」の墨書がある。

(財)山武郡市文化財センター 『砂田中台遺跡』 1994 土師器の体部破片側面に「得万」の墨書がある。砂田中台遺跡の「得万」墨書の多くが体部側面に書かれていることが注目される。

(財)山武郡南部地区文化財センター 『滝東台遺跡・油井古塚原遺跡』 1986 9世紀中頃の土師器の坏底部外面に「万得」の墨書された資料が多数出土している。

(財)山武郡市文化財センター 「滝東台遺跡」 『油井古塚原群』 1995 9世紀後半の土師器の坏底部外面に「万得」の墨書がある。

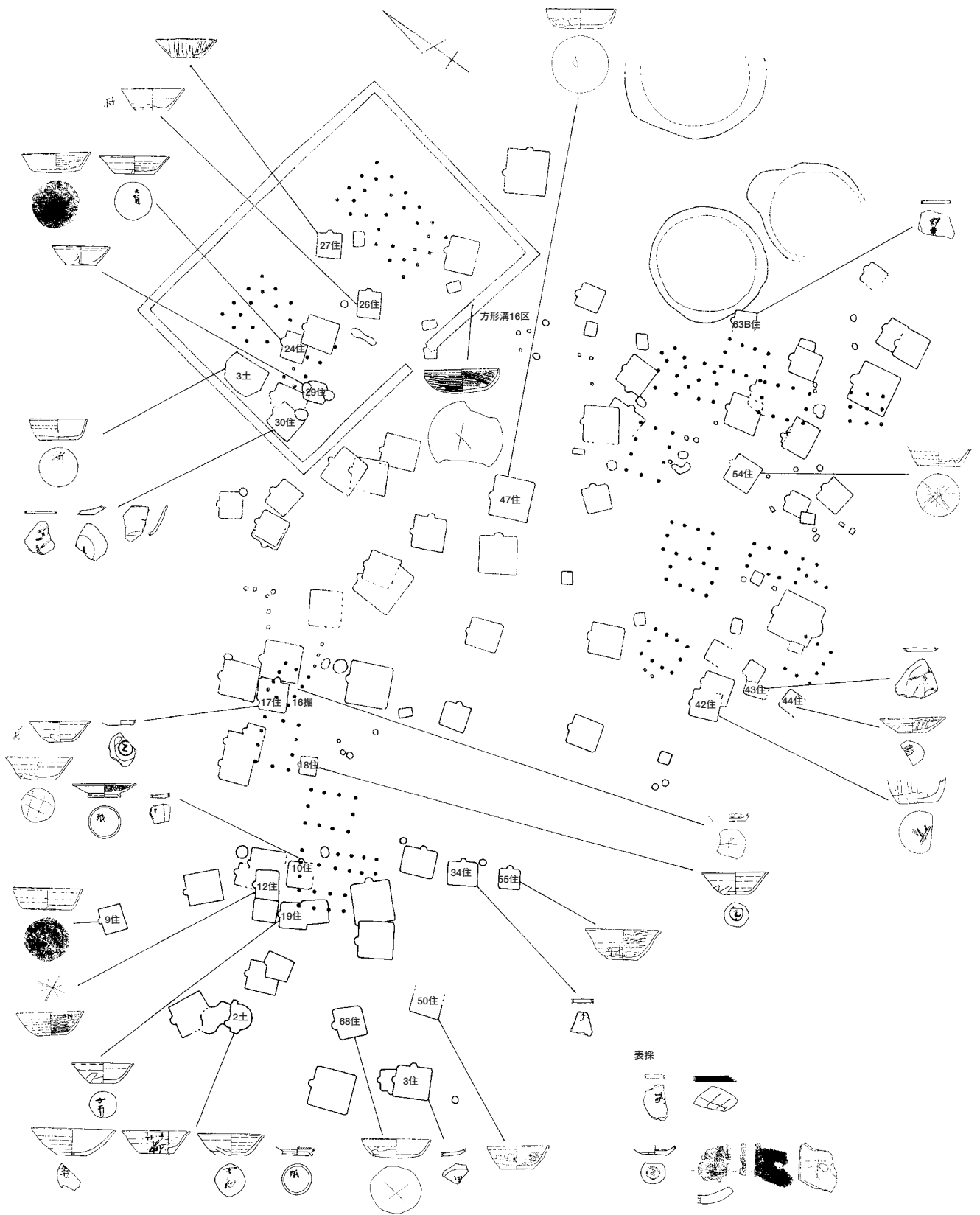
(財)君津郡市文化財センター 『永吉台遺跡群』 1985 8世紀後半から9世紀前半の土師器の坏底部外面に「万得」の墨書がある。

千草山遺跡発掘調査団 『千草山遺跡』 1979 9世紀前半頃の土師器の坏底部内面に「万得」の線刻がある。

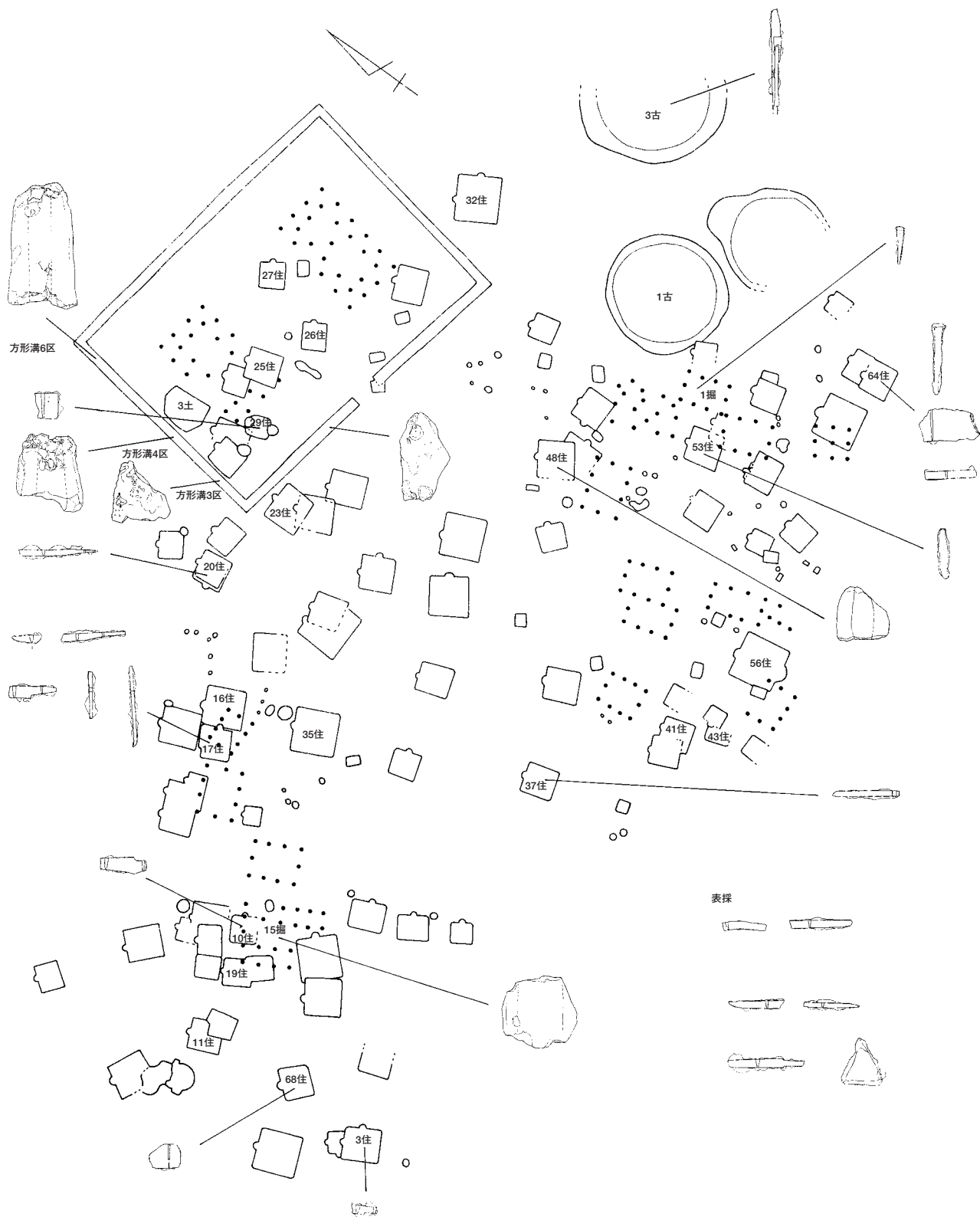
註8 (財)千葉市文化財調査協会 『千葉市砂子遺跡』 1988 土師器の底部破片外面に「𠄎」の墨書がある。

篆書体「大」は市原市群本遺跡で4点出土しているほか、県内の出土例は(財)市原市文化財センター 『市原市群本遺跡(第4次)』 1999 に紹介されている。「𠄎」の字形について平川南氏は著書『墨書土器の研究』 2000 の中で篆書体の「大」以外に則天文字の「天」・道教の呪符との関係を示唆している。

註9 (財)千葉市文化財調査協会 「文六第6遺跡」 『土気南遺跡群(9)』 1996 8世紀後半頃の須恵器の坏底部外面に「𠄎」の墨書がある。



第131図 墨書・刻書出土分布図



第132図 鉄製品・製鉄遺物出土分布図



第1集中地区 最も出土量の多い方形溝状遺構とそれに次ぐ23号住居・27号住居や30号住居・3号土壙は調査区の北東地区にあり、20号住（16.7g）、25号住（61.7g）、32号住（42.3g）、36号住居（6.6g）と同一地域に位置している。23号住居は、覆土中はもとより床面直上で125.1gの鉄滓が検出されている。27号住居でも多くの鉄滓が出土し、西隅に焼土が検出されていることなどから、工房跡または関係する遺構ではないかと推測される。そう仮定すると、23号住居（9世紀中頃）・73号住居（9世紀末～10世紀前半頃）の操業時にはすでに17号・18号掘立柱建物跡が存在せず、方形溝状遺構も埋まりはじめ遺構内に多くの鉄滓が投棄されたのではないだろうか。

第2集中地区 58号住居・59号住居をはじめとし、1号住居（71.0g）、41号住居（29.6g）、43号住居（31.5g）、53号住居（32.2g）、56号住居（10.4g）、61号住居（2.5g）、1号古墳（45.1g）の位置する南東地区。58号住居（9世紀末～10世紀前半頃）では床面上に焼土堆積が2ヶ所で検出されていることから、鉄滓の出土状況は不明ながら、工房跡または関連遺構の可能性が考えられる。

第3集中地区 15号掘立柱建物跡および11号住居（56.8g）、16号住居（11.2g）、18号住居（10.9g）、19号住居（2.9g）、33号住居（69.6g）、35号住居（13.0g）の位置する西地区。15号掘立柱建物跡では柱穴の中からの出土ではなく、詳細は不明ながら柱穴と柱穴の間より集中して検出されたものである。1号鍛冶跡もこの地区に位置していたものと推測されることから、同遺構に類似、または関係する遺構が15号掘立柱建物跡の柱穴と柱穴の間に存在していたのではないだろうか。

荻生道遺跡では調査区の広範囲から多くの鉄滓が出土している。調査時には工房跡とされる遺構が確認されていないながらも、3軒の住居跡を工房または関連遺構ではないかと推測を試みている。鍛冶跡も1号鍛冶炉跡の1基だけでなく、15号掘立柱建物跡の所在する辺りに、同様の遺構が存在していたとも推測している。土気の東地区遺跡群の中において、荻生道遺跡と前述した上塚遺跡を含む当該地域が、製鉄に関わる集落遺跡であると考えられる。本遺跡における操業時期は上塚遺跡に後れて、9世紀中頃から10世紀前半頃を想定している。

註14 白根義久 「千葉市上塚遺跡」 『平成15年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨』 2004

第2表 遺物観察表（羽口）

調査年度	遺構番号	遺物番号	計測値					備考
			長	幅	孔上	孔下	重量	
昭和51年度	48号住	4	(7.1)	-	-	-	135.5	破片
	15号掘	2	(5.4)	-	-	-	64.2	破片
	方形溝	28	(8.7)	-	-	-		破片
		29	(6.1)	-	-	-		破片
		30	7.7	6.5×6.6	2.1×3.1	3.0×3.2	208.3	
		31	12.6	6.5×6.8	2.4×2.4	2.5×2.7	425.1	

単位は cm・g。( ) は残存値を示す。

(財) 千葉市文化財調査協会 「中鹿子第2遺跡」 『千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書(第2分冊)』 1992 9世紀中頃の土師器の坏体部側面に「圀」の墨書がある。

そのほかに則天文字の「月」ではないかと思われるものに、千葉市芳賀輪遺跡出土の墨書がある。9世紀前半頃の土師器坏底部外面に「冏」と書かれている。

千葉市教育委員会 「芳賀輪遺跡」 『千葉市文化財調査報告書1集』 1976

註10 山武考古学研究所 『作畑遺跡』 1987 9世紀前半頃の土師器の坏底部外面に「缶」の墨書された資料が2点出土している。

(財) 山武郡南部地区文化財センター 『滝東台遺跡・油井古塚原遺跡』 1986 9世紀中頃の土師器の皿底部外面に「冏」の墨書がある。(財) 山武郡市文化財センター 「滝東台遺跡」 『油井古塚原群』 1995 では8世紀後半頃の土師器の坏底部外面に「圀」の墨書がある。

(財) 千葉県文化財センター 『八千代市白幡前遺跡』 1991 8世紀後半の土師器(7個)と須恵器(4個)の坏の体部側面に「𠄎」(土師器7個・須恵器1個), 「提𠄎」(須恵器3個)が墨書されている。

註11 平川南著 『墨書土器の研究』 2000

註12 (財) 千葉市文化財調査協会 「文六第6遺跡」 『土気南遺跡群Ⅷ』 1996 8世紀後半頃の土師器の坏体部側面および底部外面に「砂田東寺」の墨書がある。そのほか土師器の坏体部側面に「祥寺」・「壽寺」など寺院に関わる墨書の文字資料も出土している。

(財) 千葉市文化財調査協会 「南河原坂第2遺跡」 『土気南遺跡群Ⅰ』 1992 南河原坂第2遺跡から、底部外面に「小中佛」のヘラ書きをもつ9世紀初頭と考えられる南河原坂窯産の須恵器の高台付坏11点が出土している。

註13 千葉県教育委員会 『千葉市小食土廃寺跡確認調査報告』 1986 報告では小食土廃寺の創建を8世紀後半頃とし、存続期間は100年位とされている。

### 3. 製鉄遺物

1次調査区域内より所在位置が不明ながら、鍛冶跡(鍛冶炉跡)1基が検出された。調査区内より羽口をはじめ鉄滓が多数出土している。隣接する上塚遺跡では1軒の鍛冶工房跡(SI-043)が調査され、方形の竪穴遺構の床中央に炉を構築している。炉の付近では粒状の鉄滓が多量に出土し、工房の時期は7世紀後半から8世紀中葉を想定されている(註14)。出土遺物にみられる鉄製品の種類や数量は、同時代の他の遺跡と比べて特に変わりは認められないものの、確認調査時より注目されていたのは鉄滓の出土量である。

鉄滓が出土した遺構は住居跡22軒、掘立柱建物跡1棟、方形溝状遺構1条、土壌1基である。なかでも多く出土している遺構は以下のとおり。(総重量順100g以下は除く)

1. 方形溝状遺構(9437.4g) 2. 23号住居(1101.7g) 3. 27号住居(908.3g) 4. 58号住居(431.8g) 5. 15号掘立柱建物跡(366.6g) 6. 3号土壌(290.0g) 7. 30号住(239.1g) 8. 59号住居(109.4g)である。表採資料も多く総重量2468.6gを量る。

出土分布域は概ね3地域に集中している。

第3表 遺物観察表 (鉄滓)

調査年度	番号	遺構番号	重量	備考	調査年度	番号	遺構番号	重量	備考
昭和51年度	1	1号住	35.6	覆土一括	昭和51年度	47	方形溝	282.2	覆土一括
	2		35.4			12.9		覆土一括	
	3	11号住	43.9	35.6		覆土中層			
	4		12.9	182.7		覆土中層			
	5	16号住	11.2	65.5		覆土一括			
	6		10.9	86.8		覆土中層			
	7	18号住	2.9	942.7		覆土上層			
	8	19号住	16.7	394.9		覆土一括			
	9	20号住	899.8	352.1		覆土上層			
	10	23号住	40.9	75.3		覆土上層			
	11		125.1	428.7		覆土上層			
	12		31.3	158.3		覆土上層			
	13		4.6	374.1		覆土上層			
	14	25号住	61.7	63.0		覆土上層			
	15	26号住	12.9	65.8		覆土上層			
	16		3.4	244.8		覆土上層			
	17		21.7	595.3		覆土上層			
	18	27号住	275.4	344.3		覆土上層			
	19		212.1	544.1		覆土上層			
	20		246.5	722.6		覆土上層			
	21		158.3	312.6		覆土上層			
	22		16.0	81.1		覆土一括			
	23	30号住	239.1	317.7		覆土下層			
	24	32号住	12.1	118.0		覆土一括			
	25		30.2	409.0		覆土中層			
	26	33号住	69.6	608.1		覆土一括			
	27	35号住	13.0	290.0		覆土上層			
	28	36号住	6.6	45.1		攪乱内			
	29	41号住	29.6	580.6		表採 (1次)			
	30	43号住	31.5	38.5					
	31	53号住	32.2	5.8					
	32	56号住	10.4	203.4					
	33	58号住	431.8	55.8					
	34	59号住	51.7	276.8					
	35		19.9	216.1					
	36		37.8	247.9					
	37	61号住	2.5	10.0					
	38	15号掘	366.6	71.6				3号土	
	39	方形溝	211.6	94.3					
	40		139.6	253.4					
	41		87.7	3.7					
	42		48.3	4.6					
	43		2.9	210.2					
	44		675.7	121.5					
	45		140.9	74.4					
	46		312.5						

単位はg。値は総量を示す。

第4表 遺物観察表 (土器・土製品)

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考		
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部				焼成	
昭和51年度	01号住	1	土師器	甕	1/8	(16.0)	(5.7)	-	-	ハラケズリ	横ナデ		良	暗赤褐色5YR3/6			
		2	土師器	甕	1/8	-	(2.5)	(8.0)		ハラケズリ			良	赤褐色2.5YR4/6			
1号住	1号住	1	須恵器	蓋	9/10	17.4	(3.4)	-	-	回転ハラケズリ			良	灰色5Y5/1			
		2	須恵器	坏	2/3	(13.2)	4.1	-	7.4	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	良	灰白色7.5Y7/2			
		3	須恵器	坏	1/2	(12.9)	4.0	-	8.4	ハラケズリ		回転ハラ切り	普通	灰白色7.5Y7/2			
		4	須恵器	坏	2/3	12.2	4.1	-	8.3	回転ハラケズリ		回転ハラ切り	良	暗褐色7.5YR3/4			
		5	須恵器	坏	1/8	(13.0)	(3.4)	-	-				不良	灰色5Y6/1			
		6	須恵器	高台付坏	1/5	(13.0)	(3.9)	-	(8.4)			回転ハラ切り	良	灰色5Y6/1			
		7	須恵器	高台付坏	1/8	-	(1.7)	-	(7.8)			回転糸切り	良	灰黄褐色10YR6/2			
2号住	2号住	8	土師器	坏	9/10	12.2	3.6	-	7.1	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	不良	赤褐色5YR4/6			
		9	土師器	坏	1/8	(12.7)	4.1	-	(8.6)				不良	橙色5YR6/6	二次焼成		
		10	土師器	高坏	1/8	-	(4.0)	-	10.0	横ナデ	横ナデ		良	赤褐色2.5YR4/6			
		11	土師器	小型甕	1/3	(11.8)	9.6	10.5	-	ハラケズリ	横ナデ		良	赤褐色2.5YR4/6			
		12	土師器	小型甕	1/5	(12.0)	-	-	-	ハラケズリ	横ナデ		良	褐色7.5YR4/3			
		13	須恵器	甕	1/8	(11.0)	-	-	-				良	灰白色5Y7/2			
		14	土師器	甕	1/3	22.1	(29.0)	15.2	-	ハラケズリ	横ナデ		普通	灰褐色7.5YR5/2			
		15	灰釉陶器	長頸瓶	1/4	-	-	14.4	-	回転ハラケズリ			良	灰色5Y6/1	湖西産		
		3号住	3号住	1	須恵器	坏	1/3	(13.2)	(3.7)	-	(8.7)	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	不良	灰白色7.5Y8/1	
				2	土師器	坏	1/3	(15.4)	2.7	-	(11.4)	手持ちハラケズリ	横ナデ		普通	明黄褐色10YR6/6	
				1	土師器	灯明皿	1/2	(8.9)	(2.9)	-	(5.7)	ナデ	横ナデ		不良	灰黄褐色10YR6/2	口縁部スス付着
		3号住	3号住	2	土師器	坏	1/1	12.7	3.9	-	5.6	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	不良	暗赤褐色5YR3/3	二次焼成
				3	土師器	坏	9/10	12.4	4.6	-	4.7	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	普通	赤褐色5YR5/8	
				4	土師器	坏	9/10	12.4	4.3	-	5.2	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	良	灰褐色5YR5/2	
				5	土師器	坏	9/10	12.4	4.1	-	5.0	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	良	赤褐色2.5YR4/6	
3号住	3号住	6	土師器	坏	1/2	(13.0)	3.5	-	(5.4)	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	不良	明赤褐色5YR5/6			

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第5表 遺物観察表 (土器・土製品)

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考		
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部				焼成	
昭和51年度	3号住	7	土師器	坏	9/10	14.9	4.8	-	6.7	手持ちヘラケズリ		ヘラケズリ	普通	砂粒	暗赤褐色10YR3/3		
		8	土師器	坏	1/2	(14.1)	4.3	-	(5.0)	手持ちヘラケズリ		ヘラケズリ	良	砂粒	赤褐色10R4/4		
		9	土師器	坏	2/3	-	(1.5)	-	9.2	回転ヘラケズリ	ハラミガキ	回転ヘラ切り	不良	砂粒	暗褐色7.5YR3/3		
		10	土師器	坏	9/10	12.8	4.5	-	5.0	手持ちヘラケズリ		回転糸切り	不良	砂粒	灰褐色7.5YR6/2		
		11	土師器	坏	9/10	14.0	4.2	-	5.6	手持ちヘラケズリ		回転糸切り	不良	砂粒	黒褐色7.5YR3/2		
		12	土師器	坏	9/10	13.0	4.0	-	6.0	手持ちヘラケズリ		回転糸切り	不良	砂粒	灰褐色7.5YR5/2	二次焼成	
		13	土師器	坏	破片	-	-	-	-								ハラ書
		14	土師器	高台付大皿	2/3	32.7	13.5	-	19.6	ヘラケズリ	ナデ			良	白色粒	赤褐色2.5YR4/6	
		15	土師器	小型甕	9/10	12.6	11.6	13.1	6.9	ヘラケズリ	ナデ			良	砂粒	暗赤色10R3/6	
		16	土師器	小型甕	1/8	(19.6)	11.1	(17.7)	-	ヘラケズリ	ヘラケズリ			普通	白色粒	赤褐色5YR4/6	
		17	土師器	甕	1/2	20.9	(17.6)	-	-	ヘラケズリ	ナデ			普通	砂粒	赤褐色2.5YR4/6	
		18	土師器	甕	1/8	(19.3)	(10.6)	-	-	ヘラケズリ	ナデ			普通	砂粒	赤褐色2.5YR4/6	
		19	土師器	甕	1/8	(20.7)	(12.7)	-	-	ヘラケズリ	ナデ			不良	砂粒	灰黄褐色10YR5/2	
20	土師器	甕	1/6	-	(7.9)	-	(14.6)	ヘラケズリ	ナデ			普通	白色粒	灰黄褐色10YR4/2			
21	土師器	甕	1/8	(20.0)	(5.6)	-	-	ヘラケズリ	ナデ			良	白色粒	赤褐色2.5YR4/6			
22	土師器	甕	1/8	(20.0)	(7.1)	-	-	ヘラケズリ				良	白色粒	暗赤褐色2.5YR3/4			
23	土師器	甕	1/9	-	(11.7)	-	(12.4)	ヘラケズリ	ナデ			普通	砂粒	赤褐色5YR4/6			
4号住	1	須恵器	坏	1/3	(13.1)	3.9	-	(8.1)	手持ちヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ	不良	白色粒	灰オリーブ色5Y6/2			
	2	土師器	坏	9/10	14.7	4.5	-	7.4	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	普通	砂粒	明褐色7.5YR5/6			
	3	土師器	高台付坏	1/8	-	(1.5)	-	7.3	ナデ			良	赤色粒	橙色5YR7/8			
	4	土師器	小型甕	1/2	11.3	(10.6)	11.6	-	ヘラケズリ	ナデ		良	白色粒	明赤褐色5YR5/6	二次焼成		
	5	土師器	小型甕	1/8	(15.8)	(7.0)	-	-	ヘラケズリ	ハラミガキ		良	砂粒	赤褐色10R4/4			
	6	須恵器	甕	1/8	(28.8)	(9.3)	-	-	タタキ			良	白色粒	暗黄灰色2.5Y5/2			
	7	須恵器	甕	1/3	-	(22.4)	-	9.0	ヘラケズリ			普通	砂粒	橙色7.5YR6/6	焼土付着		
5号住	1	土師器	坏	2/3	-	(2.6)	-	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ			良	白色粒	明褐色7.5YR5/6			

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第6表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考		
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部				焼成	
昭和51年度	5号住	2	土師器	甕	1/8	(26.6)	(8.2)	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ		良	砂粒	橙色7.5YR6/6		
		3	土師器	甕	1/3	(24.0)	(27.7)	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ		普通	砂粒	赤褐色2.5YR4/6		
		4	土師器	甕	2/3	20.9	(20.0)	-	-	ハラケズリ	ナデ		普通	白色粒	赤褐色7.5YR4/6	砂付着	
		5	土製品	支脚	2/3	-	22.7	7.3	-								
		1	須恵器	坏	1/2	(13.3)	3.6	-	(8.1)	手持ちハラケズリ			糸切り	不良	砂粒	灰白色7.5Y5/1	新治産
8号住	2	土師器	甕	1/4	(24.5)	(16.9)	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ		良	白色粒	明褐色7.5YR5/6			
	3	土師器	甕	1/8	-	(8.0)	-	10.0	ハラケズリ			良	白色粒	暗褐色7.5YR3/3			
	1	須恵器	坏	2/3	(13.2)	4.6	-	(10.3)	手持ちハラケズリ			不良	砂粒	灰白色N7/1	新治産・底部に織刻		
	2	須恵器	坏	1/3	(11.2)	4.0	-	(6.8)	回転ハラケズリ			良	白色粒	黒褐色10YR3/1			
9号住	3	土師器	坏	1/2	(13.2)	4.5	-	(5.6)	手持ちハラケズリ			不良	白色粒	黄褐色10YR5/8			
	4	土師器	甕	1/3	19.6	14.7	20.0	-	ハラケズリ			普通	小石	明黄褐色10YR7/6			
	1	土師器	皿	1/3	(14.6)	(2.2)	-	(7.2)	手持ちハラケズリ	ハラミガキ		普通	白色粒	赤色7.5R4/6			
	2	土師器	高台付皿	2/3	(13.1)	(2.8)	-	6.6	ナデ	ハラミガキ		良	白色粒	橙色2.5YR6/6	底部に墨書		
10号住	3	土師器	坏	9/10	15.0	4.9	-	6.8	手持ちハラケズリ	ハラミガキ		不良	白色粒	明褐色7.5YR5/6			
	4	土師器	坏	9/10	14.0	4.6	-	6.7	手持ちハラケズリ			良	白色粒	赤褐色5YR4/6	底部に織刻		
	5	土師器	坏	破片	-	-	-	-							底部に墨書		
	6	須恵器	片口	3/4	18.0	6.9	-	10.2	ハラケズリ	ナデ		良	白色粒	暗赤色7.5R3/6	窓は1ヶ所		
	7	土師器	小型甕	1/8	(13.4)	(4.2)	-	-	ナデ	ナデ		良	白色粒	赤褐色5YR4/6			
	8	土師器	甕	1/8	(25.0)	(14.4)	-	-	ハラケズリ			良	白色粒	浅黄色2.5Y7/4			
	9	須恵器	甌	1/10	-	-	-	-	タタキ	ナデ		良	砂粒	褐灰色7.5YR4/1			
	10	土師器	甌	1/10	-	(11.0)	-	15.8	ハラケズリ	ナデ		良	砂粒	橙色2.5YR6/6			
	1	須恵器	脚	1/8	-	-	-	(15.0)				良	白色粒	橙色2.5YR6/6			
	2	須恵器	坏	9/10	13.2	3.7	-	6.7	手持ちハラケズリ			良	小石	褐灰色10YR4/1			
11号住	3	土師器	坏	1/3	(13.3)	3.8	-	5.8				良	白色粒	明赤褐色5YR5/6			
	4	土師器	小型甕	1/6	(12.0)	-	-	-	ハラケズリ	ナデ		良	砂粒	黒褐色7.5YR3/2			

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第7表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			胎土	色調	備考	
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面				底部
昭和51年度	11号住	5	土師器	小型甕	1/5	-	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ		砂粒	褐色7.5YR4/4		
		6	土師器	小型甕	1/8	-	-	-	ハラケズリ	ナデ		砂粒	橙色2.5YR6/6		
		7	土師器	小型甕	1/8	-	-	-	ハラケズリ	ナデ		砂粒	赤褐色5YR4/6		
		8	土師器	甕	1/8	-	-	-	ハラケズリ	ナデ		白色粒	明赤褐色5YR5/6		
		1	須恵器	坏	9/10	4.1	-	7.5	回転ハラケズリ		回転ハラ切り	砂粒	灰黄褐色10YR6/2	火ダズキ痕	
		2	須恵器	坏	2/3	3.5	-	7.0			回転糸切り	白色粒	黄灰色2.5Y5/1		
		3	須恵器	坏	1/4	4.2	-	6.9	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	白色粒	黒色7.5YR2/1		
		4	土師器	高台付皿	9/10	3.5	-	7.3	回転ハラケズリ	ハラミガキ		砂粒	赤褐色5YR4/6		
13・72・73号住	14号住	5	土師器	坏	9/10	5.1	-	7.0	手持ちハラケズリ	ナデ		砂粒	明赤褐色5YR5/6		
		6	土師器	坏	3/4	4.7	-	6.9	手持ちハラケズリ	ハラミガキ		砂粒	明赤褐色5YR5/6	内面線刻・黒色処理	
		7	土師器	坏	3/5	4.3	-	(7.4)	回転ハラケズリ		回転ハラケズリ後 ハラケズリ	砂粒	明赤褐色5YR5/6		
		8	土師器	小型甕	1/8	-	-	-	横ナデ	横ナデ		砂粒	明赤褐色5YR5/6		
		1	土師器	坏	1/2	4.0	-	-	手持ちハラケズリ			砂粒	黄褐色10YR7/8		
		2	土師器	坏	2/3	(3.8)	-	6.2	手持ちハラケズリ	横ナデ	回転糸切り	白色粒	赤褐色5YR4/6	外面スス付着	
		3	土師器	坏	1/4	(4.3)	-	(6.2)	手持ちハラケズリ		回転糸切り	白色粒	黒褐色7.5YR3/2		
		4	土師器	坏	2/3	3.5	-	7.0	手持ちハラケズリ		静止糸切り	白色粒	明赤褐色2.5YR5/8		
14号住	14号住	5	土師器	小型甕	1/8	-	-	-	横ナデ	横ナデ		砂粒	赤褐色2.5YR4/6		
		6	須恵器	甕	1/8	-	-	-	タタキ			砂粒	赤褐色2.5YR4/6		
		7	須恵器	甕	1/8	-	-	-	タタキ	横ナデ		砂粒	橙色7.5YR7/6		
		8	須恵器	甕	1/8	-	-	-	横ナデ	横ナデ		砂粒	褐灰色5YR4/1		
		9	土師器	甕	3/5	17.6	(19.1)	16.6	ハラケズリ	ハラナデ		砂粒	灰色5Y6/1		
		10	土製品	支脚	破片	-	10.8	6.5	-	-					
		1	須恵器	坏	1/5	(13.7)	4.2	-	(8.0)	ハラケズリ		普通	白色粒	灰色5Y6/1	
		2	土師器	坏	1/6	(12.0)	-	-	-	手持ちハラケズリ		不良	白色粒	灰褐色7.5YR5/2	
		3	土師器	坏	2/5	(12.8)	(4.7)	-	-	手持ちハラケズリ	ハラミガキ	不良	砂粒	灰褐色7.5YR4/2	黒色処理

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第8表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考	
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部				焼成
昭和51年度	14号住	4	土師器	坏	1/5	(8.6)	(3.7)	-	-	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		普通	白色粒	明赤褐色5YR5/6	
		5	須恵器	甃	2/3	(15.3)	2.8	-	(13.0)	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	普通	砂粒	橙色7.5YR6/6	
		6	土師器	甃	1/8	(20.2)	-	-	-	ハラケズリ	ハラナデ		普通	砂粒	明赤褐色2.5YR5/6	
15号住		1	土師器	坏	1/5	(16.0)	(5.6)	-	-		ハラミガキ		良	白色粒	橙色7.5YR6/6	
		2	土師器	小型甃	1/6	(12.6)	(6.1)	-	-	ハラケズリ	横ナデ		普通	白色粒	橙色5YR6/6	
		3	土師器	甃	1/8	(21.4)	(4.2)	-	-	横ナデ			不良	砂粒	橙色2.5YR6/6	
16号住		1	土師器	坏	2/3	(9.0)	5.3	-	4.8	ハラケズリ	横ナデ		普通	砂粒	橙色7.5YR6/6	黒色処理
		2	土師器	坏	1/1	13.2	4.2	-	5.2	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	普通	砂粒	赤褐色2.5YR4/6	
		3	土師器	坏	2/5	(13.9)	4.3	-	5.7	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	良	砂粒	赤褐色5YR4/6	
		4	土師器	坏	4/5	13.6	4.6	-	(6.3)	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	良	砂粒	明褐色7.5YR5/6	
		5	土師器	高坏	2/3	(18.2)	11.9	-	(11.0)		ハラミガキ		不良	黒色粒	黄褐色10YR5/8	
		6	土師器	甃	1/3	(20.0)	(20.0)	-	-	ハラケズリ	横ナデ		普通	白色粒	明赤褐色2.5YR5/6	
		7	土製品	支脚	9/10	-	20.5	7.4	-							
17号住		1	土師器	坏	4/5	12.4	4.4	-	4.8	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	良	白色粒	明赤褐色2.5YR5/6	側面に墨書
		2	土師器	坏	1/10	(12.8)	3.7	-	(6.2)	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	不良	白色粒	黒褐色5YR3/1	
		3	土師器	坏	1/5	(10.2)	4.0	-	(6.0)	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	良	白色粒	明褐色7.5YR5/6	
		4	土師器	鉢	2/3	(18.8)	5.9	-	7.8	手持ちヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラケズリ	良	砂粒	橙色7.5YR6/6	
		5	土師器	坏	破片	-	-	-	-				普通	砂粒	橙色7.5YR6/6	底部に墨書
		6	須恵器	甃	1/6	(17.2)	(11.8)	-	-	タタキ後ヘラケズリ	横ナデ		良	砂粒	褐色7.5YR4/3	
		7	土師器	甃	1/8	-	(6.3)	-	(16.6)	ハラケズリ	ハラケズリ		普通	砂粒	明赤褐色2.5YR5/6	
		8	土師器	甃	1/5	-	(6.0)	-	(12.5)	ハラケズリ	ハラケズリ		普通	砂粒	黄褐色10YR5/8	
		9	灰釉陶器	瓶	1/4	-	(7.5)	-	(11.0)				普通	砂粒	褐灰色10YR6/1	
		10	灰釉陶器	瓶	1/10	-	(5.3)	-	(17.4)	タタキ	ハラナデ		良	砂粒	黄褐色10YR5/8	
18号住		1	土師器	坏	3/4	(14.7)	5.2	-	5.3	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ	ハラケズリ	普通	白色粒	橙色5YR6/6	
		2	土師器	坏	2/5	(14.0)	5.0	-	5.5	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ	ハラケズリ	普通	白色粒	黒褐色5YR3/1	外面スス付着

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。



第9表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			胎土	色調	備考		
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面				底部	
昭和51年度	18号住	3	土師器	坏	3/5	15.0	5.2	-	5.7	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ヘラケズリ	普通	砂粒	明赤褐色5YR5/6	
		4	土師器	坏	4/5	14.4	5.1	-	6.2	手持ちヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラケズリ	普通	白色粒	橙色5YR6/6	
		5	土師器	坏	6/7	13.0	5.1	-	6.0	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ヘラケズリ	不良	白色粒	明赤褐色2.5YR5/8	
		6	土師器	坏	3/4	13.5	4.5	-	5.2	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ヘラケズリ	普通	白色粒	橙色5YR6/6	底部に墨書
		7	土師器	坏	4/5	15.0	5.1	-	0.6	手持ちヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラケズリ	普通	砂粒	明赤褐色2.5YR5/6	
		8	土師器	鉢	1/10	(27.8)	(6.3)	-	-	ヘラナデ	横ナデ		良	小石	灰褐色7.5YR4/2	
		9	土師器	小型甕	1/6	(13.0)	(4.8)	-	-	ヘラケズリ	横ナデ		良	砂粒	赤褐色5YR4/6	
		10	土師器	甕	1/3	(20.4)	(18.3)	-	-	ヘラケズリ	横ナデ		普通	砂粒	橙色7.5YR6/6	
		11	須恵器	甕	1/5	(27.0)	(17.2)	-	-	タタキ	横ナデ		良	白色粒	明赤褐色2.5YR5/6	
		12	土師器	甕	1/10	(30.0)	(7.4)	-	-	ヘラナデ	ヘラナデ		不良	小石	明黄褐色10YR6/6	
		13	土師器	甕	1/10	(24.0)	(9.8)	-	-	タタキ	ヘラナデ		良	砂粒	橙色5YR6/6	
		14	灰釉陶器	長頸瓶	1/5	-	-	(16.4)	-	タタキ	ヘラナデ		良	黒色粒	褐灰色10YR6/1	湖西産
		19・70号住		1	須恵器	坏	1/5	(14.4)	4.0	-	(8.7)		横ナデ		不良	白色粒
2	土師器			坏	4/5	12.6	4.0	-	5.4	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ヘラケズリ	良	白色粒	明赤褐色7.5YR5/8	底部に墨書
3	土師器			坏	3/4	12.6	4.6	-	(4.5)	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ヘラケズリ	不良	砂粒	黒褐色7.5YR2/2	
4	土師器			坏	1/2	(13.1)	4.2	-	(4.0)	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ヘラケズリ	不良	砂粒	赤褐色2.5YR4/6	
5	土師器			坏	1/2	(13.2)	4.3	-	(5.6)	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ヘラケズリ	不良	砂粒	暗赤褐色2.5YR3/4	
6	土師器			坏	1/4	(12.6)	4.0	-	5.0	手持ちヘラケズリ	横ナデ	ヘラケズリ	普通	白色粒	赤褐色5YR4/6	
7	土師器			坏	1/1	12.6	4.4	-	6.3	手持ちヘラケズリ	横ナデ	回転糸切り	普通	白色粒	赤褐色5YR4/6	
8	土師器			坏	1/1	12.3	4.2	-	6.2	手持ちヘラケズリ	横ナデ	静止糸切り	普通	白色粒	明赤褐色5YR5/6	
9	土師器			高台付皿	1/2	(15.0)	(2.5)	-	(6.1)		ヘラミガキ	回転ヘラケズリ	普通	白色粒	暗赤褐色5YR3/6	
10	須恵器			甕	1/10	(20.4)	(6.4)	-	-	タタキ	横ナデ		良	砂粒	赤褐色5YR4/6	
11	須恵器			甕	1/8	(28.6)	(17.1)	-	-	タタキ	ヘラナデ		普通	砂粒	赤褐色5YR4/6	
12	須恵器			甕	1/10	(20.0)	(7.8)	-	-	タタキ	横ナデ		良	砂粒	明褐色7.5YR5/6	
13	土師器			甕	1/5	(20.4)	(10.3)	-	-	ヘラケズリ	横ナデ		良	砂粒	赤褐色5YR4/6	

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第10表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			焼成	胎土	色調	備考	
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面					底部
昭和51年度	19・70号住	14	土師器	甕	1/2	18.3	25.4	-	(9.2)	ハラケズリ	ハラナデ		良	砂粒	赤褐色2.5YR4/6	
		15	灰釉陶器	長頸瓶	1/8	-	(8.3)	-	(8.5)			回転ヘラ切り		良	白色粒	黒色10YR2/1
20号住	20号住	1	須恵器	坏	1/2	(14.0)	3.5	-	(9.0)		横ナデ		不良	小石	褐灰色10YR5/1	
		2	土師器	坏	1/1	13.8	4.0	-	-	手持ちハラケズリ	ミガキ		普通	白色粒	赤色10R4/6	内外面赤彩
		3	土師器	坏	1/8	(12.0)	5.1	-	(6.6)	横ナデ	横ナデ	回転糸切り	良	白色粒	赤褐色5YR4/6	
		4	土師器	鉢	1/8	(17.6)	(4.5)	-	-	横ナデ	ハラミガキ		良	砂粒	黄褐色10YR5/6	黒色処理
		5	土師器	鉢	1/10	(14.0)	(6.2)	-	-	手持ちハラケズリ	横ナデ		普通	白色粒	明赤褐色5YR5/8	
		6	土師器	小型甕	3/4	(12.3)	(15.0)	(13.0)	(6.1)	ハラケズリ	横ナデ		良	砂粒	褐色7.5YR4/4	
		7	土師器	甕	1/4	(20.8)	(19.3)	-	-	ハラケズリ	横ナデ		良	砂粒	褐色7.5YR4/4	
21号住	21号住	1	須恵器	坏	1/4	(14.0)	(4.1)	-	(8.0)	手持ちハラケズリ	横ナデ	ハラ切り	普通	白色粒	灰褐色7.5YR4/2	
		2	須恵器	坏	5/6	12.4	3.7	-	7.6	回転ハラケズリ		回転ヘラ切り	普通	砂粒	橙色5YR6/6	
		3	土師器	坏	1/8	(14.0)	4.0	-	(6.7)	手持ちハラケズリ	横ナデ	ハラ切り	良	白色粒	赤褐色5YR4/6	
		4	土師器	鉢	1/2	17.3	6.0	-	(8.4)	回転ハラケズリ	ハラミガキ	回転ヘラ切り	良	砂粒	明赤褐色2.5YR5/6	
		5	土師器	小型甕	1/8	(13.0)	-	-	-	ハラケズリ	横ナデ		良	白色粒	黄褐色10YR4/3	
		6	土師器	台付甕	1/8	-	-	-	(13.0)	ハラケズリ	横ナデ		良	砂粒	赤褐色2.5YR4/6	
22号住	22号住	1	須恵器	坏	1/2	11.8	4.1	-	7.2	ハラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り	普通	砂粒	灰色5Y6/1	
		2	土師器	坏	3/5	(12.3)	3.4	-	(6.8)	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラケズリ	良	白色粒	明赤褐色5YR5/6	黒色処理
		3	須恵器	甕	1/8	(22.9)	(5.1)	-	-	横ナデ	横ナデ		普通	白色粒	黒褐色10YR2/2	
		4	土師器	甕	1/4	(20.0)	-	-	-	横ナデ	横ナデ		良	砂粒	橙色2.5YR6/6	
23・78号住	23・78号住	1	須恵器	坏	1/3	(11.2)	3.5	-	(7.0)	手持ちハラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	普通	砂粒	灰色5Y4/1	
		2	須恵器	坏	1/2	(12.8)	4.4	-	7.6	ハラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り	普通	白色粒	橙色2.5YR6/6	
		3	須恵器	坏	2/5	(12.8)	8.4	-	(3.9)	ハラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り	普通	白色粒	褐色7.5YR4/3	
		4	須恵器	高台付坏	2/5	-	-	-	10.0	ハラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り	普通	白色粒	黒色10YR2/1	
22号住	22号住	5	土師器	皿	1/1	13.0	2.5	-	4.8	ハラケズリ	ハラミガキ	ハラケズリ	良	砂粒	明赤褐色5YR5/6	
		6	土師器	皿	1/8	(14.2)	-	-	-	ハラケズリ	ハラミガキ		普通	砂粒	明赤褐色5YR5/6	

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第11表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			胎土	色調	備考		
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面				底部	
昭和51年度	23・78号住	7	土師器	坏	3/4	13.2	4.7	-	5.2	ハラケズリ		ハラケズリ	砂粒	明赤褐色5YR5/6		
		8	土師器	坏	1/2	(13.2)	4.5	-	(5.0)	ハラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	砂粒	明赤褐色5YR5/6		
		9	土師器	坏	2/5	(13.8)	6.0	-	(4.2)	ハラケズリ	横ナデ	ハラ切り	白色粒	明赤褐色2.5YR5/8		
		10	土師器	坏	2/3	(14.0)	4.5	-	5.8	ハラケズリ	ハラミガキ		白色粒	黄褐色10YR6/3		
		11	須恵器	甕	1/3	17.2	-	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ		小石	褐灰色10YR6/1		
		12	土師器	甕	1/8	(20.0)	-	-	-	ハラケズリ	ハラナデ		砂粒	赤褐色2.5YR4/6		
		13	土師器	甕	1/10	(20.0)	-	-	-	ハラケズリ	横ナデ		白色粒	赤褐色2.5YR4/6		
		14	土師器	甕	1/8	(15.0)	-	-	-	ハラケズリ	ナデ		砂粒	橙色2.5YR6/6		
		15	土師器	甕	1/8	-	-	-	-	ハラケズリ			砂粒	橙色7.5YR6/6		
		16	土師器	甕	1/8	(25.0)	-	-	-	横ナデ	横ナデ		白色粒	赤褐色5YR4/6		
		17	土師器	甕	1/4	-	-	-	7.3	ハラケズリ	ナデ		白色粒	暗褐色10YR3/4		
		24号住	1	須恵器	坏	2/3	(13.2)	4.0	-	7.6	ハラケズリ	横ナデ		白色粒	褐灰色10YR5/1	
			2	土師器	坏	9/10	14.1	4.0	-	10.0	ハラケズリ	横ナデ		砂粒	黄褐色10YR5/6	内外面赤彩・底部に線刻
			3	土師器	坏	3/4	(14.2)	3.6	-	8.0	ハラケズリ	横ナデ		白色粒	明赤褐色5YR5/6	内外面赤彩・底部に墨書
		26号住	1	土師器	坏	3/4	12.6	4.6	-	6.1		横ナデ	回転ハラ切り	雲母	褐色7.5YR4/3	スス付着・側面に墨書
2	土師器		甕	1/6	(21.4)	-	-	-	ハラケズリ	ハラナデ		雲母	褐色7.5YR6/6			
27号住	1	土師器	皿	5/6	14.0	2.4	-	6.3		横ナデ	回転糸切り	白色粒	褐色7.5YR4/3	内面赤彩		
	2	土師器	坏	1/4	-	-	-	6.0	ハラケズリ	ハラミガキ	ハラケズリ	白色粒	明赤褐色5YR5/6	黒色処理		
	3	土師器	坏	2/5	(13.0)	(4.0)	-	(6.3)	ハラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	白色粒	赤褐色5YR4/6			
	4	土師器	坏	2/3	12.8	4.2	-	7.0			回転糸切り	白色粒	褐色7.5YR4/4			
	5	土師器	坏	1/2	12.3	3.7	-	6.2			回転糸切り	白色粒	褐色7.5YR4/3			
	6	土師器	坏	2/3	12.3	4.0	-	6.4		横ナデ	回転糸切り	白色粒	明赤褐色2.5YR3/4	側面に線刻		
	7	土師器	坏	1/3	(12.8)	3.8	-	5.0		横ナデ	回転糸切り	白色粒	赤褐色5YR4/6	外面赤彩		
	8	土師器	坏	1/2	-	-	-	6.3		横ナデ	回転糸切り	白色粒	明褐色5YR5/6			
	9	土師器	甕	1/8	(23.2)	-	-	-		ハラケズリ		砂粒	褐色7.5YR6/6			

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第12表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			胎土	色調	備考	
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面				底部
昭和51年度	27号住	10	土製品	支脚	1/1	-	13.2	4.3	-						
		1	須恵器	高台付坏	2/3	-	-	-	(11.0)					黄灰色2.5Y6/1	
	28号住	2	土師器	坏	1/5	(15.7)	(3.6)	-	(7.6)	ハラケズリ	横ナデ			褐色7.5YR4/3	内外面赤彩
		3	土師器	坏	4/5	13.3	5.0	-	5.6	ハラケズリ	横ナデ			赤褐色5YR4/6	
29号住	4	土師器	甕	1/8	(25.2)	-	-	-	ハラケズリ					暗褐色10YR3/3	
		1	須恵器	坏	1/3	(13.0)	3.6	-	(7.0)	ハラケズリ	横ナデ			褐色7.5YR4/3	
	2	土師器	皿	1/3	(14.0)	2.6	-	(5.0)	ハラケズリ	ハラミガキ			明赤褐色5YR5/6		
	3	土師器	坏	4/5	13.8	4.3	-	6.0	ハラケズリ	横ナデ			明赤褐色2.5YR5/6		
	4	土師器	坏	3/4	12.8	3.6	-	6.0	ハラケズリ	横ナデ			明赤褐色2.5YR5/6		
	5	土師器	坏	2/3	12.5	4.9	-	5.5	ハラケズリ	横ナデ			赤色10R5/6		
	6	土師器	坏	2/5	(13.0)	4.1	-	5.7	ハラケズリ	横ナデ			赤褐色5YR4/6		
	7	土師器	坏	1/3	(13.5)	4.6	-	5.5	ハラケズリ	横ナデ			褐色7.5YR4/3		
	8	土師器	坏	1/4	-	-	-	5.5	ハラケズリ				褐色7.5YR6/6		
	9	土師器	坏	1/5	(14.5)	-	-	-	ハラケズリ	横ナデ			明赤褐色5YR5/6		
	10	土師器	坏	1/5	(15.6)	-	-	-	ハラケズリ				赤褐色2.5YR4/6		
	11	土師器	坏	1/3	(12.1)	4.0	-	6.5		横ナデ			明赤褐色2.5YR5/6	側面に墨書	
	12	土師器	坏	1/5	(12.5)	-	-	-		横ナデ			赤褐色5YR4/6		
	13	土師器	小型甕	1/8	(12.6)	4.4	-	6.5		横ナデ			明赤褐色2.5YR5/6		
14	須恵器	甕	1/8	-	-	-	8.8					灰色5Y4/1	自然釉		
30号住	1	須恵器	坏	3/4	14.0	4.1	-	6.0		横ナデ			黄褐色10YR5/6		
		2	須恵器	坏	1/3	(13.3)	4.5	-	(6.0)		横ナデ			黄褐色10YR5/6	
	3	須恵器	坏	1/5	(12.7)	(3.5)	-	(7.8)	ハラケズリ	横ナデ			黒褐色10YR3/1		
	4	土師器	坏	3/4	14.3	5.1	-	5.3	ハラケズリ	ハラミガキ			明赤褐色2.5YR5/6		
	5	土師器	坏	1/4	-	-	-	5.0	ハラケズリ	ハラミガキ			赤褐色5YR4/6		
	6	土師器	坏	1/2	(14.2)	4.6	-	5.5	ハラケズリ	横ナデ			黒褐色7.5YR3/1		

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第13表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			胎土	色調	備考		
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面				底部	
昭和51年度	30号住	7	土師器	坏	1/3	(12.7)	4.5	-	5.0	ハラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	白色粒	明赤褐色5YR5/6		
		8	土師器	坏	1/6	(12.0)	4.2	-	(5.1)	ハラケズリ	横ナデ	ハラケズリ	赤色粒	赤褐色5YR4/6		
		9	土師器	坏	1/5	(13.9)	-	-	-		横ナデ		暗褐色粒	明赤褐色5YR5/6		
		10	土師器	坏	1/5	(13.8)	-	-	-	ハラケズリ	横ナデ		赤褐色粒	褐色7.5YR4/3		
		11	土師器	坏	1/4	(17.7)	-	-	-	横ナデ	横ナデ		白色粒	橙色7.5YR6/6		
		12	土師器	坏	9/10	13.3	5.0	-	5.5	ハラケズリ	横ナデ		白色粒	暗赤褐色2.5YR3/4		
		13	土師器	坏	破片	-	-	-	-	手持ちハラケズリ			白色粒	明赤褐色5YR5/6	側面に墨書	
		14	土師器	坏	破片	-	-	-	-				砂粒	褐色7.5YR6/6	底部に墨書	
		15	土師器	坏	破片	-	-	-	-				白色粒	明赤褐色5YR5/6	底部に墨書	
		16	土師器	小型甕	1/8	(10.5)	-	-	-	横ナデ	横ナデ		白色粒	赤褐色5YR4/6		
		17	土師器	小型甕	1/8	(12.8)	-	-	-	ハラケズリ	横ナデ		赤褐色粒	褐色7.5YR6/6		
		18	土師器	甕	1/6	(20.4)	-	-	-	ハラケズリ			砂粒	明赤褐色2.5YR5/6		
		19	土師器	甕	1/6	(26.2)	-	-	-	ハラケズリ			砂粒	明赤褐色5YR5/6		
		20	土師器	甕	1/5	(18.1)	-	-	-				砂粒	黄褐色10YR5/6		
		21	土師器	甕	1/5	-	-	-	(9.0)	ハラケズリ	横ナデ		砂粒	赤褐色2.5Y4/8		
		31号住	1	土師器	坏	9/10	10.1	3.5	-	-	手持ちハラケズリ	ハラミガキ		砂粒	浅黄色2.5Y7/3	内外面赤彩
			2	土師器	坏	8/10	10.1	3.5	-	-	手持ちハラケズリ	ハラミガキ		砂粒	明褐色7.5YR5/6	内外面赤彩
			3	土師器	坏	1/4	10.2	3.5	-	-	ハラミガキ	ハラミガキ		赤色粒	明褐色7.5YR5/6	内面赤彩
			4	土師器	坏	1/2	8.5	3.2	-	-	ハラミガキ	ハラミガキ		雲母	黄褐色10YR6/3	内面赤彩
			5	土師器	坏	1/3	(10.2)	(3.1)	-	(5.3)	ハラミガキ	ハラミガキ		砂粒	黄褐色10YR6/3	内面赤彩
			6	土師器	坏	1/3	(12.5)	(3.4)	-	-	ハラケズリ	ハラミガキ		赤色粒	暗赤褐色5YR2/3	内面赤彩
7	土師器		坏	1/5	-	-	-	-	手持ちハラケズリ	ハラミガキ		砂粒	黒色7.5YR2/1	黒色処理		
8	土師器		坏	1/3	(12.0)	(3.4)	-	-	手持ちハラケズリ	ナデ		砂粒	明赤褐色2.5YR5/8			
9	土師器		甕	1/3	(9.6)	-	-	-	ハラナデ	ナデ		雲母	灰褐色7.5YR4/2	砂付着		
10	土師器	甕	1/3	(19.6)	-	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ		雲母	暗赤褐色2.5YR3/4				

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第14表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			焼成	胎土	色調	備考
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部				
昭和51年度	32号住	1	土師器	坏	1/3	(15.8)	4.3	-	(7.6)	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		不良	赤色粒	明赤褐色5YR5/6	
		2	土師器	坏	2/3	(9.8)	3.3	-		ヘラケズリ	ハラケズリ		良	赤色粒	明黄褐色10YR6/6	黒色処理
		3	土師器	高坏	1/3	-	-	-	5.1	ヘラケズリ	ハラミガキ		普通	雲母	赤褐色2.5YR4/6	
		4	土師器	高坏	1/6	-	4.8	-	9.4	ヘラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	良	雲母	明黄褐色10YR6/6	
		5	土師器	碗	2/5	(14.2)	(6.0)	-	-	ヘラケズリ	ハラナデ		不良	雲母	赤褐色2.5YR4/6	
		6	土師器	碗	9/10	9.8	8.8	-	7.0	ハラミガキ	ハラミガキ		不良	雲母	赤褐色5YR4/6	
		7	土師器	鉢	1/3	(14.5)	11.4	-	5.9	ヘラケズリ			不良	砂粒	赤褐色2.5YR4/6	
		8	土師器	甕	2/3	9.6	(29.0)	26.3	-	ハラミガキ	ナデ		普通	白色粒	明黄褐色10YR6/6	
		9	土製品	支脚	破片	-	-	-	-							
33号住		1	土師器	坏	1/1	(13.8)	4.1	-	5.7			回転糸切り	普通	雲母	明赤褐色2.5YR5/6	
		2	土師器	坏	1/2	14.8	3.6	-	7.1			回転糸切り	普通	砂粒	明赤褐色5YR5/8	
		3	土師器	坏	1/3	(14.8)	4.1	-	(6.8)			回転糸切り	良	白色粒	明赤褐色5YR5/8	
		4	土製品	置きカマド	破片	-	-	-	-				良	白色粒	明褐色7.5YR5/6	
34号住		1	須恵器	坏	1/3	(14.5)	4.5	-	8.5			ヘラケズリ	普通	雲母	灰黄色2.5Y6/2	
		2	土師器	灯明皿	1/1	9.6	2.9	-	4.2	ヘラケズリ			良	白色粒	橙色5YR6/8	口縁部スス付着
		3	土師器	坏	1/2	(13.8)	4.3	-	6.0	手持ちヘラケズリ			普通	雲母	明赤褐色5YR5/8	
		4	土師器	坏	1/4	(13.8)	4.4	-	5.0	手持ちヘラケズリ			良	雲母	褐色7.5YR4/4	
		5	土師器	坏	1/1	12.8	4.3	-	4.9	手持ちヘラケズリ			良	石英	明赤褐色2.5YR5/6	
		6	土師器	坏	2/3	13.8	4.3	-	6.0	手持ちヘラケズリ			普通	雲母	明赤褐色5YR5/6	
		7	土師器	坏	1/4	(14.9)	4.7	-	(5.0)	手持ちヘラケズリ	ナデ		良	雲母	褐色10YR4/4	
		8	土師器	坏	1/3	(15.0)	5.1	-	(5.8)	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		普通	雲母	褐色7.5YR4/4	
35号住		9	土師器	坏	1/4	(15.7)	4.9	-	(7.3)	手持ちヘラケズリ	ナデ		不良	雲母	赤褐色5YR4/6	
		10	土師器	坏	1/3	-	3.1	-	5.1	手持ちヘラケズリ	ナデ		良	雲母	黄褐色2.5Y5/4	
		11	土師器	坏	破片	-	-	-	-							底部にヘラ書
36号住		12	土師器	小型甕	9/10	12.6	14.1	-	7.5	ヘラケズリ			良	白色粒	暗赤褐色5YR3/2	

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第15表 遺物観察表 (土器・土製品)

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			胎土	色調	備考	
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面				底部
昭和51年度	34号住	13	土師器	甌	1/4	(25.5)	24.7	-	(10.8)	タタキ			雲母	褐色7.5YR4/4	
		36号住	1	須恵器	高台付坏	1/4	(15.1)	4.8	-	(11.0)				雲母	灰黄色2.5Y6/2
	37号住	2	土師器	灯明皿	1/1	9.4	3.4	-	5.6	手持ちヘラケズリ	横ナデ		雲母	橙色7.5YR6/6	口縁部スス付着
		3	土師器	坏	1/2	14.4	8.1	-	9.2	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		雲母	黄褐色10YR5/6	
		4	土師器	坏	1/2	(13.2)	3.4	-	7.2	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		雲母	褐色7.5YR4/3	
		5	土師器	坏	1/3	(13.2)	4.1	-	(7.0)	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		雲母	黒褐色10YR3/1	
38号住	6	土師器	盤	1/5	(15.7)	2.4	-	(12.0)	手持ちヘラケズリ	ヘラケズリ		雲母	赤色7.5R4/8	内外面赤彩	
	1	須恵器	坏	1/3	(13.3)	4.1	-	(8.0)	回転ヘラケズリ			白色粒	灰黄褐色10YR4/2		
39号住	2	土師器	甌	1/3	(19.8)	-	-	-	ヘラケズリ	ナデ		雲母	黄褐色10YR5/6		
	1	土師器	甌	2/3	21.2	28.2	-	(9.0)	ヘラケズリ	ナデ		雲母	明褐色7.5YR5/8	砂付着	
	2	土師器	甌	1/3	(24.2)	(17.5)	-	-	ヘラケズリ	ナデ		小石	褐色7.5YR4/4		
40号住	3	土師器	甌	1/5	(20.5)	-	-	8.6	ハラミガキ	ヘラケズリ		雲母	橙色7.5YR6/8		
	1	須恵器	坏	3/4	13.2	3.7	-	8.0				雲母	灰色5Y5/1		
	2	土師器	椀	3/5	(14.2)	10.8	-	7.3	ヘラケズリ	横ナデ		白色粒	褐色7.5YR4/3	スス付着	
41号住	3	土製品	支脚	1/1	11.5	5.0	-	-							
	1	土師器	坏	1/3	(14.8)	4.6	-	(6.3)	手持ちヘラケズリ	ナデ		雲母	黄褐色10YR5/6	黒色処理	
	2	土師器	坏	1/1	12.7	3.8	-	-	手持ちヘラケズリ	ヘラナデ		白色粒	橙色7.5YR6/6	内外面赤彩	
	3	土師器	椀	1/1	16.8	6.7	-	10.2	ヘラケズリ	ナデ		白色粒	黄褐色10YR5/6		
42号住	4	土師器	甌	1/4	-	-	-	-	ヘラケズリ			白色粒	赤褐色2.5YR4/6		
	1	土師器	坏	1/4	(16.2)	2.9	-	(7.2)	ヘラケズリ	ハラミガキ		白色粒	橙色5YR6/6		
43・79号住	2	土師器	甌	1/8	-	-	-	(8.1)	ヘラケズリ			白色粒	明赤褐色10YR5/6	底部に木葉痕様のハラ書	
	1	須恵器	坏	4/5	12.8	4.1	-	6.9	手持ちヘラケズリ			白色粒	褐色7.5YR4/3		
	2	須恵器	坏	1/8	(12.9)	(3.1)	-	-				白色粒	灰褐色5YR6/2		
	3	土師器	皿	1/2	(14.0)	2.8	-	(5.4)				白色粒	赤褐色2.5YR4/6		
44号住	4	土師器	坏	4/5	13.3	4.2	-	5.8	手持ちヘラケズリ			白色粒	赤褐色2.5YR4/6		

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第16表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考	
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部				焼成
昭和51年度	43・79号住	5	土師器	坏	4/5	13.4	4.7	-	4.7	手持ちヘラケズリ		手持ちヘラケズリ	不良	白色粒	赤褐色2.5YR4/6	
		6	土師器	坏	1/4	(14.2)	4.5	-	(6.0)	手持ちヘラケズリ		手持ちヘラケズリ	良	白色粒	赤褐色2.5YR4/6	
		7	土師器	坏	1/3	(13.6)	(3.2)	-	-	手持ちヘラケズリ			普通	白色粒	赤褐色2.5YR4/6	
		8	土師器	坏	1/8	-	(2.7)	-	6.2	手持ちヘラケズリ		ヘラケズリ	普通	白色粒	赤褐色2.5YR4/6	
		9	土師器	坏	破片	-	-	-	-		ハラミガキ	ヘラケズリ	良	雲母	橙色5YR6/6	底部に墨書
		10	須恵器	甕	1/2	20.2	(16.0)	-	-	タタキ	ナデ		不良	白色粒	明赤褐色5YR5/6	
		1	土師器	坏	1/5	(14.4)	-	-	-		ハラミガキ		良	白色粒	赤褐色2.5YR4/6	
		2	土師器	坏	2/3	(13.5)	3.0	-	(5.8)	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ	ヘラケズリ	良	白色粒	橙色5YR6/6	底部に墨書
		3	土師器	坏	1/4	(14.0)	4.8	-	(6.0)	手持ちヘラケズリ		ヘラケズリ	普通	白色粒	明赤褐色5YR5/6	
		4	土師器	甕	3/4	23.0	23.0	-	10.0	ヘラケズリ			良	白色粒	褐色7.5YR4/3	
45号住	46号住	1	土師器	坏	1/4	(14.0)	2.7	-	(10.0)	手持ちヘラケズリ		手持ちヘラケズリ	普通	白色粒	橙色5YR6/6	
		1	須恵器	蓋	3/4	16.6	4.0	-	-	ヘラケズリ			良	白色粒	褐灰色10YR5/1	
47号住	48号住	2	須恵器	小甕	1/3	6.0	(5.7)	-	-	手持ちヘラケズリ		手持ちヘラケズリ	不良	白色粒	褐灰色10YR4/1	
		1	土師器	坏	1/5	(14.8)	2.7	-	(10.6)	ハラミガキ	ハラミガキ	ヘラケズリ	良	白色粒	赤褐色2.5YR4/6	内外面赤彩
48号住	50号住	2	土師器	坏	5/6	14.3	3.9	-	9.5	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ	手持ちヘラケズリ	良	白色粒	黄褐色10YR6/3	底部に線刻
		1	土師器	甕	1/8	(20.5)	(6.8)	-	-	ヘラケズリ	ヘラケズリ		良	白色粒	赤褐色5YR4/6	
		2	土師器	甕	1/3	-	(17.8)	(21.9)	-	ヘラケズリ	ヘラケズリ		良	白色粒	褐灰色10YR4/1	
50号住		3	須恵器	甕	1/4	-	(9.3)	(18.2)	-				良	白色粒	黄灰色2.5Y6/1	自然釉
		1	須恵器	坏	1/1	12.4	4.1	-	6.3			回転ヘラ切り	普通	白色粒	灰黄褐色10YR5/3	
		2	土師器	坏	5/6	12.1	5.0	-	6.5	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ	手持ちヘラケズリ	普通	白色粒	褐色7.5YR6/6	ヘラ書き
		3	土師器	坏	4/5	13.1	4.5	-	5.8	手持ちヘラケズリ		ヘラケズリ	普通	白色粒	褐色7.5YR6/6	
		4	土師器	坏	1/1	13.0	4.4	-	5.9	手持ちヘラケズリ		ヘラケズリ	普通	白色粒	褐灰色10YR4/1	
		5	土師器	坏	1/1	12.7	4.1	-	5.3			回転糸切り	普通	白色粒	褐灰色10YR4/1	
		6	土師器	坏	1/1	13.3	3.8	-	6.5			回転糸切り	良	白色粒	褐色10YR4/6	
7	土師器	甕	1/8	-	(3.8)	-	-	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	普通	白色粒	明赤褐色5YR5/6			

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。



第17表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部			
昭和51年度	50号住	8	土師器	甕	1/8	-	(4.3)	-	-	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	不良	褐色7.5YR4/3	
		1	須恵器	坏	1/5	(11.8)	3.7	(7.2)	回転ハラケズリ		回転ハラケズリ		良	黒褐色7.5YR3/1	
	53号住	1	須恵器	坏	1/5	(13.4)	3.4	(8.0)	-				良	灰色7.5Y5/1	自然釉
		2	土師器	坏	9/10	14.8	3.3	7.0	ハラミガキ	ハラミガキ			良	明褐色7.5YR5/6	
	54号住	1	須恵器	坏	3/5	-	(3.7)	8.8	ハラケズリ	ハラケズリ	回転ハラケズリ		良	灰色7.5Y6/1	底部に線刻
		2	土師器	盤	1/6	(18.4)	2.2	(15.8)	-	ハラミガキ	ハラミガキ		良	赤色10R4/8	内外面赤彩
55号住	55号住	3	土師器	坏	2/3	(15.0)	3.3	-	ハラミガキ	ハラミガキ		良	赤色10R4/6	内外面赤彩	
		4	土師器	坏	1/3	15.0	3.0	(12.6)	ハラミガキ	ハラミガキ		良	暗赤褐色10R3/3	内外面赤彩	
	5	土師器	坏	2/3	(14.2)	3.8	-	-				良	赤褐色2.5YR4/6		
	6	土師器	坏	1/6	(16.1)	2.9	-	ハラミガキ				良	明褐色7.5YR5/6	内外面赤彩	
	7	土師器	小型甕	2/5	11.9	11.5	6.4	ハラケズリ				普通	赤褐色5YR4/6		
	8	土師器	甕	1/3	(19.0)	(18.9)	-	ハラケズリ				普通	褐色7.5YR4/3		
	9	土師器	甕	1/8	-	(7.9)	(9.4)	ハラケズリ	ハラケズリ			良	褐色7.5YR4/3		
	1	土師器	坏	1/2	(13.0)	4.1	-	手持ちハラケズリ		回転糸切り		普通	赤褐色5YR4/6		
	2	土師器	鉢	4/5	15.4	6.4	6.0	手持ちハラケズリ	ハラミガキ	ハラケズリ		良	褐色7.5YR4/3	底部・側面に線刻	
	3	須恵器	甕	1/10	-	(14.7)	-	19.0				良	灰色5Y6/1		
	4	土師器	甕	4/5	21.5	22.3	-	8.0	ハラケズリ	ハラケズリ		良	灰色5Y4/1		
	5	土師器	甕	3/4	21.5	(16.8)	21.0	-	ハラケズリ	ハラケズリ		良	赤褐色5YR4/6	外面に焼土付着	
	6	土師器	甕	1/6	(17.0)	(11.7)	-	-	ハラケズリ	ナデ		良	褐色7.5YR6/8		
	56号住	56号住	1	須恵器	蓋	1/3	(16.8)	(2.9)	-	回転ハラケズリ			良	灰色5Y6/1	
2			須恵器	坏	1/1	12.4	4.0	7.2	手持ちハラケズリ		手持ちハラケズリ		良	灰色5Y4/1	
3		須恵器	坏	1/4	(13.0)	(4.1)	-	-				不良	灰色5Y4/1		
4		須恵器	坏	4/5	12.4	4.2	8.0	回転ハラケズリ		回転ハラケズリ		普通	灰黄褐色10YR4/2	内面にスス付着	
5		須恵器	坏	1/2	13.4	4.0	7.8	回転ハラケズリ		回転ハラケズリ		不良	黒褐色10YR3/1		
6		須恵器	坏	1/2	(12.6)	4.1	7.8	回転ハラケズリ		回転ハラケズリ		不良	黒褐色2.5YR3/2		

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第18表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考	
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部				焼成
昭和51年度	56号住	7	須恵器	坏	3/4	(12.0)	3.8	-	7.4	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	不良	黒褐色2.5YR3/1		
		8	土師器	小型甕	1/10	(10.0)	(4.5)	-	-	ヘラケズリ				不良	赤褐色5YR4/6	
		9	須恵器	甕	1/8	(21.2)	(10.5)	-	-	タタキ				不良	赤褐色5YR4/6	
		10	土師器	甕	1/2	18.0	16.0	-	(7.3)	ヘラケズリ	ナデ			普通	赤褐色5YR4/6	
		11	土師器	甕	1/8	(21.2)	(10.2)	-	-	ヘラケズリ	ナデ			不良	赤褐色5YR4/6	
	57号住	1	土師器	甕	1/2	(24.6)	(25.0)	-	-	ヘラケズリ	ヘラケズリ			良	赤褐色5YR4/6	
		1	土師器	坏	1/3	(16.6)	4.9	-	(8.6)	手持ちヘラケズリ				普通	赤褐色5YR4/6	
		2	土師器	坏	4/5	13.0	4.7	-	6.5			回転糸切り		不良	明褐色7.5YR5/6	
		3	土師器	大鉢	2/5	(30.4)	13.1	-	(14.4)	ヘラケズリ	ヘラケズリ			良	暗褐色7.5YR3/3	
	59号住	4	土師器	甕	1/10	(24.0)	(10.9)	-	-	ヘラケズリ				良	赤褐色5YR4/6	
		1	須恵器	蓋	1/3	(15.1)	1.8	-	-	回転ヘラケズリ				不良	灰白色5Y7/2	
2		土師器	坏	1/6	(13.4)	(2.9)	-	(9.2)	ナデ				普通	黄褐色10YR5/6		
3		土師器	坏	1/3	(15.0)	5.9	-	(7.2)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		良	橙色7.5YR6/8		
4		土師器	甕	1/8	(13.4)	(7.5)	-	-	ヘラケズリ	ヘラケズリ			普通	赤褐色5YR4/6		
60号住	5	土師器	甕	1/6	(21.6)	(19.0)	-	-	ナデ				普通	褐色7.5YR4/3		
	1	須恵器	蓋	9/10	16.2	(2.7)	-	-	回転ヘラケズリ				良	灰色7.5Y6/1		
	2	須恵器	坏	9/10	12.4	4.2	-	6.8	回転ヘラケズリ			回転ヘラ切り	普通	明赤褐色5YR5/8		
	3	須恵器	高台付坏	1/8	-	(2.0)	-	(10.7)				ヘラ切り	良	褐灰色10YR6/1		
61号住	4	土師器	坏	1/2	(14.7)	3.0	-	11.3	手持ちヘラケズリ				普通	明褐色7.5YR5/6		
	1	土師器	高台付坏	1/10	-	(2.0)	-	(7.9)	ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転ヘラ切り	良	赤褐色2.5YR4/6		
62号住	1	土師器	高坏	4/5	12.1	7.5	-	6.1		ヘラミガキ	ヘラミガキ		普通	褐色7.5YR4/6		
	1	土師器	坏	1/3	(19.1)	4.2	-	(8.0)	回転ヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	不良	黄褐色10YR5/8		
63-B号住	2	土師器	坏	1/10	-	(2.0)	-	5.4	ナデ	ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	不良	褐色7.5YR6/6		
	3	土師器	坏	破片	-	-	-	-						赤色10R4/8	内外面赤彩・墨書	
		4	土師器	甕	2/3	23.3	20.0	-	11.5	ヘラケズリ	横ナデ		良	褐色10YR4/6		

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第19表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			胎土	色調	備考		
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面				底部	
昭和51年度	64・80号住	1	須恵器	坏	4/5	12.9	3.6	-	8.9			回転ヘラケズリ	白色粒	灰白色5Y8/1	火ダスキ痕	
		2	須恵器	坏	7/10	(14.4)	4.5	-	8.2	手持ちヘラケズリ			手持ちヘラケズリ	白色粒	灰色5Y5/1	自然釉
		3	土師器	皿	1/2	13.2	2.4	-	(4.4)	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		手持ちヘラケズリ	白色粒	褐色7.5YR4/4	
		4	土師器	灯明皿	9/10	11.9	3.9	-	8.1	手持ちヘラケズリ			手持ちヘラケズリ	白色粒	明黄褐色10YR6/6	口縁部スス付着
		5	土師器	坏	1/3	(11.8)	4.0	-	(6.7)	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		手持ちヘラケズリ	白色粒	赤褐色5YR4/8	
		6	土師器	坏	1/1	12.2	4.5	-	5.7	手持ちヘラケズリ			回転糸切り	白色粒	橙色5YR6/8	
		7	土師器	坏	9/10	13.2	4.6	-	5.4	手持ちヘラケズリ			手持ちヘラケズリ	白色粒	橙色7.5YR6/8	
		8	土師器	坏	1/2	(13.5)	4.4	-	(5.4)	手持ちヘラケズリ			手持ちヘラケズリ	砂粒	明赤褐色5YR5/8	
		9	土師器	坏	1/2	(13.3)	4.3	-	(5.2)	手持ちヘラケズリ			手持ちヘラケズリ	白色粒	赤褐色5YR4/8	
		10	土師器	坏	1/2	(15.0)	4.7	-	(5.5)	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		手持ちヘラケズリ	白色粒	暗褐色10YR3/4	
		11	土師器	坏	1/3	(14.3)	4.7	-	(5.2)	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		手持ちヘラケズリ	砂粒	明褐色7.5YR5/8	
		12	土師器	坏	1/3	(14.8)	4.9	-	(5.9)	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ		手持ちヘラケズリ	砂粒	赤褐色2.5YR4/6	
		13	土師器	鉢	1/1	9.2	5.7	-	5.6	ナデ				白色粒	明褐色7.5YR5/6	底部木葉痕
		14	須恵器	甕	1/5	(23.3)	(9.8)	-	-	タタキ				白色粒	緑灰色10GY5/1	自然釉
		15	土師器	甕	1/10	-	(7.3)	-	(6.8)	ヘラケズリ			ヘラケズリ	砂粒	黄褐色10YR5/8	
		16	土師器	甕	1/3	21.4	(11.1)	-	-	ヘラケズリ				白色粒	橙色7.5YR6/8	
		17	土師器	甕	1/3	(20.5)	24.8	(20.5)	(10.3)	ヘラケズリ				白色粒	明褐色7.5YR5/8	
66号住		1	須恵器	坏	1/5	(13.5)	4.0	-	(8.9)			回転ヘラケズリ	砂粒	灰オリーブ色7.5Y6/2		
		1	須恵器	坏	2/3	(14.1)	3.5	-	10.2	回転ヘラケズリ			回転ヘラケズリ	白色粒	灰白色5Y7/1	火ダスキ痕
68号住		2	土師器	坏	9/10	9.1	3.9	-	8.2	手持ちヘラケズリ		手持ちヘラケズリ	白色粒	明褐色7.5YR5/6	底部に線刻	
		3	土師器	坏	1/2	(15.0)	3.5	-	(11.6)	手持ちヘラケズリ		手持ちヘラケズリ	白色粒	褐色10YR4/4		
		4	土師器	坏	4/5	11.2	3.8	-	(5.8)	手持ちヘラケズリ		手持ちヘラケズリ	白色粒	褐色7.5YR7/6		
		1	土師器	高坏	1/3	-	(6.5)	-	-	ヘラケズリ	ハラケズリ		白色粒	黄褐色10YR6/4		
4号掘		1	土師器	坏	4/5	(13.6)	4.6	-	(7.6)	ハラミガキ		ハラケズリ	白色粒	赤褐色5YR4/6		
		1	土師器	坏	1/10	(11.5)	(4.8)	-	-	横ナデ	ハラミガキ		赤色粒	橙色5YR6/6	内面黒色処理	

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第20表 遺物観察表 (土器・土製品)

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部			
昭和51年度	11号掘	1	土師器	坏	1/5	-	(1.9)	-	7.0			ハラケズリ	不良	黄褐色10YR6/4	
	13号掘	1	須恵器	坏	1/4	(12.8)	4.0	-	(7.0)	回転ハラケズリ		回転ハラケズリ	不良	黄褐色2.5Y5/3	
	15号掘	1	須恵器	甗	1/10	-	-	-	(16.0)	ハラケズリ			良	明赤褐色5YR5/6	
	16号掘	1	土師器	坏	1/5	-	-	-	(6.6)	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	良	赤褐色5YR4/6	底部線刻
	17号掘	1	土師器	坏	1/10	(13.6)	(3.6)	-	-	ハラミガキ			普通	黄褐色10YR5/6	
		2	土師器	甗	1/10	(14.1)	(3.2)	-	-	ナデ	ナデ		普通	赤褐色5YR4/6	
		3	土師器	甗	1/10	(24.4)	(6.9)	-	-	ナデ	ナデ		普通	明黄褐色10YR7/6	
	方形溝	1	須恵器	蓋	1/3	-	(3.1)	-	-	ハラケズリ			良	灰色5Y6/1	
		2	須恵器	坏	9/10	10.5	4.5	-	10.5	手持ちハラケズリ		手持ちハラケズリ	不良	黄褐色10YR5/6	
		3	須恵器	高台付坏	2/3	(15.2)	3.5	-	10.7			回転ハラケズリ	良	灰色5Y6/1	
		4	土師器	高台付坏	1/8	-	-	-	(10.0)	ナデ	ナデ	回転ハラケズリ	良	灰黄色2.5YR6/2	
		5	土師器	坏	1/4	(11.4)	-	-	-	ハラケズリ	ハラミガキ		良	褐色7.5YR4/4	
		6	土師器	坏	1/5	(10.6)	2.1	-	(6.6)	ハラケズリ	ハラミガキ	ハラケズリ	良	橙色5YR6/6	
		7	土師器	坏	2/3	15.0	5.2	-	-	ハラミガキ	ハラミガキ		普通	にぶい黄色10YR6/4	底部に線刻
		8	土師器	坏	1/6	(12.0)	-	-	-	ハラケズリ	ハラミガキ		不良	黄褐色10YR6/4	スス附着
		9	土師器	坏	1/8	-	-	-	(8.0)	ハラケズリ		回転ハラケズリ	良	黒褐色7.5Y3/1	
		10	土師器	高坏	1/6	-	-	-	-	ハラミガキ	ハラミガキ		良	褐色7.5YR4/4	
		11	土師器	鉢	1/3	(8.4)	10.6	-	(7.0)		ナデ		不良	黒褐色7.5Y3/1	手掘ね・底部に木葉痕
	12	土師器	鉢	1/5	-	(4.0)	-	6.3	ナデ	ナデ		不良	灰黄褐色10YR5/2		
	13	須恵器	甗	1/8	(16.6)	(4.2)	-	-				不良	灰色10Y5/1		
	14	須恵器	甗	1/8	(18.7)	(4.9)	-	-				不良	オリーフ灰色2.5GY6/1		
	15	須恵器	甗	1/8	(25.2)	(10.2)	-	-	タタキ			不良	灰色7.5Y4/1		
	16	須恵器	甗	1/8	-	-	-	-	タタキ	青波状文		良	黄灰色2.5Y5/1	7号住出土須恵器甗に近似	
	17	須恵器	甗	1/10	-	-	-	-	タタキ	タタキ		良	黄灰色2.5Y6/1		
	18	土師器	甗	1/10	(21.2)	7.9	-	-				普通	明褐色7.5YR6/6		

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第21表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			胎土	色調	備考		
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面				底部	
昭和51年度	方形溝	19	土師器	甕	1/10	(17.2)	-	-	-		ナデ		白色粒	褐色7.5YR4/4		
		20	土師器	甕	1/8	-	-	-	-	ハラケズリ	ハラナデ	ハラケズリ	砂粒	赤褐色5YR4/6		
		21	土師器	甕	1/10	-	-	(12.0)	-				白色粒	褐色7.5YR4/3		
		22	土師器	甕	1/10	-	-	(11.0)	-				白色粒	赤褐色5YR4/6		
		23	土師器	甕	1/8	-	-	-	-	ハラケズリ		ハラケズリ	白色粒	明赤褐色2.5YR5/6		
		24	土師器	甕	1/10	-	-	(9.4)	-	ハラケズリ			赤色粒	赤褐色5YR4/6		
		25	灰釉陶器	瓶	1/8	-	(6.2)	-	-				黒色粒	黄灰色2.5Y5/1	外面全面釉	
		26	灰釉陶器	長頸瓶	1/4	-	-	-	-				白色粒	灰白2.5Y7/1	頸部～肩部に釉	
		27	灰釉陶器	瓶	破片	-	-	-	-				黒色粒	灰色7.5Y4/1		
		28	手捏ね土器		9/10	7.3	2.6	-	5.0	ナデ			白色粒	褐色7.5YR4/4		
		1号土	1	土師器	坏	3/4	22.8	3.9	-	5.6	手持ちハラケズリ		手持ちハラケズリ	白色粒	橙色5YR6/6	
			2	土師器	坏	1/2	(12.2)	4.5	-	4.9	手持ちハラケズリ		手持ちハラケズリ	白色粒	橙色2.5YR6/6	
			3	土師器	坏	1/4	(12.5)	4.3	-	(6.0)	回転ハラケズリ		回転ハラ切り	白色粒	橙色5YR6/6	
1	須恵器		坏	1/1	12.9	3.7	-	7.6	回転ハラケズリ		回転ハラ切り	白色粒	橙色2.5YR6/8			
2	須恵器		坏	2/3	(14.0)	4.1	-	8.7	回転ハラケズリ		回転ハラ切り	白色粒	黒褐色7.5YR2/1			
3	須恵器		坏	1/3	(12.6)	4.0	-	6.1	回転ハラケズリ	ハラミガキ	回転ハラ切り	砂粒	黒褐色10YR2/1			
4	須恵器		坏	1/4	(15.0)	4.7	-	(8.0)	回転ハラケズリ		回転ハラ切り	砂粒	褐色7.5YR4/3			
5	須恵器		高台付坏	1/8	-	(2.5)	-	(9.3)	回転ハラケズリ		回転ハラ切り	白色粒	褐灰色10YR5/1			
6	須恵器		高台付坏	9/10	11.6	4.7	-	(7.1)	回転ハラケズリ		回転ハラ切り	白色粒	黒褐色10YR3/2			
7	土師器		皿	9/10	14.5	2.9	-	4.4	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	白色粒	明赤褐色5YR5/6			
2号土	8	土師器	坏	9/10	12.5	4.7	-	6.4	手持ちハラケズリ	ハラミガキ	ハラケズリ	砂粒	暗赤褐色5YR3/6			
	9	土師器	坏	2/3	13.2	4.2	-	6.3	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	白色粒	褐色7.5YR6/8	底部に墨書		
	10	土師器	坏	9/10	13.1	4.4	-	5.6	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	白色粒	灰褐色7.5YR4/2			
	11	土師器	坏	1/8	(15.2)	4.6	-	(6.2)	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	砂粒	褐色7.5YR4/4			
	12	土師器	坏	1/4	(15.0)	5.6	-	(6.2)	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	砂粒	赤褐色5YR4/6			
	13	土師器	坏	1/3	-	(3.1)	-	5.2	手持ちハラケズリ		ハラケズリ	白色粒	明褐色7.5YR5/6			

単位はcm。( ) は、推定径・残存高を示す。

第22表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値			調整			胎土	色調	備考		
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面				底部	
昭和51年度	2号土	14	土師器	坏	1/4	(16.9)	(4.5)	-	-	手持ちヘラケズリ	ハラミガキ	ヘラケズリ	白色粒	赤褐色2.5YR4/6		
		15	土師器	坏	1/1	14.1	4.8	-	6.9			回転糸切り	白色粒	明赤褐色2.5YR5/8	側面に墨書	
		16	土師器	坏	9/10	12.9	4.6	-	6.3			回転糸切り	砂粒	暗赤褐色5YR3/6		
		17	土師器	高台付坏	1/8	-	(1.7)	-	6.2		ハラミガキ		白色粒	橙色7.5YR6/8	底部に墨書	
		18	須恵器	椀	1/4	(16.8)	5.5	-	(5.8)	回転ヘラケズリ		回転ヘラケズリ	砂粒	灰褐色5YR5/2	底部にヘラ書き	
		19	土師器	椀	2/3	(16.3)	6.0	-	(7.1)	回転ヘラミガキ	回転ヘラミガキ		白色粒	明黄褐色10YR7/6	内面黒色処理	
		20	須恵器	小型甕	1/8	(11.9)	(2.4)	-	-	ヘラケズリ	ナデ		白色粒	灰色7.5Y4/1		
		21	須恵器	小型甕	1/2	-	(9.8)	-	5.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ		白色粒	灰白色5Y7/2		
		22	須恵器	長頸瓶	1/3	-	(15.8)	18.8	-				白色粒	灰色5Y5/1		
		23	土師器	小型甕	1/8	(11.2)	(3.0)	-	-				白色粒	赤褐色2.5YR4/4		
		24	土師器	小型甕	1/8	-	(4.6)	-	(4.4)	ヘラケズリ	ナデ		白色粒	褐色7.5YR4/3		
		25	須恵器	大甕	1/3	21.8	(39.0)	38.0	-	タタキ			白色粒	黄灰色2.5Y6/1	湖西産	
		26	須恵器	甕	1/3	-	(14.0)	-	(15.7)	タタキ・ヘラケズリ			白色粒	灰褐色7.5YR6/2		
		27	土師器	甕	1/8	(23.8)	(8.8)	-	-	ヘラケズリ			白色粒	橙色7.5YR6/8		
		28	土師器	甕	1/8	(21.4)	(7.8)	-	-	ヘラケズリ	ヘラケズリ		白色粒	暗赤褐色5YR3/2		
		29	土師器	甕	1/8	(19.6)	(4.5)	-	-	ヘラケズリ			砂粒	暗褐色7.5YR3/4		
		30	須恵器	甗	1/8	-	(6.9)	-	(9.2)	ヘラケズリ			白色粒	灰白色5Y7/2		
		31	須恵器	甗	1/8	-	-	-	-	手持ちヘラケズリ			白色粒	灰白色5Y7/2		
		3号土	1	須恵器	坏	9/10	11.9	4.4	-	8.1	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	白色粒	明褐色7.5YR5/6	火ダスキ・内面スチキ 着・底ヘラ書き
			2	須恵器	坏	1/3	(12.6)	3.8	-	(7.0)	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	白色粒	明褐色7.5YR5/6	火ダスキ痕
			3	須恵器	坏	1/5	(14.4)	4.1	-	(10.6)	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	白色粒	褐色7.5YR4/4	
			4	須恵器	坏	1/6	-	(1.9)	-	8.3	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	雲母	明黄褐色10YR7/6	
			5	須恵器	坏	1/6	-	(1.7)	-	6.9	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	雲母	褐灰色10YR4/1	
			6	須恵器	坏	1/6	-	(3.6)	-	8.4			回転ヘラ切り	白色粒	赤褐色5YR4/6	
			7	須恵器	坏	1/6	-	(1.7)	-	9.0			ヘラケズリ	白色粒	灰黄色2.5Y6/2	

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第23表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考	
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部				焼成
昭和51年度	3号土	8	須恵器	高台付坏	3/5	(11.3)	5.2	-	7.1	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	不良	白色粒	灰黄褐色10YR5/2	
		9	須恵器	高台付坏	1/6	-	(1.8)	-	11.1	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	不良	白色粒	橙色7.5YR6/6	
	10	土師器	坏	4/5	13.2	3.8	-	7.0	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	良	白色粒	橙色5YR6/6		
	11	土師器	坏	1/4	(14.4)	4.8	-	(7.2)	回転ヘラケズリ		回転ヘラ切り	普通	白色粒	明褐色7.5YR5/8		
	12	土師器	小型甕	1/8	(13.2)	(4.6)	-	-	ヘラケズリ			不良	白色粒	褐色7.5YR4/4		
	13	須恵器	甕	1/10	(21.7)	(5.5)	-	-				普通	白色粒	灰褐色7.5YR5/2		
	14	須恵器	甕	1/8	(29.2)	(13.1)	-	-	タタキ			不良	白色粒	明褐色7.5YR5/6		
	15	土師器	甕	1/10	(25.1)	(9.5)	-	-	ヘラケズリ	ナデ		普通	白色粒	褐色10YR4/4		
	16	土師器	甕	1/10	-	(2.4)	-	7.0	ヘラケズリ			良	白色粒	褐色7.5YR4/4		
	17	土師器	甕	1/10	-	(3.0)	-	7.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ		良	白色粒	灰褐色7.5YR4/2		
	18	土師器	甕	1/10	-	(6.1)	-	7.3	ヘラケズリ			普通	白色粒	褐色7.5YR4/4		
	19	土製品	支脚	1/5	-	(14.6)	-	7.8								
	1号古	1	土師器	坏	4/5	(12.6)	5.1	-	-	ヘラケズリ	ナデ		良	砂粒	赤色7.5YR4/8	内外面赤彩
		1	土師器	坏	1/2	(8.7)	3.3	-	-	ヘラケズリ	ハラミガキ		良	白色粒	灰黄褐色10YR4/2	
	表採 (1次)	1	須恵器	蓋	1/2	(12.0)	3.3	-	(17.2)	ヘラケズリ			不良	小石	黄褐色10YR5/6	新治産
		2	須恵器	高台付坏	1/2	(15.3)	3.6	-	7.3				良	白色粒	灰白色10YR7/1	内面に自然釉
		3	土師器	皿	4/5	14.2	2.1	-	6.1				良	白色粒	褐色5YR6/6	
		4	土師器	坏	1/2	(14.0)	5.2	-	7.0	手持ちヘラケズリ			良	白色粒	褐色5YR6/6	
		5	土師器	坏	4/5	13.2	(4.1)	-	-	手持ちヘラケズリ			良	白色粒	褐色7.5YR4/3	
6		土師器	坏	5/6	13.3	5.1	-	5.5	手持ちヘラケズリ			不良	白色粒	褐色7.5YR6/8		
7		土師器	坏	1/3	(14.5)	4.4	-	(6.0)	手持ちヘラケズリ			普通	白色粒	明赤褐色2.5YR5/6		
8		土師器	坏	1/6	(13.4)	3.4	-	(7.0)	ヘラケズリ	ヘラケズリ		不良	砂粒	灰黄褐色10YR4/2		
9		土師器	坏	1/2	-	3.4	-	9.6				不良	白色粒	赤色10R4/6	内外面赤彩	
10		土師器	坏	1/6	(13.4)	5.8	-	3.9	手持ちヘラケズリ			不良	砂粒	黒褐色2.5Y3/1		
11		土師器	坏	1/2	(11.4)	4.2	-	(8.3)	手持ちヘラケズリ			良	白色粒	赤褐色5YR4/6	内外面赤彩	
12		土師器	坏	1/2	(14.6)	4.0	-	(6.8)	ヘラケズリ			不良	白色粒	黄褐色10YR6/4		

単位はcm。( )は、推定径・残存高を示す。

第24表 遺物観察表 (土器・土製品)

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考			
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部				焼成		
昭和51年度	表採 (1次)	13	土師器	坏	1/6	(14.3)	2.9	-	(12.0)		ミガキ		不良	雲母	褐灰色10YR4/1			
		14	須恵器	坏	破片	-	-	-	-				良	白色粒	灰白色7.5Y7/1	底部に線刻		
		15	土師器	坏	破片	-	(2.0)	-	5.1	手持ちへラケズリ		回転糸切り	良	白色粒	褐色7.5YR4/4	底部に墨書		
		16	土師器	坏	破片	-	-	-	-				良	赤色粒	明赤褐色5YR5/6	底部に墨書		
		17	土師器	小型甕	1/3	(12.8)	(6.4)	-	-	へラケズリ	へラケズリ		不良	白色粒	暗赤褐色2.5YR3/3			
		18	須恵器	甕	4/5	11.6	11.2	10.0	3.4				良	白色粒	灰白色5Y7/1			
		19	灰釉陶器	高台付坏	9/10	16.9	5.9	-	8.5	回転へラケズリ		回転へラ切り	良	白色粒	灰オリーブ色7.5Y5/2	美濃窯・光ヶ丘1号窯式期		
		1	須恵器	蓋	1/5	-	(2.5)	-	-				普通	白色粒	灰色7.5Y4/1	内面釉付着		
		2	須恵器	坏	1/5	-	(1.7)	-	(10.6)	回転へラケズリ			良	白色粒	灰色5Y6/1	火ダスキ痕		
		3	土師器	坏	1/8	-	(1.0)	-	6.5				普通	砂粒	橙色5YR6/6			
		4	須恵器	甕	1/9	(18.0)	(7.5)	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	普通	白色粒	灰色5Y6/1			
		5	土師器	台付甕脚	1/5	-	(2.6)	-	5.6	へラケズリ			普通	砂粒	橙色7.5YR7/6			
		6	須恵器	甕		-	-	-	-									
		7	手捏ね土器				(4.4)	2.7	-	ナデ	ナデ	ナデ	普通	白色粒	赤褐色5YR4/6			
		昭和58年度	表採 (2次)	1	須恵器	蓋	1/10	-	(1.6)	-				良	白色粒	灰白色5Y7/2		
				2	土師器	坏	6/1	-	2.0	-	(9.3)	回転へラケズリ		良	白色粒	黒褐色10YR3/2		
				3	土師器	坏	破片	-	-	-	-							底部に線刻
				4	灰釉陶器	瓶	1/6	-	(4.6)	-	(14.0)	回転へラケズリ		回転へラケズリ	普通	白色粒	灰色5Y6/1	底部一部釉付着
				5	須恵器	瓶	1/6	-	(3.8)	-	(7.8)				普通	白色粒	灰色5Y7/1	
6	灰釉陶器			瓶	1/8	-	(2.9)	-	(9.1)	回転へラケズリ		回転へラケズリ	普通	白色粒	暗黄灰色2.5Y5/2	底部一部釉付着		
7	須恵器			瓶	1/8	-	(2.1)	-	(15.3)				普通	白色粒	黄灰色2.5Y6/1			
8	灰釉陶器			瓶	1/6	-	(3.4)	-	-				良	白色粒	灰黄色2.5Y6/2	外面全面釉		
9	灰釉陶器			瓶	1/5	-	(2.1)	-	-				普通	白色粒	灰オリーブ色5Y5/2	外面全面釉		
10	陶器			皿	1/5	(11.9)	2.0	-	(7.3)				良	白色粒	暗黄灰色2.5Y6/1	内外面釉付着		
11	青磁器			不明	破片	-	-	-	-						オリーブ灰色5GY6/1	外面蓮花文様あり		

単位はcm。( ) は、推定径・残存高を示す。



第25表 遺物観察表（土器・土製品）

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測値				調整			胎土	色調	備考
						口径	器高	最大径	底径	外面	内面	底部			
昭和62年度	83号住	1	土師器	坏	2/3	(10.9)	4.1	-	-	手持ちヘラケズリ		手持ちヘラケズリ	良	橙色7.5YR6/8	内外面赤彩
		2	土師器	鉢	1/3	(9.3)	(8.4)	(7.5)	-	手持ちヘラケズリ			普通	赤褐色5YR4/8	
	4号古	1	須恵器	蓋	1/3	(9.6)	(2.3)	-	-				良	灰オリーブ色5Y5/2	外面軸付着
		2	須恵器	坏	1/5	-	(1.1)	6.2	-			回転糸切り	良	黄灰色2.5Y6/1	
		3	土師器	高坏	1/8	-	(3.9)	-	-	ヘラケズリ			良	褐色7.5YR4/4	
表採 (3次)		4	土師器	甕	1/2	-	(20.4)	(21.3)	7.5				普通	明赤褐色5YR5/6	
		1	須恵器	瓶	1/8	-	(2.7)	-	-				普通	灰白色5Y7/2	外面軸付着
		2	須恵器	瓶	1/5	12.5	(5.1)	-	-				良	灰白色10YR7/1	外面軸付着
		3	須恵器	瓶	1/6	-	(2.2)	-	(7.6)				良	黄橙色10YR6/3	
		4	土師器	坏	1/3	-	(3.5)	-	(6.0)	回転ヘラケズリ		回転ヘラケズリ	普通	赤褐色5YR4/6	
		5	土師器	甕	1/6	-	(3.2)	-	(13.8)	ヘラケズリ				明褐色7.5YR5/6	

単位はcm。( ) は、推定径・残存高を示す。

第26表 遺物観察表 (石器)

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	石材	計測値				備考
					長	幅	厚	重量	
昭和51年度	8号住	4	砥石	白色凝灰岩	(9.5)	(5.6)	3.0	178.5	半損 1孔あり
	15号住	4	砥石	白色凝灰岩	(13.8)	(4.1)	3.1	296.0	
	20号住	9	自然石	絹雲母片岩	13.9	6.1	2.4	264.9	
	22号住	5	砥石	白色凝灰岩	(5.5)	(4.1)	3.4	64.5	欠損品
	30号住	22	巡方(石帯)	花崗岩	3.6×3.7	—	0.8	25.7	産地筑波山?
	32号住	10	凹石	細粒石岩	(7.5)	(10.0)	5.9	591.5	半損
	33号住	5	砥石	白色凝灰岩	(7.0)	(3.9)	3.3	96.5	半損
	36号住	7	砥石	白色凝灰岩	(8.2)	(7.4)	3.5	272.8	欠損品
		8	砥石	粘板岩	21.5	9.6	3.2	950.8	
	45号住	2	敲石	蛇紋岩	9.5	8.2	4.7	554.9	
	56号住	12	浮子	軽石	5.5	4.2	1.6	4.2	1孔あり
	表採 (1次)	25	砥石	白色凝灰岩	11.8	4.2	3.9	116.6	
		31	磨石	安山岩	9.8	7.7	4.6	455.2	
		32	磨石	安山岩	(6.3)	(7.3)	3.7	279.6	半損 火を受けている
		33	石皿	安山岩	(10.0)	(12.5)	5.7	798.1	
34		石皿	安山岩	(11.2)	(16.2)	4.3	1390.0	半損	
昭和58年度	1号溝	12	磨石	頁岩	(4.7)	(4.3)	4.7	98.2	破片
		13	敲石	安山岩	(6.0)	(6.1)	3.7	157.2	破片
		14	礫	頁岩	(6.8)	(4.6)	3.3	127.4	火を受けている
		15	剥片石器	頁岩	4.8	4.4	1.2	24.9	
昭和62年度	83号住	4	砥石	白色凝灰岩	(8.7)	(5.0)	1.7~3.3	99.4	欠損品
	表採(2次)	8	石鏃	頁岩	(2.6)	1.9	0.5	2.1	欠損品

単位は cm・g。( ) は残存値を示す。

第27表 遺物観察表 (鉄製品)

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	計測値				備考
				長	幅	厚	重量	
昭和51年度	3号住	24	刀子	(2.5)	1.8	0.5	3.3	切先・茎欠損
	10号住	11	刀子	(4.6)	1.7	0.4	7.4	切先・茎欠損
	17号住	11	刀子	(8.2)	7.0	0.4	6.4	刀身欠損
		12	刀子	(4.7)	1.2	0.3	5.3	切先・茎欠損
		13	鎌	(4.7)	0.4	0.3	5.0	刃部・茎欠損
		14	鎌	(8.0)	0.3	0.3	5.1	刃部欠損
	20号住	8	刀子	(7.8)	0.7	0.3	7.5	切先欠損
	29号住	15	鎌	(2.3)	2.4	0.3	6.3	刃先欠損
	37号住	3	不明	(6.6)	0.6	0.4	11.1	上・下欠損
	53号住	3	不明	(5.0)	1.3	1.2	14.2	
	64号住	18	釘	(7.0)	1.5	0.5	19.1	
		19	鎌	(6.0)	3.1	0.2	19.1	刃先を欠損
		20	刀子	(5.1)	0.8	0.3	4.0	切先・茎欠損
	68号住	5	鎌	(3.1)	2.3	0.2	5.3	刃先欠損
	1号掘	2	釘	(3.8)	0.7	0.4	3.2	頭部以下欠損
	3号古	2	鎌	2.6~10.4	0.6~0.9	0.2~0.4	12.1	3本付着
	表採 (1次)	20	刀子	(4.3)	0.8	0.3	2.9	切先・茎欠損
		21	刀子	(5.5)	0.5	0.2	3.7	切先欠損
		22	刀子	(7.6)	0.9	0.4	8.7	切先・茎欠損
		23	刀子	(6.2)	0.7	0.3	5.7	切先・茎欠損
24		不明	(4.8)	3.8	2.2	110.6		
昭和62年度	83号住	3	鎌	(10.7)	0.4	0.5	8.0	刃部欠損
	表採(3次)	6	鎌	(9.1)	2.1	0.4	22.8	刃先欠損

第28表 遺物観察表 (瓦)

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	計測値			色調	備考
				長	幅	厚		
昭和51年度	3号住	25	平瓦	(18.9)	(13.9)	1.6~2.1	赤褐色5YR4/6	
	4号住	8	平瓦	(12.0)	(9.1)	1.3~2.1	赤褐色5YR4/6	
	10号住	12	平瓦	(7.3)	(9.8)	1.5~1.9	赤褐色5YR4/6	
	11号住	9	平瓦	(11.8)	(10.1)	2.4	褐色7.5YR4/3	
	13号住	11	丸瓦	(20.1)	(11.3)	1.9~2.4	褐色7.5YR4/3	
		12	平瓦	(7.9)	(5.3)	2.4	明赤褐色5YR5/6	
	14号住	7	平瓦	(8.1)	(10.5)	2.5~2.8	赤褐色5YR4/6	
	16号住	8	平瓦	(4.8)	(7.5)	2.2	褐色7.5YR4/3	
	17号住	15	平瓦	(17.3)	(9.8)	2.3	褐灰色7.5YR4/1	
		16	平瓦	(8.2)	(6.1)	2.4	褐灰色7.5YR4/1	
	18号住	15	平瓦	(13.1)	(10.3)	1.8	暗赤褐色5YR3/6	
		16	平瓦	(9.1)	(7.8)	2.0	赤褐色5YR4/6	
		17	平瓦	33.8	23.4	1.9~2.4	褐色7.5YR4/3	
	19号住	16	丸瓦	(7.6)	(9.8)	1.8	褐色7.5YR4/3	
		17	丸瓦	(5.6)	(10.5)	2.1	褐色7.5YR4/3	
	20号住	10	平瓦	(15.5)	(12.4)	3.0~6.0	灰色5Y4/1	
		11	平瓦	(12.5)	(7.6)	2.4~2.8	灰黄褐色10YR4/2	
		12	丸瓦	(17.3)	(13.2)	1.6	褐色7.5YR4/3	
		13	丸瓦	(13.7)	(7.4)	1.2~2.1	明赤褐色5YR5/6	
		14	平瓦	(8.1)	(11.1)	2.4	明褐色7.5YR5/6	
		15	平瓦	(10.8)	(11.1)	2.4		
	23号住	18	丸瓦	(14.2)	(10.5)	1.7	褐色7.5YR4/3	
	27号住	11	平瓦	(14.0)	(15.0)	2.0~2.3	褐灰色7.5YR4/1	
	30号住	23	丸瓦	(5.9)	(11.5)	2.4	褐灰色7.5YR4/1	
	33号住	6	平瓦	(9.6)	(11.3)	2.3~2.5	褐色7.5YR4/3	
	34号住	14	丸瓦	(18.1)	(8.7)	1.8	赤褐色5YR4/6	
		15	丸瓦	(12.1)	(9.1)	1.9	赤褐色5YR4/6	
		16	丸瓦	(5.9)	(11.5)	2.4	橙色7.5YR6/6	
	43号住	11	平瓦	(18.5)	(13.0)	2.4~2.7	褐色7.5YR4/3	
	44号住	5	平瓦	(17.0)	(7.6)	1.9~2.2	黒褐色10YR3/1	
	50号住	9	平瓦	(8.5)	(4.5)	2.4~2.5	黄褐色10YR5/8	
	52号住	1	平瓦	(8.0)	(6.7)	1.8~2.0	褐灰色7.5YR4/1	
	63-A号住	1	平瓦	(8.3)	(8.9)	2.3~2.7	褐色7.5YR4/3	
	55号住	7	平瓦	(14.7)	(8.9)	1.7~1.8	灰黄褐色10YR5/2	
		8	平瓦	(12.5)	(7.0)	2.0	暗黄灰色2.5Y5/2	
		9	平瓦	(13.4)	(6.7)	2.1~2.3	灰黄褐色10YR6/2	
	56号住	13	平瓦	(9.0)	(8.0)	2.4	黄褐色10YR5/8	
		14	平瓦	(12.3)	(9.2)	2.3	灰黄褐色10YR6/2	
		15	平瓦	(14.4)	(14.2)	2.2~2.7	黄褐色10YR5/8	
	58号住	5	平瓦	(20.0)	(12.5)	2.2~2.4	黄褐色10YR5/8	
		6	丸瓦	(11.0)	(10.7)	1.5~1.9	黒褐色7.5YR3/2	
		7	平瓦	(7.7)	(11.1)	2.0~2.4	黄褐色10YR5/8	
	63-B号住	5	平瓦	(16.7)	(12.0)	2.3~2.7	明赤褐色5YR5/6	

単位は cm。( ) は残存値を示す。

第29表 遺物観察表 (瓦)

調査年度	遺構番号	遺物番号	種別	計測値			色調	備考
				長	幅	厚		
昭和51年度	64号住	21	平瓦	(4.0)	(9.0)	-	灰黄褐色10YR6/2	
	11号掘	2	平瓦	(11.0)	(7.5)	2.6	橙色7.5YR6/6	
	2号土	32	平瓦	(10.5)	(12.3)	2.5~3.1	褐色7.5YR4/3	
	表採 (1次)	26	平瓦	(9.5)	(11.6)	2.2~2.6	明黄褐色10YR6/6	
		27	平瓦	(11.3)	(6.4)	2.0~2.3	明褐色7.5YR5/6	
		28	平瓦	(6.5)	(6.6)	1.9~2.0	褐色7.5YR4/3	
		29	平瓦	(14.0)	(7.9)	1.9~2.5	褐色7.5YR4/3	
		30	平瓦	(9.8)	(7.5)	1.7~2.0	赤褐色5YR4/6	線刻
昭和58年度	1号溝	16	平瓦	(8.0)	(8.1)	2.3	黄褐色10YR5/8	
		17	平瓦	(5.1)	(5.0)	1.7	灰黄褐色10YR6/2	
		18	平瓦	(8.7)	(9.3)	2.0~2.3	黄褐色10YR5/8	
		19	平瓦	(5.8)	(5.0)	2.0~2.7	赤褐色2.5YR4/6	
		20	平瓦	(5.5)	(5.6)	2.3~2.7	橙色2.5YR6/6	
		21	平瓦	(5.0)	(6.8)	1.9~2.2	褐色7.5YR4/3	
	表採 (2次)	13	平瓦	(7.9)	(5.9)	2.0~2.1	灰黄褐色10YR6/2	
		14	平瓦	(7.9)	(4.7)	2.0~2.1	黄褐色10YR5/8	
15		丸瓦	(11.2)	(8.8)	2.1~2.2	褐色7.5YR4/3		
昭和62年度	表採(3次)	7	平瓦	(6.8)	(9.7)	2.7	灰黄褐色10YR6/2	

単位は cm。( ) は残存値を示す。

# 写 真 图 版



01号住居



1号住居



2号住居



3号住居・4号住居



5号住居



8号住居



10号住居



11号住居・82号住居





12号住居



13号住居・72号住居・73号住居



14号住居・71号住居



15号住居・16号住居・17号住居・74号住居



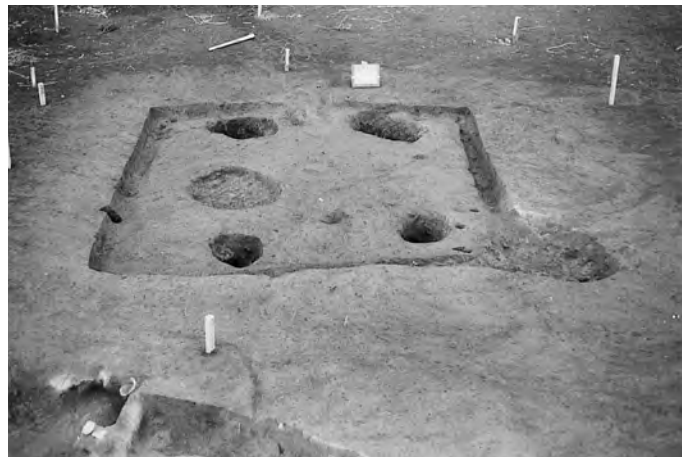
18号住居



19号住居・70号住居



20号住居・76号住居

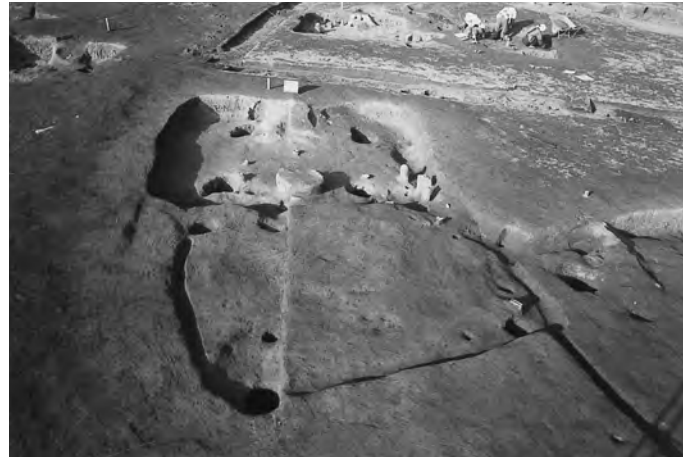


21号住居





22号住居



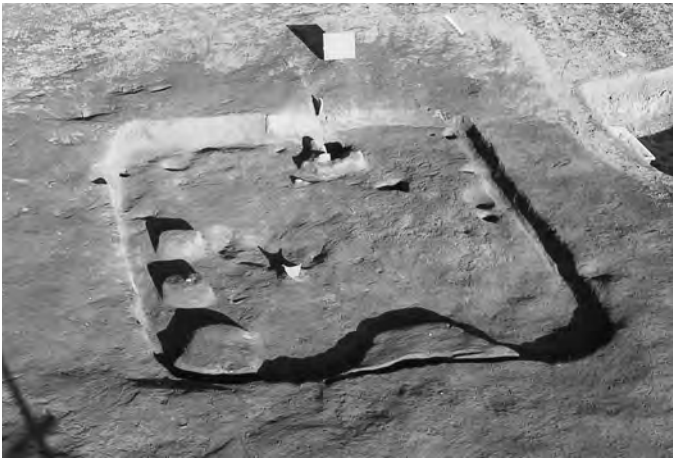
23号住居・78号住居



24号住居・25号住居



26号住居



27号住居



28号住居



29号住居・30号住居・77号住居



31号住居





32号住居



33号住居



34号住居



35号住居



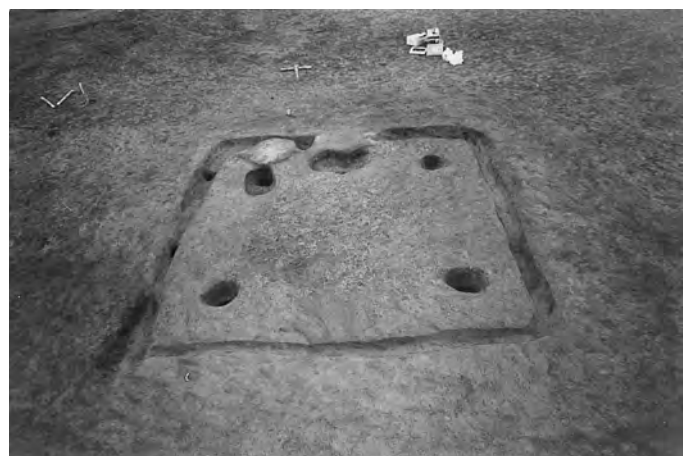
36号住居・75号住居



37号住居

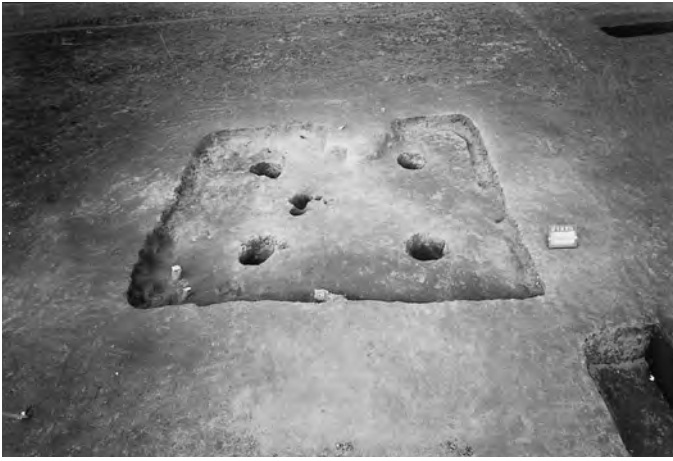


38号住居



39号住居





40号住居



41号住居・42号住居



44号住居



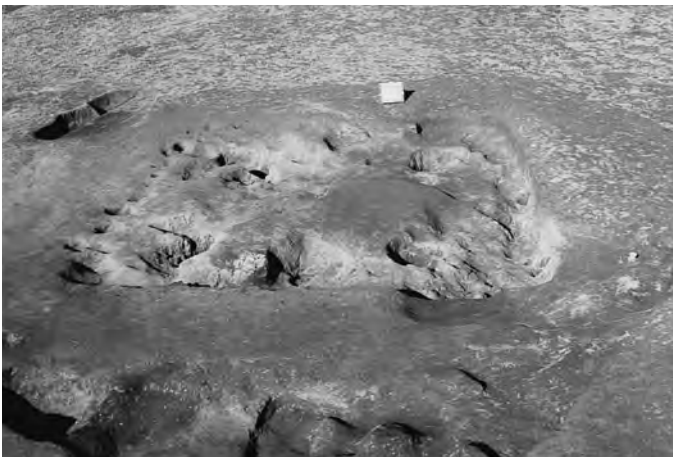
45号住居



46号住居



47号住居



48号住居・62号住居



50号住居





51号住居



52号住居



53号住居・63-A号住居



54号住居



55号住居



56号住居



57号住居



58号住居





59号住居



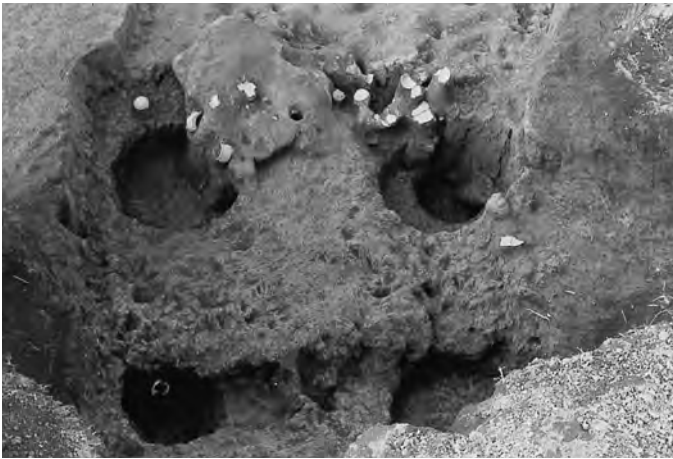
60号住居



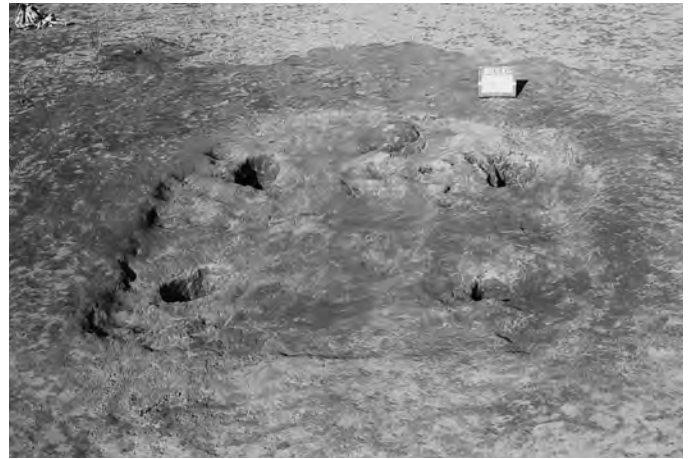
61号住居



63-B号住居



64号住居



66号住居



68号住居



80号住居





1号掘立



2号掘立



3号掘立



4号掘立



5号掘立



6号掘立



7号掘立



8号掘立





9号掘立



10号掘立



11号掘立



12号掘立



13-A号掘立・13-B号掘立



15号掘立



16号掘立



17号掘立





18号掘立



方形溝状遺構



1号土壙



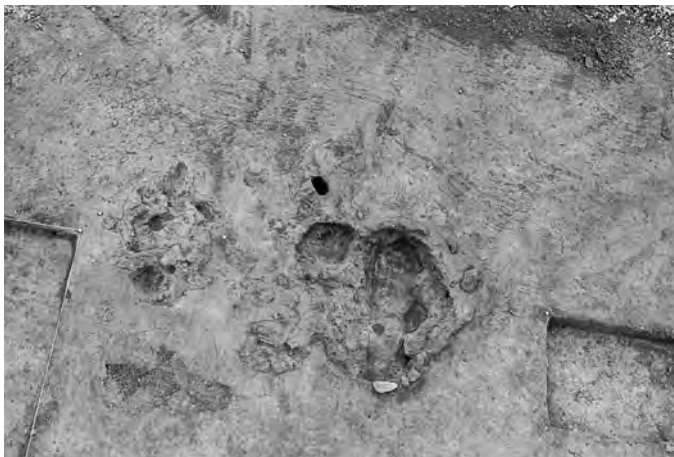
3号土壙



6号土壙



7号土壙



1号鍛冶炉



1号古墳・2号古墳・3号古墳

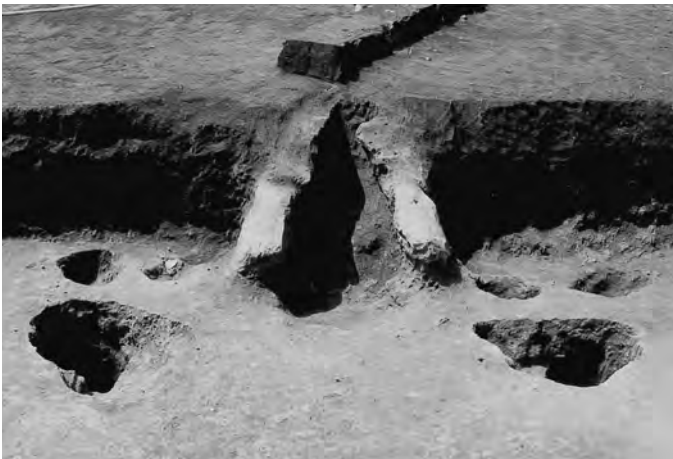




調査開始



83号住居



83号住居カマド



83号住居カマド掘方



84号住居



4号古墳



4号土壇



調査風景

图版14

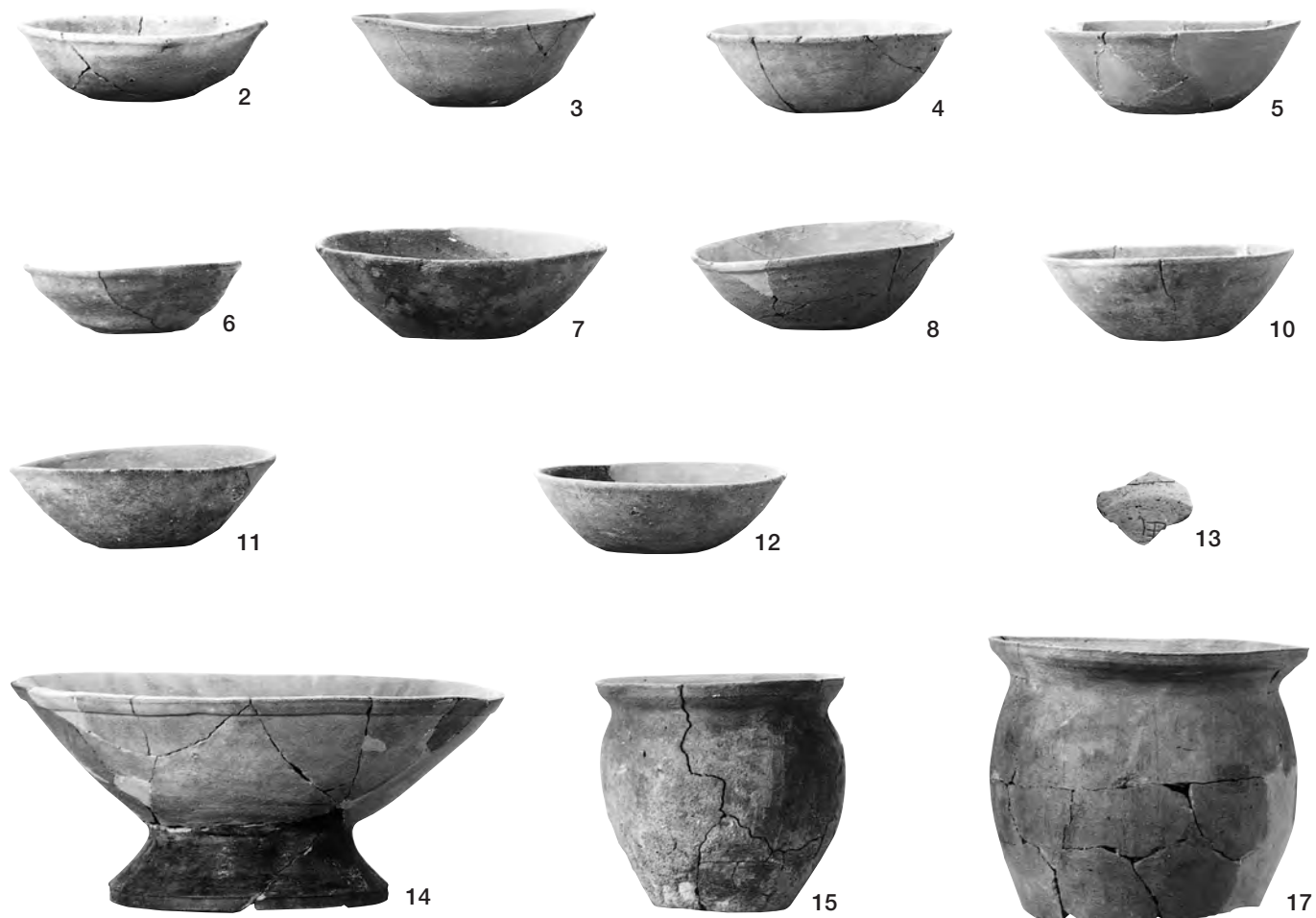
1号住



2号住



3号住





3号住



25

4号住



1



2



4



7



4

5号住

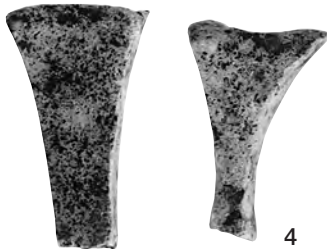


5

8号住



1

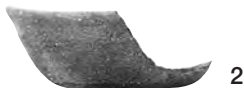


4

9号住



1



2



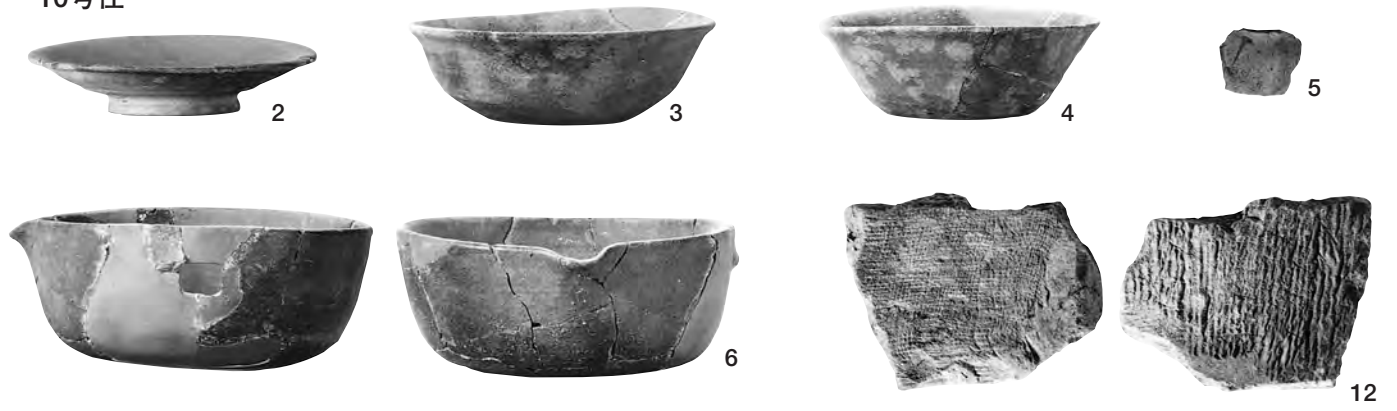
3



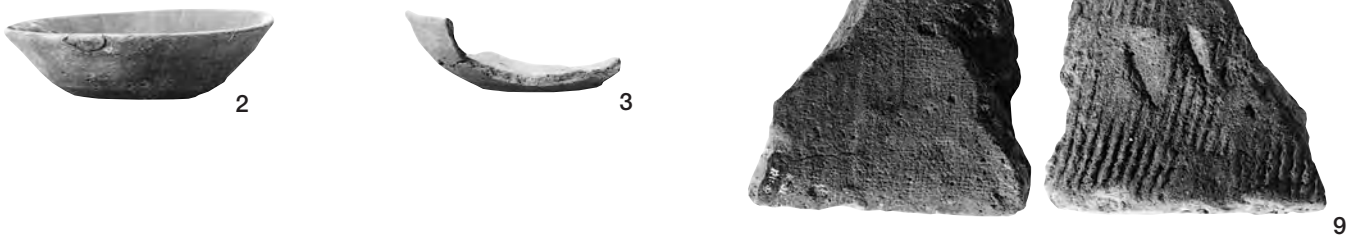
4

图版16

10号住



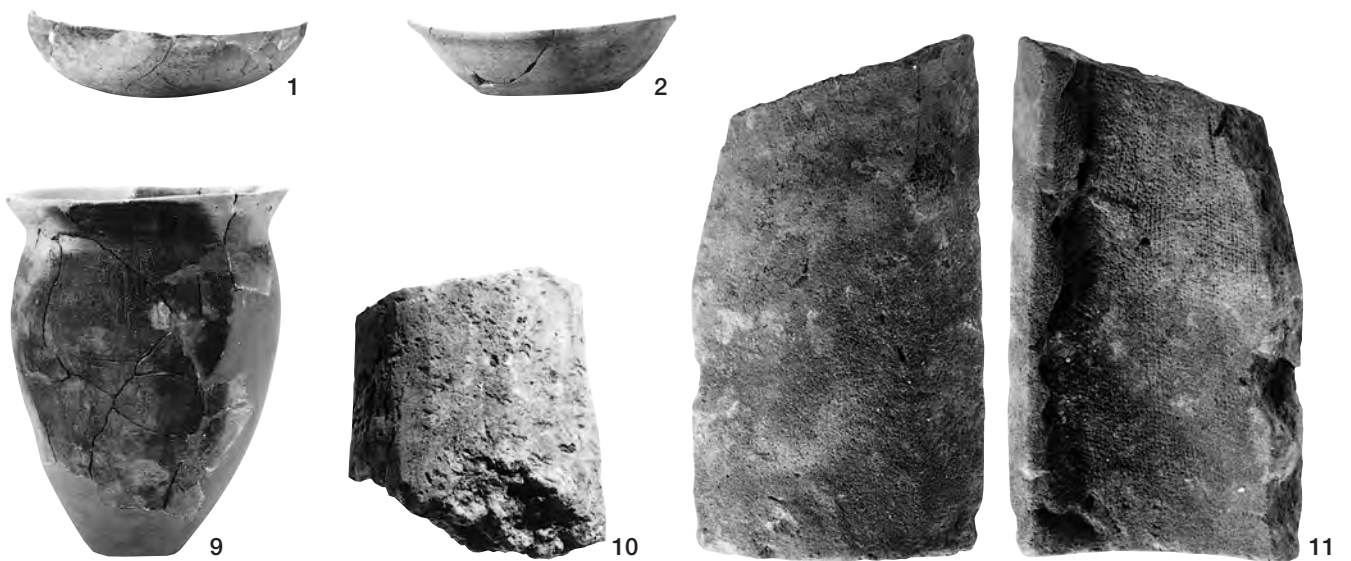
11号·82号住



12号住



13号·72号·73号住



14号住



5

15号住



4

16号住



1



2



3



4



5



7

17号住



1



4



15



图版18

18号住



1



3



4



5



6



7



15



16



17

19号住



2



3



5



7



8



9



14



16



17



20号住



1



2



6



9



10

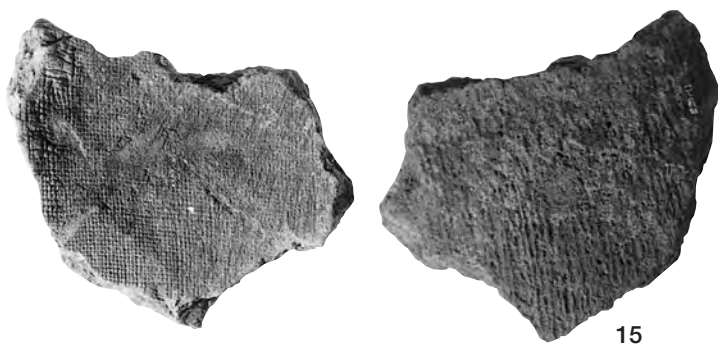
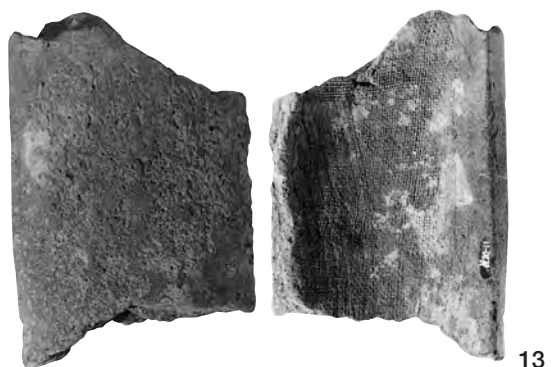
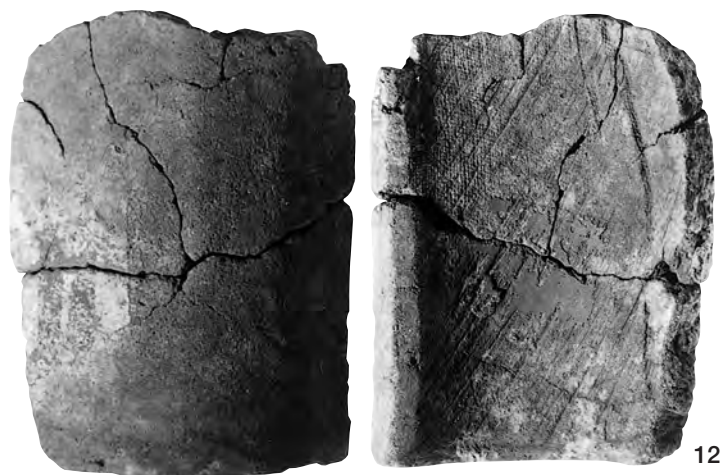


11



图版20

20号住



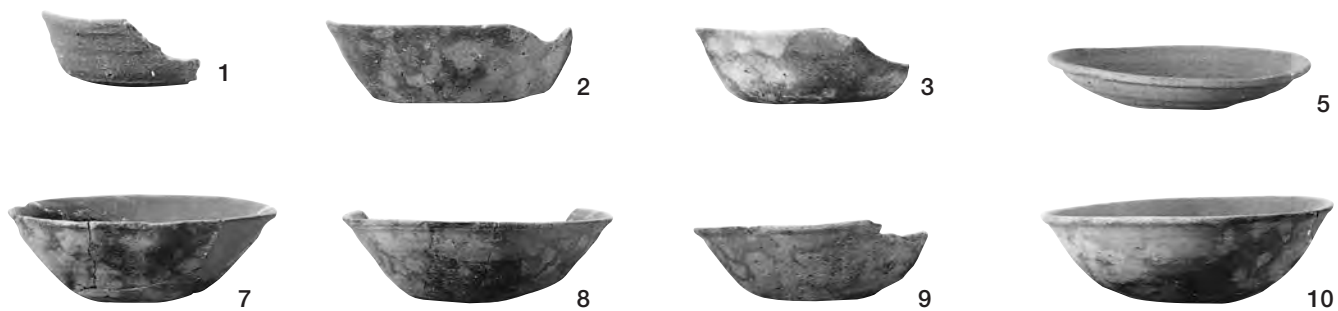
21号住



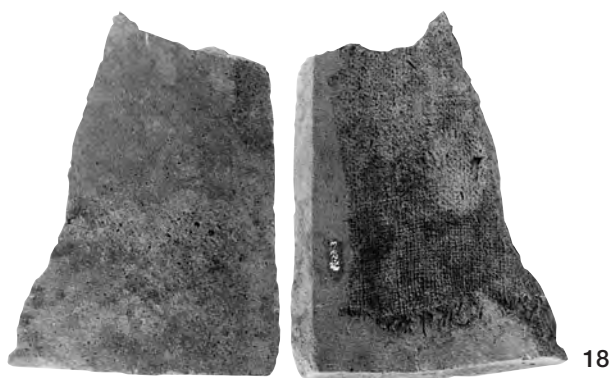
22号住



23号・78号住



23号·78号住



28号住



24号·25号住



26号住



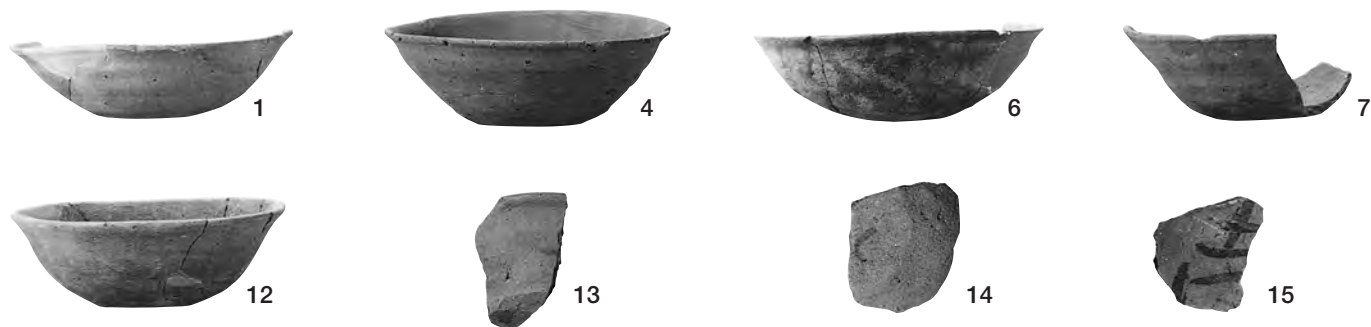
27号住



29号住

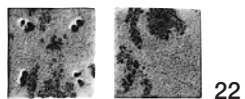


30号住



图版22

30号住



31号住



32号住



33号住





34号住



1



2



3



5



6



11



12



13



14



15



16

图版24

36号住



37号住



38号住



40号住



41号住



2



3

43号·79号住



1



3



4



5



6



7



9



10



11



44号住



2



4

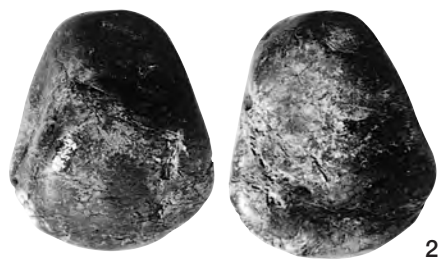


5



图版26

45号住



46号住



47号住



48号住



50号住



52号住



53号住



63-A号住



54号住





55号住



2



4



5



6



7



8



9

56号住



2



4



5



6



7



8



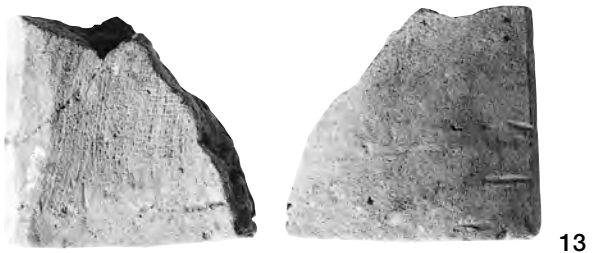
10



12

图版28

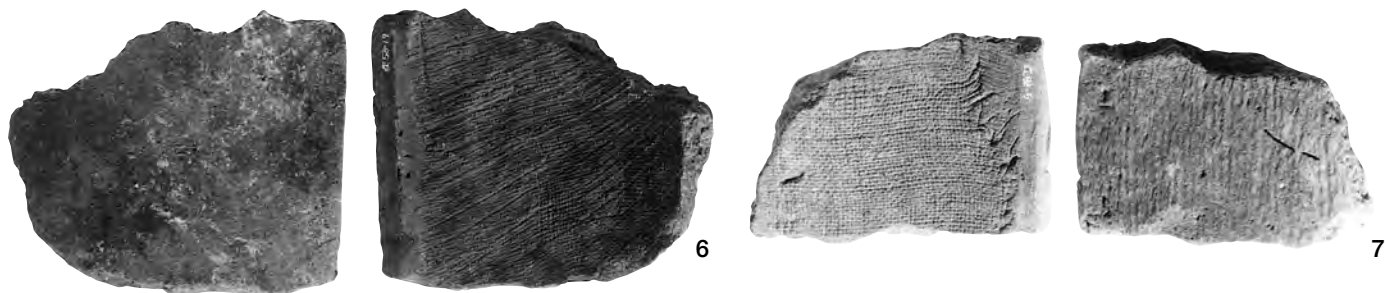
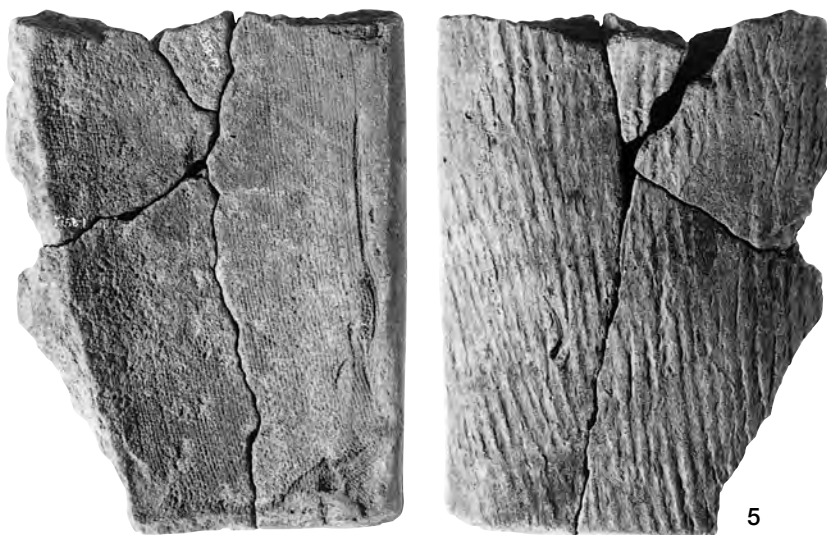
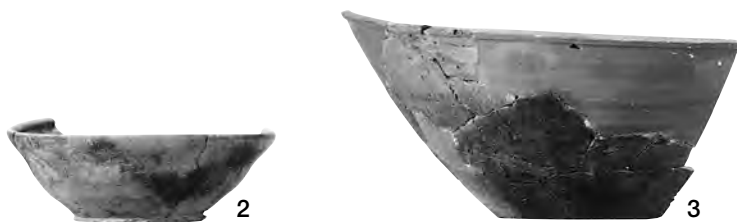
56号住



57号住



58号住



59号住



1



3

60号住



1



2

63-B号住



1



3



4



5

64号·80号住



1



2



3



4



6



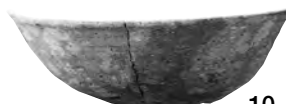
7



8



9



10



13



图版30

66号住

68号住



1



1



2



3



4

1号掘



1

11号掘



2

15号掘



2

方形溝



1



2



3



4



11



26



28



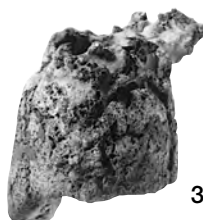
29



30



31



32

1号土



1



2



3

2号土



1



2



3



6



7



8



9



10



11



15



16



18



19



21



22



25



26



32

图版32

3号土



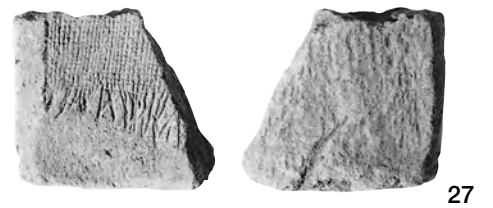
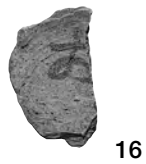
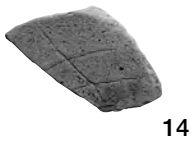
1号古



3号古

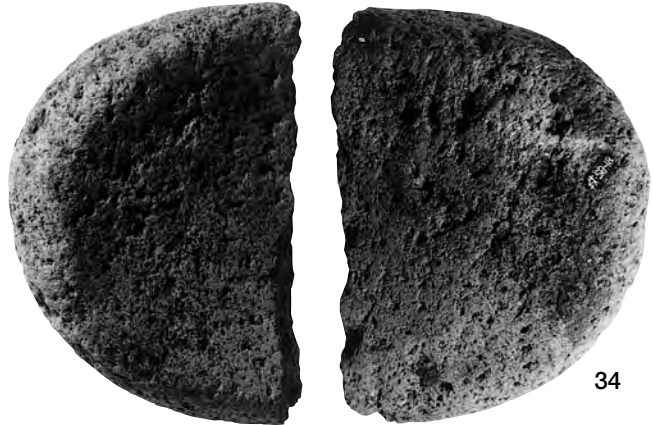
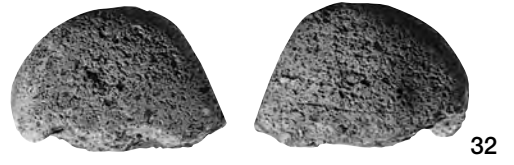


表採 (1次)





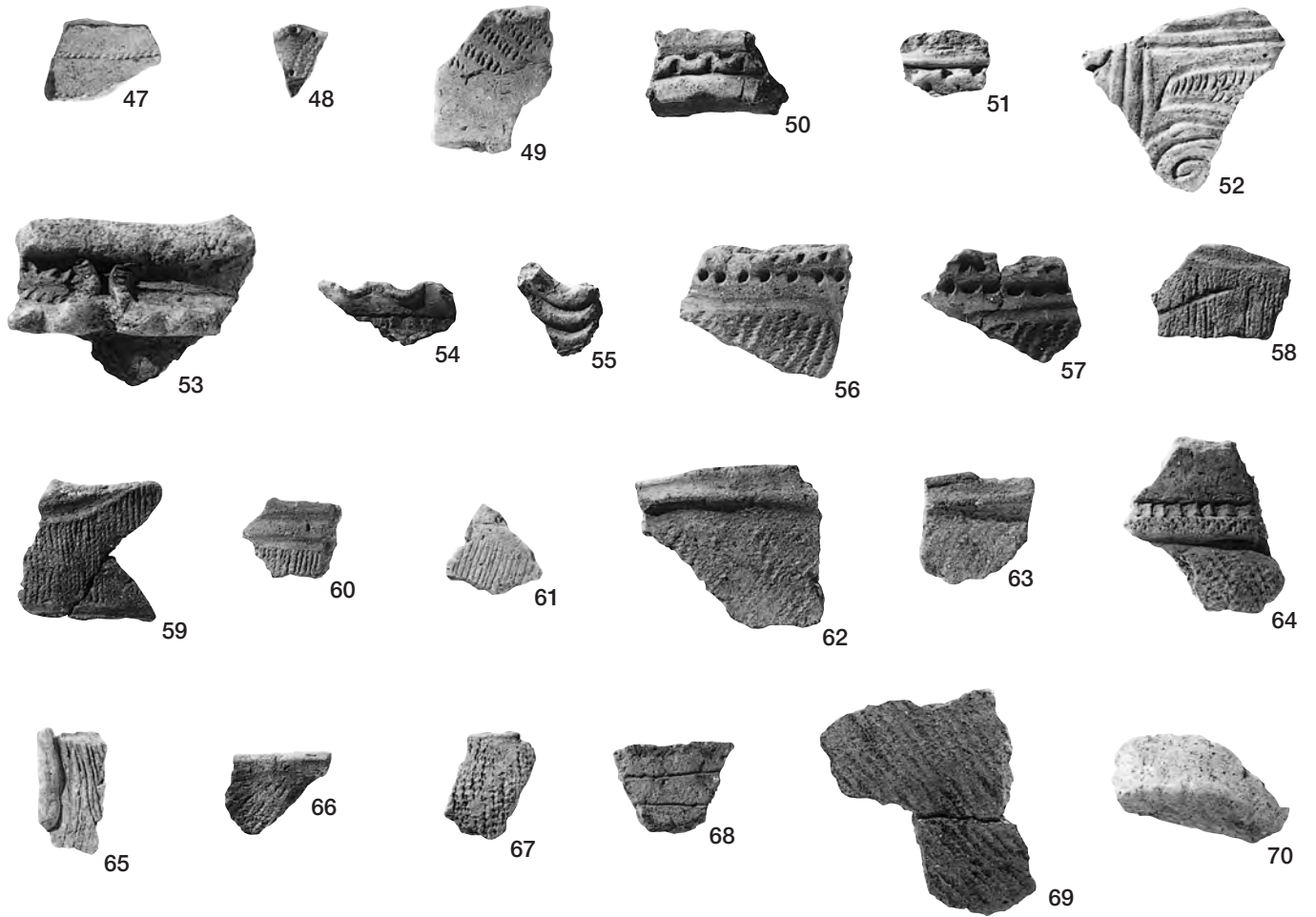
表採 (1次)





图版34

表採 (1次)



1号溝



表採 (2次)



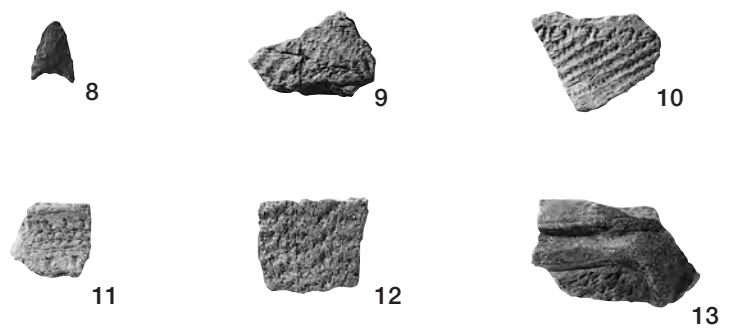
83号住



4号古



表採 (3次)



墨書



10号住



5



17号住



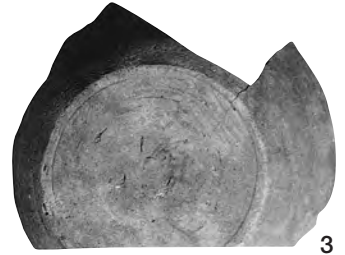
5



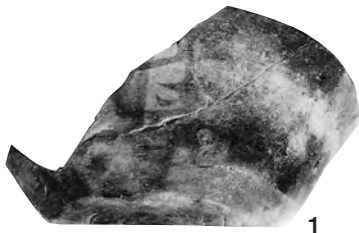
18号住



19号住



24号住・25号住



26号住



29号住



13



14



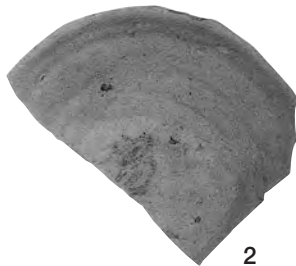
15

30号住



9

43号住



2

44号住



3

63-B号住



9

2号土



15

2号土



17



15

表探



16

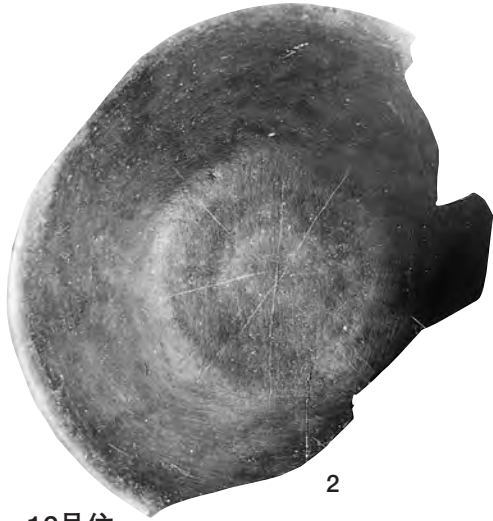
刻 書



9号住



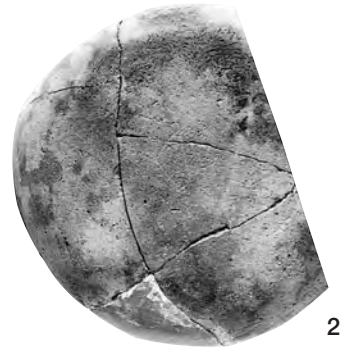
10号住



12号住



42号住



47号住



50号住



54号住



55号住



68号住



16号掘



方形溝

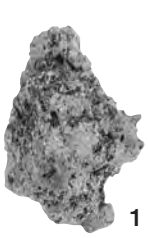


2号土



3号土

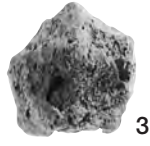




1号住



2



3

11号住

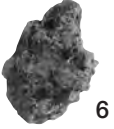


4



5

16号住

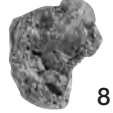


6



7

18号住



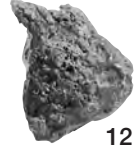
8

19号住



10

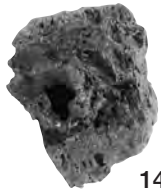
23号住



12



13



14

25号住

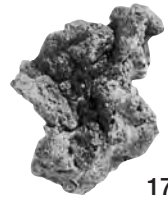


15

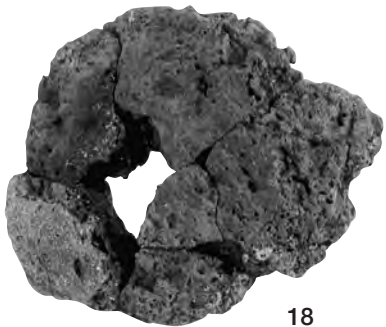
26号住



16



17



18

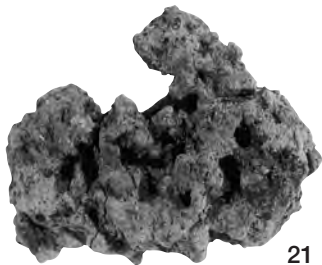
27号住



19



20



21



23

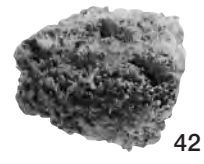
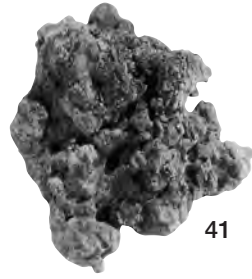
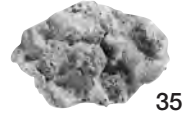
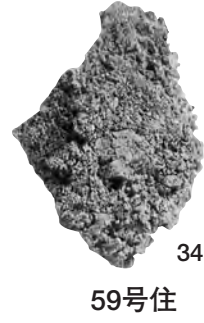
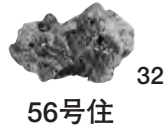
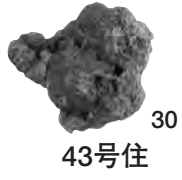
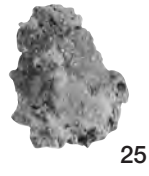
30号住



33

58号住

图版38



方形溝



方形溝



9

23号住



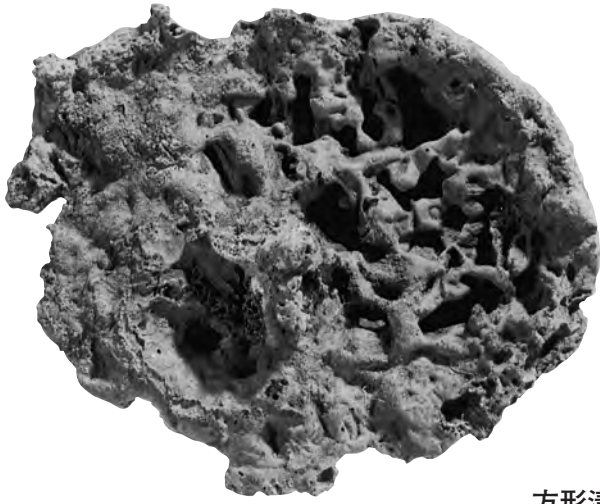
44

方形溝



同上裏

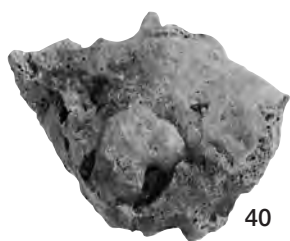




方形溝 53 (2点)

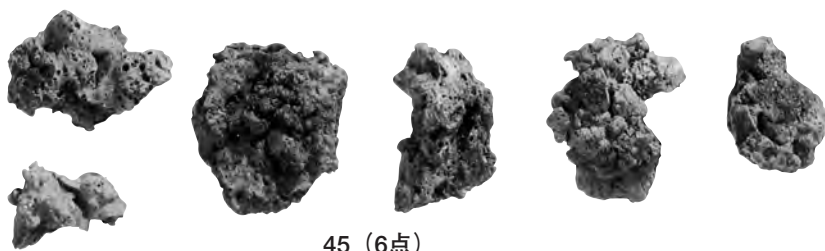


同上裏

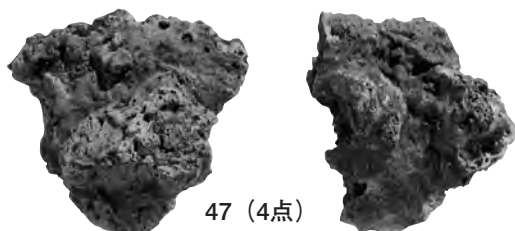


40

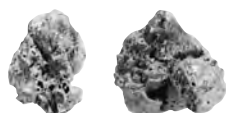
方形溝



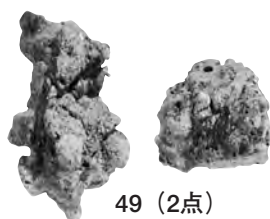
45 (6点)



47 (4点)



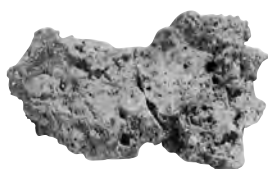
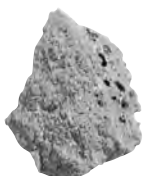
48 (2点)



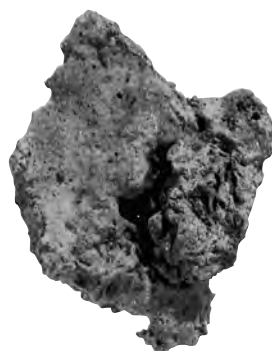
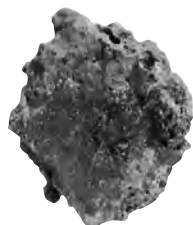
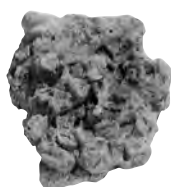
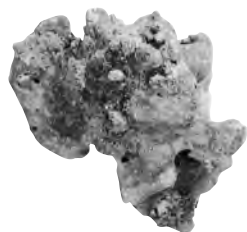
49 (2点)



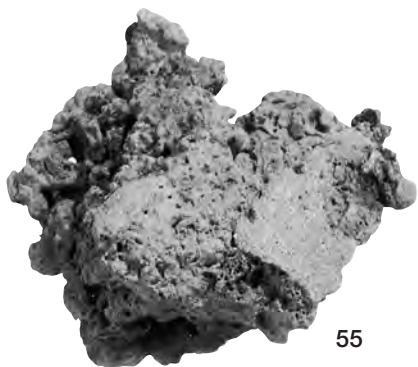
50 (3点)



52



54 (5点)



55

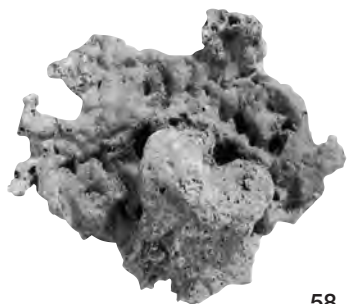


56



57

方形溝



58 (2点)



59



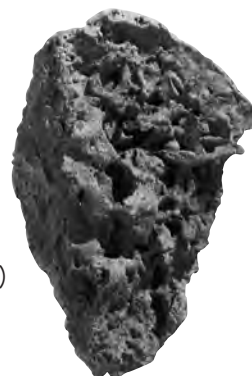
60



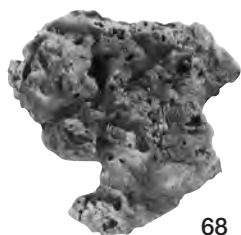
61



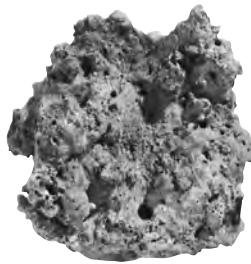
62 (2点)



63 (3点)

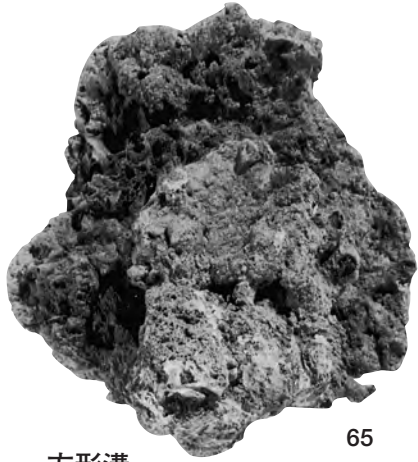


68



64 (2点)





方形溝

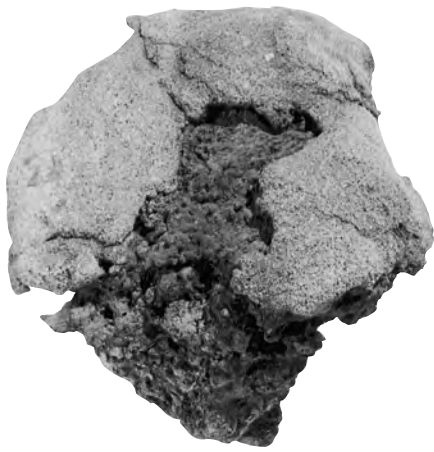
65



66



67



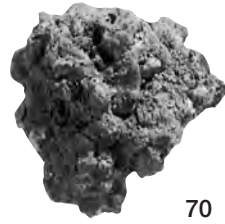
同上裏





69

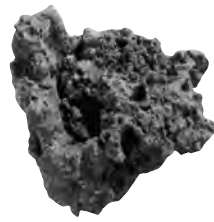
方形溝



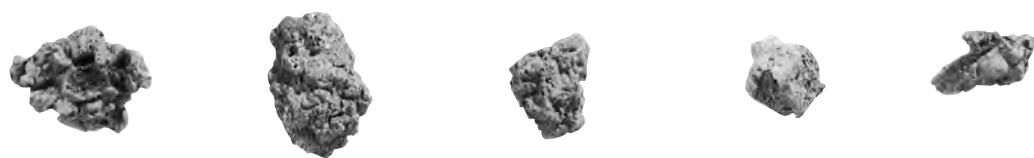
70



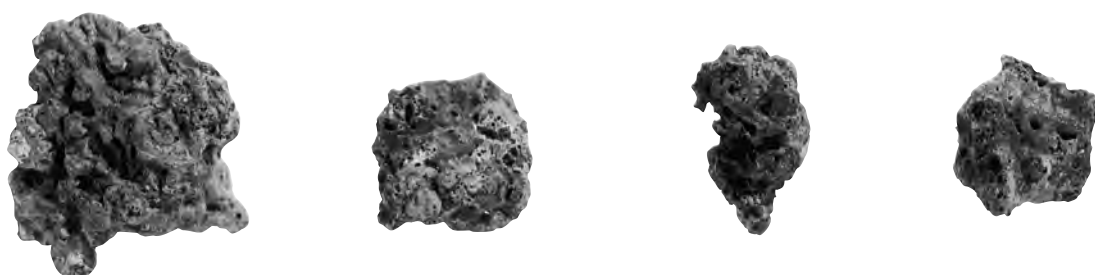
71



同上裏

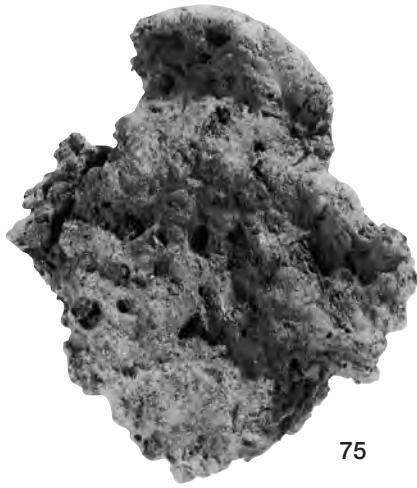


方形溝 72 (8点)

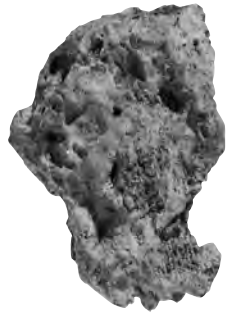


3号土 73 (16点)

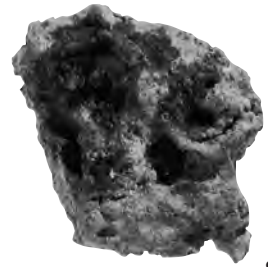




75



78

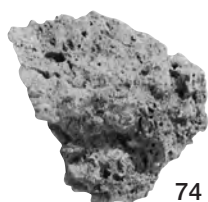


81

表採 (1次)



同上裏



1号古

74



表採

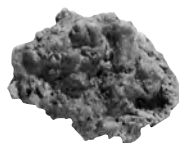
76



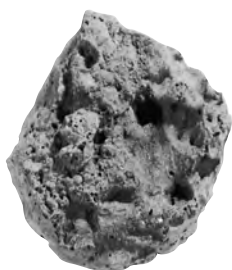
77



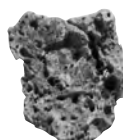
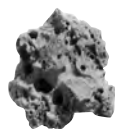
79 (3点)



80 (12点)



82 (4点)



83



84



85



87



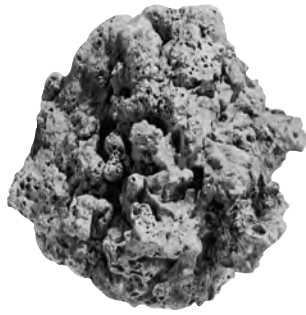
88 (2点)



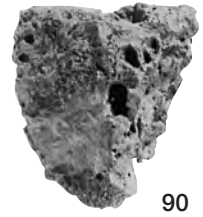
91



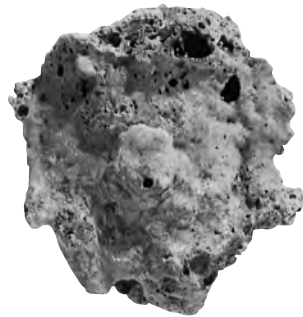
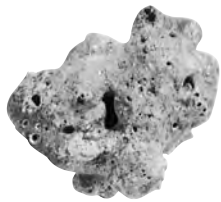
表採 (1次) 86 (2点)



89



90



同上裏

## 報告書抄録

ふりがな	ちばししょうわのもりいせきぐんいち							
書名	千葉県昭和の森遺跡群 I							
副書名	荻生道遺跡							
巻次								
シリーズ名	千葉県昭和の森遺跡群							
シリーズ号	第1冊目							
編著者名	飛田正美・塚原勇人							
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団 埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒260-0814 千葉県中央区南生実町1210 TEL043-266-5433							
発行年月日	2004年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	本調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おぎゅうみちいせき 荻生道遺跡	みどりくやましどらよう 緑区小食土町752他	12104	緑区	35°	140°	19761101-19770130	約10,00m <sup>2</sup>	公園建設
	〃 745他		335	31′	16′	19830808-19830903	210m <sup>2</sup>	〃
	〃 717			02″	57″	19870520-19870624	500m <sup>2</sup>	〃
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
荻生道遺跡	集落跡	縄文時代	土 壙	1 基	縄文時代 土器・石器		2 棟の掘立柱建物跡を囲む方形溝状遺構が昭和54年に千葉県指定の史跡として保存された。	
		奈良～平安時代	竪穴住居跡	83軒	奈良～平安時代 土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品・鉄滓			
古墳群	古墳時代	近 世	掘立柱建物跡	18棟				
			土 壙	3 基				
			方形溝状遺構	1 条				
			古 墳	4 基				
			近世溝状遺構	1 条				

千葉県昭和の森遺跡群 I

荻生道遺跡

平成16年 3月31日発行

編集・発行 千葉県教育委員会  
千葉県中央区問屋町 1-35  
財団法人千葉県教育振興財団埋蔵文化財調査センター  
千葉県中央区生実町1210  
TEL 043-266-5433

印刷 株式会社弘報社  
千葉県緑区古市場町474-268  
TEL 043-268-2371